教　育　要　項

――― 履修の手引き ―――

2015 年 4 月～2016 年 3 月

第 1 学年～第 6 学年

東京医科歯科大学医学部医学科

医学部医学科

教育理念

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する。

教育目標

1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
2. 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
3. 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

求める学生像

1. 医学・医療に深い関心を有する。
2. 協調性とコミュニケーション能力に優れている。
3. 創造性とチャレンジ精神に富んでいる。
4. 高い倫理性を備えている。

カリキュラムポリシー

東京医科歯科大学の教育理念、および医学部医学科の教育理念に基づき「疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する」を見据え、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1.幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。専門教育に併走する形で教養教育および医療倫理教育を実施し、時間をかけて幅広い教養と感性を磨くと共に、医学医療に求められる高い倫理観の醸成をはかる。また、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科と共に学ぶ機会を設け、医療における広い視野を獲得する機会を与える。

2.自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。関連基礎医学分野の講義実習を一体的に実施(モジュール化)し、基礎的知識の統合的理解を促す。さらに、モジュールの配置はマクロからミクロへ基礎医学から臨床医学へと順次性にも配慮し、段階的な理解の深化をはかる。

また、臨床医学教育においては、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関

連する基礎医学知識の確認、臨床医学の基本的知識を学ぶ講義とその知識の応用演習を通じて、臨床医学に関する基本的知識の深い理解を促す。

以上の教育に関連する医学英語および医学医療統計の講義・演習が行われ、医学・医療情報の批判的吟味能力を養成する。加えて、自由選択研究において研究面での問題提起、解決能力の基礎を固めるとともに、臨床導入実習および臨床実習においても少人数による演習を通じて臨床上の問題発見、解決能力の強化をはかる。

3.世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。入学当初に国際医療に関する学習機会を設定する他、その後も継続して医学を英語で学ぶ機会を設け、さらに海外の提携大学を中心とした単位互換の短期留学機会を設定し、国際人としての意識を高めるよう配慮する。

ディプロマ・ポリシー

医学部医学科では、全学共通科目の一部、研究実践プログラムおよび地域医療学習プログラムを除き全ての科目が必修科目であり、学年ごとに設定された進級要件（東京医科歯科大学全学共通科目履修規則及び東京医科歯科大学専門科目履修規則）を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1.幅広い教養と豊かな感性

自然科学から人文科学に至る全学共通科目を履修するとともに、医学科専門科目においては生命科学に関する基本的な知識を修得し、実習を通じてその概念への理解を深めることが不可欠となる。さらに、医歯学融合教育科目においては、医歯学の隣接領域の学　習を通じて多職種が連携する医学医療への認識を深めることが必要となる。

2.問題提起、解決能力

全教育課程を通じてその涵養を目指すが、殊に自由選択学習（プロジェクトセメスター）は、自ら設定した課題を探究し成果を報告する貴重な機会であり、その履修は必須となる。

3.国際性

全学共通科目と医歯学基盤教育を通じて医学を英語で学ぶ基盤を確固たるものとするとともに、海外実習にも積極的に参加することが求められる。

上記の要件を満たし、さらに臨床実習の修了と卒業試験の合格が必須となる。卒業生が修得した学術的・臨床的知識を基盤として、研究意欲に富み、すぐれた人格と洞察力を持つ医療人となり、国内・世界の人々に貢献していくことを本学は強く望んでいる。

平成２７年度医学部医学科授業計画

第１学年

区分		期間
前期授業	15W	平成27年 4. 13(月) ～7.24(金)
夏季休業		7.27(月) ～8.28(金)
前期授業	4W	8.31 (月) ～9.25(金)
後期授業	12W	9.28(月) ～12.18 (金)
冬季休業		12.21(月) ～27.1.1(金)
後期授業	8W	平成28年 1. 4(月) ～2.26(金)
臨時休業		2.29(月) ～

第２学年

区分		期間
前期授業	16W	平成27年 4. 6(月) ～7.24(金)
夏季休業		7.27(月) ～8.28(金)
前期授業	4W	8.31(月) ～9.25(金)
後期授業	3W	9.28(月) ～10.16(金)
臨時休業		10.19(月)
後期授業	9W	10.20(火) ～12.18(金)
冬季休業		12.21(月) ～27.1.1(金)
後期授業	9W	平成28年 1. 4(月) ～3.4(金)
臨時休業		3.7(月) ～

第３学年

区分		期間
前期授業	16W	平成27年 4. 6(月) ～7.24(金)
夏季休業		7.27(月) ～8.28(金)
前期授業	4W	8.31(月) ～9.25(金)
後期授業	3W	9.28(月) ～10.16(金)
臨時休業		10.19(月)
後期授業	9W	10.20(火) ～12.25(金)
冬季休業		12.28(月) ～27.1.1(金)
後期授業	9W	平成28年 1. 4(月) ～3.4(金)
M4 OSCE		3.5(土)
臨時休業		3.7(月) ～

第４学年

区分		期間
前期授業	17W	平成27年 4.6(月) ～7.24(金)
夏季休業		7.27(月) ～8.21(金)
前期授業	5W	8.24(月) ～9.25(金)
後期授業	3W	9.28(月) ～10.16(金)
臨時休業		10.19(月)
後期授業	6W	10.20(火) ～11.27(金)
PCC	3W	11.30(月) ～12.18(金)
冬季休業		12.21(月) ～28.1.1(金)
臨床導入実習	10W	平成28年 1.4(月) ～3.11(金)
CBT		2.29(月)
OSCE		3.5(土)
臨時休業		3.14(月) ～

第５学年

区分		期間
臨床実習	18W	平成27年 3.30(月) ～7.24(金)
＊夏季休業		7.27(月) ～8.21(金) ＊学生により異なる
臨床実習	18W	8.24(月) ～12.25(金)
冬季休業		12.28(月) ～27.1.1(金)
臨床実習	11W	平成28年 1. 4(月) ～3.25(金)

第６学年

区分		期間
臨床実習	18W	平成27年 3.30(月) ～7.24(金)
＊夏季休業		7.27(月) ～8.21(金) ＊学生により異なる
臨床実習	4W	8.24(月) ～9.18(金)
臨時休業		9.24(木) ～9.25(金)
卒業試験		9.26 (土) ～ 11.13 (金)
卒試再試験		11.16(月) ～ 12.12 (土)
冬季休業		12.14(月) ～ 28.1.1(金)
臨時休業		平成28年 1.4(月) ～3.24(木)
卒業式		3.25 (金)

主な行事

入学式	27. 4. 6 (月)	創立記念日	27. 10.12 (日)
M１医学科ガイダンス	27. 4. 14 (火)	お茶の水祭	27. 10.17 (土) ～18 (日)
M２カリキュラム説明	27. 4. 6 (月)	解剖体追悼式	27. 10.22 (木)
体育祭	27. 5.11 (土) (予定)	プロジェクトセメスター発表会	27. 11.20 (金) (予定)
健康診断	27.5月中～下旬 (予定)	M４医学科第４学年合宿研修	27. 11.28 (土) ～11.29 (日)
実験動物慰霊祭	27. 9. 29 (火) (予定)	ご遺骨返還式	28. 1.19 (火) (予定)
プロジェクトセメスター開始	27. 6. 1 (月)	卒業式	28. 3.25 (金)

平成27年(2015年)度　授業時間割　第1学年

前期（20週）2015年（平成27年）　4月６日（月）～9月25日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/30	月					
3/31	火					
4/1	水					
4/2	木					
4/3	金					
4/6	月	入学式(予定)				
4/7	火	教養部ガイダンス(予定)				
4/8	水	教養部オリエンテーション(予定)				
4/9	木	新入生オリエンテーション(予定)				
4/10	金					
4/13	月	教養部講義				
4/14	火	医学科ガイダンス(9:00～15:40湯島地区)				
4/15	水	教養部講義				
4/16	木					
4/17	金					
4/20	月	教養部講義				
4/21	火					
4/22	水					
4/23	木					
4/24	金					
4/27	月	教養部講義				
4/28	火					
4/29	水	昭和の日				
4/30	木	教養部講義				
5/1	金					
5/4	月	み　ど　り　の　日				
5/5	火	こ　ど　も　の　日				
5/6	水	憲　法　記　念　日　振　替　休　日				
5/7	木	教養部講義				
5/8	金					
5/11	月	教養部講義				
5/12	火					
5/13	水					
5/14	木					
5/15	金					
5/18	月	教養部講義				
5/19	火					
5/20	水					
5/21	木					
5/22	金					
5/25	月	教養部講義				
5/26	火					
5/27	水					
5/28	木					
5/29	金					
6/1	月	教養部講義				
6/2	火					
6/3	水					
6/4	木					
6/5	金					
6/8	月	教養部講義				
6/9	火					
6/10	水					
6/11	木					
6/12	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/15	月	教養部講義				
6/16	火					
6/17	水					
6/18	木					
6/19	金					
6/22	月	教養部講義				
6/23	火					
6/24	水					
6/25	木					
6/26	金					
6/29	月	教養部講義				
6/30	火					
7/1	水					
7/2	木					
7/3	金					
7/6	月	教養部講義				
7/7	火					
7/8	水					
7/9	木					
7/10	金					
7/13	月	教養部講義				
7/14	火					
7/15	水					
7/16	木					
7/17	金					
7/20	月	海の日				
7/21	火	教養部講義				
7/22	水					
7/23	木					
7/24	金					
8/31	月	教養部講義				
9/1	火					
9/2	水					
9/3	木					
9/4	金					
9/7	月	教養部講義				
9/8	火					
9/9	水					
9/10	木					
9/11	金					
9/14	月	教養部講義				
9/15	火					
9/16	水					
9/17	木					
9/18	金					
9/21	月	敬老の日				
9/22	火	国民の休日				
9/23	水	秋分の日				
9/24	木	教養部講義				
9/25	金					

後期（20週）　27年9月28日（月）～28年3月4日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/28	月	教養部講義				
9/29	火	医学導入 1				
9/30	水	教養部講義				
10/1	木					
10/2	金					
10/5	月	教養部講義				
10/6	火	医学導入2				
10/7	水	教養部講義				
10/8	木					
10/9	金					
10/12	月	体育の日				
10/13	火	医学導入 3				
10/14	水	教養部講義				
10/15	木					
10/16	金					
10/19	月	臨時休業				
10/20	火	医学導入 4				
10/21	水	教養部講義				
10/22	木					
10/23	金					
10/26	月	教養部講義				
10/27	火	医学導入 5				
10/28	水	教養部講義				
10/29	木					
10/30	金					
11/2	月	教養部講義				
11/3	火	文化の日				
11/4	水	教養部講義				
11/5	木					
11/6	金					
11/9	月	教養部講義				
11/10	火	医学導入 6				
11/11	水	教養部講義				
11/12	木					
11/13	金					
11/16	月	教養部講義				
11/17	火	医学導入 7				
11/18	水	教養部講義				
11/19	木					
11/20	金					
11/23	月	勤労感謝の日				
11/24	火	医学導入 8				
11/25	水	教養部講義				
11/26	木					
11/27	金					
11/30	月	教養部講義				
12/1	火	医学導入 9				
12/2	水	教養部講義				
12/3	木					
12/4	金					
12/7	月	教養部講義				
12/8	火	医学導入 10				
12/9	水	教養部講義				
12/10	木					
12/11	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/14	月	教養部講義				
12/15	火	医学導入 11				
12/16	水	教養部講義				
12/17	木					
12/18	金					
1/4	月	教養部講義				
1/5	火	医学導入 12				
1/6	水	教養部講義				
1/7	木					
1/8	金					
1/11	月	成人の日				
1/12	火	医学導入 13				
1/13	水	教養部講義				
1/14	木					
1/15	金					
1/18	月	教養部講義				
1/19	火	医学導入 14				
1/20	水	教養部講義				
1/21	木					
1/22	金					
1/25	月	教養部講義				
1/26	火	医学導入 15				
1/27	水	教養部講義				
1/28	木					
1/29	金					
2/1	月	教養部講義				
2/2	火	医学導入 16				
2/3	水	教養部講義				
2/4	木					
2/5	金					
2/8	月	教養部講義				
2/9	火	医学導入 17				
2/10	水	教養部講義				
2/11	木	建国記念の日				
2/12	金	教養部講義				
2/15	月	教養部講義				
2/16	火					
2/17	水					
2/18	木					
2/19	金					
2/22	月	教養部講義				
2/23	火					
2/24	水					
2/25	木					
2/26	金					
2/29	月					
3/1	火					
3/2	水					
3/3	木					
3/4	金					

冬季休業：12月21日（月）～1月1日（金）

創立記念日　10月12日

お茶の水祭　10月17日（土）～10月18日（日）予定

夏季休業：7月27日（月）～8月28日（金）

臨時休業　27.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会　27.3月中旬【予定】

進級判定教授会　27.3中旬【予定】

平成27年（2015年）度　授業時間割　第2学年

前期（20週）2015年（平成27年）　3月30日（月）～9月25日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/30	月					
3/31	火					
4/1	水					
4/2	木					
4/3	金					
4/6	月	入学式		カリキュラム説明会	医歯学融合ガイダンス&オリエンテーション	
4/7	火	人体構造総論1	人体構造総論2	細胞生物学 1	研究者養成1	
4/8	水	人体構造総論3	人体構造総論4	神経生理導入1	研究者養成2	
4/9	木	人体構造総論5	人体構造総論6	細胞生物学 2	研究者養成3	
4/10	金	人体構造総論7	人体構造総論8	神経生理導入2	研究者養成4	
4/13	月	人体構造総論9	人体構造総論10	神経生理導入3	研究者養成5	
4/14	火	細胞生物学 3	神経生理導入4	神経生理導入5	研究者養成6	
4/15	水	人体構造総論11	人体構造総論12	生理学 1	研究者養成7	
4/16	木	教養／医歯学基盤教育		神経生理導入6	研究者養成8	
4/17	金	人体構造総論13	人体構造総論14	組織学 1	組織学実習 1	研究者養成9
4/20	月	人体構造総論15	人体構造総論16	組織学 2	組織学実習 2	組織学実習 3
4/21	火	神経生理導入7	神経生理導入8	組織学 3	組織学実習 4	組織学実習 5
4/22	水	人体構造総論17	人体構造総論18	人体解剖学 1	人体解剖実習 1	人体解剖実習 2
4/23	木	教養／医歯学基盤教育		人体解剖学 2	人体解剖実習 3	人体解剖実習 4
4/24	金	人体構造総論19	人体構造総論20	組織学 4	組織学実習 6	組織学実習 7
4/27	月	人体構造総論21	人体構造総論22	人体解剖学 3	人体解剖実習 5	人体解剖実習 6
4/28	火	生理学 2	神経生理導入9	組織学 5	組織学実習 8	組織学実習 9
4/29	水	昭和の日				
4/30	木	教養／医歯学基盤教育		人体解剖学 4	人体解剖実習 7	人体解剖実習 8
5/1	金	人体構造総論23	人体構造総論24	人体解剖学 5	人体解剖実習 9	人体解剖実習 10
5/4	月	みどりの日				
5/5	火	こどもの日				
5/6	水	憲法記念日　振替休日				
5/7	木	教養／医歯学基盤教育		人体解剖学 6	人体解剖実習 11	人体解剖実習 12
5/8	金	神経生理導入10	生理学 3	人体解剖学 7	人体解剖実習 13	人体解剖実習 14
5/11	月	神経生理導入11	生理学 4	組織学 6	人体解剖実習 10	人体解剖実習 11
5/12	火	細胞生物学 4	生理学 5	人体解剖学 8	人体解剖実習 15	人体解剖実習 16
5/13	水	細胞生物学 5	神経生理導入12	人体解剖学 9	人体解剖実習 17	人体解剖実習 18
5/14	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 7	組織学実習 12	組織学実習 13
5/15	金	生理学 6	人体解剖学 10	人体解剖実習 19	人体解剖実習 20	
5/18	月	生理学 7	生理学 8	組織学 8	組織学実習 14	組織学実習 15
5/19	火	細胞生物学6	人体解剖学 11	人体解剖実習 21	人体解剖実習 22	
5/20	水	生理学 9	人体解剖学 12	人体解剖実習 23	人体解剖実習 24	
5/21	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 9	組織学実習 16	組織学実習 17
5/22	金	生理学 10	人体解剖学 13	人体解剖実習 25	人体解剖実習 26	
5/25	月	生理学 11	細胞生物学 7	組織学 10	組織学実習 18	組織学実習 19
5/26	火	生理学 12	人体解剖学 14	人体解剖実習 27	人体解剖実習 28	
5/27	水	生理学 13	人体解剖学 15	人体解剖実習 29	人体解剖実習 30	
5/28	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 11	組織学実習 20	組織学実習 21
5/29	金	生理学 14	人体解剖学 16	人体解剖実習 31	人体解剖実習 32	
6/1	月	細胞生物学 8	生理学 15	組織学 12	組織学実習 22	組織学実習 23
6/2	火	生理学 16	人体解剖学 17	人体解剖実習 33	人体解剖実習 34	
6/3	水	生理学 17	人体解剖学 18	人体解剖実習 35	人体解剖実習 36	
6/4	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 13	組織学実習 24	組織学実習 25
6/5	金	生理学 18	人体解剖学 19	人体解剖実習 37	人体解剖実習 38	
6/8	月	生理学 19	生理学 20	組織学 14	組織学実習 26	組織学実習 27
6/9	火	細胞生物学9	人体解剖学 20	人体解剖実習 39	人体解剖実習 40	
6/10	水	生理学 21	人体解剖学 21	人体解剖実習 41	人体解剖実習 42	
6/11	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 15	組織学実習 28	組織学実習 29
6/12	金	細胞生物学10	人体解剖学 22	人体解剖実習 43	人体解剖実習 44	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/15	月	生理学 22	細胞生物学11	組織学 16	組織学実習 30	組織学実習 31
6/16	火	細胞生物学12	人体解剖学 23	人体解剖実習 45	人体解剖実習 46	
6/17	水	生理学 23	人体解剖学 24	人体解剖実習 47	人体解剖実習 48	
6/18	木	教養／医歯学基盤教育		組織学 17	組織学実習 32	組織学実習 33
6/19	金	生理学 24	組織学 18	人体解剖学 25	人体解剖実習 49	人体解剖実習 50
6/22	月	頭頸部・基礎1	頭頸部・基礎2	頭頸部・基礎3	頭頸部・基礎実習1	頭頸部・基礎実習2
6/23	火	人体解剖学 26	神経生理導入13	頭頸部・基礎4	頭頸部・基礎実習3	頭頸部・基礎実習4
6/24	水	頭頸部・基礎5	頭頸部・基礎6	頭頸部・基礎7	頭頸部・基礎実習5	頭頸部・基礎実習6
6/25	木	教養／医歯学基盤教育		頭頸部・基礎8	頭頸部・基礎実習7	頭頸部・基礎実習8
6/26	金	頭頸部・基礎9	頭頸部・基礎10	頭頸部・基礎11	頭頸部・基礎実習9	頭頸部・基礎実習10
6/29	月	頭頸部・基礎12	頭頸部・基礎13	頭頸部・基礎14	頭頸部・基礎実習11	頭頸部・基礎実習12
6/30	火	人体解剖学27	人体解剖学 28	頭頸部・基礎15	頭頸部・基礎実習13	頭頸部・基礎実習14
7/1	水	頭頸部・基礎16	頭頸部・基礎17	頭頸部・基礎18	頭頸部・基礎実習15	頭頸部・基礎実習16
7/2	木	教養／医歯学基盤教育		頭頸部・基礎19	頭頸部・基礎実習17	頭頸部・基礎実習18
7/3	金	頭頸部・基礎20	頭頸部・基礎21	頭頸部・基礎22	頭頸部・基礎実習19	頭頸部・基礎実習20
7/6	月	頭頸部・基礎23	頭頸部・基礎24	頭頸部・基礎25	頭頸部・基礎実習21	頭頸部・基礎実習22
7/7	火	神経生理導入14	神経生理導入15	頭頸部・基礎26	頭頸部・基礎実習23	頭頸部・基礎実習24
7/8	水	頭頸部・基礎27	頭頸部・基礎28	頭頸部・基礎29	頭頸部・基礎実習25	頭頸部・基礎実習26
7/9	木	教養／医歯学基盤教育		頭頸部・基礎30	頭頸部・基礎実習27	頭頸部・基礎実習28
7/10	金	頭頸部・基礎31	頭頸部・基礎32	頭頸部・基礎33	頭頸部・基礎実習29	頭頸部・基礎実習30
7/13	月	組織学実習 34	組織学実習 35	生理学実習 1	生理学実習 2	生理学実習 3
7/14	火	組織学実習 36	組織学実習 37	生理学実習 4	生理学実習 5	生理学実習 6
7/15	水	薬理学 1	薬理学 2	生理学実習 7	生理学実習 8	生理学実習 9
7/16	木	教養／医歯学基盤教育		生理学実習 10	生理学実習 11	生理学実習 12
7/17	金	薬理学 3	薬理学 4	生理学実習 13	生理学実習 14	生理学実習 15
7/20	月	海の日				
7/21	火	薬理学 5	薬理学 6	生理学実習 16	生理学実習 17	生理学実習 18
7/22	水	薬理学 7	薬理学 8	生理学実習 19	生理学実習 20	生理学実習 21
7/23	木	教養／医歯学基盤教育		生理学実習 22	生理学実習 23	生理学実習 24
7/24	金	薬理学 9	薬理学 10	生理学実習 25	生理学実習 26	生理学実習 27
8/31	月	自習・補講	細胞生物学			
9/1	火	自習・補講	神経生理学導入			
9/2	水	自習・補講	人体構造総論			
9/3	木	自習・補講	人体解剖学			
9/4	金	自習・補講	組織学			
9/7	月	自習・補講	生理学	薬理学実習 1	薬理学実習 2	薬理学実習 3
9/8	火	薬理学11	薬理学 12	薬理学実習 4	薬理学実習 5	薬理学実習 6
9/9	水	薬理学 13	薬理学 14	薬理学実習 7	薬理学実習 8	薬理学実習 9
9/10	木	薬理学 15	薬理学 16	薬理学実習 10	薬理学実習 11	薬理学実習 12
9/11	金	生化学 1	分子遺伝学 1	薬理学実習 13	薬理学実習 14	薬理学実習 15
9/14	月	生化学 2	分子遺伝学 2	薬理学実習 16	薬理学実習 17	薬理学実習 18
9/15	火	生化学 3	分子遺伝学 3	薬理学実習 19	薬理学実習 20	薬理学実習 21
9/16	水	生化学 4	生化学 5	薬理学実習 22	薬理学実習 23	薬理学実習 24
9/17	木	教養試験/医歯学基盤教育(予備)		薬理学実習 25	薬理学実習 26	薬理学実習 27
9/18	金	生化学 6	分子遺伝学 4	薬理学実習 28	薬理学実習 29	薬理学実習 30
9/21	月	敬老の日				
9/22	火	国民の休日				
9/23	水	秋分の日				
9/24	木	生化学 7	分子遺伝学 5	自習・補講	自習・補講	
9/25	金	生化学 8	生化学 9	分子遺伝学 6	分子遺伝学 7	

夏季休業：7月27日（月）～8月28日（金）

後期（21週）　27年9月28日（月）～28年3月4日（金）祝日は予定

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/28	月	生化学 10	分子遺伝学 8	生化学実習 1	生化学実習 2	生化学実習 3
9/29	火	生化学 11	分子遺伝学 9	実験動物慰霊式(予定)		
9/30	水	生化学 12	分子遺伝学 10	生化学実習 4	生化学実習 5	生化学実習 6
10/1	木	教養／医歯学基盤教育		生化学実習 7	生化学実習 8	生化学実習 9
10/2	金	生化学 13	分子遺伝学 11	生化学実習 10	生化学実習 11	生化学実習 12
10/5	月	生化学 14	分子遺伝学 12	生化学実習 13	生化学実習 14	生化学実習 15
10/6	火	生化学 15	分子遺伝学 13	生化学実習 16	生化学実習 17	生化学実習 18
10/7	水	生化学 16	分子遺伝学 14	生化学実習 19	生化学実習 20	生化学実習 21
10/8	木	教養／医歯学基盤教育		生化学実習 22	生化学実習 23	生化学実習 24
10/9	金	生化学 17	分子遺伝学 15	生化学実習 25	生化学実習 26	生化学実習 27
10/12	月	体育の日				
10/13	火	自習・補講	分子遺伝学	自習・補講	自習・補講	
10/14	水	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/15	木	教養／医歯学基盤教育(予備)		自習・補講	自習・補講	
10/16	金	自習・補講	薬理学	自習・補講	自習・補講	
10/19	月	臨時休業				
10/20	火	自習・補講	生化学	自習・補講	自習・補講	
10/21	水	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/22	木	自習・補講	自習・補講	解剖体追悼式（予定）		
10/23	金	免疫学Ⅰ 1	免疫学Ⅰ 2	神経解剖学 1	神経解剖学 2	神経解剖学実習 1
10/26	月	神経科学 1	神経科学 2	免疫学Ⅰ 3	免疫学Ⅰ 4	
10/27	火	神経科学 3	感染・基礎 1	免疫学Ⅰ 5	免疫学Ⅰ 6	
10/28	水	東洋医学 1	東洋医学 2	感染・基礎 2	感染・基礎 3	
10/29	木	教養／医歯学基盤教育		免疫学Ⅰ 7	免疫学Ⅰ 8	
10/30	金	免疫学Ⅰ 9	免疫学Ⅰ 10	神経解剖学 3	神経解剖学 4	神経解剖学実習 2
11/2	月	免疫学Ⅰ 11	免疫学Ⅰ 12	神経科学 4	神経科学 5	
11/3	火	文化の日				
11/4	水	東洋医学 3	東洋医学 4	感染・基礎 4	神経科学 6	
11/5	木	教養／医歯学基盤教育		感染・基礎 5	感染・基礎 6	
11/6	金	感染・基礎 7	感染・基礎 8	神経解剖学 5	神経解剖学実習 3	神経解剖学実習 4
11/9	月	免疫学Ⅰ 13	免疫学Ⅱ 1	神経科学 7	神経科学 8	
11/10	火	免疫学Ⅱ 2	免疫学Ⅱ 3	神経科学 9	感染・基礎 9	
11/11	水	東洋医学 5	東洋医学 6	感染・基礎 10	感染・基礎 11	
11/12	木	教養／医歯学基盤教育		神経科学 10	神経科学 11	
11/13	金	免疫学Ⅱ 4	免疫学Ⅱ 5	神経解剖学 6	神経解剖学 7	神経解剖学実習 5
11/16	月	感染・基礎 12	感染・基礎 13	神経解剖学 8	神経解剖学 9	神経解剖学実習 6
11/17	火	免疫学Ⅱ 6	免疫学Ⅱ 7	神経科学 12	神経科学 13	
11/18	水	東洋医学 7	東洋医学 8	神経科学 14	神経科学 15	
11/19	木	教養／医歯学基盤教育		感染・基礎 14	感染・基礎 15	
11/20	金	免疫学Ⅱ 8	免疫学Ⅱ 9	神経解剖学実習補講		
11/23	月	勤労感謝の日				
11/24	火	免疫学Ⅱ 10	免疫学Ⅱ 11	神経解剖学 10	神経解剖学実習 7	神経解剖学実習 8
11/25	水	感染・基礎 16	感染・基礎 17	神経科学 16	免疫学Ⅱ 12	
11/26	木	教養／医歯学基盤教育		感染・基礎 18	感染・基礎 19	
11/27	金	感染・基礎 20	感染・基礎 21	神経解剖学 11	神経解剖学 12	神経解剖学実習 9
11/30	月					
12/1	火	病理学総論ブロック				
12/2	水					
12/3	木	教養／医歯学基盤教育				
12/4	金					
12/7	月	医動物学 1	医動物学 2	神経解剖学 13	神経解剖学 14	神経解剖学実習 10
12/8	火	神経科学 17	神経科学 18	医動物学 3	医動物学 4	
12/9	水	神経科学 19	神経科学 20	医動物学 5	医動物学 6	
12/10	木	教養／医歯学基盤教育		神経解剖学 15	神経解剖学 16	神経解剖学実習 11
12/11	金	医動物学 7	医動物学 8	神経科学 21	神経科学 22	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/14	月	医動物学 9	医動物学 10	神経科学 23	神経科学 24	
12/15	火	神経科学 25	神経科学 26	自習・補講	自習・補講	
12/16	水	神経科学 27	神経科学 28	自習・補講	自習・補講	
12/17	木	教養／医歯学基盤教育		神経解剖学 17	神経解剖学 18	神経解剖学 19
12/18	金	神経科学 29	神経科学 30	自習・補講	自習・補講	自習・補講

冬季休業：12月21日（月）～1月1日（金）

1/4	月	自習・補講	免疫学 Ⅰ	自習・補講	自習・補講	
1/5	火	自習・補講	免疫学 Ⅱ	自習・補講	自習・補講	
1/6	水	自習・補講	病理学	自習・補講	自習・補講	
1/7	木	自習・補講	東洋医学	自習・補講	自習・補講	
1/8	金	自習・補講	医動物学 11	神経解剖学 20	神経解剖学 21	神経解剖学実習 12
1/11	月	成人の日				
1/12	火	医動物学 12	医動物学 13	自習・補講	自習・補講	
1/13	水	神経科学 31	神経科学 32	医動物学実習 1	医動物学実習 2	医動物学実習 3
1/14	木	教養／医歯学基盤教育		医動物学実習 4	医動物学実習 5	医動物学実習 6
1/15	金	自習・補講	医動物学 14	神経解剖学 22	神経解剖学 23	神経解剖学実習 13
1/18	月	医動物学 15	医動物学 16	神経解剖学 24	神経解剖学 25	神経解剖学実習 14
1/19	火	神経科学 33	神経科学 34	ご遺骨返還式（予定）		
1/20	水	神経解剖学 26	神経解剖学 27	医動物学実習 7	医動物学実習 8	医動物学実習 9
1/21	木	教養／医歯学基盤教育		医動物学実習 10	医動物学実習 11	医動物学実習 12
1/22	金	自習・補講	自習・補講	神経解剖学 28	神経解剖学 29	神経解剖学実習 15
1/25	月	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 1	感染・基礎実習 2	感染・基礎実習 3
1/26	火	神経科学 35	神経科学 36	感染・基礎実習 4	感染・基礎実習 5	感染・基礎実習 6
1/27	水	自習・補講	神経科学 37	感染・基礎実習 7	感染・基礎実習 8	感染・基礎実習 9
1/28	木	教養／医歯学基盤教育		感染・基礎実習 10	感染・基礎実習 11	感染・基礎実習 12
1/29	金	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 13	感染・基礎実習 14	感染・基礎実習 15
2/1	月	自習・補講	医動物学 17	感染・基礎実習 16	感染・基礎実習 17	感染・基礎実習 18
2/2	火	自習・補講	神経科学 38	感染・基礎実習 19	感染・基礎実習 20	感染・基礎実習 21
2/3	水	自習・補講	神経科学 39	感染・基礎実習 22	感染・基礎実習 23	感染・基礎実習 24
2/4	木	教養／医歯学基盤教育		感染・基礎実習 25	感染・基礎実習 26	感染・基礎実習 27
2/5	金	自習・補講	神経科学 40	感染・基礎実習 28	感染・基礎実習 29	感染・基礎実習 30
2/8	月	自習・補講	神経解剖学	医動物学実習 13	医動物学実習 14	医動物学実習 15
2/9	火	自習・補講	自習・補講	医動物学実習 16	医動物学実習 17	医動物学実習 18
2/10	水			医動物学実習 19	医動物学実習 20	医動物学実習 21
2/11	木	建国記念の日				
2/12	金	自習・補講	自習・補講	医動物学実習 試	医動物学実習 試	医動物学実習 試
2/15	月	自習・補講	医動物学	自習・補講	自習・補講	
2/16	火	自習・補講	感染・基礎	自習・補講	自習・補講	
2/17	水	自習・補講	神経科学(生理)	自習・補講	自習・補講	
2/18	木	自習・補講	神経科学(薬理)	自習・補講	自習・補講	
2/19	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/22	月	再試験期間				
2/23	火					
2/24	水					
2/25	木					
2/26	金					
2/29	月	再試験期間				
3/1	火					
3/2	水					
3/3	木	教養再試験				
3/4	金					

臨時休業　28.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会　28.3月中旬【予定】

進級判定教授会　28.3中旬【予定】

平成27年(2015年)度　授業時間割　第3学年

前期（20週）2015年（平成27年）　3月30日（月）～9月25日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/30	月					
3/31	火					
4/1	水					
4/2	木					
4/3	金					
4/6	月	腫瘍学ブロック				
4/7	火					
4/8	水					
4/9	木	医歯学基盤教育1				
4/10	金					
4/13	月	法医学　1	衛生学　1	社会医学　1	社会医学　2	
4/14	火	社会医学　3	法医学　2	法医学　3	法医学　4	
4/15	水	法医学　5	法医学　6	法医学　7	社会医学　4	
4/16	木	教養／医歯学基盤教育1		法医学　8	法医学　9	
4/17	金	社会医学　5	社会医学　6	衛生学　2	衛生学　3	
4/20	月	社会医学　7	衛生学　4	法医学　10	法医学　11	
4/21	火	社会医学　8	社会医学　9	法医学　12	法医学　13	
4/22	水	公衆衛生学　1	公衆衛生学　2	社会医学　10	社会医学　11	
4/23	木	教養／医歯学基盤教育2		法医学　14	社会医学　12	
4/24	金	社会医学　13	法医学　15	衛生学　5	衛生学　6	東洋医学　9
4/27	月	衛生学　7	衛生学　8	法医学実習　1	法医学実習　2	法医学実習　3
4/28	火	公衆衛生学　3	公衆衛生学　4	法医学実習　4	法医学実習　5	法医学実習　6
4/29	水	昭和の日				
4/30	木	教養／医歯学基盤教育3		法医学実習　7	法医学実習　8	法医学実習　9
5/1	金	衛生学　9	衛生学　10	社会医学　14	社会医学　15	東洋医学　10
5/4	月	みどりの日				
5/5	火	こどもの日				
5/6	水	憲法記念日　振替休日				
5/7	木	教養／医歯学基盤教育4		衛生学　11	東洋医学　11	
5/8	金	**法医学　16**	社会医学　16	衛生学　12	東洋医学　12	
5/11	月	公衆衛生学　5	公衆衛生学　6	衛生学実習 1	衛生学実習 2	衛生学実習 3
5/12	火	公衆衛生学　7	公衆衛生学　8	衛生学実習 4	衛生学実習 5	衛生学実習 6
5/13	水	公衆衛生学　9	公衆衛生学　10	衛生学実習 7	衛生学実習 8	衛生学実習 9
5/14	木	教養／医歯学基盤教育5		衛生学実習 10	衛生学実習 11	衛生学実習 12
5/15	金	公衆衛生学　11	公衆衛生学　12	衛生学実習 13	衛生学実習 14	衛生学実習 15
5/18	月	自習・補講	腫瘍学			
5/19	火	自習・補講	衛生学			
5/20	水	自習・補講	法医学	社会医学		
5/21	木	教養／医歯学基盤教育6				
5/22	金	自習・補講	公衆衛生学	東洋医学		
5/25	月	臨床医学導入ブロック				
5/26	火					
5/27	水					
5/28	木	教養／医歯学基盤教育7				
5/29	金					
6/1	月	循環器ブロック（1週目）				
6/2	火					
6/3	水					
6/4	木	教養／医歯学基盤教育8				
6/5	金					
6/8	月	循環器ブロック（2週目）				
6/9	火					
6/10	水					
6/11	木	教養／医歯学基盤教育9				
6/12	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/15	月	循環器ブロック（3週目）				
6/16	火					
6/17	水					
6/18	木	教養／医歯学基盤教育10				
6/19	金					
6/22	月	呼吸器ブロック（1週目）				
6/23	火					
6/24	水					
6/25	木	教養／医歯学基盤教育11				
6/26	金					
6/29	月	呼吸器ブロック（2週目）				
6/30	火					
7/1	水					
7/2	木	教養／医歯学基盤教育12				
7/3	金					
7/6	月	消化器ブロック（1週目）				
7/7	火					
7/8	水					
7/9	木	教養／医歯学基盤教育13				
7/10	金					
7/13	月	消化器ブロック（2週目）				
7/14	火					
7/15	水					
7/16	木	教養／医歯学基盤教育14				
7/17	金					
7/20	月	海の日				
7/21	火	消化器ブロック（3週目）				
7/22	水					
7/23	木	教養／医歯学基盤教育15				
7/24	金					

夏季休業：7月27日（月）～8月28日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
8/31	月	体液制御・泌尿器ブロック（1週目）				
9/1	火					
9/2	水					
9/3	木	自習・補講	自習・補講			
9/4	金					
9/7	月	体液制御・泌尿器ブロック（2週目）				
9/8	火					
9/9	水					
9/10	木	自習・補講	自習・補講			
9/11	金					
9/14	月	体液制御・泌尿器ブロック（3週目）				
9/15	火					
9/16	水					
9/17	木	医歯学基盤教育2				
9/18	金					
9/21	月	敬老の日				
9/22	火	国民の休日				
9/23	水	秋分の日				
9/24	木	医歯学基盤教育3	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
9/25	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講

後期（22週）　27年9月28日（月）～28年3月4日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/28	月	内分泌・代謝ブロック（1週目）				
9/29	火					
9/30	水					
10/1	木	教養／医歯学基盤教育1				
10/2	金					
10/5	月	内分泌・代謝ブロック（2週目）				
10/6	火					
10/7	水					
10/8	木	教養／医歯学基盤教育1				
10/9	金					

創立記念日　10月12日

10/12	月	体育の日				
10/13	火	血液・腫瘍ブロック（1週目）				
10/14	水					
10/15	木	教養／医歯学基盤教育2				
10/16	金					

お茶の水祭　10月17日（土）～10月18日（日）予定

10/19	月	臨時休業				
10/20	火	血液・腫瘍ブロック（2週目）				
10/21	水					
10/22	木	教養／医歯学基盤教育3				
10/23	金					
10/26	月	一般外科ブロック				
10/27	火					
10/28	水					
10/29	木	医歯学基盤教育4				
10/30	金					
11/2	月	神経科学(臨床)ブロック（1週目）				
11/3	火	文化の日				
11/4	水	神経科学(臨床)ブロック（1週目）				
11/5	木	教養／医歯学基盤教育4				
11/6	金					
11/9	月	神経科学(臨床)ブロック（2週目）				
11/10	火					
11/11	水					
11/12	木	教養／医歯学基盤教育5				
11/13	金					
11/16	月	神経科学(臨床)ブロック（3週目）				
11/17	火					
11/18	水					
11/19	木	教養／医歯学基盤教育6				
11/20	金					
11/23	月	勤労感謝の日				
11/24	火	神経科学(臨床)ブロック（4週目）				
11/25	水					
11/26	木	教養／医歯学基盤教育7				
11/27	金					
11/30	月	骨・関節・脊椎ブロック（1週目）				
12/1	火					
12/2	水					
12/3	木	教養／医歯学基盤教育8				
12/4	金					
12/7	月	骨・関節・脊椎ブロック（2週目）				
12/8	火					
12/9	水					
12/10	木	教養／医歯学基盤教育9				
12/11	金					

プロジェクトセメスター説明会(予定)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/14	月	皮膚・アレルギー・膠原病ブロック（1週目）				
12/15	火					
12/16	水					
12/17	木	教養／医歯学基盤教育10				
12/18	金					
12/21	月	皮膚・アレルギー・膠原病ブロック（2週目）				
12/22	火					
12/23	水	天皇誕生日				
12/24	木	教養／医歯学基盤教育11		皮膚・アレルギー・膠原病ブロック（2週目）		
12/25	金					

冬季休業：12月28日（月）～1月1日（金）

1/4	月	感染・臨床ブロック				
1/5	火					
1/6	水					
1/7	木	医歯学基盤教育5				
1/8	金					
1/11	月	成人の日				
1/12	火	頭頸部・臨床（医歯学融合）ブロック（1週目）				
1/13	水					
1/14	木	教養／医歯学基盤教育12				
1/15	金					
1/18	月	頭頸部・臨床（医歯学融合）ブロック（2週目）				
1/19	火					
1/20	水					
1/21	木	教養／医歯学基盤教育13				
1/22	金					
1/25	月	頭頸部・臨床（医歯学融合）ブロック（3週目）				
1/26	火					
1/27	水					
1/28	木	教養／医歯学基盤教育14				
1/29	金					
2/1	月	頭頸部・臨床（医歯学融合）ブロック（4週目）				
2/2	火					
2/3	水					
2/4	木	教養／医歯学基盤教育15				
2/5	金					
2/8	月	老年医学（医歯学融合）ブロック（1週目）				
2/9	火					
2/10	水					
2/11	木	建国記念の日				
2/12	金	老年医学（医歯学融合）ブロック（1週目）				
2/15	月	老年医学（医歯学融合）ブロック（2週目）				
2/16	火					
2/17	水					
2/18	木	医歯学基盤教育7				
2/19	金					
2/22	月	再試験期間				
2/23	火					
2/24	水					
2/25	木					
2/26	金					
2/29	月	再試験期間				
3/1	火					
3/2	水					
3/3	木	医歯学基盤教育　再試験				
3/4	金					
3/5	土	M4　OSCE				

臨時休業　28.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会　28.3月中旬【予定】

進級判定教授会　28.3中旬【予定】

平成27年(2015年)度　授業時間割　第4学年

前期（22週）2015年（平成27年）　3月30日（月）～9月25日(金)（(9月26日(土)）)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/30	月					
3/31	火					
4/1	水					
4/2	木					
4/3	金					
4/6	月	救急・麻酔ブロック(1週目)				
4/7	火					
4/8	水					
4/9	木	医歯学基盤教育1				
4/10	金					
4/13	月	救急・麻酔ブロック(2週目)				
4/14	火					
4/15	水					
4/16	木	医歯学基盤教育2				
4/17	金					
4/20	月	生殖・発達ブロック(1週目)				
4/21	火					
4/22	水					
4/23	木	医歯学基盤教育3				
4/24	金					
4/27	月	生殖・発達ブロック(2週目)				
4/28	火					
4/29	水	昭和の日				
4/30	木	医歯学基盤教育4	生殖・発達ブロック（2週目）			
5/1	金					
5/4	月	みどりの日				
5/5	火	こどもの日				
5/6	水	憲法記念日　振替休日				
5/7	木	医歯学基盤教育5		自習・補講	自習・補講	
5/8	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
5/11	月	生殖・発達ブロック(3週目)				
5/12	火					
5/13	水					
5/14	木	医歯学基盤教育6				
5/15	金					
5/18	月	生殖・発達ブロック(4週目)				
5/19	火					
5/20	水					
5/21	木	医歯学基盤教育7				
5/22	金					
5/25	月	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習
5/26	火	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習
5/27	水	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習
5/28	木	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習
5/29	金	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習	公衆衛生学実習
6/1	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(1週目)				
6/2	火					
6/3	水					
6/4	木					
6/5	金					
6/8	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(2週目)				
6/9	火					
6/10	水					
6/11	木					
6/12	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/15	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(3週目)				
6/16	火					
6/17	水					
6/18	木					
6/19	金					
6/22	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(4週目)				
6/23	火					
6/24	水					
6/25	木					
6/26	金					
6/29	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(5週目)				
6/30	火					
7/1	水					
7/2	木					
7/3	金					
7/6	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(6週目)				
7/7	火					
7/8	水					
7/9	木					
7/10	金					
7/13	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(7週目)				
7/14	火					
7/15	水					
7/16	木					
7/17	金					
7/20	月	海の日				
7/21	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(8週目)				
7/22	水					
7/23	木					
7/24	金					

夏季休業:7月27日(月)～8月21日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
8/24	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(9週目)				
8/25	火					
8/26	水					
8/27	木					
8/28	金					
8/31	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(10週目)				
9/1	火					
9/2	水					
9/3	木					
9/4	金					
9/7	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(11週目)				
9/8	火					
9/9	水					
9/10	木					
9/11	金					
9/14	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(12週目)				
9/15	火					
9/16	水					
9/17	木					
9/18	金					
9/21	月	敬老の日				
9/22	火	国民の休日				
9/23	水	秋分の日				
9/24	木	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(13週目)				
9/25	金					

後期（22週）　27年9月28日(月）～28年3月11日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/28	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(14週目)				
9/29	火					
9/30	水					
10/1	木					
10/2	金					
10/5	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(15週目)				
10/6	火					
10/7	水					
10/8	木					
10/9	金					
10/12	月	体育の日				
10/13	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(16週目)				
10/14	水					
10/15	木					
10/16	金					
10/19	月	臨時休業				
10/20	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(17週目)				
10/21	水					
10/22	木					
10/23	金					
10/26	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(18週目)				
10/27	火					
10/28	水					
10/29	木					
10/30	金					
11/2	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(19週目)				
11/3	火	文化の日				
11/4	水	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(19週目)				
11/5	木					
11/6	金					
11/9	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(20週目)				
11/10	火					
11/11	水					
11/12	木					
11/13	金					
11/16	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)(21週目)				
11/17	火					
11/18	水					
11/19	木					
11/20	金	自由選択学習(プロジェクトセメスター)成果発表会				
11/23	月	勤労感謝の日				
11/24	火	再試験期間				
11/25	水					
11/26	木					
11/27	金					
11/30	月	臨床導入実習(1週目)				
12/1	火					
12/2	水					
12/3	木					
12/4	金					
12/7	月	臨床導入実習(2週目)				
12/8	火					
12/9	水					
12/10	木					
12/11	金					
12/14	月	臨床導入実習(3週目)				
12/15	火					
12/16	水					
12/17	木					
12/18	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/21	月	臨床導入実習(4週目)				
12/22	火					
12/23	水	天皇誕生日				
12/24	木	臨床導入実習(4週目)				
12/25	金					

冬季休業：12月28日（月）～1月1日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
1/4	月	臨床導入実習(5週目)				
1/5	火					
1/6	水					
1/7	木					
1/8	金					
1/11	月	成人の日				
1/12	火	臨床導入実習(6週目)				
1/13	水					
1/14	木					
1/15	金					
1/18	月	臨床導入実習(7週目)				
1/19	火					
1/20	水					
1/21	木					
1/22	金					
1/25	月	臨床導入実習(8週目)				
1/26	火					
1/27	水					
1/28	木					
1/29	金					
2/1	月	臨床導入実習(9週目)				
2/2	火					
2/3	水					
2/4	木					
2/5	金					
2/8	月	臨床導入実習(10週目)				
2/9	火					
2/10	水					
2/11	木	建国記念の日				
2/12	金	臨床導入実習(10週目)				
2/15	月	臨床導入実習(11週目)				
2/16	火					
2/17	水					
2/18	木					
2/19	金					
2/22	月	臨時休業				
2/23	火					
2/24	水					
2/25	木					
2/26	金					
2/29	月	**CBT**				
3/1	火	**臨床導入実習(12週目)**				
3/2	水					
3/3	木					
3/4	金					
3/5	土	**OSCE**				
3/7	月	臨床導入実習(13週目)				
3/8	火					
3/9	水					
3/10	木					
3/11	金					

創立記念日　10月12日

お茶の水祭　10月17日（土）～10月18日（日）予定

合宿研修　11月28日(土)～11月29日(日)予定

臨時休業　28.3月下旬～【予定】
進級判定教育委員会　28.3月中旬【予定】
進級判定教授会　28.3中旬【予定】

平成27年（2015年）度　授業時間割　第5学年

前期（24週）2015年（平成27年）　3月30日（月）～9月25日（金）

日付		8:00～12:00	13:00～18:00
3/30	月	臨床実習（第１クール）	
3/31	火		
4/ 1	水		
4/ 2	木		
4/ 3	金		
4/ 6	月	臨床実習（第１クール）	
4/ 7	火		
4/ 8	水		
4/ 9	木		
4/10	金		
4/13	月	臨床実習（第１クール）	
4/14	火		
4/15	水		
4/16	木		
4/17	金		
4/20	月	臨床実習（第１クール）	
4/21	火		
4/22	水		
4/23	木		
4/24	金		
4/27	月	臨床実習（第２クール）	
4/28	火		
4/29	水	（祝）昭和の日	
4/30	木	臨床実習（第２クール）	
5/ 1	金		
5/ 4	月	（祝）みどりの日	
5/ 5	火	（祝）こどもの日	
5/ 6	水	憲法記念日振替休日	
5/ 7	木	臨時休業（前週の補講）	
5/ 8	金		
5/11	月	臨床実習（第２クール）	
5/12	火		
5/13	水		
5/14	木		
5/15	金		
5/18	月	臨床実習（第２クール）	
5/19	火		
5/20	水		
5/21	木		
5/22	金		
5/25	月	臨床実習（第２クール）	
5/26	火		
5/27	水		
5/28	木		
5/29	金		
6/ 1	月	臨床実習（第３クール）	
6/ 2	火		
6/ 3	水		
6/ 4	木		
6/ 5	金		
6/ 8	月	臨床実習（第３クール）	
6/ 9	火		
6/10	水		
6/11	木		
6/12	金		
6/15	月	臨床実習（第３クール）	
6/16	火		
6/17	水		
6/18	木		
6/19	金		
6/22	月	臨床実習（第３クール）	
6/23	火		
6/24	水		
6/25	木		
6/26	金		

日付		8:00～12:00	13:00～18:00
6/29	月	臨床実習（第４クール）	
6/30	火		
7/ 1	水		
7/ 2	木		
7/ 3	金		
7/ 6	月	臨床実習（第４クール）	
7/ 7	火		
7/ 8	水		
7/ 9	木		
7/10	金		
7/13	月	臨床実習（第４クール）	
7/14	火		
7/15	水		
7/16	木		
7/17	金		
7/20	月	（祝）海の日	
7/21	火	臨床実習（第４クール）	
7/22	水		
7/23	木		
7/24	金		
7/27	月	臨床実習（第５クール）	
7/28	火		
7/29	水		
7/30	木		
7/31	金		
8/ 3	月	臨床実習（第５クール）	
8/ 4	火		
8/ 5	水		
8/ 6	木		
8/ 7	金		
8/10	月	臨床実習（第５クール）	
8/11	火		
8/12	水		
8/13	木		
8/14	金		
8/17	月	臨床実習（第５クール）	
8/18	火		
8/19	水		
8/20	木		
8/21	金		
8/24	月	臨床実習（第６クール）	
8/25	火		
8/26	水		
8/27	木		
8/28	金		
8/31	月	臨床実習（第６クール）	
9/ 1	火		
9/ 2	水		
9/ 3	木		
9/ 4	金		
9/ 7	月	臨床実習（第６クール）	
9/ 8	火		
9/ 9	水		
9/10	木		
9/11	金		
9/14	月	臨床実習（第６クール）	
9/15	火		
9/16	水		
9/17	木		
9/18	金		
9/21	月	（祝）敬老の日	
9/22	火	国民の休日	
9/23	水	（祝）秋分の日	
9/24	木	臨時休業	
9/25	金		

後期（25週）　27年9月28日（月）～28年3月25日（金）

日付		8:00～12:00	13:00～18:00
9/28	月	臨床実習（第７ｸｰﾙ）	
9/29	火		
9/30	水		
10/ 1	木		
10/ 2	金		
10/ 5	月	臨床実習（第７ｸｰﾙ）	
10/ 6	火		
10/ 7	水		
10/ 8	木		
10/ 9	金		
10/12	月	（祝）体育の日	
10/13	火	臨床実習（第７ｸｰﾙ）	
10/14	水		
10/15	木		
10/16	金		
10/19	月	臨床実習（第７ｸｰﾙ）	
10/20	火		
10/21	水		
10/22	木		
10/23	金		
10/26	月	臨床実習（第8クール）	
10/27	火		
10/28	水		
10/29	木		
10/30	金		
11/ 2	月	臨床実習（第8クール）	
11/ 3	火	（祝）文化の日	
11/ 4	水	臨床実習（第8クール）	
11/ 5	木		
11/ 6	金		
11/ 9	月	臨床実習（第8クール）	
11/ 10	火		
11/ 11	水		
11/ 12	木		
11/ 13	金		
11/16	月	臨床実習（第8クール）	
11/17	火		
11/18	水		
11/19	木		
11/20	金		
11/23	月	（祝）勤労感謝の日	
11/24	火	臨床実習（第9クール）	
11/25	水		
11/26	木		
11/27	金		
11/30	月	臨床実習（第9クール）	
12/ 1	火		
12/ 2	水		
12/ 3	木		
12/ 4	金		
12/ 7	月	臨床実習（第9クール）	
12/ 8	火		
12/ 9	水		
12/10	木		
12/11	金		
12/14	月	臨床実習（第9クール）	
12/15	火		
12/16	水		
12/17	木		
12/18	金		
12/21	月	包括医療統合教育（1週目）	
12/22	火		
12/23	水	（祝）天皇誕生日	
12/24	木	包括医療統合教育（1週目）	
12/25	金		

日付		8:00～12:00	13:00～18:00
1/ 4	月	臨床実習（第10クール）	
1/ 5	火		
1/ 6	水		
1/ 7	木		
1/ 8	金		
1/11	月	（祝）成人の日	
1/12	火	臨床実習（第10クール）	
1/13	水		
1/14	木		
1/15	金		
1/18	月	臨床実習（第10クール）	
1/19	火		
1/20	水		
1/21	木		
1/22	金		
1/25	月	臨床実習（第10クール）	
1/26	火		
1/27	水		
1/28	木		
1/29	金		
2/ 1	月	臨床実習（第11クール）	
2/ 2	火		
2/ 3	水		
2/ 4	木		
2/ 5	金		
2/ 8	月	臨床実習（第11クール）	
2/ 9	火		
2/10	水		
2/11	木	（祝）建国記念の日	
2/12	金	臨床実習（第11クール）	
2/15	月	臨床実習（第11クール）	
2/16	火		
2/17	水		
2/18	木		
2/19	金		
2/22	月	臨床実習（第11クール）	
2/23	火		
2/24	水		
2/25	木		
2/26	金		
2/29	月	臨床実習（第12クール）	
3/ 1	火		
3/ 2	水		
3/ 3	木		
3/ 4	金		
3/7	月	臨床実習（第12クール）	
3/8	火		
3/9	水		
3/10	木		
3/11	金		
3/14	月	臨床実習（第12クール）	
3/15	火		
3/16	水		
3/17	木		
3/18	金		
3/21	月	臨床実習（第12クール）	
3/22	火		
3/23	水		
3/24	木		
3/25	金		

創立記念日　10月12日

お茶の水祭　10月17日（土）～10月18日（日）予定

冬季休業：12月28日（月）～1月1日（金）

平成27年(2015年)度　授業時間割　第6学年

前期(26週)2015年(平成27年)　3月30日(月)～9月25日(金)

日　付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/30	月	臨床実習（第１クール）				
3/31	火					
4/1	水					
4/2	木					
4/3	金					
4/6	月	臨床実習（第１クール）				
4/7	火					
4/8	水					
4/9	木					
4/10	金					
4/13	月	臨床実習（第１クール）				
4/14	火					
4/15	水					
4/16	木					
4/17	金					
4/20	月	臨床実習（第１クール）				
4/21	火					
4/22	水					
4/23	木					
4/24	金					
4/27	月	臨床実習（第2クール）				
4/28	火					
4/29	水	昭　和　の　日				
4/30	木	臨床実習（第2クール）				
5/1	金					
5/4	月	みどりの日				
5/5	火	こどもの日				
5/6	水	憲法記念日　振替休日				
5/7	木	包括医療統合教育セッション				
5/8	金					
5/11	月	臨床実習（第2クール）				
5/12	火					
5/13	水					
5/14	木					
5/15	金					
5/18	月	臨床実習（第2クール）				
5/19	火					
5/20	水					
5/21	木					
5/22	金					
5/25	月	臨床実習（第2クール）				
5/26	火					
5/27	水					
5/28	木					
5/29	金					
6/1	月	臨床実習（第3クール）				
6/2	火					
6/3	水					
6/4	木					
6/5	金					
6/8	月	臨床実習（第3クール）				
6/9	火					
6/10	水					
6/11	木					
6/12	金					
6/15	月	臨床実習（第３クール）				
6/16	火					
6/17	水					
6/18	木					
6/19	金					
6/22	月	臨床実習（第３クール）				
6/23	火					
6/24	水					
6/25	木					
6/26	金					

*臨床実習の日程は変更する可能性あり

日付		8:00～12:00	13:00～18:00
6/29	月	臨床実習（第４クール）	
6/30	火		
7/1	水		
7/2	木		
7/3	金		
7/6	月	臨床実習（第４クール）	
7/7	火		
7/8	水		
7/9	木		
7/10	金		
7/13	月	臨床実習（第４クール）	
7/14	火		
7/15	水		
7/16	木		
7/17	金		
7/20	月	（祝）海の日	
7/21	火	臨床実習（第４クール）	
7/22	水		
7/23	木		
7/24	金		
7/27	月	臨床実習（第５クール）	
7/28	火		
7/29	水		
7/30	木		
7/31	金		
8/3	月	臨床実習（第５クール）	
8/4	火		
8/5	水		
8/6	木		
8/7	金		
8/10	月	臨床実習（第５クール）	
8/11	火		
8/12	水		
8/13	木		
8/14	金		
8/17	月	臨床実習（第５クール）	
8/18	火		
8/19	水		
8/20	木		
8/21	金		
8/24	月	臨床実習（第６クール）	
8/25	火		
8/26	水		
8/27	木		
8/28	金		
8/31	月	臨床実習（第６クール）	
9/1	火		
9/2	水		
9/3	木		
9/4	金		
9/7	月	臨床実習（第６クール）	
9/8	火		
9/9	水		
9/10	木		
9/11	金		
9/14	月	臨床実習（第６クール）	
9/15	火		
9/16	水		
9/17	木		
9/18	金		
9/21	月	（祝）敬老の日	
9/22	火	国民の休日	
9/23	水	（祝）秋分の日	
9/24	木	臨時休業	
9/25	金		

*CSAおよびCSA再試験は土曜日に実施予定

後期(24週)　27年9月28日(月)～28年3月25日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/28	月	卒　業　試　験 １Ｗ				
9/29	火					
9/30	水					
10/1	木					
10/2	金					
10/5	月	卒　業　試　験 ２Ｗ				
10/6	火					
10/7	水					
10/8	木					
10/9	金					
10/12	月	体　育　の　日				
10/13	火	卒　業　試　験 ３Ｗ				
10/14	水					
10/15	木					
10/16	金					
10/19	月	卒　業　試　験 ４Ｗ				
10/20	火					
10/21	水					
10/22	木					
10/23	金					
10/26	月	卒　業　試　験 ５Ｗ				
10/27	火					
10/28	水					
10/29	木					
10/30	金					
11/2	月	卒　業　試　験６Ｗ				
11/3	火	文　化　の　日				
11/4	水	卒　業　試　験 ６Ｗ				
11/5	木					
11/6	金					
11/9	月	卒　業　試　験 ７Ｗ				
11/10	火					
11/11	水					
11/12	木					
11/13	金					
11/16	月	卒　業　再　試　験 １Ｗ				
11/17	火					
11/18	水					
11/19	木					
11/20	金					
11/23	月	勤労感謝の日				
11/24	火	卒　業　再　試　験 ２Ｗ				
11/25	水					
11/26	木					
11/27	金					
11/30	月	卒　業　再　試　験 ３Ｗ				
12/1	火					
12/2	水					
12/3	木					
12/4	金					
12/7	月	卒　業　再　試　験 ４Ｗ				
12/8	火					
12/9	水					
12/10	木					
12/11	金					
12/14	月	冬季休業				
12/15	火					
12/16	水					
12/17	木					
12/18	金					

創立記念日　10月12日

お茶の水祭　10月17日（土）～10月18日（日）予定

冬季休業：12月14日（月）～1月1日（金）

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
1/4	月	臨　時　休　業				
1/5	火					
1/6	水					
1/7	木					
1/8	金					
1/11	月	成　人　の　日				
1/12	火	臨　時　休　業				
1/13	水					
1/14	木					
1/15	金					
1/18	月	臨　時　休　業				
1/19	火					
1/20	水					
1/21	木					
1/22	金					
1/25	月	臨　時　休　業				
1/26	火					
1/27	水					
1/28	木					
1/29	金					
2/1	月	臨　時　休　業				
2/2	火					
2/3	水					
2/4	木					
2/5	金					
2/8	月	臨　時　休　業				
2/9	火					
2/10	水					
2/11	木	建　国　記　念　の　日				
2/12	金	臨　時　休　業				
2/15	月	臨　時　休　業				
2/16	火					
2/17	水					
2/18	木					
2/19	金					
2/22	月	臨　時　休　業				
2/23	火					
2/24	水					
2/25	木					
2/26	金					
2/29	月	臨　時　休　業				
3/1	火					
3/2	水					
3/3	木					
3/4	金					
3/7	月	臨　時　休　業				
3/8	火					
3/9	水					
3/10	木					
3/11	金					
3/14	月	臨　時　休　業				
3/15	火					
3/16	水					
3/17	木					
3/18	金					
3/21	月	春分の日振替休日				
3/22	火	臨　時　休　業				
3/23	水					
3/24	木					
3/25	金	卒　業　式				

医学部医学科カリキュラム構成図（旧カリキュラム）

（平成22年度以前入学者）

1 年		2 年		3 年		4 年		5年		6年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学導入		遺伝子と生命 / 細胞の構造Ⅰ / 細胞の構造Ⅱ / 免　疫Ⅰ・Ⅱ 情報医学 / 細胞の機能 人体構造総論 医学英語Ⅰ		感染	小児科学	神経精神医学		基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先　端　医　学		C　P　E	
		医の原則		東洋医学（基礎）	循環器学	産科・婦人科学					
				組織学		公衆衛生学					
				社会医学	内分泌代謝	神・臨床神経					
数　学						眼科学					
				人体解剖学	医事法学	外科学					
						臨床検査医学					
化　学				生理学	膠原病・リウマチ学	皮膚科学					
						血液					
身体運動学実習Ⅰ		物理学実習		神経科学実習	医動物学	病理学実習					
保健体育学		情報科学				神経精神医学					
自由選択科目				神・神経構造		整形外科学	自由選択学習（ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄｾﾒｽﾀｰ）	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ 共用試験 CBT・OSCE	臨床実習Ⅲ	卒業試験
化学実験	生物実験			薬理学		耳鼻咽喉科学					
						泌尿器科学					
英　語				生殖・発達・加齢		心療・ターミナル学					
				神経科学・基礎		放射線医学					
						麻酔・蘇生学					
選択必須科目				法医学		形成外科学					
				衛生学		救急医学					
				生化学		頭頸部外科学					
				医学英語Ⅱ		老年病学					
						口腔外科学					
						医学英語Ⅱ					

腫瘍学ブロック / 病理学総論ブロック / 腎・体液制御ブロック / 呼吸器ブロック / 消化器ブロック

医学部医学科カリキュラム構成図（新カリキュラム）

（平成23年度以降入学者）

1 年		2 年		3 年		4 年		5年		6年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通科目（国府台キャンパス）	医学導入	医歯学基盤教育		腫瘍学ブロック	血液・腫瘍ブロック	生殖・発達	自由選択学習（プロジェクトセメスター）	臨床実習		包括医療統合教育	卒業試験
		医学英語Ⅰ		臨床医学導入ブロック	一般外科ブロック	救急・麻酔					
	全学共通科目（国府台キャンパス）	人体構造総論	神経解剖学	循環器ブロック	神経科学（臨床）ブロック						
		細胞生物学	免疫学Ⅰ・Ⅱ	呼吸器ブロック	骨・関節・脊椎ブロック						
		人体解剖学		消化器ブロック	皮膚・アレルギー・膠原病ブロック						
		神経生理導入	神経科学	体液制御・泌尿器ブロック	感染・臨床ブロック						
		組織学	感染・基礎	内分泌代謝ブロック							
		生理学	医動物学								
		薬理学	東洋医学		頭頸部・臨床（医歯学融合）ブロック						
		生化学		法医学	老年医学（医歯学融合）ブロック						
		分子遺伝学		衛生学							
		頭頸部・基礎	病理学ブロック	社会医学							
				公衆衛生学							
		全学共通科目（湯島キャンパス）									

臨床導入実習

共用試験
CBT・OSCE

第1学年

時間割番号	011001				
科目名	医学導入				
担当教員	田中 雄二郎, 井津井 康浩				
開講時期	後期	対象年次	1	単位数	6.5

英文名:Medical Introductory Course

主な講義場所

MD タワー2 階 共用講義室 1・2

授業の目的、概要等

専門教育の礎をつくる(教育理念、課程への理解、個々の学習目標と学習方法の探索、および自律性の涵養)

以下の A)~F)の項目に分け、到達目標等を記す。

授業の到達目標(SBOs)

A)社会における医師の役割/多彩なキャリア

社会における医師の役割(現在および今後の様々な形)、様々な社会貢献の形を説明でき、将来のキャリアビジョンを描き始める。中核病院医療、へき地医療、研究、医療行政、国際医療など、様々な社会貢献のかたちを、講演やシャドウイングを通して知る。

B) 医学の歴史と展望

医学の発展の歴史を学び、医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う

C) 国際医療

国際人としての意識、そして広い視野を持つ

D) 問題提起、解決能力

自ら問題を提起し、解決に向けて、チームメンバーと協力し、効果的に取り組むことができる

E) 医学生としての基盤構築

卒業時の到達目標を認識し、6年間の学習に対する意欲を持つ。これから学習する基礎医学・臨床医学において、臨床症候からの視点も備えるため、主要な症候と疾患を学ぶ。6 年間の医学学習に際しての自身のメンタルヘルスおよびセルフケアについて学ぶ。

F) Professionalism

医師というプロフェッションに必要な態度を習得するための基盤を形成する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	備考
1	9/29	09:00-10:20	共用講義室1	履修説明	オリエンテーション	田中 雄二郎	
2	9/29	10:30-11:50	共用講義室1	国際医療/Professionalism シリーズ	オリエンテーション	髙田 和生	
3	9/29	12:50-14:10	共用講義室1	症候学導入	オリエンテーション	田中 雄二郎	
4	9/29	14:20-15:40	共用講義室1	自己管理		室伏 広治	
5-6	10/6	09:00-11:50	共用講義室2	症候学導入①	胸痛	金子 英司	
7	10/6	12:50-14:10	その他(医学科)	国際医療①	グループ英語討論	髙田 和生	
8	10/6	14:20-15:40	共用講義室1	国際医療①	講義地域間の健康格差とその是正	中村 桂子	
9	10/13	09:00-10:20	共用講義室2	国際医療①	TBL	瀬川 裕子	
10	10/13	10:30-11:50	共用講義室1	医学の歴史と展望①	近代医学前史	佐藤 達夫	本学名誉教授 東京有明医療大学教授
11	10/13	12:50-14:10	その他	Professionalism①	グループ英語討論	髙田 和生	

			（医学科）				
12	10/13	14:20-15:40	共用講義室1	多彩なキャリア①	Physician Scientist とは？	宮坂 信之	本学名誉教授
13-14	10/20	09:00-11:50	共用講義室2	症候学導入②	腰痛	髙橋 誠	
15	10/20	12:50-14:10	その他（医学科）	Professionalism②	グループ英語討論	髙田 和生	
16	10/20	14:20-15:40	共用講義室1	医学の歴史と展望②	人の英知をこえた真実を求めて	淺原 弘嗣	
17-18	10/27	09:00-11:50	共用講義室2	症候学導入③	腹痛	岡田 英理子	
19	10/27	12:50-14:10	その他（医学科）	国際医療②	グループ英語討論	髙田 和生	
20	10/27	14:20-15:40	共用講義室1	国際医療②	講義健康水準と医療システムの国際比較	中村 桂子	
21	11/10	09:00-10:20	共用講義室2	国際医療②	TBL	中川 美奈	
22	11/10	10:30-11:50	共用講義室1	医学の歴史と展望③	肝臓病学の最前線	榎本 信幸	山梨大学
23	11/10	12:50-14:10	その他（医学科）	Professionalism③	グループ英語討論	髙田 和生	
24	11/10	14:20-15:40	共用講義室1	多彩なキャリア②	地域で命を支える	鎌田 實	諏訪中央病院
25-26	11/17	09:00-11:50	共用講義室2	症候学導入④	頭痛	中川 美奈	
27	11/17	12:50-14:10	その他（医学科）	Professionalism④	グループ英語討論	髙田 和生	
28	11/17	14:20-15:40	共用講義室1	医学の歴史と展望④	内視鏡	大塚 和朗	
29-30	11/24	09:00-11:50	共用講義室2	症候学導入⑤	咳	角 勇樹	
31	11/24	12:50-14:10	その他（医学科）	国際医療③	グループ英語討論	髙田 和生	
32	11/24	14:20-15:40	共用講義室1	国際医療③	ワクチン	本郷 偉元	
33	12/1	09:00-10:20	共用講義室2	国際医療③	TBL	山口 久美子	
34	12/1	10:30-11:50	共用講義室2	PBL	オリエンテーション	秋田 恵一	
35-36	12/1	12:50-15:40	共用講義室1	症候学導入⑥	息切れ	井津井 康浩	
37-38	12/8	09:00-11:50	4階学生実習室	PBL①		秋田 恵一	
39	12/8	12:50-14:10	共用講義室1	多彩なキャリア③	君たちに伝えたい3つのこと：医学部卒業後の進路は二つある	中山 敬一	九州大学
40	12/8	14:20-15:40	共用講義室1	医学の歴史と展望⑤	医学で学ぶということ	中山 啓子	東北大学
41-42	12/15	09:00-11:50	4階学生実習室	PBL②		秋田 恵一	

43–44	12/15	12:50–15:40	共用講義室2		卒前留学の意義	髙田 和生	
45	1/5	09:00–10:20	共用講義室1	シャドウイング実習	オリエンテーション	中川 美奈	
46	1/5	10:30–11:50	共用講義室1	多彩なキャリア④		江副 聡	厚生労働省
47	1/5	12:50–14:10	共用講義室1	医学の歴史と展望⑥	ピロリ菌の発見と疾患概念の変遷ーとくに胃がんに関して	上村 直実	国際医療研究センター
48	1/5	14:20–15:40	共用講義室1	多彩なキャリア⑤		和田 忠志	いらはら診療所
49–52	1/12	09:00–15:40	症例検討室		①CC 学生 shadowing ②臨床系教員 Shadowing ③看護師 Shadowing/BLS ④患者 Shadowing	中川 美奈, 工藤 敏文, 岡田 英理子, 井津井 康浩	
53–56	1/19	09:00–15:40	症例検討室		①CC 学生 shadowing ②臨床系教員 Shadowing ③看護師 Shadowing/BLS ④患者 Shadowing	中川 美奈, 工藤 敏文, 岡田 英理子, 井津井 康浩	
57–60	1/26	09:00–15:40	症例検討室		①CC 学生 shadowing ②臨床系教員 Shadowing ③看護師 Shadowing/BLS ④患者 Shadowing	中川 美奈, 工藤 敏文, 岡田 英理子, 井津井 康浩	
61–64	2/2	09:00–15:40	症例検討室		①CC 学生 shadowing ②臨床系教員 Shadowing ③看護師 Shadowing/BLS ④患者 Shadowing	中川 美奈, 工藤 敏文, 岡田 英理子, 井津井 康浩	
65	2/9	09:00–10:20	共用講義室1		メンタルヘルスケア	平井 伸英	
66	2/9	10:30–11:50	共用講義室1		研究者養成コースとは・解剖学実習の事前準備について	淺原 弘嗣, 秋田 恵一	
67	2/9	12:50–14:10	共用講義室1	医学の歴史と展望⑦	ビッグデータ	稲澤 譲治	
68	2/9	14:20–15:40	情報検索室	総括	卒業時の獲得資質について	田中 雄二郎	

授業方法

A)社会における医師の役割／多彩なキャリア

講演・シャドウイング

B) 医学の歴史と展望

講演

C) 国際医療

グループ英語討論、講義、チーム基盤型学習（TBL）

D) 問題提起、解決能力

グループ討論、自己学習とプレゼンテーション、問題基盤型学習（PBL）

E) 医学生としての基盤構築

シャドウイング、自己学習とプレゼンテーション、講義

F) Professionalism

グループ討論

授業内容

A)社会における医師の役割／多彩なキャリア
講演（地域中核病院勤務医、開業医、アカデミックドクター（基礎、臨床）、医療行政従事者、国際医療従事者）
シャドウイング（教員）
B) 医学の歴史と展望
（近代医学前史、現代の医療を作り上げた研究）
C) 国際医療
・ 国際人としての視野を高める／認識しておくべきトピックにつき、英語記事を基に小グループで英語議論を行い、その後当該領域を専門とする教員による日本語講義を行う。学習内容につき翌週復習・応用を行う（チーム基盤型学習形式にて）
・ 卒前留学経験者による講演により、同留学の意義を知る
D) 問題提起、解決能力
・ A), C), E), F)において、小グループにて自己問題提起/議論を行う
・ 与えられた課題に対し自己学習し、小グループにて情報共有する「症候学導入」を 6 回に渡り行う
・ 問題基盤型学習（Problem-based learning: PBL）を、2 回に渡り行う
E) 医学生としての基盤構築
・ 実習（シャドウイング；教員、第 5 学年学生の臨床実習、患者、看護師、シミュレーション／救急蘇生実習）
・ 自己学習とプレゼンテーション（症候学導入）
・ 講義（メンタルヘルス）
F) Professionalism
英語事例提示後、小グループで英語議論を行い、問題提起および考察を行う

成績評価の方法

A)社会における医師の役割／多彩なキャリア
提出課題、参加態度
B) 医学の歴史と展望
提出課題
C) 国際医療
チーム基盤型学習、提出課題、参加態度、ピア評価
D) 問題提起、解決能力
提出課題、参加態度
E) 医学生としての基盤構築
提出課題、参加態度
F) Professionalism
提出課題、参加態度

準備学習などについての具体的な指示

○ 国際医療のチーム基盤型学習は、前の週の学習項目の内容を問う試験を含む。復習をして参加することが求められる。
○ 英語討論では、WebClass 上に提示された教材を予習してくることが前提となる。予習内容を基に議論が行われるので、グループワークを行う上で予習・関連領域の自己学習が求められる。
○ 症候学導入は与えられた課題に対して教科書等を用いて事前に自己学習することが求められる。講義の 3 日前に予習内容をまとめたスライドの提出が必要になる。

試験の受験資格

講義全体の 2/3、実習全体の 3/4 の出席が単位履修のための要件となる。

教科書

内科學 = ASAKURA Internal Medicine／矢崎義雄 総編集,伊藤貞嘉, 伊藤裕, 岩本愛吉, 岡芳知, 金倉譲, 工藤正俊, 島本和明, 菅野健太郎, 須永眞司, 永井良三, 長谷川好規, 永澤英洋, 山本一彦 編集.：朝倉書店, 2013
標準生理学／小澤瀞司, 福田康一郎 総編集,本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫 編.：医学書院, 2009
？ Harrison’s Principles of Internal Medicine 18th Edition（McGraw-Hill iPad 版）
？ Gray’s Anatomy for Students （3 版 Churchill Livingstone 2014 年）

参考書

君はどんな医師になりたいのか : 「主治医」を目指して／川越正平 [ほか]著,:医学書院, 2002

知的生活の方法／渡部昇一／著,:講談社, 1984

科学者という仕事 : 独創性はどのように生まれるか／酒井邦嘉 著,:中央公論新社, 2006

死ぬ瞬間 死とその過程について／エリザベス・キューブラー・ロス 著,鈴木晶 訳:浜松市立中央図書館, 2001

なぜ、国際教養大学で人材は育つのか／中嶋嶺雄 著,:祥伝社, 2010

健康・老化・寿命 : 人といのちの文化誌／黒木登志夫 著,:中央公論新社, 2007

履修上の注意事項

すべてを通して一つの単位認定とする。単位未取得者は第 2 学年への進級を認められず、コース全体を再履修することが求められる。

連絡先

田中　雄二郎:ytanaka.merd@tmd.ac.jp

井津井　康浩:yitsui.gast@tmd.ac.jp

第2学年

時間割番号	011002				
科目名	人体構造総論				
担当教員	秋田　恵一				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	1.5

英文名：Introduction to Human Body

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室 1

授業の目的、概要等

人体構造総論は、人体の発生の総論・各論ならびに人体解剖学の総論が含まれる。

人体発生学総論は、生殖子の形成から出生に至る過程を概説する。人体発生学各論は、器官系それぞれの発生について概説するとともに、人体解剖学の学習のための考え方や構造の配置の必然性についての学習を行う。

ここで扱うことは、構造を理解するというのみならず、先天異常の理解や機能について学ぶうえで重要な基本となる。また、人体の複雑な構造は、単純な発生プロセスの多層の組み合わせによるものである。人体解剖学の講義は、人体構造総論を踏まえたうえで行われるので十分に理解していただきたい。

授業の到達目標(SBOs)

基本的な発生過程や、そのタイミングを、将来学ぶ臨床的な重要事項との関連を踏まえながら理解する。

解剖学的構造の配置を理解するのに必要な発生学的知識を習得する。

先天異常など、発生過程のプロセスの異常に起因する異常の成り立ちを説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/7	09:00-10:20	医学科講義室 1	解剖学とは？・脊椎動物の基本体制	秋田　恵一
2	4/7	10:30-11:50	医学科講義室 1	人体発生学総論：発生学の考え方	秋田　恵一
3	4/8	09:00-10:20	医学科講義室 1	人体発生学総論：細胞分裂・生殖子発生・卵巣周期と排卵	秋田　恵一
4	4/8	10:30-11:50	医学科講義室 1	人体発生学総論：受精・着床・原腸形成・脊索	秋田　恵一
5	4/9	09:00-10:20	医学科講義室 1	人体発生学総論：三胚葉の運命・外胚葉由来の構造	秋田　恵一
6	4/9	10:30-11:50	医学科講義室 1	人体発生学総論：中胚葉由来の構造・内胚葉由来の構造	秋田　恵一
7	4/10	09:00-10:20	医学科講義室 1	人体発生学総論：栄養膜の発達・胎盤	秋田　恵一
8	4/10	10:30-11:50	医学科講義室 1	人体発生学総論：羊膜と臍帯・胎児期・子宮外妊娠・双胎	秋田　恵一
9	4/13	09:00-10:20	医学科講義室 1	試験（総論：先天異常を除く）	秋田　恵一
10	4/13	10:30-11:50	医学科講義室 1	四肢をモデルとした発生メカニズム	原田　理代
11	4/15	09:00-10:20	医学科講義室 1	人体発生学各論：骨格・関節系	秋田　恵一
12	4/15	10:30-11:50	医学科講義室 1	人体発生学各論：筋系	秋田　恵一
13	4/17	09:00-10:20	医学科講義室 1	人体発生学各論：体腔・膜系, 呼吸器系	秋田　恵一
14	4/17	10:30-11:50	医学科講	人体発生学各論：循環器系①	秋田　恵一

			義室1		
15	4/20	09:00-10:20	医学科講義室1	人体発生学各論:循環器系②	秋田 恵一
16	4/20	10:30-11:50	医学科講義室1	人体発生学各論:循環器系③	秋田 恵一
17	4/22	09:00-10:20	医学科講義室1	人体発生学各論:消化器系①	秋田 恵一
18	4/22	10:30-11:50	医学科講義室1	人体発生学各論:消化器系②	秋田 恵一
19	4/24	09:00-10:20	医学科講義室1	人体発生学各論:頭頚部①(頭蓋骨・咽頭弓)	秋田 恵一
20	4/24	10:30-11:50	医学科講義室1	人体発生学各論:頭頚部②(顔面・頚部の形成)	秋田 恵一
21	4/27	09:00-10:20	医学科講義室1	人体発生学各論:泌尿生殖器系①	秋田 恵一
22	4/27	10:30-11:50	医学科講義室1	人体発生学各論:泌尿生殖器系②	秋田 恵一
23	5/1	09:00-10:20	医学科講義室1	人体発生学各論:頭頚部③(感覚器)	秋田 恵一
24	5/1	10:30-11:50	医学科講義室1	人体発生学総論:先天異常	秋田 恵一
25	9/2	10:30-11:50	医学科講義室1	試験(各論:ただし総論の範囲の先天異常を含む)	秋田 恵一

授業方法

授業は講義形式で行う。講義の資料については、講義前に PDF の形で配布する。必要に応じて印刷して持参すること。講義はすべてビデオ収録するので、どこにいても大学のサーバーにアクセスすることにより視聴することができる。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

4 月 13 日に試験(総論:先天異常を除く)、9 月 2 日に試験(各論:総論の一部である先天異常を含む)を行う。

形式は基本的に記述式とする。記述問題の問題文の中に重要と考えられる英単語が含まれ、英語の多肢選択問題も含まれることから、重要な英単語については学習をしておくことが必要である。

成績評価の基準

試験(総論:先天異常を除く)の得点を 8/23、試験(各論:総論の一部である先天異常を含む)の得点を 15/23 として、それらの合計によって成績評価する。

準備学習などについての具体的な指示

高校での生物学の履修の有無を考慮にいれないのかという声がしばしば聞かれる。しかし、教養部での 1 年間に基本的な生物学的な事項は履修している。高校での生物学履修の有無ついては人体構造総論の履修に際しては一切考慮しないので、十分な準備をしておくこと。

講義に関しては、1 回の講義時間あたりかなりの量の情報となるので、関係する範囲について事前に教科書に目を通しておいていただきたい。また、講義資料も前日までに閲覧できるので、確認しておくこと。

MIC の症候学の授業の資料、学生が作成したパワーポイントファイルなども確認していることを前提として授業を進める。

試験の受験資格

4 月 13 日予定の人体構造総論試験一1の受験のためには、4 月 7 日から 4 月 10 日までに行われる予定の 8 回の講義のうち 6 回の出席が必要である。

9 月 2 日予定の人体構造総論試験一2の受験のためには、4 月 13 日から 5 月 1 日までに行われる予定の 15 回の講義のうち 10 回の出席が必要である。

ただし、どちらかの資格が欠けても評価することができないので十分注意すること。

構成ユニット

なし

モジュールの単位判定

なし

教科書

ラングマン人体発生学／T.W.サドラー 著,安田峯生 訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010

参考書

最新 人体発生学 : 学生版／ラーセン／著,相川英三／〔ほか〕監訳：西村書店, 2003

ムーア人体発生学／Moore, Persaud 原著,瀬口春道, 小林俊博, Eva Garcia del Saz 訳：医歯薬出版, 2011

他科目との関連

人体発生学は人体解剖学と密接な関係がある。また、組織学においても、細胞構成などの理解に発生学的な知識は重要である。機能や臨床的な事項との関連は、意識しないとなかなか気付かない。様々なところで関連を考えていただきたい。

履修上の注意事項

細かなことが重要なわけではない。発生はストーリーで理解することが必要である。何が重要なのかということについては、他の科目との関連が重要となる。それらについては講義で折に触れて述べているはずなので、とくにそのあたりを意識して理解していただきたい。

備考

講義中にスクリーンの撮影をするのを禁止する。ストリーミングで視聴することができるようにするので参照していただきたい。

講義資料、ストリーミングなどは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

連絡先

akita.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

メール等でアポイントメントを取ること。

時間割番号	011003				
科目名	細胞生物学				
担当教員	中田　隆夫, 井上　明宏				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	1

英文名：Cell Biology

授業の目的、概要等

教養までの生物学であやふやな点がある者は細胞生物学のごく簡単な教科書でよいから、
読んでおくとよい（特に方法）。後は授業の理解に努めること。

授業の到達目標(SBOs)

細胞生物学は細胞を単位として生命や病気を考えるというここ100年来の生物学の哲学を
基にし、多様な研究方法を駆使する学問である。実際には1960年代に始まる電子顕微鏡で発見した細胞内の構造と生化学的な機能とをリンクさせる研究から始まっている。そうすると現代生物学の大部分は細胞生物学となり、すでに高校や教養でも或る程度習っていることになる。それらとの重複を避けて、少しだけ進んだ細胞生物学になるようにした。
前半は、細胞内小器官の構造と機能をやや進んだ観点から学習する。
後半は、細胞死、オートファジー、幹細胞、数理モデル化、器官形成、嗅覚系、等ををそれぞれ専門の先生にお話いただく。最先端研究の成果もさることながら、それぞれの先生の問題へのアプローチの違い、もののみかたの違いのようなものを楽しんでほしい。
科目を履修することで、現代生物学、医学研究の基本が理解できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/7	12:50-14:10	医学科講義室1	分泌経路	中田　隆夫
2	4/9	12:50-14:10	症例検討室	エンドサイトーシス	中田　隆夫
3	4/14	09:00-10:20	医学科講義室1	細胞周期と細胞老化	田中　敦
4	5/12	09:00-10:20	医学科講義室1	細胞死	清水　重臣
5	5/13	09:00-10:20	医学科講義室1	細胞骨格	井上　明宏
6	5/19	09:00-10:20	医学科講義室1	ミトコンドリア	清水　重臣
7	5/25	10:30-11:50	医学科講義室1	幹細胞	西村　栄美
8	6/1	09:00-10:20	医学科講義室1	オートファジー、細胞内分解系	水島　昇
9	6/9	09:00-10:20	医学科講義室1	細胞接着	畑　裕
10	6/12	09:00-10:20	医学科講義室1	細胞生物学研究の数理モデル化	中口　悦史
11	6/15	10:30-11:50	医学科講義室1	器官形成の遺伝学（モデル動物としての魚類）	仁科　博史
12	6/16	09:00-10:20	医学科講義室1	光遺伝学	石井　智浩
13	8/31	10:30-11:50	医学科講義室1	細胞生物学試験	井上　明宏

成績評価の方法

筆記試験によって評価する。

準備学習などについての具体的な指示

教養で学習した細胞生物学関連の内容について復習しておく。

教科書

Molecular Biology of the Cell　第 6 版(B. Alberts ら著、Garland Science　2015 年)

(同翻訳)細胞の分子生物学　第 5 版(中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010 年)

Molecular Cell Biology　第 7 版(H. Lodish ら著、W H Freeman & Co、2012 年)

細胞生物学　第 1 版(永田和宏ら編、東京化学同人、2006 年)

Essential　細胞生物学　原著第 3 版(B.Alberts ら著、中村桂子ら訳、南江堂、2011 年)

医学のための細胞生物学　第 1 版(永田、塩田編、南山堂、2009 年)

参考書

各講義で適宜紹介する。

連絡先

中田　隆夫:nakata.cbio@tmd.ac.jp

井上　明宏:inoue.cbio@tmd.ac.jp

オフィスアワー

井上　明宏:M&D タワー 18 階 S1853

時間割番号	011004				
科目名	神経生理導入				
担当教員	杉原 泉				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	1

英文名：Introductory Neurophysiology

主な講義場所

別表のとおり。

授業の目的、概要等

この科目は、平成 24 年度モジュール形式のカリキュラム導入に合わせて、2 年生最初のモジュールの授業科目として新たに編成された。従って、独立した授業科目ではあるが、科目の内容は、「神経科学」及び「生理学実習」と密接に関連している。具体的には膜輸送、細胞膜電位、イオンチャネルと受容体、興奮伝導、シナプス伝達など、神経生理学の基礎となる範囲を扱う。この科目で扱う範囲だけに合致した内容を記述するような書籍はないが、生理学・神経科学の教科書が参考書となる。授業では扱う内容の全体像を示すことを心がけるが、時間からしても制約がある。授業をきっかけとして、それ以上は学生が自ら学ぶことを身につけて欲しい。

授業の到達目標(SBOs)

神経生理学に関しての科学的理論と方法論を説明できる。
疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な神経生理学の知識を提示できる。
医学・歯学・健康に関して神経生理学的な問題提起ができる。
神経生理学の専門用語（日本語・英語）の理解/表記/発音ができる。
各授業参加者の人格を尊重し、敬意を払うことができる。
授業の時間を厳守し、信頼性を示すことができる。
自ら学習目標を設定し、学習活動に取り組むことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/8	12:50-14:10	医学科講義室1	序論および細胞膜Ⅰ	細胞内外の物理化学環境	杉原 泉
2	4/10	12:50-14:10	症例検討室	細胞膜Ⅱ	静止膜電位と浸透圧	杉原 泉
3	4/13	12:50-14:10	医学科講義室1	イオンチャンネルと受容体 Ⅰ	イオン輸送蛋白・イオンチャネルの分類、電位依存性チャネル	古川 哲史
4	4/14	10:30-11:50	医学科講義室1	イオンチャンネルと受容体 Ⅱ	チャネル型受容体、GPCR、キナーゼ型受容体、核内受容体	古川 哲史
5	4/14	12:50-14:10	医学科講義室1	細胞膜Ⅲ	ポンプと運搬体(トランスポーター)、ナトリウムポンプの機能	杉原 泉
6	4/16	12:50-14:10	症例検討室	細胞膜Ⅳ	各種分子の膜輸送機構	杉原 泉
7	4/21	09:00-10:20	医学科講義室1	神経細胞 構造と機能	神経組織の微細構造とその機能	中田 隆夫
8	4/21	10:30-11:50	医学科講義室1	神経の興奮と伝導Ⅰ	活動電位とその発生機構	伊澤 佳子
9	4/28	10:30-11:50	医学科講義室1	神経の興奮と伝導Ⅱ	活動電位の伝導	伊澤 佳子
10	5/8	09:00-10:20	共用講義室1	シナプスⅠ	シナプスの基本構造と神経伝達物質の放出・代謝機構	ヘルミナ ネデレスキュ
11	5/11	09:00-10:20	医学科講義室1	シナプスⅡ	シナプス後電位発生機構	杉原 泉
12	5/13	10:30-11:50	医学科講義室1	シナプスⅢ	シナプス伝達の修飾と統合	神谷 温之
13	6/23	10:30-11:50	医学科講義室1	神経の興奮と伝導Ⅲ	刺激作用	伊澤 佳子

14	7/7	09:00–10:20	医学科講義室1	反射と神経回路	「生理学実習」に先立ち、脊髄反射と前庭反射に関する基本事項を解説する。	杉内 友理子	
15	7/7	10:30–11:50	医学科講義室1	生体の神経生理学	生体の電気現象の記録、解析に必要な基本事項を理解する。	髙橋 真有	
16	9/1	10:30–11:50	医学科講義室1	神経生理導入試験		杉原 泉	

授業方法

主として、パソコンからの画像の提示と板書を併用した講義での授業を行う。配付資料を事前にアップロードする場合が多い（予習・復習にも利用してほしい）。教員からの質問等、インタラクティブな授業となる場合もある。

授業内容

別表のとおり。

成績評価の方法

試験は、記述式の問題を主とする。一部、英語による出題を行う。授業の参加状況は、講義室の出席管理システムによるが、もし、授業中に教員が別に参加状況を確認した場合には、そちらを優先する。

成績評価の基準

試験（ほとんど記述式）の評価を成績評価とするが、授業参加状況、授業態度に特記することがあれば、成績評価の 50%以内で加味する。試験の記述問題に関しては、設問に関して適切なレベルの論述回答が得られることを評価の対象とする。

準備学習などについての具体的な指示

高等学校レベルおよび、本学教養レベルの、物理学（電磁気学、熱力学）、化学（物理化学、有機化学、無機化学）、生物学の復習をしておくこと。さらに、授業内容に相当することがらについて、下記参考書から予習して来ることを勧める。授業の配付資料がアップロードされた場合には、適切な方法で閲覧しておくことを勧める

試験の受験資格

東京医科歯科大学試験規則に準ずる。

参考書

標準生理学／小澤瀞司, 福田康一郎 監修,本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫, 河合康明, 黒澤美枝子, 鯉淵典之, 伊佐正 編集,：医学書院, 2014

ガイトン生理学／Arthur C.Guyton, John E.Hall 原著,御手洗玄洋 総監訳,小川徳雄, 永坂鉄夫, 伊藤嘉房, 松井信夫, 間野忠明 監訳：エルゼビア・ジャパン, 2010

イラストレイテッド生理学／Robin R.Preston, Thad E.Wilson [著],鯉淵典之, 栗原敏 監訳：丸善出版, 2014

カラー図解人体の正常構造と機能 = STRUCTURE, FUNCTION AND MATERIALS OF THE HUMAN BODY／坂井建雄, 河原克雅 総編集,：日本医事新報社, 2012

BERNE & LEVY PHYSIOLOGY Sixth Edition／Bruce M. Koeppen, Bruce A. Stanton：MOSBY ELSEVIER, 2010

Ganong’s Review of Medical Physiology 第 23 版（McGraw-Hill, 2009 年）

（同翻訳）ギャノング生理学 第 23 版（丸善、2011 年）

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第 12 版（Saunders、2010 年）

J. G. Nicholls et al., From Neuron to Brain, 5th ed. (Sinauer, 2012 年).

ダニエルトリッチ ニューロンの生理学 御子柴監訳 京大出版会 2009

S. Fox, Human Physiology, 12th ed. (McGraw-Hill, 2010 年).

他科目との関連

9 月からのモジュールの中の「神経科学」、特にその中の神経生理学に直接関連する。 7 月の「生理学実習」にも直接関連する。

履修上の注意事項

積極的な発言（質問等）を期待する。

連絡先

isugihara.phy1@tmd.ac.jp

オフィスアワー

月曜日～金曜日 PM.0:00–PM1:00 と PM4:00–PM6:00 3 号館 14 階教授室

時間割番号	011005				
科目名	生理学				
担当教員	竹田 秀				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	3

英文名：Physiology and Cell Biology

主な講義場所

医学科講義室

授業の目的、概要等

医学・科学の理解に必要な基礎知識を幅広く身につけるとともに、物事を科学的に議論できる力を養う。

授業の到達目標(SBOs)

人体機能の特性とメカニズムを理解する上で必要な以下の能力を身につける。

①医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

②疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

③世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

④実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

⑤本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

⑥文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

⑦記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

⑧科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

⑨他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

⑩時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

⑪自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

授業方法

講義が主体であるが、講義の一部はディスカッション形式とする。

授業内容

講義では、消化・吸収、心臓・循環、呼吸、筋肉、内分泌、腎臓生理、血液生理、代謝生理、動物モデルを中心に扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。

成績評価の方法

筆記試験にて評価する。

成績評価の基準

100 点満点で採点をし、60 点以上を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

事前に該当分野の予習をしておくことが望ましい。

教科書

・標準生理学 第 7 版(医学書院、2009 年)

・Ganong’s Review of Medical Physiology 第 23 版(McGraw-Hill Medical、2009 年)

(同翻訳)ギャノング生理学 第 23 版(丸善、2011 年)

・Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第 12 版(Saunders、2010 年)

(同翻訳)ガイトン生理学(原著 11 版、エルゼビアジャパン、2010 年)

参考書

各講義で適宜紹介する。

連絡先

竹田 秀:takeda.phy2@tmd.ac.jp

オフィスアワー

竹田 秀:オフィスアワーは特に定めないが、事前に連絡してから訪問すること(M＆Dタワー17 階 細胞生理学研究室)

時間割番号	011006		
科目名	生理学		
担当教員	竹田 秀		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Physiology and Cell Biology

主な講義場所

医学科講義室

授業の目的、概要等

医学・科学の理解に必要な基礎知識を幅広く身につけるとともに、物事を科学的に議論できる力を養う。

授業の到達目標(SBOs)

人体機能の特性とメカニズムを理解する上で必要な以下の能力を身につける。

①医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

②疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

③世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

④実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

⑤本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

⑥文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

⑦記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

⑧科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

⑨他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

⑩時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

⑪自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/15	12:50-14:10	医学科講義室1	生理学総論	竹田 秀
2	4/28	09:00-10:20	医学科講義室1	心臓(1)心臓概論:ポンプとしての心臓	磯部 光章
3	5/8	10:30-11:50	共用講義室1	体温調節	竹田 秀
4	5/11	10:30-11:50	医学科講義室1	循環(1)ヘモレオロジー・血行力学	吉田 雅幸
5	5/12	10:30-11:50	医学科講義室1	消化と吸収	福田 亨
6	5/15	09:00-10:20	医学科講義室1	呼吸(1)	宮崎 泰成
7	5/18	09:00-10:20	医学科講義室1	循環(2)循環の神経性調節	吉田 雅幸
8	5/18	10:30-11:50	医学科講義室1	呼吸(2)	宮崎 泰成
9	5/20	09:00-10:20	医学科講義室1	筋の収縮機構(1)	古川 哲史
10	5/22	09:00-10:20	医学科講義室1	筋の収縮機構(2)	古川 哲史
11	5/25	09:00-10:20	医学科講義室1	内分泌(1)視床下部・下垂体	竹田 秀
12	5/26	09:00-10:20	医学科講	遺伝子組み換えマウス	越智 広樹

			義室1		
13	5/27	09:00-10:20	医学科講義室1	消化管運動	古川 哲史
14	5/29	09:00-10:20	医学科講義室1	内分泌(2)甲状腺・副甲状腺	竹田 秀
15	6/1	10:30-11:50	医学科講義室1	内分泌(3)膵臓	竹田 秀
16	6/2	09:00-10:20	医学科講義室1	予備日	
17	6/3	09:00-10:20	医学科講義室1	血液生理	金兼 弘和
18	6/5	09:00-10:20	医学科講義室1	内分泌(4)副腎	竹田 秀
19	6/8	09:00-10:20	医学科講義室1	心臓(2)心臓の電気活動	古川 哲史
20	6/8	10:30-11:50	医学科講義室1	腎臓生理	内田 信一
21	6/10	09:00-10:20	医学科講義室1	内分泌(5)ステロイドホルモンによる転写制御	竹田 秀
22	6/15	09:00-10:20	医学科講義室1	心臓(3)心電図	古川 哲史
23	6/17	09:00-10:20	医学科講義室1	代謝生理	小川 佳宏
24	6/19	09:00-10:20	医学科講義室1	骨代謝	竹田 秀
25	9/7	10:30-11:50	医学科講義室1	生理学試験	

授業方法

講義が主体であるが、講義の一部はディスカッション形式とする。

授業内容

講義では、消化・吸収、心臓・循環、呼吸、筋肉、内分泌、腎臓生理、血液生理、代謝生理、動物モデルを中心に扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。

成績評価の方法

筆記試験にて評価する。

成績評価の基準

100 点満点で採点をし、60 点以上を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

事前に該当分野の予習をしておくことが望ましい。

教科書

・標準生理学 第 7 版(医学書院、2009 年)

・Ganong’s Review of Medical Physiology 第 23 版(McGraw-Hill Medical、2009 年)

(同翻訳)ギャノング生理学 第 23 版(丸善、2011 年)

・Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第 12 版(Saunders、2010 年)

(同翻訳)ガイトン生理学(原著 11 版、エルゼビアジャパン、2010 年)

参考書

各講義で適宜紹介する。

連絡先

竹田 秀:takeda.phy2@tmd.ac.jp

オフィスアワー

竹田　秀:オフィスアワーは特に定めないが、事前に連絡してから訪問すること（M＆Dタワー17 階 細胞生理学研究室）

時間割番号	011007		
科目名	生理学実習		
担当教員	竹田 秀		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Physiology and Cell Biology

主な講義場所

生理学実習室

授業の目的、概要等

講義で身につけた基礎知識を実験を通じて再確認するとともに、物事を科学的に議論できる力を養う。

授業の到達目標(SBOs)

人体機能の特性とメカニズムを理解する上で必要な以下の能力を身につける。

①医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

②疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

③世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

④実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

⑤本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

⑥文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

⑦記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

⑧科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

⑨他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

⑩時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

⑪自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	7/13	12:50-17:10	医学科講義室1	実習講義	竹田 秀, 杉原 泉
4-6	7/14	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(1)	竹田 秀, 杉原 泉
7-9	7/15	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(2)	竹田 秀, 杉原 泉
10-12	7/16	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(3)	竹田 秀, 杉原 泉
13-15	7/17	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(4)	竹田 秀, 杉原 泉
16-18	7/21	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(5)	竹田 秀, 杉原 泉
19-21	7/22	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(6)	竹田 秀, 杉原 泉
22-24	7/23	12:50-17:10	6階学生実習室	実習(7)	竹田 秀, 杉原 泉
25-27	7/24	12:50-17:10	6階学生実習室	実習のまとめ・小テスト	竹田 秀, 杉原 泉

授業方法

少人数グループ制

授業内容

細胞生理学分野は以下の3項目の実習を担当する。

Ⅴ.糖尿病モデルマウスの負荷テスト

Ⅵ.骨格筋の Mechanical Properties

Ⅶ.腸管における糖・アミノ酸の吸収

成績評価の方法

出席、実習態度、レポートにて評価する。

成績評価の基準

100 点満点で採点をし、60 点以上を合格とする。実習レポートに関しては、捏造や盗用が判明した場合は、即不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

予習項目を含めて十分に予習をしてから実習に参加すること。

教科書

・標準生理学　第 7 版(医学書院、2009 年)

・Ganong’s Review of Medical Physiology　第 23 版(McGraw-Hill Medical、2009 年)

(同翻訳)ギャノング生理学　第 23 版(丸善、2011 年)

・Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology　第 12 版(Saunders、2010 年)

(同翻訳)ガイトン生理学(原著 11 版、エルゼビアジャパン、2010 年)

参考書

各講義で適宜紹介する。

連絡先

竹田　秀:takeda.phy2@tmd.ac.jp

オフィスアワー

竹田　秀:オフィスアワーは特に定めないが、事前に連絡してから訪問すること(M＆Dタワー17 階 細胞生理学研究室)

時間割番号	011009		
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅰ)		
担当教員			
開講時期	2年通年	対象年次	2～3

授業科目名英訳:Bioethics

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、コトをおこなってしまうのか、あるいは、するべきコトに気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標(SBOs)

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/16	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－3	医療事故と法的問題	高瀬 浩造
2	4/23	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－4	保険診療・診療報酬と倫理的問題	藍 真澄
3	4/30	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－5	疫学研究デザイン・実際	神田 英一郎
4	5/7	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－6	臨床治験と倫理的問題	石井 秀人
5	5/14	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－7	医療経済を考える	井伊 雅子
6	5/28	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－8	歯科診療に関わる倫理的問題	水口 俊介
7	6/4	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－9	医科診療に潜む倫理的問題	石井 秀人
8	6/11	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－10	到達度評価甲	吉田 雅幸
9	9/17	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－11	輸血に関連した倫理的問題	梶原 道子
10	9/17	11:10-12:00	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－12	生殖医療と倫理、遺伝子検査に関わる倫理的問題	小笹 由香
11	1/21	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－13	終末期医療と倫理(終末期医療の制度)	伊藤 亜希
12	1/28	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－14	終末期医療と倫理(亜急性型の終末期、がん等)	三宅 智

13	2/4	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－15	終末期医療と倫理(慢性型の終末期)	阿部 庸子	
14	2/18	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－16	宗教と倫理	小川 有閑	
15	2/18	11:10-12:00	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－17	宗教と倫理	小川 有閑	

授業方法

講義・グループワーク

自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙(50～60%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(50～60%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60 点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。(第3学年前期の到達度評価甲については、第2学年から第3学年前期の到達度評価甲前までの全 9 回の講義のうち、6 回以上の出席であること。第4学年前期の到達度評価乙については、第3学年前期の到達度評価甲後から第4学年前期の到達度評価乙までの全 12 回(予定)(同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす)のうち、8 回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の履修上の注意を参照のこと)

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

生命倫理と法／樋口, 範雄,土屋, 裕子,岩田, 太,:弘文堂, 2005

遺伝診療をとりまく社会 : その科学的・倫理的アプローチ／水谷修紀, 吉田雅幸 監修,吉田雅幸, 小笹由香 編,:ブレーン出版, 2007

医療の倫理ジレンマ : 解決への手引き : 患者の心を理解するために／バーナード・ロウ 著,北野喜良, 中澤英之, 小宮良輔 監訳,:西村書店, 2003

上記の文献については各自で読んでおくことが好ましい。

他の参考文献は講義のなかで随時紹介する。

② 吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会―その科学的・倫理的アプローチ』(ブレーン出版、2007 年)(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申請して下さい)

③ バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ―解決への手引き 患者の心を理解するために』(西村書店、2003 年)(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要。 医師、歯科医師といった医療

者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (E メールアドレス@tmd.ac.jp の前)

桑名 仁 生命倫理研究センター hkuwcie(2015/3/27 まで)

2015/4/1 以降の問い合わせ先は後日追記いたします。

参照ホームページ

各講義時に適宜指示

時間割番号	011010		
科目名	医歯学基盤教育(臨床統計I)		
担当教員	能登　洋, 水口　俊介		
開講時期	通年	対象年次	2

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/23	11:10-12:00	医学科講義室2	臨床統計Ⅰ－1	統計学と医療	能登　洋
2	5/14	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－2	統計学と医療	能登　洋
3	5/28	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－3	統計学と医療	能登　洋
4	6/4	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－4	統計学と医療	能登　洋
5	6/11	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－5	統計学と医療	能登　洋
6	6/18	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－6	統計学と医療	能登　洋
7	6/25	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－7	統計学と医療	能登　洋
8	7/23	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－8	応用演習	能登　洋
9	10/29	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－9	統計学と医療	徳永　伸一
10	10/29	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－10	統計学と医療	徳永　伸一
11	11/5	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－11	統計学と医療	徳永　伸一
12	11/5	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－12	統計学と医療	徳永　伸一
13	11/12	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－13	統計学と医療	徳永　伸一
14	11/12	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－14	統計学と医療	徳永　伸一
15	11/19	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－15	統計学と医療	徳永　伸一
16	11/19	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－16	統計学と医療	徳永　伸一
17	12/10	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－17	応用演習	徳永　伸一
18	12/10	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－18	統計学と医療	能登　洋
19	12/17	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－19	統計学と医療	能登　洋
20	12/17	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－20	統計学と医療	能登　洋
21	1/14	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－21	統計学と医療	能登　洋
22	1/14	11:10-12:00	医学科講	臨床統計Ⅰ－22	統計学と医療	能登　洋

			義室1			
23	1/21	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－23	応用演習	能登 洋
24	1/21	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－24	統計学と医療 総括	徳永 伸一
25	3/3	13:00-13:50	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ	予備日(基本授業日数には含まれない)	能登 洋

授業方法

講義・演習による

授業内容

・EBM/EBD

・統計の種類と研究の種類

・相関・検査特性・治療/予防に関する統計学の基礎と応用法

・統計学の思想や数学的原理

成績評価の方法

授業責任者が応用演習を主として判定する。

成績評価の基準

授業責任者が応用演習中に行う試験を主として判定する。追試・再試については原則として東京医科歯科大学試験規則に従う。

準備学習などについての具体的な指示

教科書および WebClass 上にアップロードされる資料等を活用して予習・復習に役立てること。

教科書

臨床統計はじめの一歩 Q&A : 統計のイロハから論文の読み方、研究のつくり方まで／能登洋 著,:羊土社, 2008

参考書

EBM の正しい理解と実践 Q&A : 一問一答で疑問解消,ケーススタディで即実践!

日常診療にすぐに使える臨床統計学 : ベストな診断と治療ができる

2 週間でマスターするエビデンスの読み方使い方のキホン

APPLICATION : すぐにできる EBM 実践法

数学/統計学／井川俊彦, 清田正夫, 徳永伸一, 山舘周恒, 熊坂一成

EBM の正しい理解と実践 Q&A : 一問一答で疑問解消,ケーススタディで即実践!／能登洋 著,:羊土社, 2003

日常診療にすぐに使える臨床統計学 : ベストな診断と治療ができる!／能登洋 著,:羊土社, 2011

2 週間でマスターするエビデンスの読み方使い方のキホン = 2 WEEKS TO MASTER THE BASICS OF EVIDENCE APPRAISAL AND APPLICATION : すぐにできる EBM 実践法／能登洋 著,:南江堂, 2013

数学/統計学／井川俊彦, 清田正夫, 徳永伸一, 山舘周恒, 熊坂一成 著,:医歯薬出版, 2005

やさしい医療系の統計学／佐藤敏雄, 村松宰 著,:医歯薬出版, 2002

入門統計解析／松原望 著,:東京図書, 2007

他科目との関連

グローバルコミュニケーション・生命倫理と相互関連した講義内容である。

履修上の注意事項

予習課題や試験について事前連絡することがあるため, WebClass を受講前に確認すること ・「応用演習」の回では到達度を測る目的で試験を実施する. ・進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要 ・各講義の遅刻・早退は原則的に認めない. また, 出席手続きなどの不正に対しては厳正に対処する.

備考

担当教員:能登 洋, 徳永 伸一

成績評価法:教員ごとに試験を行い, 最終的に両者の成績を総合的に評価する

連絡先

能登 洋:noto-tky@umin.net

水口　俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

水口　俊介:随時

時間割番号	011011		
科目名	医歯学基盤教育(グローバル・コミュニケーションⅠ)		
担当教員	髙田 和生, 森尾 郁子, Janelle Renee Moross		
開講時期	通年	対象年次	2

主な講義場所

Class A: 医学科講義室 1:3 号館 2 階

Class B: 共用セミナー室 5:M&D タワー15 階

Class C: 共用セミナー室 6:M&D タワー15 階

Class D: 共用セミナー室 1:M&D タワー24 階

Class E: 共用セミナー室 2:M&D タワー23 階

Class F: 共用セミナー室 4:M&D タワー22 階

Class G: 共用セミナー室 3:M&D タワー23 階

Class H: 大学院講義室 1:M&D タワー21 階 注目:(10/8 演習室 5-1, 5-2: 3 号館 5 階)

授業の目的、概要等

本学は、基本理念の一つに「国際性と指導力を備えた人材の育成」を掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するための情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の基本理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、それ以上に、世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、論理的な思考のもとに意見を持ち、国際舞台で議論を行うのに必要な「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」、いわゆる「クリティカルシンキング」ができなくてはならない。そこで、本科目においては、到達目標を以下のように設定する。そして、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21 世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

授業の到達目標(SBOs)

1)英語により医学情報(論文やデータベース)を読む能力、口頭または文書で情報発信を行い、議論する能力を持つ

2) 適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考(クリティカルシンキング)ができる

3)世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/16	11:10-12:00		Introduction/Critical Thinking/Group Dynamics	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
2	4/30	11:10-12:00		Health Supplements	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
3	5/21	11:10-12:00		Hand Washing/Gloves	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
4	7/16	11:10-12:00		Presentation Basics	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
5	10/1	10:05-10:55		Cadaver Presentation Group 5	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Rene

					e Moross
6	10/1	11:10-12:00		Cadaver	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
7	10/8	10:05-10:55		Medical Tourism Presentation Group 2	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
8	10/8	11:10-12:00		Medical Tourism	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
9	11/26	10:05-10:55		In Vitro Fertilization (IVF) Presentation Group 1	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
10	11/26	11:10-12:00		In Vitro Fertilization (IVF)	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
11	12/3	10:05-10:55		Nosocomial Infections Presentation Group 6	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
12	12/3	11:10-12:00		Nosocomial Infections Presentation Group 6	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
13	1/28	10:05-10:55		Obesity Presentation Group 3	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
14	1/28	11:10-12:00		Obesity	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
15	2/4	10:05-10:55		Dental Health Presentation Group 4	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross
16	2/4	11:10-12:00		Dental Health	森尾 郁子, 髙田 和生, J anelle Rene e Moross

授業方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業において Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2 から 4 人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native level speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。議論のプロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。クリティカルシンキングのための導入および振返り機会を適宜用意する。

授業内容

詳細は別表のとおり

成績評価の方法

最終成績は以下にもとづき判定される。

・ Vocabulary quiz performance

・ Class participation (discussion/presentation/homework)

・ Optional essays

成績評価の基準

最終成績は下記比重による。

・ Vocabulary quiz performance（30%）

・ Class participation (discussion/presentation/ homework) （70%）

・ Optional essays（bonus 10%）

準備学習などについての具体的な指示

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示（文書・口頭）に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

試験の受験資格

本科目においては最終試験は行わないが、進級のためには「欠席」が全セッションの 3 分の 1 未満（2015 年度は 5 回以下）であることを必要条件とする（十分条件ではない）。なお、本科目における出欠確認方法および出欠ルールを以下の通りとする。病気等による欠席は、診断書が提出されたとしても欠席として扱われる。

【出欠確認方法】

本科目ではカードリーダーによる出欠管理は行わず、授業を通して担当講師が出欠を確認する。出欠状況は毎セッション終了後にデータ整理後 WebClass に掲示する。出欠状況について授業責任者側から個別に連絡・注意することはしないため、各自で確認し適切に行動すること。確固たる証拠にもとづく事実相違がある場合は、授業責任者に相談すること。

【出欠ルール】

・ 授業開始時より授業終了時まで在室した場合を「出席」とする

・ 授業開始時に在室していなかったが授業開始後 10 分以内に来室し、授業終了時まで在室した場合を「遅刻」とし、「遅刻」3 回を「欠席」1 回とカウントする

・授業開始後 10 分経過時以降の来室（または授業終了時まで来室なし）、または、来室時間に限らず授業終了の前に退室した場合は、「欠席」とする

教科書

最新医学用語演習 : 医学英語演習／岡田聚, 名木田恵理子 著,:南雲堂, 1993

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示（文書・口頭）に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

参考書

最強のクリティカルシンキング・マップ : あなたに合った考え方を見つけよう : critical thinking map／道田泰司 著,:日本経済新聞出版社, 2012

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする40の原則入門編／E. B. ゼックミスタ 著,宮元 博章 訳,:北大路書房

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする 40 の原則／Zechmeister, Eugene B.,Johnson, James E.,宮元, 博章,道田, 泰司,谷口, 高士,菊池, 聡,:北大路書房, 1996

履修上の注意事項

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。
連絡先 髙田　和生:takada.rheu@tmd.ac.jp 森尾　郁子:imorio.edev@tmd.ac.jp Janelle　Renee　Moross:Janelle Renee Moross jmoross.isc@tmd.ac.jp
オフィスアワー 髙田　和生:オフィスアワーは特に定めないが，事前連絡してから訪問すること。 森尾　郁子:毎週木曜日　PM 4:30– PM 7:00　M&D タワー7 階　教授室 Janelle　Renee　Moross:Janelle Renee Moross:　毎週水曜日 PM 4:30–6:00 M&D　タワー8 階　教授室

時間割番号	011012				
科目名	組織学				
担当教員	中田　隆夫, 井上　明宏				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	2.5

英文名：Histology

授業の目的、概要等

授業の到達目標(SBOs)

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。実習では、全身の組織の標本を観察しスケッチする。先輩から後輩へと連綿と受け継がれてきた組織標本を大切に扱うことで他者への感謝とつながりを学ぶ。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

講義、実習、試験を通じての目標は、科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ（見たとおりに述べるだけだが、案外難しい）こと、そして、医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員（あるいは医療チームのだれか）に尋ねられたとき、それについて2－3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

授業方法

講義とそれに続く実習からなる。講義では、実習する組織について概説し、実習のポイントを解説する。実習では、顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

成績評価の方法

講義については筆記試験で評価する。

実習は実習試験とスケッチの提出により評価する。

準備学習などについての具体的な指示

講義については、その日のテーマについて組織学の教科書に目を通しておく。

実習については、教科書およびアトラスに目を通し、観察すべき構造を把握しておく。

教科書

最新カラー組織学／L.P.ガートナー, J.L.ハイアット 著,石村和敬, 井上貴央 監訳：西村書店, 2003

機能を中心とした図説組織学／B.Young, J.S.Lowe, A.Stevens, J.W.Heath [著],澤田元, 依藤宏, 大野伸一, 佐々木克典 訳：医学書院, 2009

標準組織学総論／藤田尚男, 藤田恒夫 共著,：医学書院, 2002

標準組織学各論／藤田, 尚男,藤田, 恒夫,岩永, 敏彦,石村, 和敬：医学書院, 2010

Ross 組織学／Michael H.Ross, Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳：南江堂, 2010

参考書

細胞生物学的事項については、Molecular Biology of the Cell 第 6 版（B. Alberts ら著、Garland Science 2015 年）、（同翻訳）細胞の分子生物学 第 5 版（中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010 年）などを参考にする。

参照ホームページ

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

連絡先

中田　隆夫:nakata.cbio@tmd.ac.jp

井上　明宏:inoue.cbio@tmd.ac.jp

オフィスアワー

井上　明宏:M&D タワー 18 階 S1853

時間割番号	011013		
科目名	組織学		
担当教員	中田 隆夫, 井上 明宏		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Histology

授業の目的、概要等

授業の到達目標(SBOs)

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。実習では、全身の組織の標本を観察しスケッチする。先輩から後輩へと連綿と受け継がれてきた組織標本を大切に扱うことで他者への感謝とつながりを学ぶ。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

講義、実習、試験を通じての目標は、科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ（見たとおりに述べるだけだが、案外難しい）こと、そして、医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員（あるいは医療チームのだれか）に尋ねられたとき、それについて2－3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/17	12:50-14:10	症例検討室	組織学序論	中田 隆夫
2	4/20	12:50-14:10	医学科講義室1	上皮組織	中田 隆夫
3	4/21	12:50-14:10	医学科講義室1	結合組織	井上 明宏
4	4/24	12:50-14:10	医学科講義室1	筋組織	井上 明宏
5	4/28	12:50-14:10	医学科講義室1	神経組織	中田 隆夫
6	5/11	12:50-14:10	医学科講義室1	血管、軟骨	井上 明宏
7	5/14	12:50-14:10	医学科講義室1	骨	井上 明宏
8	5/18	12:50-14:10	医学科講義室1	血液	井上 明宏
9	5/21	12:50-14:10	医学科講義室1	リンパ性器官	井上 明宏
10	5/25	12:50-14:10	医学科講義室1	呼吸器	中田 隆夫
11	5/28	12:50-14:10	医学科講義室1	消化器Ⅰ	井上 明宏
12	6/1	12:50-14:10	医学科講義室1	消化器Ⅱ	井上 明宏
13	6/4	12:50-14:10	医学科講義室1	肝胆膵	井上 明宏
14	6/8	12:50-14:10	医学科講義室1	内分泌器官	中田 隆夫

15	6/11	12:50–14:10	医学科講義室1	泌尿器	井上 明宏
16	6/15	12:50–14:10	医学科講義室1	男性生殖器	井上 明宏
17	6/18	12:50–14:10	医学科講義室1	女性生殖器	井上 明宏
18	6/19	10:30–11:50	医学科講義室1	皮膚	中田 隆夫
19	9/4	10:30–11:50	医学科講義室1	組織学試験	井上 明宏

授業方法

講義とそれに続く実習からなる。講義では、実習する組織について概説し、実習のポイントを解説する。実習では、顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

成績評価の方法

講義については筆記試験で評価する。

実習は実習試験とスケッチの提出により評価する。

準備学習などについての具体的な指示

講義については、その日のテーマについて組織学の教科書に目を通しておく。

実習については、教科書およびアトラスに目を通し、観察すべき構造を把握しておく。

教科書

最新カラー組織学／L.P.ガートナー, J.L.ハイアット 著,石村和敬, 井上貴央 監訳.:西村書店, 2003

機能を中心とした図説組織学／B.Young, J.S.Lowe, A.Stevens, J.W.Heath [著],澤田元, 依藤宏, 大野伸一, 佐々木克典 訳.:医学書院, 2009

標準組織学総論／藤田尚男, 藤田恒夫 共著,:医学書院, 2002

標準組織学各論／藤田, 尚男,藤田, 恒夫,岩永, 敏彦,石村, 和敬.:医学書院, 2010

Ross 組織学／Michael H.Ross, Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳.:南江堂, 2010

参考書

細胞生物学的事項については、Molecular Biology of the Cell 第 6 版(B. Alberts ら著、Garland Science 2015 年)、(同翻訳)細胞の分子生物学 第 5 版(中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010 年)などを参考にする。

参照ホームページ

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

連絡先

中田 隆夫:nakata.cbio@tmd.ac.jp

井上 明宏:inoue.cbio@tmd.ac.jp

オフィスアワー

井上 明宏:M&D タワー 18 階 S1853

時間割番号	011014		
科目名	組織学実習		
担当教員	中田 隆夫, 井上 明宏		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Histology

授業の目的、概要等

授業の到達目標(SBOs)

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。実習では、全身の組織の標本を観察しスケッチする。先輩から後輩へと連綿と受け継がれてきた組織標本を大切に扱うことで他者への感謝とつながりを学ぶ。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

講義、実習、試験を通じての目標は、科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ（見たとおりに述べるだけだが、案外難しい）こと、そして、医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員（あるいは医療チームのだれか）に尋ねられたとき、それについて2－3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/17	14:20-15:40	4階学生実習室	組織学実習説明	井上 明宏
2-3	4/20	14:20-17:10	4階学生実習室	上皮組織	中田 隆夫
4-5	4/21	14:20-17:10	4階学生実習室	結合組織	井上 明宏
6-7	4/24	14:20-17:10	4階学生実習室	筋組織	井上 明宏
8-9	4/28	14:20-17:10	4階学生実習室	神経組織	中田 隆夫
10-11	5/11	14:20-17:10	4階学生実習室	血管、軟骨	井上 明宏
12-13	5/14	14:20-17:10	4階学生実習室	骨	井上 明宏
14-15	5/18	14:20-17:10	4階学生実習室	血液	井上 明宏
16-17	5/21	14:20-17:10	4階学生実習室	リンパ性器官	井上 明宏
18-19	5/25	14:20-17:10	4階学生実習室	呼吸器	中田 隆夫
20-21	5/28	14:20-17:10	4階学生実習室	消化器Ⅰ	井上 明宏
22-23	6/1	14:20-17:10	4階学生実習室	消化器Ⅱ	井上 明宏
24-25	6/4	14:20-17:10	4階学生実習室	肝胆膵	井上 明宏
26-27	6/8	14:20-17:10	4階学生実習室	内分泌器官	中田 隆夫

28–29	6/11	14:20–17:10	4 階学生実習室	泌尿器	井上 明宏
30–31	6/15	14:20–17:10	4 階学生実習室	男性生殖器	井上 明宏
32–33	6/18	14:20–17:10	4 階学生実習室	女性生殖器	井上 明宏
34–35	7/13	09:00–11:50	4 階学生実習室	皮膚	中田 隆夫
36–37	7/14	09:00–11:50	4 階学生実習室	組織学実習補習	井上 明宏

授業方法

講義で解説された実習する組織についてのポイントを踏まえて、実習では顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

成績評価の方法

実習試験とスケッチの提出により評価する。

準備学習などについての具体的な指示

教科書およびアトラスに目を通し、観察すべき構造を把握しておく。

教科書

最新カラー組織学／L.P.ガートナー, J.L.ハイアット 著,石村和敬, 井上貴央 監訳.: 西村書店, 2003

機能を中心とした図説組織学／B.Young, J.S.Lowe, A.Stevens, J.W.Heath [著],澤田元, 依藤宏, 大野伸一, 佐々木克典 訳.: 医学書院, 2009

標準組織学総論／藤田尚男, 藤田恒夫 共著,: 医学書院, 2002

標準組織学各論／藤田, 尚男,藤田, 恒夫,岩永, 敏彦,石村, 和敬,: 医学書院, 2010

Ross 組織学／Michael H.Ross, Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳.: 南江堂, 2010

参考書

細胞生物学的事項については、Molecular Biology of the Cell 第 6 版(B. Alberts ら著、Garland Science 2015 年)、(同翻訳)細胞の分子生物学 第 5 版(中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010 年)などを参考にする。

履修上の注意事項

色鉛筆(主として赤・ピンク系色、紫色、青色、茶色などが使用される)、携帯用鉛筆削りおよび A4 サイズの白紙のノート(綴じてあるもの)を予め用意する。実習方法の詳細については、最初の時間にガイダンスを行う。

参照ホームページ

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

連絡先

中田 隆夫:nakata.cbio@tmd.ac.jp

井上 明宏:inoue.cbio@tmd.ac.jp

オフィスアワー

井上 明宏:M&D タワー 18 階 S1853

時間割番号	011015				
科目名	人体解剖学				
担当教員	秋田　恵一				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	4.5

英文名：Anatomy・Dissection Practice of Human Body

人体解剖学は、人体解剖学講義と人体解剖学実習の 2 つの科目のそれぞれに合格して初めて合格となる。
それぞれの科目の詳細については、人体解剖学講義ならびに人体解剖学実習のシラバスを参照してほしい。

授業の目的、概要等

準備学習などについての具体的な指示

連絡先

akita.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

メール等でアポイントメントを取ること。

時間割番号	011016		
科目名	人体解剖学		
担当教員	秋田　恵一		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Human Anatomy

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室 1

授業の目的、概要等

人体解剖学では、人体構造の名称を言えるというだけではなく、その周囲の構造との位置関係を理解することを目的とする。そのためには、その器官の成り立ちや、組織構造なども考慮する必要がある。また、その構造がなぜ重要であるのかというのは、臨床的な意義を理解することによって初めて十分に理解できる。講義や実習では、そのような観点に注目しながら進める。

授業の到達目標(SBOs)

基本的な名称を言えること、その構造を説明できることは当然である。加えて、その領域の血管や神経配置を説明し、それらの配置を作り出す発生過程を理解することを目標とする。

解剖学は、ある程度の名称や、構造を知らなくてはその面白さは理解できない。その一方で、名称等の暗記に走るようでは無味乾燥でつまらないものになってしまう。実習書や講義資料では、理解を助けるために、構造の意義について積極的にふれるようにしている。何が重要なのかを考えながら学習するように努めていただきたい。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/22	12:50-14:10	医学科講義室 1	体幹の骨	秋田　恵一
2	4/23	12:50-14:10	医学科講義室 1	上肢の骨	秋田　恵一
3	4/27	12:50-14:10	医学科講義室 1	下肢の骨	秋田　恵一
4	4/30	12:50-14:10	医学科講義室 1	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	秋田　恵一
5	5/1	12:50-14:10	医学科講義室 1	頚部(皮下)・下腹部(皮下)	秋田　恵一
6	5/7	12:50-14:10	共用講義室 1	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	秋田　恵一
7	5/8	12:50-14:10	共用講義室 1	体表観察(腹臥位)・頭部(皮下)・頚部(皮下)・背部(皮下)・腰部(皮下)	秋田　恵一
8	5/12	12:50-14:10	医学科講義室 1	後頭の筋・浅背筋・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	秋田　恵一
9	5/13	12:50-14:10	医学科講義室 1	上肢帯近位部・殿部(浅層)	秋田　恵一
10	5/15	10:30-11:50	医学科講義室 1	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	秋田　恵一
11	5/19	10:30-11:50	医学科講義室 1	頚部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	秋田　恵一
12	5/20	10:30-11:50	医学科講義室 1	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	秋田　恵一
13	5/22	10:30-11:50	医学科講義室 1	胸郭・上縦隔・甲状腺	秋田　恵一
14	5/26	10:30-11:50	医学科講義室 1	心臓の神経・後縦隔	秋田　恵一
15	5/27	10:30-11:50	医学科講	心臓・肺	秋田　恵一

			義室1		
16	5/29	10:30-11:50	医学科講義室1	腹膜・腸間膜の脈管・神経・上腹部浅部(脈管・神経)	秋田 恵一
17	6/2	10:30-11:50	医学科講義室1	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	秋田 恵一
18	6/3	10:30-11:50	医学科講義室1	消化管・肝臓	秋田 恵一
19	6/5	10:30-11:50	医学科講義室1	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	秋田 恵一
20	6/9	10:30-11:50	医学科講義室1	脊柱管・脊髄・内頭蓋底・頭部離断・腰部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	秋田 恵一
21	6/10	10:30-11:50	医学科講義室1	肩甲帯・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	山口 久美子
22	6/12	10:30-11:50	医学科講義室1	上肢(皮下)・会陰部(皮下)・寛骨の除去・股関節・会陰部(浅層)	山口 久美子
23	6/16	10:30-11:50	医学科講義室1	上腕屈側・上腕伸側・仙骨神経叢・骨盤出口筋・内腸骨動脈・骨盤神経叢	秋田 恵一
24	6/17	10:30-11:50	医学科講義室1	下腿屈側(皮下)・下腿伸側(皮下)・足背(皮下)・骨盤内臓	秋田 恵一
25	6/19	12:50-14:10	医学科講義室1	頭蓋の骨	秋田 恵一
26	6/23	09:00-10:20	医学科講義室1	手掌(皮下・浅層)・前腕屈側(浅層・深層)・手掌(深層)・下腿伸側(浅層)・足背(浅層)	二村 昭元
27	6/30	09:00-10:20	医学科講義室1	前腕伸側(皮下・浅層)・下腿屈側(浅層)・足底(浅層)・膝関節・肘関節	二村 昭元
28	6/30	10:30-11:50	医学科講義室1	手背・下腿屈側(深層)・足底(深層)・手関節・足関節	二村 昭元
29	9/3	10:30-11:50	医学科講義室1	人体解剖学試験	秋田 恵一

授業方法

授業は講義形式で行う。カラーの講義資料を講義前に PDF の形で配布する。講義はすべてビデオ収録するので、どこにいても大学のサーバーにアクセスすることにより視聴することができる。

人体解剖実習と人体解剖学の講義はリンクするようにしている。実習の予習を行うことで、講義も理解しやすくなるはずである。また、参考資料や症例集なども積極的に活用していただきたい。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

9 月 3 日に予定される筆記試験による。

形式は基本的に記述式とする。問題文の中に重要と考えられる英単語が含まれることがあるので、重要な英単語については学習をしておくことが必要である。

成績評価の基準

基礎医学や臨床医学を学ぶうえで必要かつ重要となることについて理解しているかということが基準となる。重要であるところがどこかについて見出すことができているかということも十分に評価の項目となりうる。人体解剖実習の班内で、十分にディスカッションをし、実習や講義において何が重要であるかを確認しながら学習を進めることが求められる。

試験は、60 点を合格点とする。

準備学習などについての具体的な指示

人体構造総論を十分に学習しておくことが求められる。人体解剖学の講義では、人体構造総論で登場したものについては、既知として扱うものも多い。

MIC の症候学の授業の資料、学生が作成したパワーポイントファイルなども確認していることを前提として授業を進める。これらの資料の中に、解剖学の中で何が重要であるか、何を理解することで症候や病態を理解することができるかのヒントが十分にある。

試験の受験資格

9 月 3 日予定の人体解剖学試験の受験のためには、4 月 22 日から 6 月 30 日までに行われる予定の 28 回の講義のうち少なくとも 19 回の出席が必要である。

構成ユニット

なし

モジュールの単位判定

なし

教科書

グレイ解剖学／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell 原著,塩田浩平, 瀬口春道, 大谷浩, 杉本哲夫 訳：エルゼビア・ジャパン, 2011

参考書

ムーア臨床解剖学／キース・L.ムーア, アン・M.R.アガー 著,坂井建雄 訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004

臨床のための解剖学／キース・L.ムーア, アーサー・F.デイリー 著,佐藤達夫, 坂井建雄 監訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2008

TNM 悪性腫瘍分類カラーアトラス／Philip Rubin, John T.Hansen [著],杉原健一, 秋田恵一 監訳：丸善出版, 2014

他科目との関連

人体解剖学と人体発生学は密接な関係がある。また、組織学や生理学も密接な関係にある。とくに生理学は構造を理解していなければまったく理解できない。　機能や臨床的な事項との関連は、意識しないとなかなか気付かない。様々なところで関連を考えていただきたい。

履修上の注意事項

細かなことが重要なわけではない。解剖学も、発生と同様にストーリーで理解することが必要である。何が重要なのかということについては、他の科目との関連が重要となる。それらについては講義で折に触れて述べているはずなので、とくにそのあたりを意識して理解していただきたい。

備考

講義中にスクリーンの撮影をするのを禁止する。ストリーミングで視聴することができるようにするので参照していただきたい。

講義資料、ストリーミングなどは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

連絡先

akita.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

メール等でアポイントメントを取ること。

時間割番号	011017		
科目名	人体解剖学実習		
担当教員	秋田　恵一		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Human Anatomy

主な講義場所

3 号館地下1階　解剖実習室

ただし、骨学実習は3号館4階　組織実習室（変更があるかもしれないので確認のこと）

授業の目的、概要等

人体解剖学実習は、ただ解剖して名称を理解するというだけでは十分とはいえない。2次元の本ではなく3次元の解剖体を使う意味は、構造同士の前後左右の関係が重要だということである。一つ一つの構造を自分の手で追求することによって、自分の目で構造の立体的配置を確かめていただきたい。

人体解剖学実習は、人体解剖学の講義に引き続いて行われる。講義の中で触れる器官の成り立ちや、組織構造などを考慮しながら、実習手順に沿って実習を行うことにより、臨床的な意義を理解することをめざす。

授業の到達目標(SBOs)

解剖学は、ある程度の名称や、構造を知らなくてはその面白さは理解できないし、構造のもつ意味も理解できない。また、解剖にかかわらず、すべての教科書や論文を読むときには、基本的な解剖学名を知らずには内容の理解は覚束ない。そのため、人体解剖学実習の中で、基本的な解剖学名とその英語名を覚えることが求められる。名称を覚えることが目的でないというのに矛盾するようではあるが、まずは名称を知らなければその意味を理解することなど不可能だからである。名称を十分に予習をして理解していただくことで、その構造の意味を実習を通して考察していただくことによって理解が進むと考える。

人体解剖実習は、人体に初めて触れる実習である。解剖実習体には十分に敬意を払って接することが必要である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	備考
1-2	4/22	14:20-17:10	医学科講義室 1	体幹の骨	秋田　恵一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 原田　理代, 那須　久代	
3-4	4/23	14:20-17:10	解剖学実習室	上肢の骨	秋田　恵一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 原田　理代, 那須　久代	
5-6	4/27	14:20-17:10	解剖学実習室	下肢の骨	秋田　恵一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 原田　理代, 那須　久代	
7-8	4/30	14:20-17:10	解剖学実習室	体表観察（仰臥位）・胸腹部（皮下）	秋田　恵一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 原田　理代,	

					那須 久代		
9-10	5/1	14:20-17:10	解剖学実習室	頚部(皮下)・下腹部(皮下)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
11-12	5/7	14:20-17:10	解剖学実習室	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
13-14	5/8	14:20-17:10	解剖学実習室	体表観察(腹臥位)・頭部(皮下)・頚部(皮下)・背部(皮下)・腰部(皮下)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
15-16	5/12	14:20-17:10	解剖学実習室	後頭の筋・浅背筋・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
17-18	5/13	14:20-17:10	解剖学実習室	上肢帯近位部・殿部(浅層)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
19-20	5/15	12:50-15:40	解剖学実習室	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
21-22	5/19	12:50-15:40	解剖学実習室	頚部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		
23-24	5/20	12:50-15:40	解剖学実習室	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代		

25-26	5/22	12:50-15:40	解剖学実習室	胸郭・上縦隔・甲状腺	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
27-28	5/26	12:50-15:40	解剖学実習室	心臓の神経・後縦隔	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
29-30	5/27	12:50-15:40	解剖学実習室	心臓・肺	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
31-32	5/29	12:50-15:40	解剖学実習室	腹膜・腸間膜の脈管・神経・上腹部浅部(脈管・神経)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
33-34	6/2	12:50-15:40	解剖学実習室	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	保健衛生学科看護学専攻第2学年見学実習
35-36	6/3	12:50-15:40	解剖学実習室	消化管・肝臓	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
37-38	6/5	12:50-15:40	解剖学実習室	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
39-40	6/9	12:50-15:40	解剖学実習室	脊柱管・脊髄・内頭蓋底・頭部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
41-42	6/10	12:50-15:40	解剖学実習室	肩甲帯・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	秋田 恵一, 二村 昭元,	

					山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
43-44	6/12	12:50-15:40	解剖学実習室	上肢(皮下)・会陰部(皮下)・寛骨の除去・股関節・会陰部(浅層)	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
45-46	6/16	12:50-15:40	解剖学実習室	上腕屈側・上腕伸側・仙骨神経叢・骨盤出口筋・内腸骨動脈・骨盤神経叢	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
47-48	6/17	12:50-15:40	解剖学実習室	下腿屈側(皮下)・下腿伸側(皮下)・足背(皮下)・骨盤内臓	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	
49-50	6/19	14:20-17:10	解剖学実習室	頭蓋の骨	秋田 恵一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 原田 理代, 那須 久代	

授業方法

人体解剖実習は、実習の進度と手順を示す解剖実習手順を配布するので、それにしたがって進めていただきたい。この手順を理解するためには、基本的な名称について予習をしてから臨まなくては理解できない。手順だけを直前に読んで実習だけをこなすというのでは、破壊するだけに等しくなるので慎んでいただきたい。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

実習は 3/4 以上の出席が認められた場合に評価を行う。

・解剖学名称試験

「GRAY'S ANATOMY FOR STUDENT FLASH CARDS」による。

解答は、日本語、英語両方を求める。

各試験の範囲については、webclass に上げるので、確認すること。講義・実習を理解するためには、ある程度の予習が必要である。よって、講義・実習が終わる前の部分が試験となるものがあるので、十分に確認すること。

・実習中の提出物

実習中の課題の提出を行う。班ごとの提出となるので、班員全員で確認のうえで提出されたものとする。

成績評価の基準

成績評価の基準

・解剖学名称試験

日本語と英語では、点数は1:3とする。また、誤字・脱字なく用語を正確に書くことが求められる。各回の合計が 60 点以上を合格とす

る。ただし、1回でも 40 点未満があれば、点数が足りない回について 7 月 27 日(月)に追試験をする。また、欠席等により未受験のものについては、所定の手続きがなされた場合に限り 7 月 27 日(月)に追試験を行う。

合計が 60 点に満たない場合は、全範囲を対象に、別の期日に再試験を行う。

・実習中の課題提出

課題は必ず鉛筆またはシャープペンシルで書くこと。不要な線や汚れが多くて文字・図が判読できない場合には未提出とみなす。

班ごとの提出で、班全員を同じ点数とする。提出物については、班全員で説明できる必要があるので提出前に全員で確認すること。提出された課題の解答内容について質問する際には、ランダムに指名し、実際に描いたかどうかに関わらず答えていただく。指名された学生が説明できなかった場合には、未提出とみなす。

解剖でいうスケッチは、美術のようなそのままの描写ではなく、説明図である。構造の位置関係や交差関係などが正確に描かれる必要がある。実習書に参考例が挙げてあるので、それを参考として描くこと。図などのレベルが著しく低いものは、未提出とみなす。

準備学習などについての具体的な指示

解剖学名称試験に解答できるように、十分に予習すること。また、実習に臨むにあたり、実習手順により予習をおこなうこと。

実習に先立って、その範囲についての講義を行う。実習手順、参考資料、補助教材など様々に用意されたものを利用して十分に予習をして実習に臨むこと。予習が不完全であると、それだけ実習に時間がかかり、遅くなるという悪循環になる。作業が遅くなるのは、多くの場合わけがわからずに手を動かすということによって起こる。構造についてある程度理解をし、手順に十分に従うことにより、理解も深まり、進度も速くなる。

毎回手順に書いてあるものをこなさなくては、次回に持ち越すことになってしまうので、その分だけ遅くなる。

なお、上肢・下肢の一部の実習は頭頸部基礎の実習期間中に並行して行うことになる。

試験の受験資格

4 月 22 日から 6 月 19 日までの 25 回の人体解剖学実習のうち、少なくとも 19 回の出席が必要である。

教科書

グレイ解剖学アトラス／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell, Richard M.Tibbitts, Paul E.Richardson 原著,塩田浩平 訳:エルゼビア・ジャパン, 2008

Gray's Anatomy for Students Flash Cards／Richard Drake PhD FAAA (著), A. Wayne Vogl PhD FAAA (著), Adam W. M. Mitchell MB BS FRCS FRCR (著):Churchill Livingstone; 3 版, 2014

参考書

ネッター解剖学アトラス／Frank H. Netter 著,相磯貞和 訳:エルゼビア・ジャパン, 2011

解剖学カラーアトラス／Johannes W.Rohen, 横地千仭, Elke Lutjen-Drecoll 共著,:医学書院, 2007

他科目との関連

人体解剖学と人体発生学は密接な関係がある。また、組織学や生理学も密接な関係にある。とくに生理学は構造を理解していなければまったく理解できない。 機能や臨床的な事項との関連は、意識しないとなかなか気づかない。様々なところで関連を考えていただきたい。

履修上の注意事項

細かなことが重要なわけではない。解剖学も、発生と同様にストーリーで理解することが必要である。何が重要なのかということについては、他の科目との関連が重要となる。それらについては講義で折に触れて述べているはずなので、とくにそのあたりを意識して理解していただきたい。 解剖実習体については、十分に敬意を払って接すること。手順などに従わず、解剖学的な根拠なしに実習を進めようとするものは、死体損壊となることがあるので、十分に気を付けておこなうこと。

備考

実習手順、参考資料等、教材は全て著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することのないように十分に気を付けること。

＊ 実習担当教員等

秋田恵一、二村昭元、原田雅代、那須久代(臨床解剖学分野)

衣袋健司、今谷潤也、奥田逸子、松永幸裕(非常勤講師)

坂本裕次郎(口腔保健衛生基礎学分野)

山口久美子(先駆的医療人材育成分野)

連絡先

akita.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

メール等でアポイントメントを取ること。

時間割番号	011018				
科目名	頭頸部・基礎				
担当教員	秋田　恵一, 井関　祥子				
開講時期	前期	対象年次	2	単位数	4

英文名：Head and Neck Basic Medical Sciences

主な講義場所

3号館2階　医学科講義室1

実習は3号館地下1階、4階、歯学科講義室1などで行うので、時間割表を確認すること。

授業の目的、概要等

高齢化社会となり、疾病の多様性が認められる日本の医療現場では、口腔内疾患、身体的疾患を総合的に治療する必要がある。そのため、歯学を理解した医師、医学を理解した歯科医師の養成は、社会が求めるものである。医療系総合大学である本学が先進的な医歯学融合教育を実践することで、医科・歯科両学科の学生が将来の基盤となる頭頸部に関する基礎的な知識をともに学び、共有することは肝要である。

2 年次に行われる本ブロックにおいては、頭頸部領域に関する組織学、解剖学、生理学、発生学の講義・実習の多くを医歯共通授業として行う。本ブロックが基礎・専門科目領域における医歯相互の関連を確認する機会となることで、3 年次以降の医歯学融合教育の礎となることを目標とする。

授業の到達目標(SBOs)

頭頸部領域の構造と機能を理解する。具体的な項目については授業内容の項を参照すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	備考
1	6/22	09:00–10:20	医学科講義室1		脳神経概論1	秋田　恵一	
2	6/22	10:30–11:50	医学科講義室1		脳神経概論2	原田　理代	
3	6/22	12:50–14:10	医学科講義室1, 情報検索室		単語テスト(情報検索室)	秋田　恵一	
4–5	6/22	14:20–17:10	医学科講義室1, 情報検索室		mini-PBL(講義室1)	秋田　恵一	
6	6/23	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学(顔面皮下・浅層)	柴田　俊一	
7–8	6/23	14:20–17:10	解剖学実習室, 医学科講義室1		人体解剖学(顔面皮下・浅層)	秋田　恵一, 柴田　俊一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 田巻　玉器, 原田　理代, 鹿野　俊一, 那須　久代	
9	6/24	09:00–10:20	医学科講義室1		感覚器の生理1　体性感覚・嗅覚・味覚	泰羅　雅登	
10	6/24	10:30–11:50	医学科講義室1		運動器の生理	泰羅　雅登	
11	6/24	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学　咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩	柴田　俊一	

12–13	6/24	14:20–17:10	解剖学実習室, 医学科講義室1		人体解剖学 咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩	秋田 恵一, 柴田 俊一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 田巻 玉器, 原田 理代, 鹿野 俊一, 那須 久代	
14	6/25	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学 顔面(深層)・舌	柴田 俊一	
15–16	6/25	14:20–17:10	解剖学実習室, 医学科講義室1		人体解剖学 顔面(深層)・舌	秋田 恵一, 柴田 俊一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 田巻 玉器, 原田 理代, 鹿野 俊一, 那須 久代	
17	6/26	09:00–10:20	医学科講義室1		歯の総論1	柴田 俊一	
18	6/26	10:30–11:50	医学科講義室1		歯の総論2	柴田 俊一	
19–21	6/26	12:50–17:10	医学科講義室1, 解剖学実習室		組織学(口腔)	田畑 純	講義終了は15:40を予定
22	6/29	09:00–10:20	医学科講義室1		分子発生生物学1	井関 祥子	
23	6/29	10:30–11:50	医学科講義室1		分子発生生物学2	井関 祥子	
24	6/29	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学 眼窩・眼球	秋田 恵一	
25–26	6/29	14:20–17:10	解剖学実習室		人体解剖学 眼窩・眼球	秋田 恵一, 柴田 俊一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 田巻 玉器, 原田 理代, 鹿野 俊一, 那須 久代	
27	6/30	12:50–14:10	医学科講義室1		組織学(眼)	井上 明宏	
28–29	6/30	14:20–17:10	解剖学実習室, 医学科講義室1		組織学(眼)	井上 明宏	

30	7/1	09:00–10:20	医学科講義室1		感覚器の生理2　視覚	泰羅　雅登	
31	7/1	10:30–11:50	医学科講義室1		頭頸部の臨床1　眼科学の臨床	大野　京子	
32–34	7/1	12:50–17:10	医学科講義室1, 情報検索室		単語テスト(情報検索室)・mini-PBL(講義室1)	秋田　恵一	
35	7/2	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学　外耳・中耳・内耳	秋田　恵一	
36–37	7/2	14:20–17:10	解剖学実習室, 医学科講義室1		人体解剖学　外耳・中耳・内耳	秋田　恵一, 柴田　俊一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 田巻　玉器, 原田　理代, 鹿野　俊一, 那須　久代	
38	7/3	09:00–10:20	医学科講義室1		感覚器の生理3　平衡覚	杉内　友理子	
39	7/3	10:30–11:50	医学科講義室1		頭頸部の臨床2　耳科学の臨床	角田　篤信	
40–41	7/3	12:50–15:40	医学科講義室1		組織学(耳)	中田　隆夫	
42	7/3	15:50–17:10	4階学生実習室		組織学(耳)	中田　隆夫	
43	7/6	09:00–10:20	医学科講義室1		感覚器の生理4　聴覚	杉原　泉	
44	7/6	10:30–11:50	医学科講義室1		頭頸部の臨床3　咽頭・喉頭の臨床	杉本　太郎	
45–47	7/6	12:50–17:10	医学科講義室1, 情報検索室		単語テスト(情報検索室)・mini-PBL(講義室1)	秋田　恵一	
48	7/7	12:50–14:10	医学科講義室1		人体解剖学　鼻腔・副鼻腔・口蓋	秋田　恵一	
49–50	7/7	14:20–17:10	解剖学実習室		人体解剖学　鼻腔・副鼻腔・口蓋	秋田　恵一, 柴田　俊一, 二村　昭元, 山口　久美子, 坂本　裕次郎, 田巻　玉器, 原田　理代, 鹿野　俊一, 那須　久代	
51	7/8	09:00–10:20	医学科講義室1		分子発生生物学3	井関　祥子	
52	7/8	10:30–11:50	医学科講		頭頸部の臨床4　頭頸部外科の臨	杉本　太郎	

			義室1		床		
53	7/8	12:50-14:10	医学科講義室1		人体解剖学 咽頭(外側)・咽頭・喉頭	秋田 恵一	
54-55	7/8	14:20-17:10	解剖学実習室		人体解剖学 咽頭(外側)・咽頭・喉頭	秋田 恵一, 柴田 俊一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 田巻 玉器, 原田 理代, 鹿野 俊一, 那須 久代	
56-58	7/9	12:50-17:10	医学科講義室1		mini-PBL	秋田 恵一	
59-60	7/10	09:00-11:50	医学科講義室1		試験(TBL 形式)	秋田 恵一, 井関 祥子, 山口 久美子	
61	7/10	12:50-14:10	医学科講義室1		試験(記述形式)	秋田 恵一, 井関 祥子	
62-63	7/10	14:20-17:10	解剖学実習室		解剖(まとめと納棺)	秋田 恵一, 柴田 俊一, 二村 昭元, 山口 久美子, 坂本 裕次郎, 田巻 玉器, 原田 理代, 鹿野 俊一, 那須 久代	

授業方法

講義・実習(解剖学・組織学)

授業内容

以下を目標とした授業内容である。

①骨格・軟骨・関節・靭帯・筋 を理解する。

②脳神経と主要な血管・リンパ管走行 を理解する。

③口腔内構造:顎骨および歯, 舌, 口蓋, 唾液腺 を理解する。

④頭頸部における内分泌腺の位置を理解し、分泌されるホルモンを列挙できる。

⑤視覚, 聴覚, 平衡覚, 体性感覚, (嗅覚, 味覚)の感覚刺激受容の概要を理解する。

⑥(平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。)

⑦眼球と付属器の構造と機能、眼球運動を理解する。

⑧(対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。)

⑨外耳・中耳・内耳の構造 を理解する。

⑩口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造と神経支配を理解する。

⑪咀嚼と嚥下 を理解する。

⑫鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程 を理解する。

⑬神経系・感覚器の形成過程を理解する。

成績評価の方法

実習中の個人課題、グループ課題、および、最終日に行われる個人およびグループに対する筆記試験で評価を行う。期間中に行われる解剖学用語テストは、各学科の人体解剖学の成績の一部となる。

成績評価の基準

課題・TBL の成績の合計が6割を超えている場合を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

・講義の前には授業内容を確認し、該当範囲の教科書を読んで参加すること。

各学科の関連講義（人体発生学、人体解剖学、組織学、生理学導入等）の内容は知っていることを前提として講義を行う。

・実習の前には手順に目を通し、予習してくること。

解剖学用語試験について解答できるように、十分に自習すること。また、実習に臨むにあたり、必要に応じて参考資料、補助教材を用い実習手順により予習をおこなうこと。予習が不完全であるとそれだけ実習に時間がかかり遅くなるという悪循環になる。

試験の受験資格

講義開始時の学生証による出席確認で 2/3 以上出席していること、実習開始時に 3/4 以上出席していること。下記「履修上の注意」に記される理由により実習の遅刻は欠席とみなす。

教科書

口腔組織・発生学／脇田稔, 前田健康, 山下靖雄, 明坂年隆 編,：医歯薬出版, 2006

口腔組織・発生学 : カラーエッセンシャル／ジェイムズ・K.エイヴリー 著,高野吉郎 監訳,佐々木崇寿, 矢嶋俊彦, 入江一元 訳：西村書店, 2002

歯の解剖学／藤田恒太郎 原著,：金原出版, 1996

標準生理学 第 8 版：医学書院, 2014

基礎歯科生理学／森本 俊文 (編集), 二ノ宮 裕三 (編集), 岩田 幸一 (編集), 山田 好秋 (編集)：医歯薬出版, 2014

教科書 6　ISBN　4895926508

書名　ラングマン人体発生学

著者名　T.W.サドラー 著,安田峯生 訳,　出版社　メディカル・サイエンス・インターナショナル　出版年　2010

Ten Cate's Oral Histology 6th Ed., Antonio Nanci, Mosby

Oral Anatomy, Embryology and Histology B.K.B.Berkovitz, G.R.Holland, B.J.Moxham,Mosby

Purves, Neuroscience 4th ed., Sinauer, 2007

Siegel and Sapru, Essential Neuroscience 2nd ed., Lippincott, 2010

組織学・解剖学・生理学・発生学の教科書については、それぞれの学科のシラバスを参照のこと

参考書

カールソン神経科学テキスト : 脳と行動／カールソン [著],泰羅雅登, 中村克樹 監訳：丸善出版, 2013

神経科学 : 脳の探求 : カラー版／M.F.ベアー, B.W.コノーズ, M.A.パラディーソ 著,加藤宏司, 後藤薫, 藤井聡, 山崎良彦 監訳：西村書店, 2007

Principles of Neural Science／Eric Kandel (著), James Schwartz (著), Thomas Jessell (著), Steven Siegelbaum (著), A.J. Hudspeth (著)：McGraw-Hill Professional, 2012

カンデル神経科学：メディカルサイエンスインターナショナル, 2014

Developmental Biology Scott F. Gilbert Sinauer Associates Inc.,U.S.

組織学・解剖学・生理学・発生学の参考書については、それぞれの学科のシラバスを参照のこと

履修上の注意事項

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。実習に際しては、あらかじめ配布された手順を十分に予習して臨むこと。

備考

〇問い合わせ先（講義担当教員、*ブロックコーディネーター）

（教員名）（診療科・分野）（E メールアドレス@tmd.ac.jp の前）

秋田恵一　臨床解剖学分野　akita.fana

井関祥子　分子発生学分野　s.iseki.emb

大野京子　眼科学分野　k.ohno.oph

柴田俊一　顎顔面解剖学分野　sshibata.mfa

杉内友理子　システム神経生理学分野　ysugiuchi.phy1

杉原泉　システム神経生理学分野　isugihara.phy1

泰羅雅登　認知神経生物学分野　masato.cnb

田畑　純　硬組織構造生物学分野　　tabatamj.bss

中田隆夫　細胞生物学分野　　nakata.cbio

山口久美子*　医歯学融合教育支援センター　　yamaguchi.fana

〇人体解剖学実習担当教員等

秋田恵一、二村昭元、原田雅代、那須久代（臨床解剖学分野）

柴田俊一、鹿野俊一、田巻玉器（顎顔面解剖学分野）

坂本裕次郎（口腔保健衛生基礎学分野）

山口久美子（先駆的医療人材育成分野）

〇PC を用いた実習・試験担当教員

木下淳博、須永昌代（教育メディア開発部）

山口久美子（先駆的医療人材育成分野）

〇運営補助：医歯学融合教育支援センター教員

連絡先

秋田　恵一:akita.fana@tmd.ac.jp

井関　祥子:s.iseki.emb@tmd.ac.jp

オフィスアワー

秋田　恵一:メール等でアポイントメントを取ること。

井関　祥子:随時　（必ず事前に連絡すること）

時間割番号	011022		
科目名	薬理学		
担当教員	田邊 勉		
開講時期	通年	対象年次	2

英文名:Pharmacology

主な講義場所

3 号館 2 階医学科講義室 1

授業の目的、概要等

〇学習方法

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

題目及び内容:担当

薬理学総論:田邊
呼吸器薬理:田邊
消化器薬理:田邊
薬物動態:安原
腎臓薬理:藤川
泌尿器薬理:藤川
生殖器薬理:藤川
内分泌薬理:藤川・野田
免疫薬理:田邊
循環器薬理:田邊
血管系薬理:藤川
鎮痛薬:田邊
炎症薬理:田邊
抗菌薬:安原
臨床薬理:安原

イオンチャンネル・レセプター・トランスポーター(*):田邊
神経筋接合部(*):田中
シナプスの分子生物学(*):田中
Ca と細胞内情報伝達(*):田邊
末梢神経薬理(*):三枝
中枢神経薬理(*):三枝
神経精神薬理(*):田中

(*)は神経科学系統講義

授業の到達目標(SBOs)

【別表】のとおり

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	7/15	09:00–10:20	医学科講	薬理学総論	田邊 勉

			義室1		
2	7/15	10:30-11:50	医学科講義室1	呼吸器・消化器作用薬	田邊 勉
3	7/17	09:00-10:20	医学科講義室1	薬物動態学 (1)	安原 眞人
4	7/17	10:30-11:50	医学科講義室1	薬物動態学 (2)	安原 眞人
5	7/21	09:00-10:20	医学科講義室1	利尿薬、泌尿器・生殖器作用薬	藤川 誠
6	7/21	10:30-11:50	医学科講義室1	内分泌系(1):骨粗鬆症治療薬	野田 政樹
7	7/22	09:00-10:20	医学科講義室1	内分泌系(2):糖尿病治療薬	藤川 誠
8	7/22	10:30-11:50	医学科講義室1	免疫抑制薬、糖質コルチコイド	田邊 勉
9	7/24	09:00-10:20	医学科講義室1	非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊 勉
10	7/24	10:30-11:50	医学科講義室1	鎮痛薬(麻薬性、非麻薬性)	田邊 勉
11	9/8	09:00-10:20	医学科講義室1	循環器系 (1):心不全治療薬、抗不整脈薬	田邊 勉
12	9/8	10:30-11:50	医学科講義室1	循環器系(2):虚血性心疾患治療薬、高血圧治療薬	田邊 勉
13	9/9	09:00-10:20	医学科講義室1	血管系薬理:抗血栓薬、高脂血症治療薬循環器系	藤川 誠
14	9/9	10:30-11:50	医学科講義室1	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬) (1)	安原 眞人
15	9/10	09:00-10:20	医学科講義室1	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬) (2)	安原 眞人
16	9/10	10:30-11:50	医学科講義室1	臨床薬理	安原 眞人
17	10/16	10:30-11:50	医学科講義室1	薬理学試験	田邊 勉 藤川 誠

授業方法

パワーポイントを用いた講義形式

授業内容

授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系の薬理に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

成績評価の基準

長年蓄積された過去の成績データおよび当該年度の試験成績を加味し、総合的な評価を行う。

準備学習などについての具体的な指示

授業前には、これまでに講義が終了している、細胞生物学、解剖学、組織学、生理学の関連分野に関し、復習するとともに、薬理学教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。

教科書

病態生理に基づく臨床薬理学 : ハーバード大学テキスト／デービッド E.ゴーラン, アーメン H.タシジアン 編,清野裕 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2006

薬理書 : 薬物治療の基礎と臨床(上巻)／グッドマン／〔原編〕,ギルマン／〔原編〕,高折修二／監訳,橋本敬太郎／監訳,赤池昭紀／監

訳,石井邦雄／監訳:廣川書店, 2013

薬理書 : 薬物治療の基礎と臨床(下巻)／グッドマン／〔原編〕,ギルマン／〔原編〕,高折修二／監訳,橋本敬太郎／監訳,赤池昭紀／監訳,石井邦雄／監訳:廣川書店, 2013

NEW 薬理学／田中千賀子, 加藤隆一 編,:南江堂, 2011

図解薬理学 : 病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略／越前宏俊 著,:医学書院, 2008

・The Pharmacological Basis of Therapeutics 12 版 2011 ISBN 9780071624428

・医系薬理学 2 版 2005 ISBN 9784498003194

・イラストレイテッド薬理学 原書 5 版 2012 ISBN 9784621085639

・イオンチャンネルの分子生物学 1998 ISBN 9784897063201

・カラー図解 これならわかる薬理学 2 版 2012 ISBN 9784895927253

・ローレンス臨床薬理学 2006 ISBN 9784890133413

・標準薬理学 6 版 2001 ISBN 9784260105354

・Color Atlas of Pharmacology 3 版 2005 ISBN 158890332X

参考書

・Principles of Neural Science 5th 2013 ISBN 9780071390118

・Molecular Biology of the Cell 6th 2014 ISBN 9780815344322

他科目との関連

神経科学、生理学、生化学と密接に連関している。さらに薬理学は臨床における薬物治療の基礎をなすものであり、全ての臨床科目と連関している。

連絡先

t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

平日 13:00-18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室(事前にメールで都合を確認のこと)

時間割番号	011023		
科目名	薬理学実習		
担当教員	田邊 勉		
開講時期	前期	対象年次	2

英文名：Pharmacology

主な講義場所

実習講義は 3 号館 2 階医学科講義室 1 で、実習は 3 号館 6 階実習室で行う。

授業の目的、概要等

〇学習方法

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

実習題目

・実習講義
・シミュレーション実習
1. ラット横隔神経-横隔膜標本
2. 前頸骨筋-座骨神経標本
3. 心拍数血圧標本
4. カエル腹直筋標本
5. モルモット回腸標本
6. 輸精管標本
7. 動脈および静脈リング
8. 薬物動態シミュレーション

授業の到達目標(SBOs)

【別表】のとおり

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	9/7	12:50-17:10	医学科講義室 1	実習説明会	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中 大介
4-6	9/8	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(1-1)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中 大介
7-9	9/9	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(1-2)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中 大介
10-12	9/10	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(1-3)、実習1まとめ	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中 大介

13-15	9/11	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(2-1)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介
16-18	9/14	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(2-2)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介
19-21	9/15	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(2-3)、実習2まとめ	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介
22-24	9/16	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(3-1)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介
25-27	9/17	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(3-2)	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介
28-30	9/18	12:50-17:10	6 階学生実習室	実習(3-3)、実習3まとめ	田邊 勉, 三枝 弘尚, 藤川 誠, 田中大介

授業方法

・実習講義はパワーポイントを用いた講義形式で行う。

・実習は二人一組のペアで行う。

[注意]データは毎日各人の USB メモリーに保存し、自身のパソコンで見えることを確認してください。

授業内容

・実習講義では、ただ単に実習の説明をするだけではなく、受容体理論、薬物動態理論などの解説も行うので必ず出席すること。

・実習では、種々の動物標本、個体を用いた実験、ヒトを用いた薬物動態に関する実験を、コンピューターシミュレーションを利用して行う。

成績評価の方法

・出席し、実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

・レポートは実習課題の1つに関して提出してもらうが、各人がどのレポートを担当するかは最終日に実習室に貼り出す。また WebClass 上にも貼り出す。

成績評価の基準

過去のデータおよび当該年度のレポートの内容を加味し、総合的な評価を行う。

準備学習などについての具体的な指示

受講前に必ず教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが必須である。また各実習に関する資料を事前に、WebClass で閲覧できるようにしておきますので、かならず目を通し、実習内容を理解しておくことが重要です。

履修上の注意事項

実習は二人一組のペアで行いますので、一人が欠席するともう一人に迷惑がかかりますので必ず出席するようにしてください。

連絡先
t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp
オフィスアワー
平日 13:00-18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室（事前にメールで都合を確認のこと）

時間割番号	011024				
科目名	生化学				
担当教員	畑 裕				
開講時期	通年	対象年次	2	単位数	2.5

英文名:Medical Biochemistry

主な講義場所

3 号館2階講義室

授業の目的、概要等

人体の恒常性維持に重要な生化学反応を理解し、その破綻がどのような病態につながるかを理解する。

授業の到達目標(SBOs)

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
倫理的事項に配慮して研究できる。
未解決の問題を見出し、仮説を立て、指導者のもとで解決の資源と方法を見出せる。
臨床や科学の興味ある領域の研究を、指導者のもとで行える。
自由研究で明らかになった成果を発表できる。
他者を尊重し敬意をもって接することが出来る。
個人生活と医学科での学習、社会的責務のバランスをとれる。
自立と監督・指導の必要性のバランスをとれる。
時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示せる。
文書課題を判読可能な形で期限内に提出できる。
機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。
誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。
他者への良識を逸脱する振る舞いを認識し、改めることができる。
エラーを指導者、監督に報告できる。
記述、プレゼンテーション、論文において著作権を尊重して行動できる。
自己の知識・能力・振る舞いを批判的に省察し、改善の目標を設定し、学習活動に取り組める。
他人に建設的なフィードバックができる。
ポートフォリオを活用できる。
疾患の病因・病態・臨床徴候の理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

授業方法

パワーポイントを用いて講義を行います。短期間で情報を伝えるため、古典的な講義形式をとります。

授業内容

ヒトの体の代謝を理解するのに必要な生化学の講義を行う。分子生物学、遺伝学は、直接は講義の対象としない。

成績評価の方法

筆記試験で行います。出席は記録しますが、出席点を加算することはしません。

成績評価の基準

筆記試験の成績で評価します。

準備学習などについての具体的な指示

系統講義の進行に合わせて、下記にあげるような標準的な教科書を通読してください。

教科書

シンプル生化学／林典夫, 廣野治子 監修,野口正人, 五十嵐和彦 編集,:南江堂, 2014
イラストレイテッドハーパー・生化学／清水孝雄 監訳,R.K.Murray, D.A. Bender, K.M. Botham, P.J. Kennelly, V.W. Rodwell, P.A. Weil [著],:丸善出版, 2013
多くの優れた生化学の教科書があり、内容は大きくは異なりませんので、特定の本を指定しません。

参考書

シンプル生化学／林典夫, 廣野治子 監修,野口正人, 五十嵐和彦 編集,:南江堂, 2014
イラストレイテッドハーパー・生化学／清水孝雄 監訳,R.K.Murray, D.A. Bender, K.M. Botham, P.J. Kennelly, V.W. Rodwell, P.A. Weil [著],:丸

善出版, 2013
他科目との関連
基礎医学の中では細胞生物学、生理学と、臨床医学の中では内科学との関連性が特に深いです。
履修上の注意事項
内科学の教科書を参考にすると効率的学習が可能です。
参照ホームページ
特に公開していません。
連絡先
yuhammch@tmd.ac.jp
オフィスアワー
講義が行われている域間。原則として、昼休み時間。あらかじめメールで連絡をください。MD タワー18 階北

時間割番号	011025		
科目名	生化学		
担当教員	畑 裕		
開講時期	通年	対象年次	2

前期分として記入した内容は、後期分についても全く一緒ですので、反復しません。前期分を参照してください。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	9/11	09:00-10:20	医学科講義室1	序論	畑 裕
2	9/14	09:00-10:20	医学科講義室1	糖代謝(解糖系)	畑 裕
3	9/15	09:00-10:20	医学科講義室1	糖代謝(TCA 回路、ペントースリン酸回路)	畑 裕
4	9/16	09:00-10:20	医学科講義室1	糖代謝(グリコーゲン代謝、 グルコース以外の糖、プロテオグライカン)	畑 裕
5	9/16	10:30-11:50	医学科講義室1	脂質代謝(脂質の合成、分解)	畑 裕
6	9/18	09:00-10:20	医学科講義室1	脂質代謝(ケトン体、コレステロール)	畑 裕
7	9/24	09:00-10:20	医学科講義室1	脂質代謝(リポ蛋白、プロスタグランデイン、複合脂質)	畑 裕
8	9/25	09:00-10:20	医学科講義室1	酵素学(実習関連)	畑 裕
9	9/25	10:30-11:50	医学科講義室1	動脈硬化と脂肪代謝	吉田 雅幸
10	9/28	09:00-10:20	医学科講義室1	アミノ酸代謝(窒素代謝)	畑 裕
11	9/29	09:00-10:20	医学科講義室1	アミノ酸代謝(炭素骨格の代謝、生理活性物質)	畑 裕
12	9/30	09:00-10:20	医学科講義室1	プリン代謝	畑 裕
13	10/2	09:00-10:20	医学科講義室1	ピリミジン代謝	畑 裕
14	10/5	09:00-10:20	医学科講義室1	電子伝達系	畑 裕
15	10/6	09:00-10:20	医学科講義室1	ポルフィリン代謝、鉄代謝	畑 裕
16	10/7	09:00-10:20	医学科講義室1	ビタミン(水溶性ビタミン)	畑 裕
17	10/9	09:00-10:20	医学科講義室1	ビタミン(脂溶性ビタミン)	畑 裕
18	10/20	10:30-11:50	医学科講義室1	生化学試験	

準備学習などについての具体的な指示

連絡先

yuhammch@tmd.ac.jp

オフィスアワー

講義が行われている域間。原則として、昼休み時間。あらかじめメールで連絡をください。MD タワー18 階北

時間割番号	011026		
科目名	生化学実習		
担当教員	畑 裕		
開講時期	後期	**対象年次**	2

授業の目的、概要等

実習を通じて、酵素反応論と分子生物学の基礎にういて学ぶ。

授業の到達目標(SBOs)

酵素反応論と分子生物学の基礎を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	9/28	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
4-6	9/30	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
7-9	10/1	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
10-12	10/2	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
13-15	10/5	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
16-18	10/6	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
19-21	10/7	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
22-24	10/8	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一
25-27	10/9	12:50-17:10	5 階学生実習室	酵素実習、分子生物学実習	畑 裕, 烏山一

授業方法

実験について説明し、実験をする。

授業内容

実験を行い、グループで討議し、結果をレポートにまとめてもらいます。」

成績評価の方法

出席とレポートで評価します。

成績評価の基準

酵素学と分子生物学と 50 点ずつの配分になります。

準備学習などについての具体的な指示

実験の目的とデザインの意味をよく理解し、自主的に実験に取り組めるようにしてください。

教科書

実習そのものに関しては、教科書と参考書を指定しません。

履修上の注意事項

自主的に取り組んでください。

連絡先

yuhammch@tmd.ac.jp

オフィスアワー

講義が行われている域間。原則として、昼休み時間。あらかじめメールで連絡をください。MD タワー18 階北

時間割番号	011027				
科目名	分子遺伝学				
担当教員	淺原　弘嗣				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	1

英文名：Molecular Genetics

主な講義場所

3 号館 2 階医学科講義室 1

授業の到達目標(SBOs)

・世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
・科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
・医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
・臨床的あるいは科学的問題提起ができる
・他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
・個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
・自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
・時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
・文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
・本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
・常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
・他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
・情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
・記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
・自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
・自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
・他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
・ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
・疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	9/11	10:30–11:50	医学科講義室 1	遺伝学・分子生物学オーヴァービュー　歴史的観点から	淺原　弘嗣
2	9/14	10:30–11:50	医学科講義室 1	核酸・染色体の構造	淺原　弘嗣
3	9/15	10:30–11:50	医学科講義室 1	DNA の複製機構	伊藤　義晃
4	9/18	10:30–11:50	医学科講義室 1	DNA の修復と組み換え	淺原　弘嗣
5	9/24	10:30–11:50	医学科講義室 1	ポストゲノム研究における新しい医学戦略・次世代の医学研究手法（イメージング、シークエンサー）	淺原　弘嗣
6	9/25	12:50–14:10	医学科講義室 1	クロマティンを介した制御機構	淺原　弘嗣
7	9/25	14:20–15:40	医学科講義室 1	RNA の制御機構と疾患	淺原　弘嗣
8	9/28	10:30–11:50	医学科講義室 1	ゲノムからみた発生医学・再生医学	淺原　弘嗣
9	9/29	10:30–11:50	医学科講義室 1	エピジェネティクスと医学	石野　史敏

10	9/30	10:30–11:50	医学科講義室1	モデル動物と医学 マウス遺伝学を中心に	高田 修治
11	10/2	10:30–11:50	医学科講義室1	臨床遺伝学と疾患	淺原 弘嗣
12	10/5	10:30–11:50	医学科講義室1	遺伝子診断・遺伝子治療	淺原 弘嗣
13	10/6	10:30–11:50	医学科講義室1	ゲノム医科学の基礎 遺伝子多型と疾患の遺伝学	山下 聡
14	10/7	10:30–11:50	医学科講義室1	タンパクの翻訳後調節とプロオミクス技術の革新	乾 雅史
15	10/9	10:30–11:50	医学科講義室1	シグナルからみた遺伝子発現	篠原 正浩
16	10/13	10:30–11:50	医学科講義室1	分子遺伝学試験	

授業方法

下記の教科書・参考書を用いて予習・復習をする。

成績評価の方法

試験および講義への出席状況で評価を行う。

準備学習などについての具体的な指示

基本的な遺伝子、分子生物学の知識(高校生の生物レベル)は各自、簡単な本を選び自習しておくことが望ましい

教科書

Molecular Biology of the Cell 5 版 (Garland Science) (2008)

Essential 細胞生物学 原書第 3 版(南江堂) (2011)

ヒトの分子遺伝学 第 3 版(メディカル・サイエンス・インターナショナル) (2007)

参考書

よくわかる分子生物学の基本としくみ／井出利憲 著,:秀和システム, 2007

参照ホームページ

http://www.tmd.ac.jp/grad/syst/asahsyst/index.html

(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野)

連絡先

asahara.syst@tmd.ac.jp

オフィスアワー

基本的には月曜日から金曜日 PM17 時以降ですが、事前に下記アドレスまでご連絡をお願いいたします。

時間割番号	011028				
科目名	神経解剖学				
担当教員	寺田　純雄				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	3

英文名：Neuroanatomy

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室 1

3 号館地下 1 階　解剖学実習室（肉眼解剖）

3 号館 4 階　組織学実習室（組織解剖）

授業の目的、概要等

「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と一体の科目です。関連する知識を整理しつつ、ヒト神経系の肉眼標本、組織標本を直接観察し、神経系の構造を深く理解することを目的としています。講義と実習を繰り返しつつ、少しずつその全体像に迫っていきます。用語や三次元的な位置関係の理解に当初は戸惑うことも多いと思いますが、その理解は今後学ぶ様々な科目を学ぶための前提となります。

授業の到達目標(SBOs)

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力（到達目標）は以下の通り。

・神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。

・実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。

・人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。

・実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

授業方法

「神経解剖学」、「神経解剖学実習」は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。各回の実習に先立って 1 時間から 1 時間 30 分程度の実習講義を行います。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、特別講義を行います。

授業内容

実習講義により説明を加えつつ、肉眼解剖、組織解剖の順で実習を行います。構造の比較的単純な脊髄から観察を開始し、脳幹、小脳、大脳の順で進めます。別途、実習講義の内容を補足したり、実習講義としては説明の難しい話題を取り上げたりするため、特別講義を行います。また形態学関連の研究の最前線を紹介する時間を設けます。

成績評価の方法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。

準備学習などについての具体的な指示

実習前に、事前に配布するマニュアルの該当箇所（実習の手順を記載したもの）と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所（特にマニュアル中、太字で記載されているもの）について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習講義の際には必ずマニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に購入したものを持参し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4 版無地ノート（ルーズリーフ等バラバラになるものは不可）を持参して下さい。各回の実習終了後に教員から検印を受け、提出願います。筆記具は特定しませんが、組織解剖の際は特に青色系統の色鉛筆を持参すると便利です。スケッチは実習後の復習に役立つように各自考えながら描くことをすすめます。

教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。

（リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。）

参考書

分冊解剖学アトラス／W.KAHLE, M.Frotscher [著],平田幸男 訳：文光堂, 2011

神経解剖学 : Core text／カーペンター [著],嶋井和世, 出浦滋之 監訳：廣川書店, 1996

脳解剖学／万年甫, 原一之 共著,：南江堂, 1994

神経解剖学／岩堀修明 著,：金芳堂, 1998

神経解剖学講義ノート : カラー図解／寺島俊雄 著,：金芳堂, 2011

図説中枢神経系／Rudolf Nieuwenhuys [ほか]著,水野昇 [ほか]訳：医学書院, 1991

ヒトの脳:神経解剖学・組織学アトラス／平田幸男 著,：文光堂, 2006

脳の分子生物学／Zach W.Hall [著],吉本智信, 石崎泰樹 監訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996

参考書 9. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995

参考書 10. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy With STUDENT CONSULT Online Access, 6th ed., John Nolte, Mosby, 2008

参考書 11. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2010

参考書 12. Neuroscience: Exploring the Brain, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2012

参考書 13. Neuroscience, 4th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2008

参考書 14. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 5th ed., McGraw Hill, 2013

参考書 15. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1996

参考書 16. Neuroscience Textbook Set: Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 3rd ed., Academic Press, 2008

参考書 17. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994

参考書 18. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991

参考書 19. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

他科目との関連

神経系の関与する基礎、臨床系科目と広く関連します。

履修上の注意事項

科目の上では別れていますが、「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と密接不可分であり、評価は両者を総合して行います。特に実習は、知識や解答そのものよりもむしろこれらに至る過程を学ぶ時間として重視します。献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であることを忘れないように。

備考

神経解剖学の特徴のひとつはその階層性と全体性です。つまり、ある回の講義・実習はそれ以前の講義・実習での説明事項の（一定の）理解を前提として進みますが、一通り全体の勉強を終えないと個々の事項の意義が完全には理解できません。我慢して勉強を続けると、最初から積み上げていった知識が最後の実習時に閉じた環となって完結し、最終的に視界の開ける思いがするはずです。

参照ホームページ

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄えのところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) 東京都医学研・脳神経病理データベース
http://pathologycenter.jp/index.html

(2) 解剖学電子教科書
http://www.anatomy.med.keio.ac.jp/funatoka/anatomy.html

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy
http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases
http://www9.biostr.washington.edu/da.html

(5) Homo sapiens dissecatus
http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html

(6) The Whole Brain Atlas
http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html

(7) The Human Brain
http://www.thehumanbrain.info/

（ドイツ語だが関連サイトの http://teaching.thehumanbrain.info/も参考になる。）

(8) Brainmaps.org
http://brainmaps.org/index.php

(9) Allen Brain Atlas
http://www.brain-map.org/

(10) Mouse connectome project

http://www.mouseconnectome.org/

(*) 神経機能形態学分野ホームページ

http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/nana/index.cgi

連絡先

terada.nana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

特に定めませんが、面会希望の際はメールにより事前に相談願います。

時間割番号	011029		
科目名	神経解剖学		
担当教員	寺田　純雄		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名：Neuroanatomy

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室 1

授業の目的、概要等

「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と一体の科目です。関連する知識を整理しつつ、ヒト神経系の肉眼標本、組織標本を直接観察し、神経系の構造を深く理解することを目的としています。講義と実習を繰り返しつつ、少しずつその全体像に迫っていきます。用語や三次元的な位置関係の理解に当初は戸惑うことも多いと思いますが、その理解は今後学ぶ様々な科目を学ぶための前提となります。

授業の到達目標(SBOs)

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力（到達目標）は以下の通り。

・神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。

・実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。

・人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。

・実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/23	12:50-14:10	医学科講義室 1	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田　純雄
2	10/23	14:20-15:40	医学科講義室 1	脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経の観察	寺田　純雄
3	10/30	12:50-14:10	医学科講義室 1	脊髄の組織学（1）	寺田　純雄
4	10/30	14:20-15:40	医学科講義室 1	脊髄の組織学（2）	寺田　純雄
5	11/6	12:50-14:10	医学科講義室 1	脳幹・小脳の分離, 菱形窩〔第四脳室〕, 脳幹スライス標本の観察	寺田　純雄
6	11/13	12:50-14:10	医学科講義室 1	延髄, 橋の組織学	寺田　純雄
7	11/13	14:20-15:40	医学科講義室 1	中脳の組織学	寺田　純雄
8	11/16	12:50-14:10	医学科講義室 1	特別講義1／脳幹網様体・自律神経系	大竹　一嘉
9	11/16	14:20-15:40	医学科講義室 1	特別講義2／神経系の血流支配	大竹　一嘉
10	11/24	12:50-14:10	医学科講義室 1	小脳の皮質区分と小脳核, 線維結合の観察	寺田　純雄
11	11/27	12:50-14:10	医学科講義室 1	小脳の組織学（1）	寺田　純雄
12	11/27	14:20-15:40	医学科講義室 1	小脳の組織学（2）	寺田　純雄
13	12/7	12:50-14:10	医学科講義室 1	大脳の半切, 大脳皮質（区分）, 第三脳室,　視床下部の観察	寺田　純雄
14	12/7	14:20-15:40	医学科講義室 1	特別講義3／間脳の構造と機能（1）	大竹　一嘉
15	12/10	12:50-14:10	医学科講	島皮質, 皮質における連合・交連・	寺田　純雄

			義室１	投射線維，　視放線，内包，視床，基底核等の観察（1）	
16	12/10	14:20-15:40	医学科講義室１	島皮質，皮質における連合・交連・投射線維，　視放線，内包，視床，基底核等の観察（2）	寺田　純雄
17	12/17	12:50-14:10	医学科講義室１	特別講義4／間脳の構造と機能（2）	大竹　一嘉
18	12/17	14:20-15:40	医学科講義室１	特別講義5／味覚と嗅覚	大竹　一嘉
19	1/8	12:50-14:10	医学科講義室１	特別講義6／脳幹の解剖学のまとめ、前庭覚と聴覚	八木沼　洋行
20	1/8	14:20-15:40	医学科講義室１	大脳皮質の組織学，代表的な神経伝導路のまとめ（1）	寺田　純雄
21	1/15	12:50-14:10	医学科講義室１	大脳皮質の組織学，代表的な神経伝導路のまとめ（2）	寺田　純雄
22	1/15	14:20-15:40	医学科講義室１	特別講義7／特論（1）マウス遺伝学概論	武井　陽介
23	1/18	12:50-14:10	医学科講義室１	側脳室，海馬と脳弓，扁桃体，視床，基底核等の観察	寺田　純雄
24	1/18	14:20-15:40	医学科講義室１	辺縁系と海馬の組織学	寺田　純雄
25	1/20	09:00-10:20	医学科講義室１	視覚伝導路	寺田　純雄
26	1/20	10:30-11:50	医学科講義室１	特別講義8／特論（2）形態学研究概論	寺田　純雄
27	1/22	12:50-14:10	医学科講義室１	特別講義9／特論（3）顕微測光法	寺田　純雄
28	1/22	14:20-15:40	医学科講義室１	大脳基底核	寺田　純雄
29	2/8	10:30-11:50	医学科講義室１	大脳のスライス標本の観察、まとめ	寺田　純雄

授業方法

「神経解剖学」、「神経解剖学実習」は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。各回の実習に先立って 1 時間から 1 時間 30 分程度の実習講義を行います。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、特別講義を行います。

授業内容

実習講義により説明を加えつつ、肉眼解剖、組織解剖の順で実習を行います。構造の比較的単純な脊髄から観察を開始し、脳幹、小脳、大脳の順で進めます。別途、実習講義の内容を補足したり、実習講義としては説明の難しい話題を取り上げたりするため、特別講義を行います。また形態学関連の研究の最前線を紹介する時間を設けます。

成績評価の方法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。

準備学習などについての具体的な指示

実習前に、事前に配布するマニュアルの該当箇所（実習の手順を記載したもの）と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所（特にマニュアル中、太字で記載されているもの）について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習講義の際には必ずマニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に購入したものを持参し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4 版無地ノート（ルーズリーフ等バラバラになるものは不可）を持参して下さい。各回の実習終了後に教員から検印を受け、提出願います。筆記具は特定しませんが、組織解剖の際は特に青色系統の色鉛筆を持参すると便利です。スケッチは実習後の復習に役

立つように各自考えながら描くことをすすめます。

教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。

(リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。)

参考書

分冊解剖学アトラス／W.KAHLE, M.Frotscher [著],平田幸男 訳:文光堂, 2011

神経解剖学 : Core text／カーペンター [著],嶋井和世, 出浦滋之 監訳:廣川書店, 1996

脳解剖学／万年甫, 原一之 共著,:南江堂, 1994

神経解剖学／岩堀修明 著,:金芳堂, 1998

神経解剖学講義ノート : カラー図解／寺島俊雄 著,:金芳堂, 2011

図説中枢神経系／Rudolf Nieuwenhuys [ほか]著,水野昇 [ほか]訳:医学書院, 1991

ヒトの脳:神経解剖学・組織学アトラス／平田幸男 著,:文光堂, 2006

脳の分子生物学／Zach W.Hall [著],吉本智信, 石崎泰樹 監訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996

参考書 9. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995

参考書 10. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy With STUDENT CONSULT Online Access, 6th ed., John Nolte, Mosby, 2008

参考書 11. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2010

参考書 12. Neuroscience: Exploring the Brain, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2012

参考書 13. Neuroscience, 4th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2008

参考書 14. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 5th ed., McGraw Hill, 2013

参考書 15. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1996

参考書 16. Neuroscience Textbook Set: Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 3rd ed., Academic Press, 2008

参考書 17. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994

参考書 18. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991

参考書 19. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

他科目との関連

神経系の関与する基礎、臨床系科目と広く関連します。

履修上の注意事項

科目の上では別れていますが、「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と密接不可分であり、評価は両者を総合して行います。特に実習は、知識や解答そのものよりもむしろこれらに至る過程を学ぶ時間として重視します。献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であることを忘れないように。

備考

神経解剖学の特徴のひとつはその階層性と全体性です。つまり、ある回の講義・実習はそれ以前の講義・実習での説明事項の(一定の)理解を前提として進みますが、一通り全体の勉強を終えないと個々の事項の意義が完全には理解できません。我慢して勉強を続けると、最初から積み上げていった知識が最後の実習時に閉じた環となって完結し、最終的に視界の開ける思いがするはずです。

参照ホームページ

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄えのところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) 東京都医学研・脳神経病理データベース
http://pathologycenter.jp/index.html

(2) 解剖学電子教科書
http://www.anatomy.med.keio.ac.jp/funatoka/anatomy.html

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy
http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases
http://www9.biostr.washington.edu/da.html

(5) Homo sapiens dissecatus

http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html

(6) The Whole Brain Atlas

http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html

(7) The Human Brain

http://www.thehumanbrain.info/

(ドイツ語だが関連サイトの http://teaching.thehumanbrain.info/も参考になる。)

(8) Brainmaps.org

http://brainmaps.org/index.php

(9) Allen Brain Atlas

http://www.brain-map.org/

(10) Mouse connectome project

http://www.mouseconnectome.org/

(*) 神経機能形態学分野ホームページ

http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/nana/index.cgi

連絡先

terada.nana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

特に定めませんが、面会希望の際はメールにより事前に相談願います。

時間割番号	011030		
科目名	神経解剖学実習		
担当教員	寺田　純雄		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名：Neuroanatomy

主な講義場所

3 号館地下 1 階　解剖学実習室（肉眼解剖）

3 号館 4 階　組織学実習室（組織解剖）

授業の目的、概要等

「神経解剖学実習」は「神経解剖学」と一体の科目です。関連する知識を整理しつつ、ヒト神経系の肉眼標本、組織標本を直接観察し、神経系の構造を深く理解することを目的としています。講義と実習を繰り返しつつ、少しずつその全体像に迫っていきます。用語や三次元的な位置関係の理解に当初は戸惑うことも多いと思いますが、その理解は今後学ぶ様々な科目を学ぶための前提となります。

授業の到達目標(SBOs)

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力（到達目標）は以下の通り。

・神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。

・実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。

・人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。

・実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/23	15:50–17:10			寺田　純雄
2	10/30	15:50–17:10	解剖学実習室	マクロ実習1　脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田　純雄
3	11/6	14:20–15:40	4 階学生実習室	ミクロ実習1　脊髄	寺田　純雄
4	11/6	15:50–17:10	解剖学実習室	マクロ実習2　脳幹・小脳の分離, 菱形窩（第四脳室）, 脳幹スライス標本	寺田　純雄
5	11/13	15:50–17:10	4 階学生実習室	ミクロ実習2　脳幹（1）	寺田　純雄
6	11/16	15:50–17:10	4 階学生実習室	ミクロ実習3　脳幹（2）	寺田　純雄
7	11/20	12:50–14:10	4 階学生実習室	補講（ミクロ実習）	寺田　純雄
8–9	11/20	14:20–17:10	解剖学実習室	マクロ実習3　小脳	寺田　純雄
10	11/24	14:20–15:40	4 階学生実習室	ミクロ実習4　小脳	寺田　純雄
11	11/24	15:50–17:10	解剖学実習室	マクロ実習4　大脳の半切, 大脳皮質（区分）	寺田　純雄
12	11/27	15:50–17:10	解剖学実習室	マクロ実習5　島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等	寺田　純雄
13	12/7	15:50–17:10	4 階学生実習室	ミクロ実習5　中心前回と後回	寺田　純雄
14	12/10	15:50–17:10	解剖学実習室	マクロ実習6　側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃体,　視床, 基底核等	寺田　純雄
15	12/17	15:50–17:10	4 階学生	ミクロ実習6　海馬, 視覚領	寺田　純雄

			実習室		
16	1/8	15:50-17:10	解剖学実習室	マクロ実習7　大脳のスライス標本	寺田　純雄
17	1/15	15:50-17:10			
18	1/18	15:50-17:10			
19	1/22	15:50-17:10			

授業方法

「神経解剖学」、「神経解剖学実習」は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。各回の実習に先立って 1 時間から 1 時間 30 分程度の実習講義を行います。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、特別講義を行います。

授業内容

実習講義により説明を加えつつ、肉眼解剖、組織解剖の順で実習を行います。構造の比較的単純な脊髄から観察を開始し、脳幹、小脳、大脳の順で進めます。別途、実習講義の内容を補足したり、実習講義としては説明の難しい話題を取り上げたりするため、特別講義を行います。また形態学関連の研究の最前線を紹介する時間を設けます。

成績評価の方法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。

準備学習などについての具体的な指示

実習前に、事前に配布するマニュアルの該当箇所（実習の手順を記載したもの）と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所（特にマニュアル中、太字で記載されているもの）について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習講義の際には必ずマニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に購入したものを持参し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4 版無地ノート（ルーズリーフ等バラバラになるものは不可）を持参して下さい。各回の実習終了後に教員から検印を受け、提出願います。筆記具は特定しませんが、組織解剖の際は特に青色系統の色鉛筆を持参すると便利です。スケッチは実習後の復習に役立つように各自考えながら描くことをすすめます。

教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。
（リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。）

参考書

分冊解剖学アトラス／W.KAHLE, M.Frotscher [著],平田幸男 訳：文光堂, 2011
神経解剖学 : Core text／カーペンター [著],嶋井和世, 出浦滋之 監訳：廣川書店, 1996
脳解剖学／万年甫, 原一之 共著,：南江堂, 1994
神経解剖学／岩堀修明 著,：金芳堂, 1998
神経解剖学講義ノート : カラー図解／寺島俊雄 著,：金芳堂, 2011
図説中枢神経系／Rudolf Nieuwenhuys [ほか]著,水野昇 [ほか]訳：医学書院, 1991
ヒトの脳・神経解剖学・組織学アトラス／平田幸男 著,：文光堂, 2006
脳の分子生物学／Zach W.Hall [著],吉本智信, 石崎泰樹 監訳：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996
参考書 9. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995
参考書 10. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy With STUDENT CONSULT Online Access, 6th ed., John Nolte, Mosby, 2008
参考書 11. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2010
参考書 12. Neuroscience: Exploring the Brain, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2012
参考書 13. Neuroscience, 4th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2008
参考書 14. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 5th ed., McGraw Hill, 2013
参考書 15. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1996
参考書 16. Neuroscience Textbook Set: Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 3rd ed., Academic Press, 2008
参考書 17. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994
参考書 18. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991

参考書 19. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

他科目との関連

神経系の関与する基礎、臨床系科目と広く関連します。

履修上の注意事項

科目の上では別れていますが、「神経解剖学実習」は「神経解剖学」と密接不可分であり、評価は両者を総合して行います。特に実習は、知識や解答そのものよりもむしろこれらに至る過程を学ぶ時間として重視します。献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であることを忘れないように。

備考

神経解剖学の特徴のひとつはその階層性と全体性です。つまり、ある回の講義・実習はそれ以前の講義・実習での説明事項の（一定の）理解を前提として進みますが、一通り全体の勉強を終えないと個々の事項の意義が完全には理解できません。我慢して勉強を続けると、最初から積み上げていった知識が最後の実習時に閉じた環となって完結し、最終的に視界の開ける思いがするはずです。

参照ホームページ

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄えのところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) 東京都医学研・脳神経病理データベース
http://pathologycenter.jp/index.html

(2) 解剖学電子教科書
http://www.anatomy.med.keio.ac.jp/funatoka/anatomy.html

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy
http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases
http://www9.biostr.washington.edu/da.html

(5) Homo sapiens dissecatus
http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html

(6) The Whole Brain Atlas
http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html

(7) The Human Brain
http://www.thehumanbrain.info/
（ドイツ語だが関連サイトの http://teaching.thehumanbrain.info/も参考になる。）

(8) Brainmaps.org
http://brainmaps.org/index.php

(9) Allen Brain Atlas
http://www.brain-map.org/

(10) Mouse connectome project
http://www.mouseconnectome.org/

(*) 神経機能形態学分野ホームページ
http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/nana/index.cgi

連絡先

terada.nana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

特に定めませんが、面会希望の際はメールにより事前に相談願います。

時間割番号	011031				
科目名	免疫学				
担当教員	烏山 一				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	2

英文名:Immunoligy Ⅰ (Basic)・Ⅱ (Clinical)

授業の目的、概要等

一方向的授業ではなくインターラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書(英語のものが望ましい)を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引きおこすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

授業の到達目標(SBOs)

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。

本科目を履修することにより、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを理解することができる。さらにその理解にもとづき、臨床の現場で遭遇する感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、移植臓器の拒絶反応など免疫関連疾患がどのようにして引き起こされるのかを理解できるようになる。

成績評価の方法

免疫Ⅰ、免疫Ⅱに関して、それぞれ筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

準備学習などについての具体的な指示

「免疫学Ⅰ」については、これまでに学習した解剖学・組織学・薬理学・生化学・分子遺伝学などの基礎知識を、「免疫学Ⅱ」については、「免疫Ⅰ」で学んだ免疫のシステムの基本を復習し、しっかり理解しておくこと。

教科書

1. Immunobiology 8th Edition 2011 年発刊、Garland Science 社(日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第 7 版に基づくもの):免疫教科書の定番

2. Cellular and Molecular Immunology 7th Edition (with Student Consult Online Access) 2011 年発刊、Saunders 社(日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第5版に基づくもの):免疫教科書の定番

3. The Immune System 3rd Edition 2009 年発刊、Garland Science 社(日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている)

4. 医系免疫学 改訂 13 版 2013 年発刊、中外医学社

参考書

1. もっとよくわかる！免疫学(実験医学別冊、著者:河本宏)羊土社

2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異 (ブルーバックス、著者:岸本忠三、中嶋彰)講談社

連絡先

karasuyama.mbch@tmd.ac.jp

オフィスアワー

9:30-17:30

内線:5162

時間割番号	011032		
科目名	免疫学Ⅰ		
担当教員	烏山 一		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名:Immunoligy Ⅰ (Basic)

授業の目的、概要等

一方向的授業ではなくインターラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書(英語のものが望ましい)を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引きおこすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

授業の到達目標(SBOs)

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。

本科目を履修することにより、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを理解することができる。さらにその理解にもとづき、臨床の現場で遭遇する感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、移植臓器の拒絶反応など免疫関連疾患がどのようにして引き起こされるのかを理解できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/23	09:00-10:20	医学科講義室1	1. 序論「免疫系の機能と特徴」	烏山 一
2	10/23	10:30-11:50	医学科講義室1	2. 免疫系を構築する細胞・器官と役割	烏山 一
3	10/26	12:50-14:10	医学科講義室1	3. 抗体の働き・構造と補体の役割	烏山 一
4	10/26	14:20-15:40	医学科講義室1	4. 抗体遺伝子の特徴と再構成	烏山 一
5	10/27	12:50-14:10	医学科講義室1	5. B細胞の機能と分化	烏山 一
6	10/27	14:20-15:40	医学科講義室1	6. T細胞の種類と機能	神奈木 真理
7	10/29	12:50-14:10	医学科講義室1	7. T細胞の抗原認識	神奈木 真理
8	10/29	14:20-15:40	医学科講義室1	8. T細胞の発生と自己寛容の成立	神奈木 真理
9	10/30	09:00-10:20	医学科講義室1	9. NK細胞の機能と自己非自己識別機構	反町 典子
10	10/30	10:30-11:50	医学科講義室1	10. 共受容体による免疫調節、免疫寛容	東 みゆき
11	11/2	09:00-10:20	医学科講義室1	11. サイトカインによる免疫制御	中村 正孝
12	11/2	10:30-11:50	医学科講	12. 自然免疫と獲得免疫の相互	鍔田 武志

			義室1	作用		
13	11/9	09:00-10:20	医学科講義室1	13. 粘膜免疫	樗木 俊聡	
14	1/4	10:30-11:50	医学科講義室1	免疫学Ⅰ試験		

成績評価の方法

免疫Ⅰ、免疫Ⅱに関して、それぞれ筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

準備学習などについての具体的な指示

これまでに学習した解剖学・組織学・生理学・薬理学・生化学・分子遺伝学などの基礎知識をきちんと整理しておくこと。

教科書

1. Immunobiology 8th Edition 2011 年発刊、Garland Science 社(日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第 7 版に基づくもの):免疫教科書の定番

2. Cellular and Molecular Immunology 7th Edition (with Student Consult Online Access) 2011 年発刊、Saunders 社(日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第5版に基づくもの):免疫教科書の定番

3. The Immune System 3rd Edition 2009 年発刊、Garland Science 社(日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている)

4. 医系免疫学 改訂 13 版 2013 年発刊、中外医学社

参考書

1. もっとよくわかる!免疫学(実験医学別冊、著者:河本宏)羊土社

2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異 (ブルーバックス、著者:岸本忠三、中嶋彰)講談社

連絡先

karasuyama.mbch@tmd.ac.jp

オフィスアワー

9:30-17:30

内線:5162

時間割番号	011033		
科目名	免疫学Ⅱ		
担当教員	烏山 一		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名:Immunoligy Ⅱ (Clinical)

授業の目的、概要等

一方向的授業ではなくインターラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書(英語のものが望ましい)を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引きおこすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

授業の到達目標(SBOs)

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。

本科目を履修することにより、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを理解することができる。さらにその理解にもとづき、臨床の現場で遭遇する感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、移植臓器の拒絶反応など免疫関連疾患がどのようにして引き起こされるのかを理解できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	11/9	10:30-11:50	医学科講義室1	1. 感染症と免疫	神奈木 真理
2	11/10	09:00-10:20	医学科講義室1	2. 腫瘍と免疫	神奈木 真理
3	11/10	10:30-11:50	医学科講義室1	3. HLA と疾患	木村 彰方
4	11/13	09:00-10:20	医学科講義室1	4. 先天性免疫不全症	今井 耕輔
5	11/13	10:30-11:50	医学科講義室1	5. 後天性免疫不全症(AIDS を中心に)	神奈木 真理
6	11/17	09:00-10:20	症例検討室	6. 臓器移植と免疫	磯部 光章
7	11/17	10:30-11:50	症例検討室	7. 妊娠と免疫(生殖免疫):不育症	己斐 秀樹
8	11/20	09:00-10:20	医学科講義室1	8. アレルギー	横関 博雄
9	11/20	10:30-11:50	医学科講義室1	9. 自己免疫疾患	川畑 仁人
10	11/24	09:00-10:20	医学科講義室1	10. 骨と免疫	中島 友紀
11	11/24	10:30-11:50	医学科講義室1	11. 腸管の免疫と炎症	渡邉 守
12	11/25	14:20-15:40	医学科講	12. 加齢と免疫異常	廣川 勝昱

			義室1			
13	1/5	10:30-11:50	医学科講義室1	免疫学Ⅱ試験		

成績評価の方法

免疫 I、免疫 II に関して、それぞれ筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

準備学習などについての具体的な指示

「免疫Ⅰ」で学んだ免疫のシステムの基本を復習し、しっかり理解しておくこと。

教科書

1. Immunobiology 8th Edition 2011 年発刊、Garland Science 社(日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第 7 版に基づくもの):免疫教科書の定番

2. Cellular and Molecular Immunology 7th Edition (with Student Consult Online Access) 2011 年発刊、Saunders 社(日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第5版に基づくもの):免疫教科書の定番

3. The Immune System 3rd Edition 2009 年発刊、Garland Science 社(日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている)

4. 医系免疫学 改訂 13 版 2013 年発刊、中外医学社

参考書

1. もっとよくわかる！免疫学(実験医学別冊、著者:河本宏)羊土社

2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異 (ブルーバックス、著者:岸本忠三、中嶋彰)講談社

連絡先

karasuyama.mbch@tmd.ac.jp

オフィスアワー

9:30-17:30

内線:5162

時間割番号	011034				
科目名	神経科学・基礎				
担当教員	田邊 勉 杉原 泉				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	3.5

英文名：Basic Neuroscience

主な講義場所

3 号館 2 階医学科講義室 1

授業の目的、概要等

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうなると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学（Neuroscience）と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が 30 年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いておいて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

神経生理学については「神経生理学導入」で扱う神経細胞の機能の理解を基礎として、感覚・運動・高次機能等のシステム別に神経系の機能を論じる。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのレセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

授業の到達目標(SBOs)

【別表】のとおり

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/26	09:00-10:20	医学科講義室 1	運動系の中枢神経制御機構　脊髄Ⅰ（運動ニューロンと筋）	杉内 友理子
2	10/26	10:30-11:50	医学科講義室 1	運動系の中枢神経制御機構　脊髄Ⅱ（脊髄反射）	杉内 友理子
3	10/27	09:00-10:20	医学科講義室 1	感覚系の生理学 聴覚系　Ⅰ. 末梢機構	杉原 泉
4	11/2	12:50-14:10	医学科講義室 1	感覚系の生理学 聴覚系　Ⅱ. 中枢機構	佐藤 悠
5	11/2	14:20-15:40	医学科講義室 1	自律神経系Ⅰ（自律神経系の生理学－1）	杉原 泉
6	11/4	14:20-15:40	医学科講義室 1	自律神経系Ⅱ（自律神経系の生理学－2）	杉原 泉
7	11/9	12:50-14:10	医学科講義室 1	自律神経系Ⅲ（視床下部と自律神経系中枢）	杉原 泉
8	11/9	14:20-15:40	医学科講義室 1	運動系の中枢神経制御機構　大脳運動野の機能	伊澤 佳子
9	11/10	12:50-14:10	医学科講義室 1	運動系の中枢神経制御機構　錐体路とその障害の病態生理	伊澤 佳子

10	11/12	12:50-14:10	医学科講義室１	感覚系の生理学 体性感覚系 Ⅰ．末梢受容器の性質	杉内 友理子
11	11/12	14:20-15:40	医学科講義室１	感覚系の生理学 体性感覚系 Ⅱ．中枢機構	杉内 友理子
12	11/17	12:50-14:10	症例検討室	感覚系の生理学 体性感覚系 Ⅲ. 痛覚	杉内 友理子
13	11/17	14:20-15:40	症例検討室	感覚系の生理学 視覚系 Ⅰ．網膜	伊澤 佳子
14	11/18	12:50-14:10	症例検討室	感覚系の生理学 視覚系 Ⅱ．色覚	伊澤 佳子
15	11/18	14:20-15:40	症例検討室	感覚系の生理学 視覚系 Ⅲ. 中枢機構	伊澤 佳子
16	11/25	12:50-14:10	医学科講義室１	感覚系の生理学 前庭系 Ⅰ．前庭脊髄系と筋トーヌス	杉内 友理子
17	12/8	09:00-10:20	医学科講義室１	感覚系の生理学 前庭系 Ⅱ．前庭眼反射	杉内 友理子
18	12/8	10:30-11:50	医学科講義室１	自律神経系Ⅳ 視床下部とホメオスタシスの維持	杉原 泉
19	12/9	09:00-10:20	医学科講義室１	自律神経系Ⅴ（交感神経作動薬）	三枝 弘尚
20	12/9	10:30-11:50	医学科講義室１	自律神経系Ⅵ（副交感神経作動薬）	三枝 弘尚
21	12/11	12:50-14:10	医学科講義室１	イオンチャンネルとレセプターⅠ	田邊 勉
22	12/11	14:20-15:40	医学科講義室１	イオンチャンネルとレセプター Ⅱ	田邊 勉
23	12/14	12:50-14:10	医学科講義室１	シナプス Ⅳ（神経筋接合部）	田中 大介
24	12/14	14:20-15:40	医学科講義室１	カルシウムと細胞内情報伝達系	田邊 勉
25	12/15	09:00-10:20	医学科講義室１	シナプス Ⅴ（分子生物学）	田中 大介
26	12/15	10:30-11:50	医学科講義室１	運動系の中枢神経制御機構 小脳の機能Ⅰ	杉原 泉
27	12/16	09:00-10:20	医学科講義室１	〃 小脳の機能Ⅱ	杉原 泉
28	12/16	10:30-11:50	医学科講義室１	運動系の中枢神経制御機構 視床と基底核	杉内 友理子
29	12/18	09:00-10:20	医学科講義室１	〃 基底核と不随意運動の病態生理	杉内 友理子
30	12/18	10:30-11:50	医学科講義室１	脳高次機能と中枢神経薬理 概日リズム、睡眠、上行覚醒系	杉原 泉
31	1/13	09:00-10:20	医学科講義室１	〃 グリア細胞の機能	田中 光一
32	1/13	10:30-11:50	医学科講義室１	運動系の中枢神経制御機構 眼球運動	髙橋 真有
33	1/19	09:00-10:20	医学科講義室１	脳高次機能と中枢神経薬理 脳高次機能(空間識、失認、前頭葉機能)	伊澤 佳子

34	1/19	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　睡眠障害	西川 徹
35	1/26	09:00-10:20	医学科講義室1	〃　感覚ー運動変換と失語・失行	髙橋 真有
36	1/26	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　情動と動機付け	杉原 泉
37	1/27	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　中枢神経薬理	三枝 弘尚
38	2/2	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　精神神経薬理	田中 大介
39	2/3	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　学習と記憶	杉原 泉
40	2/5	10:30-11:50	医学科講義室1	〃　神経機能の発達と可塑性	杉原 泉
41	2/17	10:30-11:50	医学科講義室1	神経科学(生理)試験	杉原 泉
42	2/18	10:30-11:50	医学科講義室1	神経科学(薬理)試験	田邊 勉 三枝 弘尚

授業方法

パワーポイントを用いた講義形式で行う。

授業内容

授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎(システム神経生理学、細胞薬理学)に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

準備学習などについての具体的な指示

授業前には、これまでに講義が終了している、細胞生物学、解剖学、組織学、生理学、薬理学、生化学、分子遺伝学の関連分野に関し、復習するとともに、神経科学教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いておいて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

教科書

神経科学

・E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science (5th ed.) McGraw Hill, 2013. ISBN 9780071390118

・脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経生理学

・小澤瀞司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

・J. G. Nicholls, From Neuron to Brain 5th ed., Sinauer, 2012

L. Squire, Fundamental Neuroscience, 4th ed., Academic, 2012.

神経薬理学

・ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 MEDSi 2006 ISBN 9784895924610

・Basic Neurochemistry, (8th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 2012. ISBN 9780123749475

・The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 12 版 2011 ISBN 9780071624428

他科目との関連

神経解剖学、生理学、薬理学、生化学と密接に連関している。さらに神経系の臨床科目（神経内科、精神科、神経外科、耳鼻科、眼科、麻酔科など）とも連関している。

連絡先

田邊　勉t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

杉原　泉:isugihara.phy1@tmd.ac.jp

オフィスアワー

田邊　勉:平日 13:00–18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室（事前にメールで都合を確認のこと）

杉原　泉:月曜日～金曜日　PM.0:00–PM1:00 と PM4:00–PM6:00 3 号館 14 階教授室

時間割番号	011035		
科目名	神経科学・生理		
担当教員	杉原 泉, 田邊 勉		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名：Basic Neuroscinece

授業の目的、概要等

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうなると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学（Neuroscience）と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が 30 年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いておいて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

神経生理学については「神経生理学導入」で扱う神経細胞の機能の理解を基礎として、感覚・運動・高次機能等のシステム別に神経系の機能を論じる。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのレセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

授業の到達目標(SBOs)

神経生理学に関しての科学的理論と方法論を説明できる。
疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な神経生理学の知識を提示できる。
医学・歯学・健康に関して神経生理学的な問題提起ができる。
神経生理学の専門用語（日本語・英語）の理解/表記/発音ができる。
各授業参加者の人格を尊重し、敬意を払うことができる。
授業の時間を厳守し、信頼性を示すことができる。
自ら学習目標を設定し、学習活動に取り組むことができる。

授業方法

主として、パソコンからの画像の提示と板書を併用した講義での授業を行う。配付資料を事前にアップロードする場合が多い（予習・復習にも利用してほしい）。教員からの質問等、インタラクティブな授業となる場合もある。

授業内容

別表のとおり。

成績評価の方法

試験は、記述式の問題を主とする。一部、英語による出題を行う。授業の参加状況は、講義室の出席管理システムによるが、もし、授業中に教員が別に参加状況を確認した場合には、そちらを優先する。

成績評価の基準

試験の評価を成績評価とするが、授業参加状況、授業態度に特記することがあれば、成績評価の 50%以内で加味する。試験の記述

問題に関しては、設問に関して適切なレベルの論述回答が得られることを評価の対象とする。

準備学習などについての具体的な指示

本学教養の生物学、4 月からのモジュールにおける各科目の復習をしておくこと。授業内容に相当することがらについて、下記参考書から予習して来ることを勧める。授業の配付資料がアップロードされた場合には、適切な方法で閲覧しておくことを勧める

試験の受験資格

東京医科歯科大学試験規則に準じる。

参考書

標準生理学／小澤瀞司, 福田康一郎 監修,本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫, 河合康明, 黒澤美枝子, 鯉淵典之, 伊佐正 編集,：医学書院, 2014

イラストレイテッド神経科学／Richard A.Harvey, Claudia Krebs, Joanne Weinberg, Elizabeth Akesson [編],白尾智明 監訳,：丸善出版, 2013

カンデル神経科学／Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Thomas M. Jessell, Steven A. Siegelbaum, A.J. Hudspeth 編,金澤一郎, 宮下保司 日本語版監修,岡野栄之, 和田圭司, 加藤総夫, 入來篤史, 藤田一郎, 伊佐正, 定藤規弘, 大隈典子, 笠井清登 監訳,：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014

ガイトン生理学／Arthur C.Guyton, John E.Hall 原著,御手洗玄洋 総監訳,小川徳雄, 永坂鉄夫, 伊藤嘉房, 松井信夫, 間野忠明 監訳,：エルゼビア・ジャパン, 2010

カラー図解人体の正常構造と機能 = STRUCTURE, FUNCTION AND MATERIALS OF THE HUMAN BODY／坂井建雄, 河原克雅 総編集,：日本医事新報社, 2012

カールソン神経科学テキスト : 脳と行動／カールソン [著],泰羅雅登, 中村克樹 監訳,：丸善出版, 2013

ギャノング生理学／岡田泰伸 監訳,Kim E.Barrett, Susan M.Barman, Scott Boitano, Heddwen L.Brooks [著],：丸善出版, 2014

Principles of Neural Science, Fifth Edition (Principles of Neural Science／Eric Kandel , James Schwartz , Thomas Jessell , & et al.：McGraw-Hill Professional, 2012

Essential Neuroscience／Siegel：Wolters Kluwer, 2015

Neurophysiology 5th Ed, A Conceptual Approach／Carpenter：Hollder Arnold, 2012

J. G. Nicholls, From Neuron to Brain 5th ed., Sinauer, 2012

L. Squire, Fundamental Neuroscience, 4th ed., Academic, 2012

他科目との関連

神経科学(薬理)とは、同一の科目を分担している。4 月からのモジュールにおける「神経生理導入」および、「生理学実習」に、直接関連する。

履修上の注意事項

積極的な発言(質問等)を期待する。

連絡先

杉原　泉:isugihara.phy1@tmd.ac.jp

田邊　勉:t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

杉原　泉:月曜日～金曜日　PM.0:00-PM1:00 と PM4:00-PM6:00 3 号館 14 階教授室

田邊　勉:平日 13:00-18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室(事前にメールで都合を確認のこと)

時間割番号	011036		
科目名	神経科学・薬理		
担当教員	田邊 勉		
開講時期	後期	**対象年次**	2
英文名：Basic Neuroscience			
準備学習などについての具体的な指示			
連絡先 t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp			
オフィスアワー 平日 13:00-18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室（事前にメールで都合を確認のこと）			

時間割番号	011038		
科目名	感染・基礎		
担当教員	山岡　昇司		
開講時期	後期	対象年次	2

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/27	10:30-11:50	医学科講義室1	病原体総論	山岡　昇司
2	10/28	12:50-14:10	医学科講義室1	細菌学総論	堀内　三吉
3	10/28	14:20-15:40	医学科講義室1	細菌感染の治療と予防	岡村　登
4	11/4	12:50-14:10	医学科講義室1	細菌遺伝学	中村　正孝
5	11/5	12:50-14:10	医学科講義室1	グラム陽性菌の基礎知識	堀内　三吉
6	11/5	14:20-15:40	医学科講義室1	グラム陰性菌の基礎知識	岡村　登
7	11/6	09:00-10:20	医学科講義室1	その他の病原体(嫌気性菌、リケッチア)	堀内　三吉
8	11/6	10:30-11:50	医学科講義室1	ウイルス学総論	山岡　昇司
9	11/10	14:20-15:40	医学科講義室1	ウイルスの複製と遺伝学	山岡　昇司
10	11/11	12:50-14:10	医学科講義室1	RNAウイルス各論(1)	山岡　昇司
11	11/11	14:20-15:40	医学科講義室1	RNAウイルス各論(2)	山岡　昇司
12	11/16	09:00-10:20	医学科講義室1	ヒトレトロウイルス感染症	山岡　昇司
13	11/16	10:30-11:50	医学科講義室1	レンチウイルス感染症	武内　寛明
14	11/19	12:50-14:10	医学科講義室1	DNAウイルス各論(1)	山岡　昇司
15	11/19	14:20-15:40	医学科講義室1	DNAウイルス各論(2)	山岡　昇司
16	11/25	09:00-10:20	医学科講義室1	腫瘍ウイルス	山岡　昇司
17	11/25	10:30-11:50	医学科講義室1	感染免疫とワクチン	武内　寛明
18	11/26	12:50-14:10	医学科講義室1	人畜共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	武内　寛明
19	11/26	14:20-15:40	医学科講義室1	輸入感染症	太田　伸生
20	11/27	09:00-10:20	医学科講義室1	プリオン病	山岡　昇司
21	11/27	10:30-11:50	医学科講義室1	ウイルスベクターと研究応用	野阪　哲哉
22	2/16	10:30-11:50	医学科講	感染・基礎試験	

			義室1			

準備学習などについての具体的な指示

時間割番号	011039		
科目名	感染･基礎実習		
担当教員	山岡　昇司		
開講時期	後期	対象年次	2

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	1/25	12:50-17:10	5 階学生実習室	感染･基礎実習	山岡　昇司
4-6	1/26	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
7-9	1/27	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
10-12	1/28	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
13-15	1/29	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
16-18	2/1	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
19-21	2/2	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
22-24	2/3	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
25-27	2/4	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司
28-30	2/5	12:50-17:10	5 階学生実習室	〃	山岡　昇司

準備学習などについての具体的な指示

時間割番号	011041		
科目名	東洋医学(M2)		
担当教員	下門 顯太郎, 別府 正志		
開講時期	後期	対象年次	2

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/28	09:00-10:20	医学科講義室1	葛根湯でなぜ風邪が治るのか一煎じ薬の体験一	仙頭 正四郎
2	10/28	10:30-11:50	医学科講義室1	陰陽論と八綱弁証	仙頭 正四郎
3	11/4	09:00-10:20	医学科講義室1	五行説と臓腑概念	仙頭 正四郎
4	11/4	10:30-11:50	医学科講義室1	気血津液(機能・生成・運行)	仙頭 正四郎
5	11/11	09:00-10:20	医学科講義室1	病態観(病因病機・素因誘因・内因外因)と証の概念	別府 正志
6	11/11	10:30-11:50	医学科講義室1	東洋医学的診断(四診と弁証)	別府 正志
7	11/18	09:00-10:20	症例検討室	治療概念(予防と治療の原則・標治本治)	別府 正志
8	11/18	10:30-11:50	症例検討室	中薬学・方剤学総論(四気五味・君臣佐使)	別府 正志
9	1/7	10:30-11:50	医学科講義室1	東洋医学試験	

準備学習などについての具体的な指示

連絡先

下門 顯太郎:k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp

時間割番号	011042				
科目名	病理学				
担当教員	江石　義信, 北川　昌伸, 小林　大輔				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	1

授業の目的、概要等

本科目は、1週間に講義と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。学生は数人ごとの小グループに分かれ、各グループには、病理学総論の4つの大テーマに関連して幾つかの課題が与えられる。ブロック週の前半はその課題に対する調査・探究をするための自習時間が多く取られる。授業は各班による課題の発表を主体として、学生同士で知識の共有とより深い理解を求められる。教官は網羅的授業は行わず、発表に対する補足の説明にとどまる。その後、テーマに関連する標本の顕微鏡実習を行う。講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、自習時間を利用した、学生自身の十分な自己学習が求められる。

授業の到達目標(SBOs)

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。ヒトの疾患は大きく腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患に分類されるが、腫瘍についての学習は「腫瘍学」に譲り、「病理学総論」においては非腫瘍性疾患に焦点を絞って、主に炎症、免疫、循環障害、代謝障害の概念・病態生理について学ぶ。「腫瘍学」および「病理学総論」にて得られる知識は、全ての疾患を理解するための“縦糸”となり、その後に予定されている授業で学ぶ各臓器の個々の疾患に関する各論的知識を“横糸”として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成されるのである。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	11/30	09:00-09:50	医学科講義室1	病理総論概説	北川　昌伸
2	11/30	10:00-10:50	医学科講義室1	ブロックの進め方についての説明	小林　大輔
3	12/1	09:00-09:50	医学科講義室1	学生発表〈炎症〉	
4	12/1	10:00-10:50	医学科講義室1	解説・講義（炎症）	北川　昌伸
5	12/1	12:50-13:40	4階学生実習室	実習（炎症）	北川　昌伸
6	12/2	09:00-09:50	医学科講義室1	学生発表〈免疫〉	
7	12/2	10:00-10:50	医学科講義室1	解説・講義（免疫）	江石　義信
8	12/2	12:50-13:40	4階学生実習室	実習（免疫）	江石　義信
9	12/3	12:50-13:40	医学科講義室1	学生発表〈循環障害〉	
10	12/3	13:50-14:40	医学科講義室1	講義・解説（循環障害）	小林　大輔
11-12	12/3	14:50-16:40	4階学生実習室	実習（循環障害）	小林　大輔
13	12/4	09:00-09:50	医学科講義室1	学生発表〈細胞障害・代謝障害〉	
14	12/4	10:00-10:50	医学科講義室1	講義・解説（細胞障害・代謝疾患）	伊藤　崇
15	12/4	12:50-13:40	4階学生実習室	実習（細胞・代謝障害）	伊藤　崇
16	1/6	10:30-11:50	医学科講義室1	病理学試験	

授業方法

班に分かれ、事前に与えられた課題を当日発表する。
内容を教官が補足・修正する。
その後、実習室に移り、関連する病理組織の検鏡実習を行う。

授業内容

〇授業のキーワード
細胞傷害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理

成績評価の方法

筆記試験を行う。試験範囲は、講義・実習およびブロック週の全課題、のすべての内容である。
教官によっては、発表内容を採点に加味することがある。

成績評価の基準

すべての単元の合計点にて評価する。

準備学習などについての具体的な指示

事前に与えられた課題について、班毎に発表ファイルを作成する。
質問にも答えられるように、関連する内容も十分理解しておく。

構成ユニット

細胞障害、循環障害、炎症、免疫

参考書

(1)Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 8th ed. W B Saunders Co.
連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。
(2)ロビンス基礎病理学　廣川書店
1)の簡約版(Robbins Basic Pathology)の旧版の翻訳。
(3)標準病理学　第3版　医学書院
編集協力:北川昌伸。
(4)組織病理学アトラス　第5版　文光堂
(5)外科病理学　　文光堂
(6)現代の病理学(総論、各論)金原出版
(7)病理学(総論、各論)文光堂

他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

履修上の注意事項

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。　一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。　☆具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

連絡先

小林　大輔koba.pth1@tmd.ac.jp

時間割番号	011043				
科目名	医動物学				
担当教員	太田 伸生, 赤尾 信明				
開講時期	後期	対象年次	2	単位数	2
英文名：Medical Zoology					

授業の目的、概要等

講義で対象疾患に関するアウトライン（病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など）を教授するので、寄生虫及び寄生虫感染症の医学・生物学的知識と臨床に必要な知識や識別能力を学習した上で、平行して実施する実習において実際の病原体と宿主の病理を観察し、医師として必要な総合的な能力を修得することをめざす。講義用の資料を配布するので、それにより講義内容を理解し、単なる知識の獲得だけではなく、疾病流行の背景にある社会文化、人々の行動／生活習慣なども考察し、流行成立に関わる様々な問題、疑問などについて教員と討議を行う。

実習については、実習は講義の内容を補完するものであり、講義で得た知識を実習で確認することが重要である。実習では永久標本だけではなく、生標本の供覧にも努めるので、”知識”と”実際”を統合して理解するように努める。

授業の到達目標(SBOs)

(A) 病原体としての寄生虫および宿主との相互作用の生物学的理解と研究能力の修得
- 寄生虫の形態、代謝、生殖などの知識が得られる
- 寄生虫に特有の感染防御免疫、免疫回避機構および免疫病因論の理解ができる

(B)臨床寄生虫病学の基本的知識の修得
- 寄生虫病の診断、治療、予防についての基本的な臨床的知識が備わる
- 診断法、治療法、ワクチンを含む予防法開発など今日の医療イノベーションに関する知識が備わる
- 渡航者の安全を向上するための感染予防に関する指導能力が備わる

(C)寄生虫感染症の社会医学的意義の修得
- 寄生虫病ワクチンが実現できないことから、感染症予防の基本である病気の知識と行動変容の重要性を理解する
- 生活環境中の寄生虫汚染の実態を学習し、感染のリスク評価を考察する能力が備わる
- 国際感染症としての寄生虫病の理解を通じて国際的視野が備わり、検疫行政や渡航医学等の専門性が獲得できる
- 熱帯感染症としての寄生虫病を理解し、国際医療協力に必要とされる知識が備わる
- 途上国医療に関係する国際機関や NGO の業務のために必要な基礎知識が修得できる

実習については以下の通り。

(A) 病原寄生虫およびベクター生物を肉眼または顕微鏡で観察し、診断と鑑別の能力を修得する

(B) 寄生虫感染における宿主病変を観察し、その臨床像と発症機序に関する考察ができるようになる

(C)寄生虫の保存標本や生鮮標本に接し、診断のために必要な標本取り扱いや試料処理の実際を経験する

(D) 顕微鏡の取扱、観察方法を修得する

授業方法

パワーポイントを用いて、配布資料を参照しながら理解すべき事項の説明をする。

実習については、事前に配布した実習手引き書に従う。毎回実習のはじめに、当日の実習内容と観察の要点を教員が解説し、その後、指示された標本を観察してスケッチする。

成績評価の方法

医動物学講義に関する筆答試験、および医動物学実習に関する標本識別能力の試験による。

実習については以下の通り。

実習で観察した病原寄生虫、ベクター、宿主病変などに関する識別能力を以下の方法により評価する。

（1）毎回提出するレポートによる出席点。

（2）各回の実習時に観察した寄生虫を対象にした実習試験による評価。実施方法は実習時間内で説明する。

成績評価の基準

講義は授業内容の理解と、寄生虫感染症に関する考察能力を評価の基準とする。

実習の場合、以下の基準による。
(1)指示された寄生虫あるいは病変をもれなく観察したか。
(2)寄生虫の形態的特徴を理解して観察したか。
(3)講義をふまえ、寄生虫感染による宿主の病態を理解したか。

準備学習などについての具体的な指示

講義資料は事前に閲覧できるので、講義予定に沿って、事前に内容を把握する事前学習に努め、講義時間中には質問など積極的に発言するように準備する事。特に提示された講義内容のキーワードについては参考図書等でさらってから講義に臨むことが必要である。
実習においても、実習項目は必ず講義が先行するので、各回の実習項目について講義資料などで事前に知識を整理しておくこと。実習ではただ単に標本をスケッチするのではなく、病原寄生虫の生活史や感染経路を意識し、病理標本については発症機序を念頭に置きながら、自らの知識を"確認する"ことに努める。

試験の受験資格

本学の試験内規に準じるが、実習については以下の条件を設ける。
正当な理由なく、実習を2回以上欠席した場合は実習試験の受験資格を与えない。
病気などでやむを得ず欠席するときは事前あるいは事後に医師の診断書などを事務に提出すること。

教科書

特に指定しない。講義内容を解説した講義プリントを毎回配付するので、学習はこれに沿って進め、適宜参考書にあたりながら学習すること。

参考書

図説人体寄生虫学　吉田幸雄、有薗直樹 著、南山堂 (2011)
標準医動物学　石井 明、鎮西康雄、太田伸生 編、医学書院 (1998)
寄生虫学テキスト　上村清 ほか編集、文光堂 (2008)
Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)
Diagnostic Meical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)
Manson's Toropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall
Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

履修上の注意事項

実習については以下について注意すること。 (1)実習では必ず白衣を着用すること (2)実習室では飲食は厳禁とする (3)レポートは B5 ケント紙のスケッチブックを準備し、毎回スケッチした用紙だけを提出する (4)スケッチは1本の線で輪郭を描き、彩色すること

連絡先

太田　伸生:matata.vip@tmd.ac.jp　M&D タワー16 階北
赤尾　信明:ocha.vip@tmd.ac.jp, 熊谷貴:tkuma.vip@tmd.ac.jp　M＆D16F北

オフィスアワー

太田　伸生:毎週火曜日 PM.4:00-PM.6:00　M&D タワー16 階北　教授室
赤尾　信明:特に指定しない。事前に連絡してから来室すること。

時間割番号	011044		
科目名	医動物学		
担当教員	太田 伸生, 赤尾 信明		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名：Medical Zoology

授業の目的、概要等

講義で対象疾患に関するアウトライン（病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など）を教授するので、寄生虫及び寄生虫感染症の医学・生物学的知識と臨床に必要な知識や識別能力を学習した上で、平行して実施する実習において実際の病原体と宿主の病理を観察し、医師として必要な総合的な能力を修得することをめざす。講義用の資料を配布するので、それにより講義内容を理解し、単なる知識の獲得だけではなく、疾病流行の背景にある社会文化、人々の行動／生活習慣なども考察し、流行成立に関わる様々な問題、疑問などについて教員と討議を行う。

授業の到達目標(SBOs)

(A) 病原体としての寄生虫および宿主との相互作用の生物学的理解と研究能力の修得

・ 寄生虫の形態、代謝、生殖などの知識が得られる

・ 寄生虫に特有の感染防御免疫、免疫回避機構および免疫病因論の理解ができる

(B)臨床寄生虫病学の基本的知識の修得

・ 寄生虫病の診断、治療、予防についての基本的な臨床的知識が備わる

・ 診断法、治療法、ワクチンを含む予防法開発など今日の医療イノベーションに関する知識が備わる

・ 渡航者の安全を向上するための感染予防に関する指導能力が備わる

(C)寄生虫感染症の社会医学的意義の修得

・寄生虫病ワクチンが実現できないことから、感染症予防の基本である病気の知識と行動変容の重要性を理解する

・生活環境中の寄生虫汚染の実態を学習し、感染のリスク評価を考察する能力が備わる

・国際感染症としての寄生虫病の理解を通じて国際的視野が備わり、検疫行政や渡航医学等の専門性が獲得できる

・ 熱帯感染症としての寄生虫病を理解し、国際医療協力に必要とされる知識が備わる

・ 途上国医療に関係する国際機関や NGO の業務のために必要な基礎知識が修得できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	12/7	09:00-10:20	医学科講義室1	医動物学総論	太田 伸生
2	12/7	10:30-11:50	医学科講義室1	線虫病(1) 腸管寄生線虫症	赤尾 信明
3	12/8	12:50-14:10	医学科講義室1	線虫病(2) フィラリア症	赤尾 信明
4	12/8	14:20-15:40	医学科講義室1	線虫病(3) 幼線虫移行症	赤尾 信明
5	12/9	12:50-14:10	医学科講義室1	節足動物	篠永 哲
6	12/9	14:20-15:40	医学科講義室1	吸虫病(2) 住血吸虫症	関 丈典
7	12/11	09:00-10:20	医学科講義室1	条虫病(1) 腸管寄生条虫症	太田 伸生
8	12/11	10:30-11:50	医学科講義室1	条虫病(2) エキノコックス症、嚢虫症、孤虫症	赤尾 信明
9	12/14	09:00-10:20	医学科講義室1	原虫病(1) 腸管寄生原虫症	赤尾 信明
10	12/14	10:30-11:50	医学科講義室1	原虫病(2) トキソプラズマ症、膣トリコモナス症	熊谷 貴
11	1/8	10:30-11:50	医学科講義室1	原虫病(3) トリパノソーマ症	太田 伸生

12	1/12	09:00–10:20	医学科講義室1	原虫症(4) リーシュマニア症	太田 伸生
13	1/12	10:30–11:50	医学科講義室1	原虫病(5) マラリア	太田 伸生
14	1/15	10:30–11:50	医学科講義室1	吸虫病(1) 肺吸虫症、肝吸虫症、 横川吸虫症 ほか	熊谷 貴
15	1/18	09:00–10:20	医学科講義室1	有害動物	篠永 哲
16	1/18	10:30–11:50	医学科講義室1	寄生虫病 case study	太田 伸生, 赤尾 信明
17	2/1	10:30–11:50	医学科講義室1	特別講義「アジアのマラリアの動向」	狩野 繁之
18	2/15	10:30–11:50	医学科講義室1	医動物学試験	

授業方法

パワーポイントを用いて、配布資料を参照しながら理解すべき事項の説明をする

成績評価の方法

医動物学講義内容に関する理解達成度を筆答試験で評価する

準備学習などについての具体的な指示

講義資料は事前に閲覧できるので、講義予定に沿って、事前に内容を把握する事前学習に努め、講義時間中には質問など積極的に発言するように準備する事。特に提示された講義内容のキーワードについては参考図書等でさらってから講義に臨むことが必要である。

試験の受験資格

本学の試験内規に準じる

教科書

特に指定しない。講義内容を解説した講義プリントを毎回配付するので、学習はこれに沿って進め、下記に推薦した参考書にあたりながら理解を深めること。

参考書

図説人体寄生虫学 吉田幸雄、有薗直樹 著、南山堂 (2011)

標準医動物学 石井 明、鎮西康雄、太田伸生 編、医学書院 (1998)

寄生虫学テキスト 上村清 ほか編集、文光堂 (2003)

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)

Diagnostic Meical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Toropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

連絡先

太田 伸生:matata.vip@tmd.ac.jp M&D タワー16 階北

赤尾 信明:ocha.vip@tmd.ac.jp, 熊谷貴:tkuma.vip@tmd.ac.jp M＆D16F北

オフィスアワー

太田 伸生:毎週火曜日 PM.4:00–PM.6:00 M&D タワー16 階北 教授室

赤尾 信明:特に指定しない。事前に連絡してから来室すること。

時間割番号	011045		
科目名	医動物学実習		
担当教員	太田 伸生, 赤尾 信明		
開講時期	後期	対象年次	2

英文名:Medical Zoology

主な講義場所

3号館5階実習室

授業の目的、概要等

講義で対象疾患に関するアウトライン(病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など)を教授するので、実習により実際の病原体と宿主の病理を観察することを通じて、寄生虫疾患の理解を深めることが目的である。

実習は講義の内容を補完するものであり、講義で得た知識を実習で確認することが重要である。実習では永久標本だけではなく、生標本の供覧にも努めるので、"知識"と"実際"を統合して理解するように努める。

授業の到達目標(SBOs)

(A) 病原寄生虫およびベクター生物を肉眼または顕微鏡で観察し、診断と鑑別の能力を修得する

(B) 寄生虫感染における宿主病変を観察し、その臨床像と発症機序に関する考察ができるようになる

(C)寄生虫の保存標本や生鮮標本に接し、診断のために必要な標本取り扱いや試料処理の実際を経験する

(D) 顕微鏡の取扱、観察方法を修得する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	1/13	12:50-17:10	5階学生実習室	線虫類(1)　消化管寄生線虫、動物由来線虫	太田 伸生
4-6	1/14	12:50-17:10	5階学生実習室	線虫類(2)　節足動物、フィラリア、ダニ、ノミ、シラミ	太田 伸生
7-9	1/20	12:50-17:10	5階学生実習室	吸虫類　肺吸虫、肝吸虫、横川吸虫、住血吸虫ほか	太田 伸生
10-12	1/21	12:50-17:10	5階学生実習室	条虫類　腸管寄生条虫、エキノコックス、嚢虫症ほか	太田 伸生
13-15	2/8	12:50-17:10	5階学生実習室	原虫類(1)　マラリア原虫	太田 伸生
16-18	2/9	12:50-17:10	5階学生実習室	原虫類(2)　消化管寄生原虫・糞便検査法	太田 伸生
19-21	2/10	12:50-17:10	5階学生実習室	原虫類(3)　組織寄生原虫	太田 伸生
22-24	2/12	12:50-17:10	5階学生実習室	医動物学実習試験	

授業方法

事前に実習手引き書を配布する。実習に際しては、最初に実習内容と観察の要点を教員が解説し、その後、指示された標本を観察してスケッチする。

成績評価の方法

実習で観察した病原寄生虫、ベクター、宿主病変などに関する識別能力を以下の方法により評価する。

(1)毎回提出するレポートによる出席点。

(2)各回の実習時に観察した寄生虫を対象にした実習試験による評価。実施方法は実習時間内で説明する。

成績評価の基準

(1)指示された寄生虫あるいは病変をもれなく観察したか。

(2)寄生虫の形態的特徴を理解して観察したか。

(3)講義をふまえ、寄生虫感染による宿主の病態を理解したか。

準備学習などについての具体的な指示

実習項目は必ず講義が先行するので、各回の実習項目について講義資料などで事前に知識を整理しておくこと。実習ではただ単に標本をスケッチするのではなく、病原寄生虫の生活史や感染経路を意識し、病理標本については発症機序を念頭に置きながら、自らの知識を”確認する”ことに努める。

試験の受験資格

正当な理由なく、実習を2回以上欠席した場合は実習試験の受験資格を与えない。

病気などでやむを得ず欠席するときは事前あるいは事後に医師の診断書などを事務に提出すること。

教科書

特に指定しない。実習書を配付しているので、実習内容を適宜参考書にあたって確認しながら進めること。

参考書

図説人体寄生虫学　吉田幸雄、有薗直樹 著、南山堂 (2011)

標準医動物学　石井 明、鎮西康雄、太田伸生 編、医学書院 (1998)

寄生虫学テキスト　上村清　ほか編集、文光堂 (2003)

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)

Diagnostic Meical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Toropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

履修上の注意事項

(1)実習では必ず白衣を着用すること　(2)実習室では飲食は厳禁とする　(3)レポートは B5 ケント紙のスケッチブックを準備し、毎回スケッチした用紙だけを提出する　(4)スケッチは1本の線で輪郭を描き、彩色すること

連絡先

太田　伸生:matata.vip@tmd.ac.jp　M&D タワー16 階北

赤尾　信明:ocha.vip@tmd.ac.jp, 熊谷貴:tkuma.vip@tmd.ac.jp　M＆D16F北

オフィスアワー

太田　伸生:毎週火曜日 PM.4:00-PM.6:00　M&D タワー16 階北　教授室

赤尾　信明:特に指定しない。事前に連絡してから来室すること。

時間割番号	011075				
科目名	薬理学				
担当教員	田邊 勉				
開講時期	通年	対象年次	2	単位数	2.5

英文名:Pharmacology

主な講義場所

3 号館 2 階医学科講義室 1

授業の目的、概要等

〇学習方法

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

題目及び内容:担当

薬理学総論:田邊
呼吸器薬理:田邊
消化器薬理:田邊
薬物動態:安原
腎臓薬理:藤川
泌尿器薬理:藤川
生殖器薬理:藤川
内分泌薬理:藤川・野田
免疫薬理:田邊
循環器薬理:田邊
血管系薬理:藤川
鎮痛薬:田邊
炎症薬理:田邊
抗菌薬:安原
臨床薬理:安原

イオンチャンネル・レセプター・トランスポーター(*):田邊
神経筋接合部(*):田中
シナプスの分子生物学(*):田中
Ca と細胞内情報伝達(*):田邊
末梢神経薬理(*):三枝
中枢神経薬理(*):三枝
神経精神薬理(*):田中

(*)は神経科学系統講義

授業の到達目標(SBOs)

【別表】のとおり

授業方法

パワーポイントを用いた講義形式

授業内容

授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系の薬理に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

成績評価の基準

長年蓄積された過去の成績データおよび当該年度の試験成績を加味し、総合的な評価を行う。

準備学習などについての具体的な指示

授業前には、これまでに講義が終了している、細胞生物学、解剖学、組織学、生理学の関連分野に関し、復習するとともに、薬理学教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。

教科書

病態生理に基づく臨床薬理学 : ハーバード大学テキスト／デービッド E.ゴーラン, アーメン H.タシジアン 編,清野裕 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2006

薬理書 : 薬物治療の基礎と臨床(上巻)／グッドマン／〔原編〕,ギルマン／〔原編〕,高折修二／監訳,橋本敬太郎／監訳,赤池昭紀／監訳,石井邦雄／監訳:廣川書店, 2013

薬理書 : 薬物治療の基礎と臨床(下巻)／グッドマン／〔原編〕,ギルマン／〔原編〕,高折修二／監訳,橋本敬太郎／監訳,赤池昭紀／監訳,石井邦雄／監訳:廣川書店, 2013

NEW 薬理学／田中千賀子, 加藤隆一 編,:南江堂, 2011

図解薬理学 : 病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略／越前宏俊 著,:医学書院, 2008

・The Pharmacological Basis of Therapeutics 12 版 2011 ISBN 9780071624428

・医系薬理学 2 版 2005 ISBN 9784498003194

・イラストレイテッド薬理学 原書 5 版 2012 ISBN 9784621085639

・イオンチャンネルの分子生物学 1998 ISBN 9784897063201

・カラー図解 これならわかる薬理学 2 版 2012 ISBN 9784895927253

・ローレンス臨床薬理学 2006 ISBN 9784890133413

・標準薬理学 6 版 2001 ISBN 9784260105354

・Color Atlas of Pharmacology 3 版 2005 ISBN 158890332X

参考書

・Principles of Neural Science 5th 2013 ISBN 9780071390118

・Molecular Biology of the Cell 6th 2014 ISBN 9780815344322

他科目との関連

神経科学、生理学、生化学と密接に連関している。さらに薬理学は臨床における薬物治療の基礎をなすものであり、全ての臨床科目と連関している。

連絡先

t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

平日 13:00-18:00 3 号館 14 階細胞薬理学分野教授室(事前にメールで都合を確認のこと)

時間割番号	011085		
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅰ)		
担当教員	吉田　雅幸, 水口　俊介		
開講時期	2年通年	対象年次	2～3

授業科目名英訳:Bioethics

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、コトをおこなってしまうのか、あるいは、するべきコトに気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標(SBOs)

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	7/2	11:10-12:00	医学科講義室1	生命倫理Ⅰ－1	生命倫理総論(導入)	吉田　雅幸, 水口　俊介
2	7/9	11:10-12:00	医学科講義室1	生命倫理Ⅰ－2	神経倫理学的な医療倫理の考え方の勧め～ウサギを飼うとはどういうことか～	江花　有亮

授業方法

講義・グループワーク

自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙(50～60%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(50～60%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60 点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。(第3学年前期の到達度評価甲については、第2学年から第3学年前期の到達度評価甲前までの全 9 回の講義のうち、6 回以上の出席であること。第4学年前期の到達度評価乙については、第3学年前期の到達度評価甲後から第4学年前期の到達度評価乙までの全 12 回(予定)(同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす)のうち、8 回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の履修上の注意を参照のこと)

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

生命倫理と法／樋口, 範雄,土屋, 裕子,岩田, 太.:弘文堂, 2005

遺伝診療をとりまく社会 : その科学的・倫理的アプローチ／水谷修紀, 吉田雅幸 監修,吉田雅幸, 小笹由香 編.:ブレーン出版, 2007

医療の倫理ジレンマ : 解決への手引き : 患者の心を理解するために／バーナード・ロウ 著,北野喜良, 中澤英之, 小宮良輔 監訳.:西村書店, 2003

上記の文献については各自で読んでおくことが好ましい。

他の参考文献は講義のなかで随時紹介する。

② 吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会―その科学的・倫理的アプローチ』(ブレーン出版、2007 年)(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申請して下さい)

③ バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ―解決への手引き 患者の心を理解するために』(西村書店、2003 年)(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要。 医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (E メールアドレス@tmd.ac.jp の前)

桑名 仁 生命倫理研究センター hkuwcie(2015/3/27 まで)

2015/4/1 以降の問い合わせ先は後日追記いたします。

参照ホームページ

各講義時に適宜指示

連絡先

吉田 雅幸: masa.vasc@tmd.ac.jp

水口 俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

吉田 雅幸: オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

水口 俊介:随時

時間割番号	011085		
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅰ)		
担当教員	吉田　雅幸, 水口　俊介		
開講時期	2年通年	対象年次	2～3

授業科目名英訳:Bioethics

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、コトをおこなってしまうのか、あるいは、するべきコトに気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標(SBOs)

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	備考
1	7/3	11:10-12:00	医学科講義室1	生命倫理Ⅰ－1	生命倫理総論(導入)	吉田　雅幸	第2学年
2	7/10	11:10-12:00	医学科講義室1	生命倫理Ⅰ－2	基礎医学に関連する倫理的事項	桑名　仁	第2学年

授業方法

講義・グループワーク

自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する応用演習・研究倫理実践論(50～60%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(50～60%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する応用演習・研究倫理実践論の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60 点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。(第3学年前期の応用演習については、第2学年から第3学年前期の応用演習前までの全 9 回の講義のうち、6 回以上の出席であること。第4学年前期の研究倫理実践論については、第3学年前期の応用演習後から第4学年前期の研究倫理実践論までの全 13 回(同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす)のうち、9回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の受講上の注意を参照のこと)

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

生命倫理と法／樋口, 範雄,土屋, 裕子,岩田, 太.:弘文堂, 2005

遺伝診療をとりまく社会 : その科学的・倫理的アプローチ／水谷修紀, 吉田雅幸 監修,吉田雅幸, 小笹由香 編.:ブレーン出版, 2007

医療の倫理ジレンマ : 解決への手引き : 患者の心を理解するために／バーナード・ロウ 著,北野喜良, 中澤英之, 小宮良輔 監訳.:西村書店, 2003

上記の文献については各自で読んでおくことが好ましい。

他の参考文献は講義のなかで随時紹介する。

② 吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会—その科学的・倫理的アプローチ』(ブレーン出版、2007 年)(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申請して下さい)

③ バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ—解決への手引き 患者の心を理解するために』(西村書店、2003 年)(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「応用演習」「研究倫理実践論」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要 医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (E メールアドレス@tmd.ac.jp の前)

小笹 由香 生命倫理研究センター yuka.bec

桑名 仁 生命倫理研究センター hkuwcie

参照ホームページ

各講義時に適宜指示

連絡先

吉田 雅幸: masa.vasc@tmd.ac.jp

水口 俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

吉田 雅幸: オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

水口 俊介:随時

時間割番号	011086				
科目名	東洋医学				
担当教員	下門　顯太郎				
開講時期	通年(秋)	対象年次	2～3	単位数	1
英文名：Oriental Medicine					

授業の到達目標(SBOs)

東洋医学の基礎的な概念（陰陽論、五行論、気血津液、八綱弁証、臓腑概念、病態観、証）を理解し、説明できる。

東洋医学の診断、治療の概念、薬学・方剤学の基礎について理解し、説明できる。

授業方法

講義

成績評価の方法

筆記試験

多肢選択問題（連問形式）

準備学習などについての具体的な指示

教科書

「標準東洋医学」 金原出版　仙頭正四郎

参考書

●基礎理論の理解に

「中医学入門」神戸中医学研究会編著　医歯薬出版

「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社

●一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する

「読体術:体質判別・養生論」仙頭正四郎　農文協

●臨床的な治療内容を含む

「入門漢方医学」 日本東洋医学会学術教育委員会　編集　南江堂

「症例から学ぶ和漢診療学 2 版」 寺澤 捷年著　医学書院

「改訂・中医学基礎」上海中医学院編　神戸中医学研究会訳　燎原

「簡明　漢方医学」三重大学　東洋医学研究会

参照ホームページ

http://www.jtcma.org/

http://www.jsom.or.jp/

連絡先

k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp

時間割番号	011086				
科目名	東洋医学				
担当教員	下門 顯太郎				
開講時期	通年(秋)	**対象年次**	2～3	**単位数**	1
準備学習などについての具体的な指示					
連絡先 k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp					

時間割番号	011095				
科目名	研究実践プログラム				
担当教員	中田　隆夫				
開講時期	前期	対象年次	2～6	単位数	10

英文名：Research Training Program

授業の目的、概要等

第３学年開始時に、講義形式の教室（研究室）紹介を行い、その後配属先を登録する。
配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。
定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

授業の到達目標(SBOs)

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会は多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1	4/7	14:20-15:40	医学科講義室１	中田　隆夫
2	4/8	14:20-15:40	医学科講義室１	
3	4/9	14:20-15:40	症例検討室	
4	4/10	14:20-15:40	症例検討室	
5	4/13	14:20-15:40	医学科講義室１	
6	4/14	14:20-15:40	医学科講義室１	
7	4/15	14:20-15:40	医学科講義室１	
8	4/16	14:20-15:40	症例検討室	
9	4/17	15:50-17:10	医学科講義室１	

成績評価の方法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は，５月上旬（５日間程度）
に設定された履修登録期間内に，教務課にて履修登録を行ってください。
「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが，履修
登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ
辞退したものとみなします。
「研究実践プログラム」は毎年履修しても，一旦中断し，翌年度以降再度履修しても構
いません。但し，最終的な単位認定は第6学年終了後，履修した期間・これまでの評価を
基に「秀　優　良　可　（不可）」の評価及び単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

準備学習などについての具体的な指示

それぞれの指導教員の指示に従う。

教科書

受け入れ分野に相談のこと。

参考書

受け入れ分野に相談のこと。

連絡先
nakata.cbio@tmd.ac.jp

時間割番号	011096				
科目名	地域医療学習プログラム				
担当教員	久保田　俊郎				
開講時期	通年	対象年次	1～6	単位数	1

授業の目的、概要等

地域特別枠にて入学した学生は，年数回（自治体により異なる）実施される研修に参加することを義務づける他，各県を担当する教員（長野県：太田伸生教授，茨城県：宮坂尚幸寄附講座教授）と密に連絡をとり，各県の地域医療に関する現状を常に把握すること。

成績評価の方法

地域特別枠学生：各自治体が主催する研修（夏季地域医療プログラム等）への参加

上記以外：レポートなど。

自治体が設けたプログラムに参加し，出席が確認された場合は単位を付加する。選択科目とし，卒業要件単位数に含めない。4時間×年2回×6年（モデルケース）で 1.0 単位

単位認定は最終学年終了時に行い，それまでの実績を踏まえ総合的に判断する。

準備学習などについての具体的な指示

教科書

特になし

参考書

特になし

参照ホームページ

特になし

第3学年

時間割番号	011046				
科目名	腫瘍学				
担当教員	山本 浩平				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	1

主な講義場所

3 号館医学科講義室 2、3 号館 4 階学生実習室

授業の目的、概要等

この科目は1週間の間に講義と実習全てを集中して、「腫瘍学ブロック」として授業が行われる。この科目は、腫瘍とは何かという問題に始まり、腫瘍の特徴を病理学、分子生物学、疫学など様々な視点から概観することを目的とする。診断や治療などの臨床的側面についてはこの授業科目では扱わず、後に臨床各科やクリニカルクラークシップなどにおいて扱われる。

授業の到達目標(SBOs)

腫瘍学ブロックを通して以下のキーワードを基礎医学的および臨床医学的な面から理解することを目標とする。

【キーワード】

良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、癌腫、肉腫、浸潤、転移、遺伝子変化、癌組織発生

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/6	09:00-10:00	医学科講義室 2	遺伝子変化と癌①	秋山 好光
2	4/6	10:10-12:20	医学科講義室 2	大教室 PBL	秋田 恵一, 山本 浩平
3	4/6	13:30-14:30	医学科講義室 2	腫瘍の形態と良悪性	北川 昌伸
4	4/6	14:40-15:40	医学科講義室 2	腫瘍の発育, 進展	北川 昌伸
5	4/7	09:00-10:00	症例検討室	発癌原因〈放射線と癌〉	吉村 亮一
6	4/7	10:10-12:20	4 階学生実習室	実習	大西 威一郎, 山本 浩平
7	4/7	13:30-14:30	医学科講義室 2	腫瘍マーカー	東田 修二
8	4/7	14:40-15:40	医学科講義室 2	発癌原因〈ウイルスと癌〉	北川 昌伸
9	4/8	09:00-10:00	医学科講義室 2	癌の疫学	木津喜 雅
10	4/8	10:10-12:20	医学科講義室 2	大教室 PBL	山本 浩平
11	4/8	13:30-14:30	医学科講義室 2	腫瘍の発生と分類	江石 義信
12	4/8	14:40-15:40	医学科講義室 2	遺伝子変化と癌②	秋山 好光
13	4/9	13:30-14:30	医学科講義室 2	遺伝性疾患と腫瘍	島田 周
14	4/9	14:40-15:40	医学科講義室 2	発がん物質	田中 真二
15	4/10	09:00-10:00	症例検討室	癌と分化	深町 博史
16	4/10	10:10-12:20	4 階学生実習室	実習	山本 浩平

17-18	4/10	13:30-15:40	医学科講義室2	大教室PBL まとめ	山本 浩平	

授業方法

ブロック期間中3回の PBL を軸とし、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、また顕微鏡自習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。

授業内容

授業スケジュール参照のこと。

成績評価の方法

PBL および講義の出席およびブロック終了後に行われる筆記テストによって評価を行う。

成績評価の基準

大学の評価要綱に基づいて行う。

準備学習などについての具体的な指示

腫瘍学は正常の組織。器官から生じる腫瘍性変化について深く知る学問であり、これを習得するためにはこれまでに学習した解剖学、組織学、生理学等の基礎系分野の知識が必要不可欠である。そのため、これらの知識を再確認したうえで腫瘍学ブロックに取り組むことが望まれる。

教科書

腫瘍に関する全体を腫瘍学としてまとめてある教科書はない。腫瘍学は病理学総論と臨床各科の教科書の腫瘍部分を参考にされたい。

他科目との関連

病理学、内科学、外科学など腫瘍を扱う基礎・臨床学全般。

連絡先

山本 浩平:yamamoto.pth2@tmd.ac.jp

時間割番号	011047				
科目名	法医学				
担当教員	上村　公一				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	1.5

準備学習などについての具体的な指示

基本的な人体の解剖学用語を理解しておく。

参考書

現代の法医学／永野耐造, 若杉長英 編集.:金原出版, 1998

NEW エッセンシャル法医学 = New Essentials of Forensic Medicine／髙取健彦 監修,長尾正崇, 中園一郎, 山内春夫 編.:医歯薬出版, 2012

NEW 法医学・医事法／勝又義直, 鈴木修 編.:南江堂, 2008

標準法医学／石津日出雄, 高津光洋 監修,池田典昭, 鈴木廣一 編集.:医学書院, 2013

連絡先

kuemura.legm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週　木曜日　AM10:00-PM1:00

時間割番号	011048		
科目名	法医学		
担当教員	上村 公一		
開講時期	前期	対象年次	3

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/13	09:00-10:20	医学科講義室2	法医学総論　死体現象 損傷(1)	損傷総論、生活反応	上村 公一
2	4/14	10:30-11:50	医学科講義室2	死亡診断書・死体検案書	(演習含む)	上村 公一
3	4/14	12:50-14:10	医学科講義室2	中毒学(1)	総論	秋 利彦
4	4/14	14:20-15:40	医学科講義室2	個人識別(1)	骨からの物体検査	船越 丈司
5	4/15	09:00-10:20	症例検討室	損傷(2)	鋭器、鈍器、銃器	上村 公一
6	4/15	10:30-11:50	症例検討室	法歯学(1)	法歯学総論	櫻田 宏一
7	4/15	12:50-14:10	医学科講義室2	損傷(3)	交通外傷、頭部外傷	上村 公一
8	4/16	12:50-14:10	医学科講義室2	法歯学(2)	歯科法医学(法歯学)	小室 歳信
9	4/16	14:20-15:40	医学科講義室2	個人識別(2)	血液型 DNA 型とその応用	竹下 治男
10	4/20	12:50-14:10	医学科講義室2	中毒学(2)	各論(乱用薬物、薬物分析、他)	秋 利彦, 船越 丈司
11	4/20	14:20-15:40	医学科講義室2	中毒学(3)	臨床中毒学、症例	上村 公一, 鵜沼 香奈
12	4/21	12:50-14:10	医学科講義室2	法医学特論	歯からの年齢推定	大谷 進
13	4/21	14:20-15:40	医学科講義室2	環境異常、胎・嬰児、性犯罪	(焼死、凍死、他)	鵜沼 香奈
14	4/23	12:50-14:10	医学科講義室2	特別講義	アルコール生物医学	吉本 寛司
15	4/24	10:30-11:50	症例検討室	窒息(1)	総論	上村 公一
16	5/8	09:00-10:20	医学科講義室2	窒息(2)	各論(縊頸、絞頸、扼頸、溺死、他)	上村 公一
17	5/20	10:30-11:50	医学科講義室2	法医学試験		上村 公一

準備学習などについての具体的な指示

基本的な人体の解剖学用語を理解しておく。

参考書

現代の法医学／永野耐造, 若杉長英 編集,：金原出版, 1998

NEW エッセンシャル法医学 = New Essentials of Forensic Medicine／髙取健彦 監修,長尾正崇, 中園一郎, 山内春夫 編,：医歯薬出版, 2012

NEW 法医学・医事法／勝又義直, 鈴木修 編,：南江堂, 2008

標準法医学／石津日出雄, 高津光洋 監修,池田典昭, 鈴木廣一 編集,：医学書院, 2013

連絡先

kuemura.legm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週　木曜日　AM10:00-PM1:00

時間割番号	011049		
科目名	法医学実習		
担当教員	上村　公一		
開講時期	前期	**対象年次**	3

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-3	4/27	12:50-17:10	5 階学生実習室	法医学実習(1)	死体検案書作成・症例検討(1)	上村　公一, 秋　利彦, 鵜沼　香奈, 船越　丈司
4-6	4/28	12:50-17:10	5 階学生実習室	法医学実習(2)	アルコール(1)・症例検討(2)	上村　公一, 秋　利彦, 鵜沼　香奈, 船越　丈司
7-9	4/30	12:50-17:10	5 階学生実習室	法医学実習(3)	アルコール(2)・症例検討(3)	上村　公一, 秋　利彦, 鵜沼　香奈, 船越　丈司

準備学習などについての具体的な指示

「法医学」の授業を理解しておく。

連絡先

kuemura.legm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週　木曜日　AM10:00-PM1:00

時間割番号	011050				
科目名	衛生学				
担当教員	田中 真二, 秋山 好光				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	1.5

Hygiene

主な講義場所

3号館3階医学科講義室2

授業の目的、概要等

衛生学

授業の到達目標(SBOs)

衛生学は人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる能力を養成する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/13	10:30-11:50	医学科講義室2	衛生学序論	田中 真二
2	4/17	12:50-14:10	医学科講義室2	大気汚染	深町 博史
3	4/17	14:20-15:40	医学科講義室2	水質汚染	秋山 好光
4	4/20	10:30-11:50	医学科講義室2	化学物質のヒトへの健康影響	森 千里
5	4/24	12:50-14:10	医学科講義室2	化学物質の環境リスク解析	吉田 喜久雄
6	4/24	14:20-15:40	医学科講義室2	スポーツ医学	柳下 和慶
7	4/27	09:00-10:20	医学科講義室2	食品衛生	五十君 靜信
8	4/27	10:30-11:50	医学科講義室2	循環器病の疫学	小久保 喜弘
9	5/1	09:00-10:20	医学科講義室2	悪性腫瘍	田中 真二
10	5/1	10:30-11:50	医学科講義室2	ヒ素の環境汚染と毒性	平野 靖史郎
11	5/7	12:50-14:10	医学科講義室2	感染症(1)	湯浅 保仁
12	5/8	12:50-14:10	医学科講義室2	感染症(2)	湯浅 保仁
13	5/19	10:30-11:50	医学科講義室2	試験	田中 真二

授業方法

講義と実習

授業のキーワード:地球環境、酸性雨、オゾンホール、大気汚染、水質汚染、水俣病、環境リスク、ヒ素、上水道、下水道、温熱条件、感染症、エイズ、日和見感染、食中毒、金属アレルギー、有機溶剤、喫煙、変異原性試験、職業癌、遺伝子診断、スポーツ医学

授業内容

1. 衛生学の講義内容は環境と感染症を中心とする。

2. 衛生学実習では、環境測定・変異原性試験・遺伝子解析などの実習を行う。

3. 担当者(専門領域)

教授:田中真二(衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断)

講師:秋山好光、深町博史(同上)

助教:島田周(同上)

非常勤講師:湯浅保仁(感染症)、吉田喜久雄(環境リスク)、五十君靜信(食中毒)、平野靖史郎(ヒ素)、森千里(化学物質の健康影響)、小久保喜弘(循環器病の疫学)

特別講義(学内):柳下和慶(スポーツ医学)

成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習については、レポート・口頭発表で判定する。

成績評価の基準

筆答試験、レポート・口頭発表

準備学習などについての具体的な指示

指定した教科書、参考書を読んでおく。次回の講義の担当者の専門とその関連するキーワードをもとに、基本的な事項を理解しておく。

構成ユニット

教授:田中真二(衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断)

講師:秋山好光、深町博史(同上)

助教:島田周(同上)

教科書

「NEW 予防医学・公衆衛生学」改定第 3 版　岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編集　南江堂 2012

「標準公衆衛生・社会医学」第 2 版　岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集　医学書院　2009

参考書

「国民衛生の動向 2014/2015 年」(財)厚生統計協会　2014

「沈黙の春」レイチェル？カーソン著, 青木梁一訳　新潮社　2008

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill Medical Publishing, 2008

他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

履修上の注意事項

衛生学では常に新たな内容が付加され、また最新のデータを常に把握する必要があるので必ず講義に出席すること。実習も見学や実験など貴重な機会が用意されるので必ず受けること。グループ選択実習では積極的に課題に取り組む姿勢を培ってほしい。

参照ホームページ

厚生労働省:http://www.mhlw.go.jp/

環境省:http://www.env.go.jp/

国立感染症研究所:http://www.nih.go.jp/niid/ja/

時間割番号	011051		
科目名	衛生学		
担当教員	田中 真二, 秋山 好光		
開講時期	前期	対象年次	3

Hygiene

主な講義場所

3号館3階医学科講義室2

授業の目的、概要等

衛生学

授業の到達目標(SBOs)

衛生学は人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる能力を養成する。

授業方法

講義と実習

授業のキーワード:地球環境、酸性雨、オゾンホール、大気汚染、水質汚染、水俣病、環境リスク、ヒ素、上水道、下水道、温熱条件、感染症、エイズ、日和見感染、食中毒、金属アレルギー、有機溶剤、喫煙、変異原性試験、職業癌、遺伝子診断、スポーツ医学

授業内容

1. 衛生学の講義内容は環境と感染症を中心とする。
2. 衛生学実習では、環境測定・変異原性試験・遺伝子解析などの実習を行う。
3. 担当者(専門領域)

教授:田中真二(衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断)
講師:秋山好光、深町博史(同上)
助教:島田周(同上)
非常勤講師:湯浅保仁(感染症)、吉田喜久雄(環境リスク)、五十君靜信(食中毒)、平野靖史郎(ヒ素)、森千里(化学物質の健康影響)、小久保喜弘(循環器病の疫学)
特別講義(学内):柳下和慶(スポーツ医学)

成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習については、レポート・口頭発表で判定する。

成績評価の基準

筆答試験、レポート・口頭発表

準備学習などについての具体的な指示

指定した教科書、参考書を読んでおく。次回の講義の担当者の専門とその関連するキーワードをもとに、基本的な事項を理解しておく。

構成ユニット

教授:田中真二(衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断)
講師:秋山好光、深町博史(同上)
助教:島田周(同上)

教科書

「NEW 予防医学・公衆衛生学」改定第 3 版 岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編集 南江堂 2012
「標準公衆衛生・社会医学」第 2 版 岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集 医学書院 2009

参考書

「国民衛生の動向 2014/2015 年」(財)厚生統計協会 2014
「沈黙の春」レイチェル？カーソン著, 青木梁一訳 新潮社 2008

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill Medical Publishing, 2008

他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

履修上の注意事項

衛生学では常に新たな内容が付加され、また最新のデータを常に把握する必要があるので必ず講義に出席すること。実習も見学や実験など貴重な機会が用意されるので必ず受けること。グループ選択実習では積極的に課題に取り組む姿勢を培ってほしい。

参照ホームページ

厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

環境省：http://www.env.go.jp/

国立感染症研究所：http://www.nih.go.jp/niid/ja/

時間割番号	011052		
科目名	衛生学実習		
担当教員	田中 真二, 秋山 好光		
開講時期	前期	対象年次	3

Hygiene

主な講義場所

3号館5階学生実習室

授業の目的、概要等

衛生学実習

授業の到達目標(SBOs)

衛生学は人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる能力を養成する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-3	5/11	12:50-17:10	5階学生実習室	①環境測定、②変異原性試験、③遺伝子解析	秋山 好光, 深町 博史, 島田 周, 田中 真二
4-6	5/12	12:50-17:10	5階学生実習室	①環境測定、②変異原性試験、③遺伝子解析	秋山 好光, 深町 博史, 島田 周, 田中 真二
7-9	5/13	12:50-17:10	5階学生実習室	①環境測定、②変異原性試験、③遺伝子解析	秋山 好光, 深町 博史, 島田 周, 田中 真二
10-12	5/14	12:50-17:10	5階学生実習室	①環境測定、②変異原性試験、③遺伝子解析	秋山 好光, 深町 博史, 島田 周, 田中 真二
13-15	5/15	12:50-17:10	5階学生実習室	①環境測定、②変異原性試験、③遺伝子解析	秋山 好光, 深町 博史, 島田 周, 田中 真二

授業方法

講義と実習

授業のキーワード:地球環境、酸性雨、オゾンホール、大気汚染、水質汚染、水俣病、環境リスク、ヒ素、上水道、下水道、温熱条件、感染症、エイズ、日和見感染、食中毒、金属アレルギー、有機溶剤、喫煙、変異原性試験、職業癌、遺伝子診断、スポーツ医学

授業内容

1. 衛生学の講義内容は環境と感染症を中心とする。
2. 衛生学実習では、環境測定・変異原性試験・遺伝子解析などの実習を行う。
3. 担当者(専門領域)

教授:田中真二(衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断)

講師:秋山好光、深町博史(同上)

助教:島田周(同上)

成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習については、レポート・口頭発表で判定する。

準備学習などについての具体的な指示

指定した教科書、参考書を読んでおく。次回の講義の担当者の専門とその関連するキーワードをもとに、基本的な事項を理解しておく。

構成ユニット

教授：田中真二（衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断）

講師：秋山好光、深町博史（同上）

助教：島田周（同上）

教科書

「NEW 予防医学・公衆衛生学」改定第 3 版　岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編集　南江堂 2012

「標準公衆衛生・社会医学」第1版　岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集　医学書院　2007

参考書

「国民衛生の動向 2014/2015 年」(財)厚生統計協会　2014

「奪われし未来」オズボーン他著　翔泳社　2001

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill Medical Publishing, 2008

他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

履修上の注意事項

衛生学では常に新たな内容が付加され、また最新のデータを常に把握する必要があるので必ず講義に出席すること。実習も見学や実験など貴重な機会が用意されるので必ず受けること。グループ選択実習では積極的に課題に取り組む姿勢を培ってほしい。

参照ホームページ

厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

環境省：http://www.env.go.jp/

国立感染症研究所：http://www.nih.go.jp/niid/ja/

時間割番号	011053				
科目名	社会医学				
担当教員	上村 公一				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	1.5

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/13	12:50-14:10	医学科講義室2	法と医療制度(1)	医療制度に関する基本法規	河原 和夫
2	4/13	14:20-15:40	医学科講義室2	法と医療制度(2)	保健・福祉・介護分野の関連法規	河原 和夫
3	4/14	09:00-10:20	医学科講義室2	法と医療制度(3)	死因究明制度	上村 公一
4	4/15	14:20-15:40	医学科講義室2	国際保健医療(1)	国際協力における社会医学の視点	中村 桂子
5	4/17	09:00-10:20	医学科講義室2	国際保健医療(2)	多国間交流と協力	中村 桂子
6	4/17	10:30-11:50	医学科講義室2	国際保健医療(3)	NTD(顧みられない熱帯感染症)対策に関する国際連携について	太田 伸生
7	4/20	09:00-10:20	医学科講義室2	医事法(1)	臨床家の立場からみた医療事故	長野 展久
8	4/21	09:00-10:20	医学科講義室2	国際保健医療(4)	熱帯医学とフィールドワーク	赤尾 信明
9	4/21	10:30-11:50	医学科講義室2	虐待関係(1)	小児の精神保健医療	横山 恭子
10	4/22	12:50-14:10	医学科講義室2	福祉・地域連携(1)	生活習慣病と健康	泉山 肇
11	4/22	14:20-15:40	医学科講義室2	福祉・地域連携(2)	医療機関の機能分化	泉山 肇
12	4/23	14:20-15:40	医学科講義室2	虐待関係(2)	児童虐待、乳幼児突然死	澤口 聡子
13	4/24	09:00-10:20	症例検討室	福祉・地域連携(3)	地域社会と保健医療福祉の連携	大原 昌樹
14	5/1	12:50-14:10	医学科講義室2	国際保健医療(5)	地球環境問題	田中 真二
15	5/1	14:20-15:40	医学科講義室2	医事法(2)	刑事事件としての医療事故	奥津 康祐
16	5/8	10:30-11:50	医学科講義室2	医事法(3)	民事事件としての医療事故	辻村 貴子
17	5/20	12:50-14:10	医学科講義室2	社会医学試験		上村 公一

授業方法

講義(系統的講義および応用的講義)を行う。

成績評価の方法

試験(5者択一形式問題)による。

準備学習などについての具体的な指示

復習をきちんとすること。他の社会医学系の科目(公衆衛生学、衛生学、法医学、医動物学、等)と密接に関連している。

教科書

特に指定しない。

参考書

社会医学事典／高野健人 [ほか]編.:朝倉書店, 2002

事例に学ぶ法医学・医事法／吉田謙一 著,:有斐閣, 2010

連絡先

kuemura.legm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週　木曜日　AM10:00−PM1:00

時間割番号	011055		
科目名	公衆衛生学(M3)		
担当教員	中村 桂子		
開講時期	前期	対象年次	3

英文名：Public Health

主な講義場所

3 号館 3 階 医学科講義室 2

授業の目的、概要等

医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると、公衆衛生学は典型的な社会医学である。つまり、医学にあって特にその社会性に注目して、健康の仕組み、疾病の成立ち、予防の方法、医療のあり方などを扱う学問である。そこでは、決して単一の視座からのみ事象を解析することなく、多数の視点から様々な方法論を応用して解析し、社会における問題の所在とその構造を明らかにし、組織的な努力によって問題の解決をはかろうとするものである。

授業の到達目標(SBOs)

知識・技能・態度（attitude）という三種類のバランスのとれた基礎能力を養うことが卒前教育の目的である。なかでも、学生が今後自らの行う医学・医療を人間社会のなかにおいて位置づけ、問題の所在の把握とその解決能力を備えた public health mind を獲得することを授業の目標としている。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/22	09:00-10:20	医学科講義室 2	公衆衛生学総論	中村 桂子
2	4/22	10:30-11:50	医学科講義室 2	疫学の概念と研究デザイン	木津喜 雅
3	4/28	09:00-10:20	医学科講義室 2	公衆衛生危機管理（1）	木津喜 雅
4	4/28	10:30-11:50	医学科講義室 2	産業保健	髙野 健人
5	5/11	09:00-10:20	医学科講義室 2	国民栄養と食品保健	吉池 信男
6	5/11	10:30-11:50	医学科講義室 2	母子保健	山縣 然太朗
7	5/12	09:00-10:20	医学科講義室 2	ヘルスプロモーション・健康行動科学（1）	中村 桂子
8	5/12	10:30-11:50	医学科講義室 2	ヘルスプロモーション・健康行動科学（2）	中村 桂子
9	5/13	09:00-10:20	医学科講義室 2	国際保健	藤田 則子
10	5/13	10:30-11:50	医学科講義室 2	公衆衛生危機管理（2）	中村 桂子
11	5/15	09:00-10:20	症例検討室	地域保健・地域医療（1）	中村 桂子
12	5/15	10:30-11:50	症例検討室	地域保健・地域医療（2）	中村 桂子
13	5/22	10:30-11:50	特別講堂	試験	中村 桂子

授業方法

公衆衛生学の教育プログラムは、第3学年での公衆衛生学講義、第4学年での公衆衛生学実習からなっている。

生涯にわたって医師としての専門職に必要な公衆衛生学の基礎能力を養い、能動的な学習態度、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に関する問題を現実に解決に導くための問題解決能力を開発する教育プログラムが用意されている。

授業内容

一般に公衆衛生学で扱う内容は、以下の項目である。

（Ⅰ.保健医療論）1.公衆衛生学の歴史、2.健康の概念と認識、3.健康と環境の相互影響、4.健康決定因子、5.人間居住環境、6.国際保健、7.地域保健・地域医療、8.都市保健、9.保健・医療・福祉の連携、10.保健・医療・福祉の制度・行政と資源、11.社会保障制度と医療経済、12.保健・医療・福祉関係法規、（Ⅱ.予防と健康増進）13.衛生統計・多変量解析、14.疫学、15.ヘルスプロモーション、16.健康教育、17.健康管理、18.生活習慣と健康、19.母子保健、20.成人・高齢者保健、21.学校保健、22.精神保健、23.産業医学・産業保健、24.環境中毒学、25.環境汚染と健康影響、26.環境保健・地球環境問題、27.食品保健・食生活と健康影響、28.感染症対策

公衆衛生学講義では、これらすべてを扱う時間がないが、医学系 CBT・OSCE および医師国家試験における要求や、卒後の研修、また医師としての業務の社会性をふまえるならば、各自の自己学習におうところが大きい。

成績評価の方法

基礎的な知識の獲得の評価と技能の獲得の評価は、最終筆記試験の結果により行う。態度の評価は、講義への参加態度をもって行う。

成績評価の基準

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度（attitude）、つまり自ら積極的に public health mind をもって学習に取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。

準備学習などについての具体的な指示

以下のキーワードについて調べておくこと。

（授業のキーワード）

医師法；医療法；地域保健法；地域医療計画；保健所；市町村保健センター；公費医療制度；高齢者医療制度；国民医療費；社会保障制度；国民皆保険制度；診療報酬制度；産業医；健康管理；作業環境管理；作業管理；労働基準法；労働安全衛生法；じん肺法；生物学的モニタリング；許容濃度と管理濃度；業務上疾病；労働災害；世界保健機関（WHO）；国際労働機構（ILO）；非政府組織（NGO）；特定非営利活動法人（NPO）；国連ミレニアム開発目標（MDG）；プライマリヘルスケア；ヘルスプロモーション；ライフスタイル；健康教育・学習；特定健康診査・特定保健指導；健康決定因子；リスクファクター；居住環境；ポピュレーションストラテジー；健康支援環境；ヘルシーシティープロジェクト；ソーシャルキャピタル；国際疾病分類；健康指標；障害調整生存年（DALY）；人口動態統計；国民生活基礎調査；患者調査；国民健康・栄養調査；罹患率；有病率；年齢調整；相対危険度；寄与危険度；オッズ比；コホート研究；症例対象研究；介入研究；ランダム化比較試験；横断研究；サーベイランス；バイアス；交絡因子；費用効果分析；ソーシャルコスト；地域医療連携；地域医療支援病院；地域包括支援センター；在宅ケア；エンドオブライフケア；地域包括医療；地域連携クリティカルパス；救急医療機関；災害拠点病院；災害派遣医療チーム（DMAT）；介護保険制度；介護保険施設；学校保健安全法；学校医；ノーマライゼーション；母子保健法；健やか親子 21；母子健康手帳；精神保健福祉法；感染症法；予防接種法；老人福祉法；生活保護法；児童福祉法；児童虐待；障害者基本法；知的障害者福祉法；感染症発生動向調査；環境基本法；環境影響評価；食品衛生法；都市計画；健康増進法；健康日本 21；がん対策基本法

参考書

Oxford Textbook of Public Health (5 ed.)／Roger Detels, Robert Beaglehole, Mary Ann Lansang, and Martin Gulliford：Oxford University Press, 2011

Maxey-Rosenau-Last Public Health and Preventive Medicine (15 ed.)／Robert Wallace：McGraw-Hill Medical, 2007

Healthy Cities and Urban Policy Research／Takehito Takano：Routledge, 2003

Social Determinants of Health (2 ed.)／Michael Marmot and Richard G. Wilkinson：Oxford University Press, 2005

健康という幻想 : 医学の生物学的変化／ルネ デュボス 著,田多井吉之介 訳デュボス, ルネ,：紀伊國屋書店, 1987

A Dictionary of Epidemiology. 6th ed.／International Epidemiological Association：Oxford University Press, 2014

SARS いかに世界的流行を止められたか／WHO 西太平洋地域事務局：結核予防会, 2007

厚生の指標 増刊 国民衛生の動向／厚生労働統計協会：厚生労働統計協会, 毎年

厚生労働白書／厚生労働省：日経印刷, 毎年

World Health Report／World Health Organization：World Health Organization, 毎年

Theory at a Glance ？ A Guide For Health Promotion Practice (Second Edition) U.S. Department of Health and Human Services, National Institutes of Health, National Cancer Institute, 2005

他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

履修上の注意事項

自主性と新鮮な問題意識を持って参加すること。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につける。

参照ホームページ

政府統計の総合窓口（e-Stat） http://www.e-stat.go.jp/

厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/

東京都福祉保健局 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/

世界保健機関（WHO） http://www.who.int/

連絡先

nakamura.ith@tmd.ac.jp

時間割番号	011056		
科目名	東洋医学(M3)		
担当教員	下門 顯太郎		
開講時期	前期	対象年次	3

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/24	15:50-17:10	医学科講義室2	東洋医学的治療の実際1	頼 建守
2	5/1	15:50-17:10	医学科講義室2	東洋医学的治療の実際2(漢方薬でガンなどの慢性疾患に如何に対処するか)	小高 修司
3	5/7	14:20-15:40	医学科講義室2	現代医療と東洋医学	別府 正志
4	5/8	14:20-15:40	医学科講義室2	現代医療と東洋医学	別府 正志
5	5/22	12:50-14:10	特別講堂	東洋医学試験	

準備学習などについての具体的な指示

連絡先

k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp

時間割番号	011057				
科目名	臨床医学導入				
担当教員	東田 修二, 奈良 信雄, 立石 宇貴秀				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	1

主な講義場所

3号館3階医学科講義室2

授業の目的、概要等

臨床各ブロックの導入として、臨床検査と画像診断に関する総論的な講義を中心に学習を進める。臨床検査と画像診断に関連するミニケースを提示し、講義で扱った内容の確認と応用をはかる。

授業の到達目標(SBOs)

1)検査の基準値、カットオフ値、感度、特異度の意味を説明できる。

2)血液学的検査、生化学検査、免疫学的検査、尿・便・脳脊髄液検査の結果を解釈できる。3)感染症(細菌、ウイルス)検査の適応を説明し、結果を解釈できる。

4)輸血検査の結果の解釈と、血液製剤の種類と使い分け、副作用を説明できる。

5)心電図、呼吸機能検査の結果を解釈できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	備考
1	5/25	09:00-10:20	医学科講義室2	基礎医学復習(小テスト) 臨床検査総論	伊藤 真以	9:00-9:40 小テスト 9:40-10:20 講義
2	5/25	10:30-11:50	医学科講義室2	生理検査	東條 尚子	
3	5/25	12:50-14:10	医学科講義室2	輸血総論	梶原 道子	
4	5/25	14:20-15:40	医学科講義室2	血液学的検査	東田 修二	
5	5/26	09:00-10:20	医学科講義室2	感染症検査	東田 修二	
6	5/26	10:30-11:50	医学科講義室2	免疫血清学検査	佐藤 和人	
7	5/26	12:50-14:10	医学科講義室2	生化学検査	東田 修二	
8	5/26	14:20-15:40	医学科講義室2	尿・便・脳脊髄液検査、遺伝子検査など	東田 修二	
9	5/27	09:00-10:20	医学科講義室2	画像診断 総論 (基礎小テスト含む)	立石 宇貴秀	
10	5/27	10:30-11:50	医学科講義室2	胸部画像診断	立石 宇貴秀	
11	5/27	12:50-14:10	医学科講義室2	骨盤画像診断	北詰 良雄	
12	5/27	14:20-15:40	医学科講義室2	ミニケース	東田 修二, 藤岡 友之	14:20-15:00 臨床検査 15:00-15:40 画像診断
13	5/28	12:50-14:10	医学科講義室2	神経放射線	中館 雅志	
14	5/28	14:20-15:40	医学科講義室2	IVR	岸野 充浩	
15	5/29	09:00-10:20	医学科講	核医学	鳥井原 彰	

			義室2				
16	5/29	10:30-11:50	医学科講義室2	腹部画像診断	藤岡 友之		
17-18	5/29	12:50-15:40	医学科講義室2	評価(筆記試験:臨床検査医学)	伊藤 真以		

授業方法

1)講義

2)提示症例をもとにした討論

授業内容

授業スケジュール表を参照

成績評価の方法

金曜午後の筆記試験(MCQ)により評価を行う。月曜1限の基礎確認テストの成績も参考にする。

成績評価の基準

100 点中 60 点以上を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

これまでに学んだ基礎医学(生化学、免疫学、細菌・ウイルス学、生理学など)のうち、臨床検査に関わる内容を復習しておくこと。

参考書

臨床検査ガイド Medical Practice 編集委員会編 文光堂

これだけは知っておきたい検査のポイント Medicina 増刊号 医学書院

臨床検査値ポケットガイドブック 奈良信雄著 中山書店

など

他科目との関連

基礎医学、臨床医学のすべての分野と関連するので、他科目の知識を応用すること。

履修上の注意事項

検査の意義、解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも参考書をよく読んで理解を深めておくこと。

連絡先

奈良 信雄:nara.mlab@tmd.ac.jp

立石 宇貴秀:radiology.mrad@tmd.ac.jp

オフィスアワー

奈良 信雄:毎週月～金 9:30～16:00 M&D タワー10 階 S1053 室

立石 宇貴秀:毎週月～金 9:30～16:00 M&D タワー9 階 S964 室

時間割番号	011058				
科目名	循環器				
担当教員	磯部 光章				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	3

Cardiovascular Medicine

主な講義場所

3 号館 2 階、医学科講義室 2

授業の目的、概要等

このコースは広く循環器疾患の基礎的事項、検査法、疾患について学び、さらに代表的な症候を呈した循環器疾患の臨床例から、その臨床症状の成り立ち、背景、病態、診断への道筋、治療法の考え方など様々な側面を学習することを目的としている。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	6/1	09:00-10:20	医学科講義室 2	基礎医学復習	小テスト等	磯部 光章
2	6/1	10:30-11:50	医学科講義室 2	循環器疾患の病理	都立広尾病院	田中 道雄
3	6/1	12:50-14:10	医学科講義室 2	循環生理学/薬理学		白井 康大
4	6/2	09:00-10:20	医学科講義室 2	循環器総論		磯部 光章
5	6/2	10:30-11:50	医学科講義室 2	循環器症候学		平尾 見三
6	6/2	12:50-14:10	医学科講義室 2	身体所見		植島 大輔
7	6/3	09:00-10:20	医学科講義室 2	不整脈Ⅰ(基礎)		古川 哲史
8	6/3	10:30-11:50	医学科講義室 2	心電図		川端 美穂子
9	6/3	12:50-14:10	医学科講義室 2	心筋疾患Ⅰ		前嶋 康浩
10	6/4	12:50-14:10	医学科講義室 2	画像診断/心エコー、心筋シンチ		東 亮子
11	6/4	14:20-15:40	医学科講義室 2	心不全	秋田大学	伊藤 宏
12	6/5	09:00-10:20	医学科講義室 2	心臓カテーテル検査、電気生理検査		佐々木 毅
13	6/5	10:30-11:50	医学科講義室 2	大動脈疾患		川端 美穂子
14	6/5	12:50-14:10	医学科講義室 2	心筋疾患Ⅱ		前嶋 康浩
15	6/8	09:00-10:20	医学科講義室 2	不整脈Ⅱ(頻脈)		平尾 見三
16	6/8	10:30-11:50	医学科講義室 2	不整脈Ⅲ(徐脈)		合屋 雅彦
17	6/8	12:50-14:10	医学科講義室 2	虚血性心疾患Ⅰ(内科)		秦野 雄
18	6/8	14:20-15:40	医学科講義室 2	虚血性心疾患Ⅱ(内科)		足利 貴志
19	6/9	09:00-10:20	医学科講	循環器外科総論/病態生		荒井 裕国

			義室２	理と外科治療総論			
20	6/9	10:30-11:50	医学科講義室２	先天性心疾患Ⅰ		土井 庄三郎	
21	6/9	12:50-14:10	医学科講義室２	先天性心疾患Ⅱ		土井 庄三郎	
22	6/9	14:20-15:40	医学科講義室２	動脈疾患Ⅰ 動脈瘤系		豊福 崇浩	
23	6/10	09:00-10:20	医学科講義室２	虚血性心疾患Ⅲ（外科）		水野 友裕	
24	6/10	10:30-11:50	医学科講義室２	先天性心疾患Ⅲ		土井 庄三郎	
25	6/10	12:50-14:10	医学科講義室２	先天性心疾患Ⅳ（心エコー、カテーテル治療）		土井 庄三郎	
26	6/10	14:20-15:40	医学科講義室２	動脈疾患Ⅱ 閉塞性動脈疾患		井上 芳徳	
27	6/11	12:50-14:10	医学科講義室２	弁膜症（内科）		吉川 俊治	
28	6/11	14:20-15:40	医学科講義室２	小児循環器外科治療		八島 正文	
29	6/12	09:00-10:20	医学科講義室２	弁膜症 外科治療		水野 友裕	
30	6/12	10:30-11:50	医学科講義室２	感染性心内膜炎、心膜疾患		田尾 進	
31	6/12	12:50-14:10	医学科講義室２	肺循環		篠岡 太郎	
32	6/15	09:00-10:20	医学科講義室２	静脈疾患・リンパ疾患		豊福 崇浩	
33	6/15	12:50-14:10	医学科講義室２	ミニケース１ 失神		磯部 光章	
34	6/15	14:20-15:40	医学科講義室２	ミニケース２ めまい、動悸		合屋 雅彦	
35	6/16	09:00-10:20	医学科講義室２	体外循環、補助循環、人工心臓、心臓移植		荒井 裕国	
36	6/16	10:30-11:50	医学科講義室２	ミニケース３ 発熱		磯部 光章	
37	6/16	12:50-14:10	医学科講義室２	ミニケース４ 間欠性跛行		井上 芳徳	
38	6/16	14:20-15:40	医学科講義室２	ミニケース５ 腹痛		豊福 崇浩	
39	6/17	09:00-10:20	医学科講義室２	ミニケース６ 胸痛		足利 貴志	
40	6/17	10:30-11:50	医学科講義室２	ミニケース７ 呼吸困難		小菅 寿徳	
41	6/17	12:50-14:10	医学科講義室２	ミニケース８ 息切れ		磯部 光章	
42	6/17	14:20-15:40	医学科講義室２	ミニケース９ 背部痛		八丸 剛	
43	6/18	14:20-15:40	医学科講義室２	ミニケース１０ チアノーゼ		泉田 直己	

44-45	6/19	12:50-15:40	医学科講義室2	評価 試験		磯部 光章	

授業方法

このコースは循環器疾患の具体的な症例を通じて、情報収集、検査、治療計画立案などの臨床的考え方を学び、もって問題探求、問題解決力を養うことを目的としている。臨床的な観点から循環器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。後半は臨床講義として症例を通じて臨床的な考え方も含めて学ぶ。

成績評価の方法

コース終了後に筆記試験を行う。

成績評価の基準

筆記試験の成績により合否を評価する。

準備学習などについての具体的な指示

循環器疾患に関連した解剖学、病理学、生理学、生化学、薬理学等に関する基礎的知識を再確認しておくこと。学生の積極的な参加が求められるコースである。ミニケースは、学生が参加する授業形態である。循環器ブロック開始時に、各講義の担当者3－4名を決定し、代表者が教員の連絡先を循環器内科医局秘書(担当:山崎、内線 5231)に照会する。担当者は教員に連絡をとり、講義内容の指示を受けること。

教科書

Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine／Robert O. Bonow, Douglas L. Mann, Douglas P. Zipes, et al.:Saunders, 2014

Harrison's Principles of Internal Medicine.18thEdition／Dan Longo et al.:McGraw-Hill Professional Pub, 2011

参考書

心臓病の病態生理 : ハーバード大学テキスト／レオナルド・S.リリー 著,川名正敏, 川名陽子 訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2012

ハリソン内科学／ダン L. ロンゴ ほか 編,福井次矢, 黒川清 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

内科學 = ASAKURA Internal Medicine／矢﨑義雄 総編集,伊藤貞嘉, 伊藤裕, 岩本愛吉, 岡芳知, 金倉譲, 工藤正俊, 島本和明, 菅野健太郎, 須永眞司, 永井良三, 長谷川好規, 永澤英洋, 山本一彦 編集,:朝倉書店, 2013

Pathophysiology of Heart Disease／Leonard S. Lilly:Wolters Kluwer, 2010

Hurst's the Heart, 13th Edition／Valentin Fuster et al:McGraw-Hill, 2011

循環器病学 : 基礎と臨床 : カラー版／川名正敏, 北風政史, 小室一成, 室原豊明, 山崎力, 山下武志 編:西村書店, 2010

Beyond Heart Sounds 日本語版／John Michael Criley:南江堂, 2001

Bates' Guide to Physical Examination and History Taking／Lynn Bickley:Lippincott Williams & Wilkins, 2012

Heart sounds 動画と心音による循環器疾患診断へのアプローチ : 日本語版／John Michael Criley, David Gerard Criley, Stuart Ross Criley 著,森経春 訳:南江堂, 2006

話を聞かない医師 思いが言えない患者、磯部光章、集英社新書(2011 年)

新・心臓病診療プラクティスシリーズ、文光堂(順次公刊中)

連絡先

磯部 光章 isobemi.cvm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

循環器内科:M&D タワー13 階

教授秘書(担当:度会、内線 5951)

オフィスアワーは特に定めないが, 事前連絡してから オフィスアワーは特に定めないが, 事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	011059				
科目名	呼吸器				
担当教員	稲瀬 直彦				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	2

Respirology

主な講義場所

3 号館 医学科講義室 2

授業の目的、概要等

総論的な知識として構造、機能、症候、画像、気管支鏡、外科総論を学習し、各論として主要な成人呼吸器疾患および小児呼吸器疾患、肺移植を含む外科治療を学習する。また病理学的理解を深めるために腫瘍と非腫瘍について病理実習を行う。

授業の到達目標(SBOs)

医学科コンピテンシーの大領域「知識とその応用」における小領域「医学知識(臨床)」に含まれる細項目(レベル B)の達成を主な目標とする。具体的には以下の通りである。

①頻度の高い疾患について疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる。

②頻度の高い疾患/問題の原因評価において、評価法についての知識(適応/合併症/限界))を応用できる。

③頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	6/22	09:00-10:20	医学科講義室 2	呼吸器系の構造	秋田 恵一
2	6/22	10:30-11:50	医学科講義室 2	胸部画像検査	角 勇樹
3	6/22	12:50-14:10	医学科講義室 2	気管支鏡検査	宮﨑 泰成
4	6/22	14:20-15:40	医学科講義室 2	呼吸器外科総論	大久保 憲一
5	6/23	09:00-10:20	医学科講義室 2	肺癌	坂下 博之
6	6/23	10:30-11:50	医学科講義室 2	胸膜・縦隔疾患	古澤 春彦
7	6/23	12:50-14:10	医学科講義室 2	呼吸機能検査	稲瀬 直彦
8	6/23	14:20-15:40	医学科講義室 2	肺循環障害	石塚聖洋
9	6/24	09:00-10:20	医学科講義室 2	COPD・DPB・LAM	玉岡 明洋
10	6/24	10:30-11:50	医学科講義室 2	気管支喘息	土屋 公威
11	6/24	12:50-14:10	4 階学生実習室	病理実習(腫瘍)	明石 巧
12	6/24	14:20-15:40	4 階学生実習室	病理実習(腫瘍)	明石 巧
13	6/25	12:50-14:10	医学科講義室 2	症侯	三宅 修司
14	6/25	14:20-15:40	医学科講	外科治療(肺腫瘍)	大久保 憲一

			義室２		
15	6/26	09:00–10:20	医学科講義室２	市中肺炎	藤江　俊秀
16	6/26	10:30–11:50	医学科講義室２	自習	
17	6/26	12:50–14:10	医学科講義室２	TBL1	稲瀬　直彦,石塚聖洋
18	6/26	14:20–15:40	医学科講義室２	TBL1	稲瀬　直彦,石塚聖洋
19	6/29	09:00–10:20	医学科講義室２	特発性間質性肺炎・膠原病肺	宮﨑　泰成
20	6/29	10:30–11:50	医学科講義室２	二次性間質性肺炎・好酸球性肺炎	立石　知也
21	6/29	12:50–14:10	医学科講義室２	抗酸菌症	榊原ゆみ
22	6/29	14:20–15:40	医学科講義室２	外科治療（縦郭腫瘍ほか）	石橋　洋則
23	6/30	09:00–10:20	医学科講義室２	サルコイドーシス	古澤　春彦
24	6/30	10:30–11:50	医学科講義室２	アスピリン喘息・ABPA・EGPA	岡安　香
25	6/30	12:50–14:10	医学科講義室２	気管支拡張症・無気肺・PAP	稲瀬　直彦
26	6/30	14:20–15:40	医学科講義室２	日和見感染	藤江　俊秀
27	7/1	09:00–10:20	医学科講義室２	呼吸障害	玉岡　明洋
28	7/1	10:30–11:50	医学科講義室２	小児科領域の呼吸器疾患	土井　庄三郎
29	7/1	12:50–14:10	４階学生実習室	病理実習（非腫瘍）	明石　巧
30	7/1	14:20–15:40	４階学生実習室	病理実習（非腫瘍）	明石　巧
31	7/2	12:50–14:10	医学科講義室２	過敏性肺炎	立石　知也
32	7/2	14:20–15:40	医学科講義室２	肺移植	板東　徹
33	7/3	09:00–10:20	医学科講義室２	動脈血ガス分析	稲瀬　直彦
34	7/3	10:30–11:50	医学科講義室２	自習	
35	7/3	12:50–14:10	医学科講義室２	TBL2	稲瀬　直彦,岡安　香
36	7/3	14:20–15:40	医学科講義室２	TBL2	稲瀬　直彦,岡安　香

授業方法

講義、病理実習、TBL（評価を兼ねる）

授業内容

（別表を参照）

成績評価の方法

出席を前提に、2 回の TBL 結果を合計して成績評価を行う。

成績評価の基準

東京医科歯科大学試験規則に則り、100 点満点で採点し 60 点以上を合格とする。GP での成績評価は東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規第 4 条に準拠して行う。

準備学習などについての具体的な指示

第 1 学年で履修した医学導入、第 2 学年で履修した人体解剖学、生理学、組織学、薬理学、感染・基礎について、呼吸器を理解するという観点で見直し、関連すると思われる内容を復習すること。

試験の受験資格

試験は毎週最後（金曜午後）の TBL で行う。東京医科歯科大学試験規則に則り、各週において TBL に先立つ講義の 2/3 以上および実習の 3/4 以上を履修した者が受験資格を有する。試験終了後に受験資格がないことが判明した場合、さかのぼって試験は無効（不合格）となる。

教科書

シンプル呼吸器学／興梠博次 編集,：南江堂, 2015

内科学 : カラー版／門脇孝, 永井良三 総編集,：西村書店, 2012

全部見える呼吸器疾患／玉置淳 監修,：成美堂出版, 2013

図解呼吸器内科学テキスト／長瀬隆英, 永田泰自 編著,：中外医学社, 2006

呼吸器病学／金澤實, 永田真, 前野敏孝 編集,：丸善出版, 2012

参考書

喘息予防・管理ガイドライン 2012／日本アレルギー学会：協和企画, 2012

1. 日本肺癌学会編 EBM の手法による肺癌診療ガイドライン 2005 年版

2. 日本肺癌学会編 EBM の手法による肺癌診療ガイドライン最新版

3. 別冊医学のあゆみ 呼吸器疾患-state of the art Ver.6 医歯薬出版 2013 年

4. 日本呼吸器学会編 COPD 診断と治療のためのガイドライン第 4 版 2013 年

他科目との関連

皮膚・アレルギー・膠原病ブロックにおいて、アレルギー疾患としての気管支喘息を学習する。

履修上の注意事項

私語を慎み、講義の妨げとなる行為は行わないこと。

時間割番号	011060				
科目名	消化器				
担当教員	渡邉 守				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	3

Gastroenterology and Hepatology

授業の目的、概要等

消化器疾患を中心とした、医学的問題解決の実際を学ぶことを通じて、次年度以降の clinical clerkship に対応しうる総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。

PBL は3週間に3セットの PBL が行われる。ここでは、一つのシナリオから、学生自ら問題点を抽出し、それをお互いに議論しあい、科学的・理論的にその問題点を理解することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。また、理解した病因・病態生理を、シナリオの患者のケア・治療にいかに応用するかを学ぶこととなる。小グループ討論を中心に進行するため、各人の積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。さらに、PBL の効率をより高めるために、各論の講義や討論型講義を組み合わせて、内容を補完しあうように工夫した。また、実際の患者のシナリオを用いるため、そのなかで、倫理的側面や社会医学的な問題点についても学ぶ機会が与えられる。

扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などに関しても含まれている。尚、疾患の診断・治療の実際については、後年の clinical clerkship でさらに詳しく学習し習得することになる。

授業の到達目標(SBOs)

消化器系疾患の病態生理を理解する

病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、治療法を理解する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	7/6	09:00-10:50	医学科講義室2	PBL(上部消化管)1	東海林 裕
2	7/6	11:00-11:50	医学科講義室2	解剖学講義	秋田 恵一
3	7/6	12:50-14:10	医学科講義室2	講義(上部消化管+消化管の最近のトピックス)	岡田 卓也
4	7/6	14:20-15:40	医学科講義室2	講義(胃癌の腹腔鏡手術)	藤森 喜毅
5	7/7	09:00-10:50	医学科講義室2	ミニケース:上部消化管疾患	星野 明弘
6	7/7	11:00-11:50	医学科講義室2	上部消化管疾患と薬理	田邊 勉
7	7/7	12:50-14:10	医学科講義室2	講義(胃良性疾患)	荒木 昭博
8	7/7	14:20-15:40	医学科講義室2	講義(食道良性疾患)	岡田 卓也
9	7/8	09:00-10:50	医学科講義室2	PBL(上部消化管)2	川田 研郎
10	7/8	11:00-11:50	医学科講義室2	上部消化管疾患の検査法	川田 研郎
11-12	7/8	12:50-15:40	4階学生実習室	病理実習(上部消化管)	伊藤 崇
13	7/9	12:50-14:10	医学科講	講義(食道癌の病態生理)	中島 康晃

			義室２		
14	7/9	14:20-15:40	医学科講義室２	講義(胃癌の病態生理)	小嶋 一幸
15	7/10	09:00-10:50	医学科講義室２	PBL(上部消化管)３	千葉 哲磨
16	7/10	11:00-11:50	医学科講義室２	食道癌の治療	中島 康晃
17-18	7/10	12:50-15:40	医学科講義室２	PBL 総括	河野 辰幸
19	7/13	09:00-10:50	医学科講義室２	PBL(下部消化管)１	藤井 俊光
20	7/13	11:00-11:50	医学科講義室２	講義(炎症性腸疾患の病態)	渡邉 守
21	7/13	12:50-13:40	医学科講義室２	解剖学講義	秋田 恵一
22	7/13	13:50-14:40	医学科講義室２	講義(下部消化管腫瘍)	石黒 めぐみ
23	7/13	14:50-15:40	医学科講義室２	講義(大腸癌の腹腔鏡手術)	山内 慎一
24	7/14	09:00-09:50	医学科講義室２	講義(大腸癌の発生機序)	植竹 宏之
25	7/14	10:00-10:50	医学科講義室２	講義(遺伝性大腸癌)	石川 敏昭
26	7/14	11:00-11:50	医学科講義室２	講義(下部消化管の機能障害)	長堀 正和
27	7/14	12:50-13:40	医学科講義室２	講義(下部消化管の生理学)	岡本 隆一
28	7/14	13:50-14:40	医学科講義室２	講義(多彩な腸疾患)	岡田 英理子
29	7/14	14:50-15:40	医学科講義室２	講義(小腸疾患)	大塚 和朗
30	7/15	09:00-10:50	医学科講義室２	PBL(下部消化管)２	石黒 めぐみ
31	7/15	11:00-11:50	医学科講義室２	講義(炎症性腸疾患の臨床)	松岡 克善
32-33	7/15	12:50-15:40	4 階学生実習室	病理実習(下部消化管)	児玉 真
34-35	7/16	12:50-15:40	医学科講義室２	ミニケース:下部消化管疾患	長堀 正和 大島 茂
36	7/17	09:00-10:50	医学科講義室２	PBL(下部消化管)３	長堀 正和
37	7/17	11:00-11:50	医学科講義室２	PBL 総括	長堀 正和
38	7/17	12:50-13:40	医学科講義室２	講義(ウイルス性肝炎)	朝比奈 靖浩
39-40	7/17	13:50-15:40	医学科講義室２	ミニケース:肝炎	柿沼 晴, 中川 美奈
41	7/21	09:00-10:50	医学科講義室２	PBL(肝胆膵)１	伴 大輔

42	7/21	11:00–11:50	医学科講義室２	解剖学講義	秋田 恵一
43	7/21	12:50–14:00	医学科講義室２	講義（肝悪性腫瘍と低侵襲治療）	田邉 稔
44	7/21	14:10–14:40	医学科講義室２	肝胆膵悪性腫瘍の研究	田中 真二
45	7/21	14:50–15:40	医学科講義室２	集中討論：肝臓の生理学	工藤 篤
46	7/22	09:00–10:50	医学科講義室２	PBL（肝胆膵）２	東 正新，櫻井 幸
47	7/22	11:00–11:50	医学科講義室２	講義（肝硬変）	東 正新
48–49	7/22	12:50–15:40	医学科講義室２	病理実習（肝胆膵）	伊藤 崇
50	7/23	12:50–13:20	医学科講義室２	講義（薬物性肝障害）	井津井 康浩
51	7/23	13:50–14:40	医学科講義室２	講義（胆道良性疾患）	大岡 真也
52	7/23	14:50–15:40	医学科講義室２	講義（膵良性疾患）	大岡 真也
53	7/24	09:00–10:50	医学科講義室２	PBL（肝胆膵）３	柿沼 晴，新田 沙由梨
54	7/24	11:00–11:50	医学科講義室２	PBL 総括	柿沼 晴
55–56	7/24	14:00–15:20	医学科講義室２	試験	渡邉 守

授業方法

各週これらにより構成される

1．PBL（Problem Based Learning）

2．Lecture

3．Pathology Laboratory

4．その他の discussion 型講義

授業内容

別表を参照

成績評価の方法

出席の有無を確認し、これを総合評価に加える。

3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く。

試験は筆答試験でその成果を問う。

成績評価の基準

筆答試験の成績、出席の有無

準備学習などについての具体的な指示

消化器領域の解剖学・生理学について復習しておくこと。PBL が本ブロックの中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題について自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。欠席の場合は、グループの他の学生にも大きな影響があるので、予め届け出ること。

試験の受験資格

3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く

構成ユニット

1週目：上部消化管

2週目：下部消化管

3週目：肝胆膵

モジュールの単位判定

単位判定は3週間全体で行う。

教科書

Harrison's Principles of Internal Medicine 18th ed.／Longo, et al.：McGraw-Hill, 2011

内科学書／小川聡 総編集：中山書店, 2009

内科學 = ASAKURA Internal Medicine／矢崎義雄 総編集,伊藤貞嘉, 伊藤裕, 岩本愛吉, 岡芳知, 金倉譲, 工藤正俊, 島本和明, 菅野健太郎, 須永眞司, 永井良三, 長谷川好規, 永澤英洋, 山本一彦 編集：朝倉書店, 2013

NEW 外科学 = NEW Surgery／出月康夫, 古瀬彰, 杉町圭蔵 編：南江堂, 2012

臨床外科学／森岡 恭彦／編集,川島 康生／編集,森 昌造／編集,水戸 廸郎／編集：朝倉書店, 2006

注：教科書と参考書の区別はしていない

参考書

Textbook of gastroenterology / edited by Tadataka Yamada ; associate editors, David H. Alpers ... [et al.]：Blackwell Pub., 2009

ハリソン内科学／ダン L. ロンゴ ほか 編,福井次矢, 黒川清 日本語版監修,：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

新臨床外科学／武藤徹一郎, 幕内雅敏 監修,川崎誠治, 佐野俊二, 名川弘一, 野口眞三郎, 平田公一 編：医学書院, 2006

Schiff' s Diseases of the Liver 11th ed.／Eugene R. Schiff：Wiley, 2011

Schwartzs Principles of Surgery 10th ed.／Brunicardi, et al.：McGraw-Hill Professional, 2014

Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice, 19th ed.／Courtney M. Townsend Jr：Saunders, 2012

食道癌診断・治療ガイドライン／日本食道学会 編：金原出版, 2012

臨床・病理食道癌取扱い規約／日本食道学会 編：金原出版, 2008

食道アカラシア取扱い規約 = Descriptive rules for achalasia of the esophagus／日本食道学会 編：金原出版, 2012

胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン／日本消化器病学会 編：南江堂, 2009

胃癌取扱い規約(第 14 版) 日本胃癌学会編 ISBN 978-4307202749

胃癌治療ガイドライン(2010 年 10 月改訂第 3 版) 日本胃癌学会編 ISBN 978-4307202817

肝硬変診療ガイドライン 日本消化器病学会編 ISBN 978-4524262236

その他、関連した解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

他科目との関連

解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学、画像診断学

履修上の注意事項

PBL がこの講義の中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題の自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。

参照ホームページ

ヘリコバクター・ピロリ除菌治療ガイドライン http://www.jshr.jp/pdf/journal/guideline2009_2.pdf

胃癌取扱い規約(第 14 版) 同治療ガイドライン(2010 年 10 月改訂第 3 版)

http://www.jgca.jp/pdf/JGCA_Jpn_Classification_3rd_Eng.pdf

http://www.jgca.jp/pdf/JGCA_Guidelines_ver3.pdf

http://www.jgca.jp/guideline/

時間割番号	011061				
科目名	体液制御・泌尿器				
担当教員	木原　和徳, 内田　信一, 伊藤　将也, 賴　建光				
開講時期	前期	対象年次	3	単位数	3

授業の目的、概要等

腎臓内科領域においては、体液制御機構など腎臓機能の基礎から多様な腎疾患について病態生理を主として学ぶ。第一週に講義と病理実習により基本的知識を取得し、週の最後に知識の確認テストを行う。第 2 週はこれらの知識をもとに実際の症例における病態生理をPBL、ミニケースを通して学ぶ。

泌尿器科領域においては、主な領域(腫瘍、排尿生理、生殖生理、結石・感染等)についての系統講義、および泌尿器腫瘍の病理実習により、医学生として必要な知識を身につける。ミニケースにより、系統講義や病理実習で身につけた知識を統合させ、討論する力を養う。

授業の到達目標(SBOs)

腎、泌尿器領域疾患の病態生理を理解する。
病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、治療法を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	8/31	09:00-10:20	医学科講義室 2	コース説明　基礎医学復習テスト	内田　信一
2	8/31	10:30-11:50	医学科講義室 2	ネフロンの構造と機能	内田　信一
3	8/31	12:50-14:10	医学科講義室 2	電解質制御(総論)	賴　建光
4	8/31	14:20-15:40	医学科講義室 2	腎疾患の症候・検査	安藤　亮一
5	9/1	09:00-10:20	医学科講義室 2	腎炎･ネフローゼ1	内藤　省太郎
6	9/1	10:30-11:50	医学科講義室 2	腎炎･ネフローゼ2	内藤　省太郎
7	9/1	12:50-14:10	医学科講義室 2	2 次性腎疾患1	蘇原　映誠
8	9/1	14:20-15:40	医学科講義室 2	2 次性腎疾患2	蘇原　映誠
9	9/2	09:00-10:20	医学科講義室 2	急性腎障害	野村　尚弘
10	9/2	10:30-11:50	医学科講義室 2	慢性腎障害	飯盛　聡一郎
11-12	9/2	12:50-15:40	4 階学生実習室	病理実習　　1次性腎疾患	根木　真理子
13	9/3	12:50-14:10	医学科講義室 2	ミニケース(腎と血管)	蘇原　映誠
14	9/4	09:00-10:20	医学科講義室 2	尿細管疾患・嚢胞性腎疾患	須佐　紘一郎
15	9/4	10:30-11:50	医学科講義室 2	血液浄化･腎移植	岡戸　丈和

16	9/4	12:50-14:10	医学科講義室２	電解質制御（各論）	賴　建光
17	9/4	14:20-15:40	医学科講義室２	酸ー塩基平衡異常	賴　建光
18	9/7	09:00-10:20	医学科講義室２	large class PBL	賴　建光
19	9/7	10:30-11:50	医学科講義室２	large class PBL	賴　建光
20	9/7	12:50-14:10	医学科講義室２	large class PBL	賴　建光
21	9/7	14:20-15:40	医学科講義室２	large class PBL	賴　建光
22	9/8	09:00-10:20	医学科講義室２	ミニケース（急性腎障害）	野田　裕美
23	9/8	12:50-14:10	医学科講義室２	学習状況確認テスト	賴　建光
24	9/8	14:20-15:40	医学科講義室２	患者さま講演会	岡戸　丈和
25	9/9	09:00-10:20	医学科講義室２	小児の輸液	小林　克樹
26	9/9	10:30-11:50	医学科講義室２	ミニケース（内容未定）	前田　益孝
27-28	9/9	12:50-15:40	4階学生実習室	病理実習　2次性疾患	根木　真理子
29	9/10	12:50-13:40	医学科講義室２	BPH	吉田　宗一郎
30	9/10	13:50-14:40	医学科講義室２	BPH	吉田　宗一郎
31	9/10	14:50-15:40	医学科講義室２	尿路の閉塞性疾患	沼尾　昇
32	9/11	09:00-10:20	医学科講義室２	large class PBL（学生発表）	賴　建光
33	9/11	10:30-11:50	医学科講義室２	large class PBL（総括）	賴　建光
34	9/11	12:50-13:40	医学科講義室２	前立腺がん	藤井　靖久
35	9/11	13:50-14:40	医学科講義室２	前立腺がん	藤井　靖久
36	9/11	14:50-15:40	医学科講義室２	ミニケース	藤井　靖久
37	9/14	09:00-09:50	医学科講義室２	腎がん	齋藤　一隆
38	9/14	10:00-10:50	医学科講義室２	腎がん	齋藤　一隆
39	9/14	11:00-11:50	医学科講義室２	精巣がん	石岡　淳一郎
40	9/14	12:50-13:40	医学科講義室２	精巣がん	石岡　淳一郎
41	9/14	13:50-14:40	医学科講	蓄排尿	横山　みなと

			義室２		
42	9/14	14:50-15:40	医学科講義室２	尿路感染・尿路結石・泌尿器救急疾患	横山 みなと
43	9/15	09:00-11:50	医学科講義室２	ミニケース	藤井 靖久
44	9/15	12:50-13:40	医学科講義室２	膀胱がん	松岡 陽
45	9/15	13:50-14:40	医学科講義室２	膀胱がん	松岡 陽
46	9/15	14:50-15:40	医学科講義室２	上部尿路がん	松岡 陽
47-48	9/16	09:00-11:50	４階学生実習室	病理実習　泌尿器腫瘍	裴 有安
49	9/16	12:50-13:40	医学科講義室２	副腎腫瘍	井上 雅晴
50	9/16	13:50-14:40	医学科講義室２	男性不妊	伊藤 将也
51	9/16	14:50-15:40	医学科講義室２	性分化異常・先天異常	伊藤 将也
52	9/17	12:50-13:40	医学科講義室２	泌尿器低侵襲治療	木原 和徳
53-54	9/17	13:50-15:40	医学科講義室２	ミニケース	石岡 淳一郎
55	9/18	09:00-10:50	医学科講義室２	ミニケース	井上 雅晴
56	9/18	11:00-11:50	医学科講義室２	性機能	横山 みなと
57	9/18	12:50-14:10	医学科講義室２	試験（腎臓内科・病理）	内田 信一
58	9/18	14:20-15:40	医学科講義室２	試験（泌尿器）	伊藤 将也

授業方法

講義、ケーススタディー、病理実習、PBL、確認テスト。

成績評価の方法

腎臓内科領域は、出席、基礎医学復習の確認テスト、学習状況確認テスト、PBL の発表内容、最終日（第三週金曜午後）の試験によって評価する。

泌尿器科領域は、出席状況、ミニケースでの内容および最終日のテストで総合的に評価する。

病理実習の内容は、各腎臓内科・泌尿器科の最終試験の中で試験を行う。

ブロック全体としての評価を上記の成績を総合して判定する。

成績評価の基準

上記、成績評価方法を基に総合的に判断する。

準備学習などについての具体的な指示

第一週の 1 時限目に基礎医学復習の確認テストを行うので、各自生理学教科書の体液制御に関する部分や腎・泌尿器に関する解剖学的知識をあらかじめ自習・復習しておくこと。

教科書

NEW 泌尿器科学／西沢理, 松田公志, 武田正之 編：南江堂, 2007

腎臓内科学／佐々木成 編：シュプリンガー・ジャパン, 2010

参考書

イラストレイテッドミニマム創内視鏡下泌尿器手術／木原和徳 著,：医学書院, 2007

臨床腎臓内科学 = Clinical nephrology／安田隆, 平和伸仁, 小山雄太 編集.：南山堂, 2013

"Renal Pathophysiology: The Essentials Fourth edition." Lippincott Williams & Wilkins 2013

上記の日本語版：「体液異常と腎臓の病態生理」 メディカルサイエンスインターナショナル 2015

「酸塩基平衡、水・電解質が好きになる」 今井 裕一 羊土社 2007

CAMPBELL-WALSH UROLOGY, TENTH EDITION ISBN: 978-1-1460-6911-9, INTERNATIONAL EDITION ISBN: 978-0-8089-2439-5

履修上の注意事項

積極的な討議・実習への参加が求められる。

参照ホームページ

日本腎臓学会 腎臓に関するクイズ http://e-test.amu.lumber-mill.info/show/index

東京医科歯科大学腎臓内科 http://www.tmd.ac.jp/grad/kid/kid-J.htm

東京医科歯科大学大学院 腎泌尿器外科 http://www.tmd.ac.jp/med/uro/index.htm

日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会 http://www.minimumendo.jp/

連絡先

賴 建光:腎臓内科（医局）：dept.kid@tmd.ac.jp

伊藤 将也:m-ito.uro@tmd.ac.jp

オフィスアワー

賴 建光:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること

伊藤 将也:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	011062		
科目名	臨床医学導入(臨床検査医学)		
担当教員	奈良 信雄, 立石 宇貴秀		
開講時期	前期	対象年次	3

授業の目的、概要等

放射線画像医学の基礎知識、被曝の概念について学ぶ。

授業の到達目標(SBOs)

放射線画像医学の基礎知識、被曝の概念について整理できる。

授業方法

臨床各ブロックの導入として、臨床検査と画像診断に関する総論的な講義を中心に学習を進める。臨床検査と画像診断の両者に関連するミニケースを提示し、講義で扱った内容の確認と応用をはかる。

授業内容

放射線画像医学の基礎知識、被曝の概念について学ぶ。

成績評価の方法

金曜午後の筆記試験により評価を行う。基礎確認テストも参考にする。

準備学習などについての具体的な指示

検査の意義、解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも教科書、参考書をよく読んで理解を深めておくこと。また、基礎医学、臨床医学のすべてと関連するので、他科目の知識を応用すること。

教科書

参考書

奈良信雄編:臨床研修イラストレイテッド第 3 巻基本手技「診察と検査」羊土社、2011 年　福井次矢、奈良信雄編:内科診断学、医学書院、2008 年　奈良信雄監訳:ウイントローブ臨床血液学アトラス、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2008 年
多田信平・石井千佳子:CT・MRI 解剖事典 ベクトル・コア　久保淳司・木下文雄:核医学ノート 第 5 版 金原出版

連絡先

奈良 信雄:nara.mlab@tmd.ac.jp
立石 宇貴秀:radiology.mrad@tmd.ac.jp

オフィスアワー

奈良 信雄:毎週月～金 9:30～16:00 M&D タワー10 階 S1053 室
立石 宇貴秀:毎週月～金 9:30～16:00 M&D タワー9 階 S964 室

時間割番号	011063		
科目名	臨床医学導入（放射線科）		
担当教員	立石　宇貴秀		
開講時期	前期	対象年次	3

主な講義場所

3号館3階医学科講義室2

授業の目的、概要等

臨床各ブロックの導入として、臨床検査と画像診断に関する総論的な講義を中心に学習を進める。臨床検査と画像診断の両者に関連するミニケースを提示し、講義で扱った内容の確認と応用をはかる。

授業方法

1）講義

2）提示症例をもとにした討論、または小テスト

授業内容

授業スケジュール表を参照

成績評価の方法

金曜午後の筆記試験（MCQ）により評価を行う。水曜1限の基礎確認テストの成績も参考にする。

成績評価の基準

100 点中 60 点以上を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

放射線の人体影響、画像診断・核医学の診断機器と原理について予め予習しておくこと。

参考書

多田信平・石井千佳子：CT・MRI 解剖事典　ベクトル・コア

久保淳司・木下文雄：核医学ノート　第 5 版　金原出版

西谷弘・松井修・伊東久夫編集：標準放射線医学　第 7 版　医学書院

他科目との関連

基礎医学、臨床医学のすべての分野と関連するので、他科目の知識を応用すること。

履修上の注意事項

検査の意義、解釈などについて放射線被曝の影響を考慮しつつ参考書をよく読んで理解を深めておくこと。

連絡先

radiology.mrad@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週月～金　9:30～16:00　M&D タワー9 階 S964 室

時間割番号	011064				
科目名	内分泌・代謝				
担当教員	小川 佳宏				
開講時期	通年	対象年次	3	単位数	2

授業の目的、概要等

「内分泌器官」と「ホルモン」に関する総論を踏まえて、生体の恒常性維持機構とその破綻により発症する内分泌疾患および代謝疾患に関する各論を学習します。「内分泌器官」の形態学(解剖学、病理学)や画像診断学(放射線科)あるいは「ホルモン」の生化学、生理学、薬理学、分子生物学の基礎を理解し、各臓器別疾患としては視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などに関連する内分泌疾患と糖尿病を中心とする代謝疾患(生活習慣病)を統合的に理解します。学内外の第一人者による講義により、未来志向型の内分泌・代謝学に関する最先端の知識を習得します。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	9/28	09:00-10:20	医学科講義室2	基礎医学復習(小テスト)	南 勲
2	9/28	10:30-11:50	医学科講義室2	内分泌学総論	小川 佳宏
3	9/28	12:50-14:10	医学科講義室2	視床下部・下垂体疾患1	土井 賢
4	9/28	14:20-15:40	医学科講義室2	視床下部・下垂体疾患2	土井 賢
5	9/29	09:00-10:20	医学科講義室2	肥満とやせ	菅波 孝祥
6	9/29	10:30-11:50	医学科講義室2	内分泌検査論	吉本 貴宣
7	9/29	12:50-14:10	医学科講義室2	尿酸代謝	土屋 恭一郎
8	9/29	14:20-15:40	医学科講義室2	甲状腺疾患1	橋本 貢士
9	9/30	09:00-10:20	医学科講義室2	代謝総論	小川 佳宏
10	9/30	10:30-11:50	医学科講義室2	甲状腺疾患2	橋本 貢士
11	9/30	12:50-14:10	医学科講義室2	副甲状腺疾患・骨カルシウム代謝	竹田 秀
12	9/30	14:20-15:40	医学科講義室2	ホルモン受容体異常症	杉山 徹
13	10/1	12:50-14:10	医学科講義室2	特論講義	竹内 靖博
14	10/1	14:20-15:40	医学科講義室2	副腎疾患1	吉本 貴宣
15	10/2	09:00-10:20	医学科講義室2	内分泌症例演習	村上 正憲
16	10/2	10:30-11:50	医学科講義室2	副腎疾患2	吉本 貴宣
17	10/2	12:50-14:10	医学科講	副腎疾患3	吉本 貴宣

			義室2		
18	10/2	14:20-15:40	医学科講義室2	自習	
19	10/5	09:00-10:20	医学科講義室2	臨床栄養学	南 勲
20	10/5	10:30-11:50	医学科講義室2	糖代謝異常1(総論・診断)	坊内 良太郎
21	10/5	12:50-14:10	医学科講義室2	高血圧症(含二次性高血圧)	吉本 貴宣
22	10/5	14:20-15:40	医学科講義室2	脂質代謝異常	南 勲
23-24	10/6	09:00-11:50	医学科講義室2	TBL-①	土屋 恭一郎
25	10/6	12:50-14:10	医学科講義室2	糖代謝異常2(糖尿病合併症)	坊内 良太郎
26	10/6	14:20-15:40	医学科講義室2	内分泌代謝学の未来	小川 佳宏
27-28	10/7	09:00-11:50	医学科講義室2	TBL-②	南 勲
29	10/7	12:50-14:10	医学科講義室2	多発性内分泌腫瘍とホルモン産生腫瘍	泉山 肇
30	10/7	14:20-15:40	医学科講義室2	特論講義	山田 正三
31	10/8	12:50-14:10	医学科講義室2	糖代謝異常3(糖尿病合併症)	坊内 良太郎
32	10/8	14:20-15:40	医学科講義室2	糖代謝異常4(治療)	坊内 良太郎
33	10/9	09:00-10:20	医学科講義室2	内分泌代謝学　まとめ	小川 佳宏
34	10/9	10:30-11:50	医学科講義室2	自習	
35	10/9	12:50-14:10	医学科講義室2	筆記試験	小川 佳宏

授業内容

別表(講義予定表)を参照

成績評価の方法

TBL、小テスト、最終の筆記試験(コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式)の結果により合否判定します。

準備学習などについての具体的な指示

講義の前に、少なくともひとつの下記参考書の該当する項を読んでおくこと。

教科書

特に指定はないが、下記参考図書のうち少なくとも一つを所持してほしい。

参考書

病気がみえる／医療情報科学研究所 編集.:メディックメディア, 2014

内分泌・代謝学 : 講義録／寺本民生, 片山茂裕 編.:メジカルビュー社, 2005

新臨床内科学／貫和敏博 [ほか]編,高久史麿, 尾形悦郎, 黒川清, 矢崎義雄 監修.:医学書院, 2009

内科学書 = Standard Textbook of Internal Medicine／小川聡 総編集.:中山書店, 2013

履修上の注意事項

内分泌・代謝学は基礎と臨床の距離が最も近い学問であり、生体情報伝達分子である「ホルモン」に関する生化学、生理学あるいは薬理学を意識して受講してほしい。講義では受け身ではなく、担当講師に積極的に疑問をぶつけて自らで解決してほしい。

参照ホームページ http://www.tmd.ac.jp/grad/cme/index.html
連絡先 糖尿病・内分泌・代謝内科　講師　吉本貴宣　tyoshimoto.mem@tmd.ac.jp
オフィスアワー オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	011065				
科目名	血液・腫瘍				
担当教員	三浦 修, 新井 文子				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	2

〇問い合わせ先(担当教員)

(教員名)(診療科・分野)(E メールアドレス)

三浦 修　血液内科　miura.hema@tmd.ac.jp

新井文子　血液内科　ara.hema@tmd.ac.jp

吉村亮一　放射線治療　ysmrmrad@tmd.ac.jp

三宅 智　臨床腫瘍学　sm.conc@tmd.ac.jp

今井耕輔　小児科　ima-ped@tmd.ac.jp

山本浩平　病理　yamamoto.pth@tmd.ac.jp

主な講義場所

3 号館 3 階医学科講義室 2

授業の目的、概要等

前半週は基本項目について講義(基礎の復習と総論、疾患各論)を行い、後半は応用項目について実習や症例発表(従来の臨床講義に相当。PBL形式を予定)を中心に学ぶ。

授業の到達目標(SBOs)

血液疾患、臨床腫瘍学について学び臨床に必要な基本的な知識を習得する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	10/13	09:00-10:20	医学科講義室 2	血液内科総論	造血器と造血のしくみ	新井 文子
2	10/13	10:30-11:50	医学科講義室 2	血液内科各論 赤血球系疾患-1	赤血球系疾患－1	三浦 修
3	10/13	12:50-14:10	医学科講義室 2	血液内科各論 リンパ系疾患-1	悪性リンパ腫	福田 哲也
4	10/13	14:20-15:40	医学科講義室 2	血液内科各論 赤血球系疾患－2	赤血球系疾患－2	三浦 修
5	10/14	09:00-10:20	医学科講義室 2	小児血液-1	骨髄(白血球)系疾患-小児	髙木 正稔
6	10/14	10:30-11:50	医学科講義室 2	小児血液-2	凝固・止血異常(小児)	森尾 友宏
7	10/14	12:50-14:10	医学科講義室 2	小児血液-3	赤血球系疾患－小児	金兼 弘和
8	10/14	14:20-15:40	医学科講義室 2	血液内科各論 赤血球系疾患－3	赤血球系疾患－3	三浦 修
9	10/15	12:50-14:10	医学科講義室 2	放射線治療	放射線治療総論	林 敬二
10	10/15	14:20-15:40	医学科講義室 2	放射線治療	放射線治療各論-1	中川 恵子
11-12	10/16	09:00-11:50	医学科講義室 2	血液内科 各論	ケーススタディー　(血液内科)	坂下 千瑞子
13	10/16	12:50-14:10	医学科講義室 2		放射線生物学	三浦 雅彦
14	10/16	14:20-15:40	医学科講義室 2		放射線治療各論-2	吉村 亮一
15	10/19	09:00-10:20	医学科講義室 2	血液内科 各論 骨髄(白血球)系疾患－1	急性白血病	新井 文子

16	10/19	10:30-11:50	医学科講義室2	血液内科 各論 リンパ系疾患-2	リンパ系疾患-2　多発性骨髄腫と 類縁疾患等	福田 哲也
17	10/19	12:50-14:10	医学科講義室2	血液内科 各論 骨髄(白血球)系疾患－2	骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍	新井 文子
18	10/19	14:20-15:40	医学科講義室2	血液内科 各論 凝固異常	凝固異常(成人)	小山 高敏
19	10/20	09:00-10:20	医学科講義室2	緩和ケア・心身医療科	緩和ケア・心身医療科	三宅 智
20	10/20	10:30-11:50	医学科講義室2	緩和ケア・心身医療科	緩和ケア・心身医療科	三宅 智
21	10/20	12:50-14:10	医学科講義室2	病理	病理講義	北川 昌伸
22	10/20	14:20-15:40	4階学生実習室	血液内科 各論	造血器細胞の治療(化学療法、造血幹細胞移植)	大橋 一輝
23	10/21	09:00-10:20	医学科講義室2	緩和ケア・心身医療科	緩和ケア・心身医療科	三宅 智
24	10/21	10:30-11:50	医学科講義室2	血液内科 各論	血液細胞の見方と血液疾患の特殊検査	東田 修二
25-26	10/21	12:50-15:40	医学科講義室2		ケーススタディー 小児科(小児科)	今井 耕輔
27	10/22	14:20-15:40	医学科講義室2		病理実習	山本 浩平
28	10/23	09:00-10:20	医学科講義室2	臨床腫瘍	化学療法	坂下 博之
29	10/23	10:30-11:50	医学科講義室2	緩和ケア・心身医療科	緩和ケア・心身医療科	三宅 智
30	10/23	12:50-14:10	医学科講義室2	評価-1	試験(血液内科)	
31	10/23	14:20-15:40	医学科講義室2	評価-2	試験(小児血液、放射線治療、緩和ケア・心身医療科、病理)	
32	10/23	15:50-17:10	医学科講義室2		評価、30分フィードバック、総括(血液内科)	新井 文子

授業方法

講義に加え、Large class PBL、病理実習を行う。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

試験により評価する。

血液内科4(50点)

放射線科1(12.5点)

小児1(12.5点)

病理1(12.5点)

緩和1(12.5点)

準備学習などについての具体的な指示

これまでに学習した正常造血システムと、正常造血組織(骨髄、リンパ節、胸腺、脾臓)の構造について復習をしておくこと。

教科書

Harrison's Principles of Internal Medicine、 内科学 第9版 (朝倉書店)、血液細胞アトラス第5版 (文光堂)

参考書

Wintrobe's Clinical Hematology, WHO classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues,
病気がみえる〈vol.5〉血液 医療情報科学研究所
臨床検査ガイド 2011-2012(文光堂)
がん・放射線療法 2010(篠原出版新社)
放射線治療マニュアル(中外医学社) / Pediatric Hematology 3rd ed 2009 Wiley, John & Sons, Incorporated
小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン 2011 年版
編集:日本小児血液学会 金原出版 2011 年
小児がん経験者のフォローアップ
監訳:日本小児白血病リンパ腫研究グループ 日本医学館 2008 年
小児血液・腫瘍疾患治療プロトコール集
編集:月本一郎 医歯薬ジャーナル社 2003 年
Hanks G et al eds. Oxford Textbook of Palliative Medicine 4th edition. Oxford University Press, New York, 2011
Holland JC et al.eds. Psycho-oncology, 2nd ed. Oxford University Press, New York, 2010
Chochinov HM & Breitbart W ed. Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine, 2nd ed. Oxford University Press, New York, 2009
大西秀樹編集. サイコオンコロジー(専門医のための精神科臨床リュミエール 24). 中山書店, 2010 年
内富庸介、小川朝生編集. 精神腫瘍学. 医学書院, 2011 年
清水 研編著. がん診療に携わるすべての医師のための心のケアガイド. 真興交易, 2011 年

他科目との関連

後半に学ぶ腫瘍は、次に続く外科ブロックでも重要なテーマである。しっかり学習すること。

履修上の注意事項

このブロックでは、血液疾患、造血器腫瘍と、それらのみならず、腫瘍全体について、疾患概念、病理および画像診断法、そして化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植、支持療法などの内科的治療法を学ぶ。 医師として必要な疾患についての知識に加え、患者に共感し、その肉体的、精神的苦痛を解決することのできる、患者の立場に立った医療をおこなうにはどうしたらよいか、総合的に学んでいただきたい。

参照ホームページ

放射線治療ガイドライン 2008: http://www.kkr-smc.com/rad/guideline/2008/
緩和ケア継続教育プログラム/http://www.jspm-peace.jp/

時間割番号	011066				
科目名	一般外科				
担当教員	河野 辰幸, 田邉 稔, 植竹 宏之				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	1

授業の目的、概要等

外科的諸疾患についての考え方と、診断と外科的治療の基本原則の理解をはかる。そのために外科学の歴史、病因論、病態論、診断法、手術適応、手術術式、周術期管理などが主な授業内容である。

また、医の倫理、インフォームド・コンセント、QOL についても外科の立場でふれることになる。

授業の到達目標(SBOs)

外科系の臨床実習(clinical clerkship)に必要な知識を習得する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	10/26	09:00-09:50	医学科講義室2	外科診断学・症候学	田邉 稔
2	10/26	10:30-11:50	医学科講義室2	ヘルニア(成人・小児)	東海林 裕
3	10/26	12:50-14:10	医学科講義室2	血管の外科(止血・凝固、創傷治癒)	井上 芳徳
4	10/26	14:20-15:40	医学科講義室2	インフォームドコンセント	三宅 智
5	10/27	09:00-10:20	医学科講義室2	膵・胆道の外科	落合 高徳
6	10/27	10:30-11:50	医学科講義室2	固形がんに対する化学療法	植竹 宏之
7	10/27	12:50-14:10	医学科講義室2	小腸・大腸の外科(1) 大腸癌の外科治療	石黒 めぐみ
8	10/27	14:20-15:40	医学科講義室2	小腸・大腸の外科(2)急性腹症を中心に(ミニケース)	石黒 めぐみ
9	10/28	09:00-10:20	医学科講義室2	肝・脾の外科(移植)	田邉 稔
10	10/28	10:30-11:50	医学科講義室2	乳線	中川 剛士
11	10/28	12:50-14:10	医学科講義室2	食道・横隔膜の外科	中島 康晃
12	10/28	14:20-15:40	医学科講義室2	胃・十二指腸の外科(手術合併症・術後障害)	小嶋 一幸
13	10/29	12:50-14:10	医学科講義室2	小児の外科	岡本 健太郎
14	10/29	14:20-15:40	医学科講義室2	侵襲・代謝・栄養	岡田 卓也
15	10/30	14:20-15:40	医学科講義室2	評価(試験)	

授業方法

各テーマごとに講義 and/or ミニケース方式にて行う。

各テーマの最初に基礎医学の復習を行う。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

最終日に全受講範囲を対象とした試験を行なう。試験の成績に出席状況を加味して総合評価とする。

成績評価の基準

出席状況と試験成績とを総合して行う。

準備学習などについての具体的な指示

インフォームド・コンセント以外の 基礎医学の復習は各テーマ毎にその冒頭で行われるが、基礎医学カリキュラム及び消化器・循環器ブロックで履修した基礎医学部分を通読してから本ブロックを受講すること。

また、受講後には同日中に教科書・参考書の関連領域を通読し、復習・理解しておくことが望ましい。

教科書

標準外科学 第 13 版／加藤治文 監修,畠山勝義, 北野正剛, 若林剛 編集,:医学書院, 2013

新臨床外科学 第 4 版／武藤徹一郎, 幕内雅敏 監修,川崎誠治, 佐野俊二, 名川弘一, 野口眞三郎, 平田公一 編,:医学書院, 2006

NEW 外科学 = NEW Surgery 第 3 版／出月康夫, 古瀬彰, 杉町圭蔵 編,:南江堂, 2012

臨床外科学1・2・3／森岡 恭彦／編集,川島 康生／編集,森 昌造／編集,水戸 廸郎／編集,:朝倉書店, 2006

TNM 悪性腫瘍分類カラーアトラス／Philip Rubin, John T.Hansen [著],杉原健一, 秋田恵一 監訳,:丸善出版, 2014

Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice 19th ed. Saunders, USA 2012 年

Schwartz's Principles of Surgery 9th ed. McGraw-Hill Professional, USA 2009 年

Clinical Oncology : A Multi- Disciplinary Approach for Physicians & Students 8th ed. Saunders, USA 2001 年

参考書

臨床・病理胆道癌取扱い規約 = General Rules for Clinical and Pathological Studies on Cancer of the Biliary Tract／日本肝胆膵外科学会 編,:金原出版, 2013

膵癌取扱い規約／日本膵臓学会 編,:金原出版, 2013

大腸癌取扱い規約 = Japanese Classification of Colorectal Carcinoma／大腸癌研究会 編,:金原出版, 2013

臨床・病理乳癌取扱い規約 = General rules for clinical and pathological recording of breast cancer／日本乳癌学会 編,:金原出版, 2012

胃癌取扱い規約／日本胃癌学会 編,:金原出版, 2010

臨床・病理原発性肝癌取扱い規約 : 2009 年 6 月／日本肝癌研究会 編,:金原出版, 2009

臨床・病理食道癌取扱い規約／日本食道学会 編,:金原出版, 2008

科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン／日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会 編,:金原出版, 2013

科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン／日本肝臓学会 編,:金原出版, 2013

科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン1・2／日本乳癌学会 編,:金原出版, 2013

食道癌診断・治療ガイドライン 2012 年 4 月版 (第 3 版) 日本食道学会 金原出版 2012 年

胃癌治療ガイドライン医師用 2010 年 10 月改訂 (第 3 版) 日本胃癌学会 金原出版 2010 年

大腸癌治療ガイドライン 医師用 2014 年版 大腸癌研究会 金原出版 2014 年

エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン 改訂第 2 版 日本肝胆膵外科学会、胆道癌診療ガイドライン作成委員会 医学図書出版 2014 年

IPMN/MCN 国際診療ガイドライン・2012 年版 国際膵臓学会ワーキンググループ 医学書院

履修上の注意事項

各授業では出席をとります。 各診療科の講義担当者は以下の通りである。 田邉稔 肝胆膵外科学分野(肝胆膵外科) tana.msrg@tmd.ac.jp 東海林裕 消化管外科学分野(食道外科)tokairin.srg1@tmd.ac.jp 井上芳徳 総合外科学分野(血管外科) yoshi.inoue.srg1@tmd.ac.jp 三宅智 臨床腫瘍学分野(腫瘍センター)sm.conc@tmd.ac.jp 落合高徳 肝胆膵外科学分野(肝胆膵外科) t.ochiai.msrg@tmd.ac.jp 植竹宏之 総合外科学分野(大腸・肛門外科)h-uetake.srg2@tmd.ac.jp 石黒めぐみ 応用腫瘍学講座(大腸・肛門外科)ishiguro.srg2@tmd.ac.jp 中川剛士 総合外科学分野(乳線外科)nakagawa.srg2@tmd.ac.jp 中島康晃 消化管外科学分野(食道外科) yasu.nakajima.srg1@tmd.ac.jp 小嶋一幸 低侵襲医学研究センター(胃外科)k-kojima.srg2@tmd.ac.jp 岡本健太郎 獨協医科大学小児外科(小児外科) 岡田卓也 消化管外科学分野(食道外科)t-okada.srg1@tmd.ac.jp

参照ホームページ

Minds(マインズ)医療情報サービス http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php

がん情報サービス http://ganjoho.jp/public/index.html

REICIST ガイドライン改訂版 ver.1.1　http://www.jcog.jp/doctor/tool/recistv11.html

Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver. 4.0　http://www.jcog

世界医師会の主な宣言等　http://www.med.or.jp/jma/jma_infoactivity/jma_activity/000503.html

膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診療ガイドライン　http://jnets.umin.jp/pdf/guideline001s.pdf

連絡先

河野　辰幸:kawano.srg1@tmd.ac.jp

オフィスアワー

河野　辰幸:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

時間割番号	011067				
科目名	神経科学・臨床				
担当教員	西川 徹 前原 健寿, 横田 隆徳, 三條 伸夫, 車地 暁生				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	4

脳神経内科学 総論

授業の目的、概要等

授業は、神経解剖学、神経化学、神経生理学などの基礎的知識の復習に引き続き、教員による講義を行う。その他にも TBL や学生が数名でグループを作り実際の症例を担当し自ら授業を行う臨床講義の形式もある。いずれにしても、学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。本授業は単独で存在しているわけではなく、すでに学習した基礎神経科学からこれから学ぶクリニカル・クラークシップにいたる一連の授業の一つであり、修了時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得できていることを目指している。

授業の到達目標(SBOs)

神経系と神経疾患の特徴について説明できる
診断と検査の基本(神経症状の診察方法を説明できる)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	11/2	09:00-10:20			水澤 英洋
2	11/2	09:00-09:50	医学科講義室2	ブロックガイダンス	前原 健寿, 石川 欽也, 車地 暁生
3	11/2	10:00-11:50	医学科講義室2	基礎ミニテスト、復習(神経解剖)	前原 健寿
4	11/2	12:50-13:40	医学科講義室2	神経内科 神経内科概説	横田 隆徳
5	11/4	09:00-10:50	医学科講義室2	基礎ミニテスト、復習(神経生化)	車地 暁生
6	11/4	13:50-14:40	医学科講義室2	脳外科 脳外科概説	前原 健寿
7	11/4	14:50-15:40	医学科講義室2	精神科 精神科概説	西川 徹
8	11/5	11:00-11:50	医学科講義室2	血管内治療科概説	根本 繁
9	11/5	12:50-13:40	医学科講義室2	脳血管解剖	吉野 義一
10	11/5	13:50-15:40	医学科講義室2	検査(1)画像検査 (CT,MRI,SPECT,PET)	田中 洋次
11	11/6	09:00-10:50	医学科講義室2	基礎ミニテスト、復習(生理)	石川 欽也
12	11/6	11:00-11:50	医学科講義室2	脳外科 小児奇形	菅原 祐之
13	11/6	12:50-13:40	医学科講義室2	脳外科 意識障害	菅原 貴志
14	11/6	13:50-15:40	医学科講義室2	神経内科 診察と症候学	横田 隆徳
15	11/9	09:00-09:50	医学科講	脳梗塞の外科	菅原 貴志

			義室２		
16	11/9	10:00-11:20	医学科講義室２	頭部外傷	稲次 基希
17	11/9	12:50-13:40	医学科講義室２	神経内科 脳血管障害	白石 淳
18	11/9	13:50-15:40	医学科講義室２	神経内科 脳梗塞	白石 淳, 石橋 哲
19	11/10	09:00-10:50	医学科講義室２	精神科 統合失調症	西川 徹
20	11/10	12:50-13:40	医学科講義室２	くも膜下出血	成相 直
21	11/10	13:50-14:40	医学科講義室２	脳出血	成相 直
22	11/10	14:50-15:40	医学科講義室２	血管内治療	三木 一徳
23	11/11	11:00-11:50	医学科講義室２	検査⑵機能 （脳波、てんかん）	前原 健寿
24	11/11	12:50-13:40	医学科講義室２	精神科 症状精神病 リエゾン	竹内 崇
25	11/11	13:50-14:40	医学科講義室２	精神科 睡眠障害	平井 伸英
26	11/11	14:50-15:40	医学科講義室２	精神科 パーソナリティー障害	仲谷 誠
27	11/12	09:00-11:50	医学科講義室２	脳外科 脳腫瘍	成相 直, 田村 郁
28	11/12	12:50-15:40	4階学生実習室	病理実習 （脳腫瘍・血管障害）	小林 大輔
29	11/13	09:00-11:50	医学科講義室２	TBL（脳外科）	河野 能久
30	11/13	12:50-13:40	医学科講義室２	神経内科機能① （頭痛、めまい）	
31	11/13	13:50-14:40	医学科講義室２	神経内科	
32	11/13	14:50-15:40	医学科講義室２	神経内科 炎症性筋疾患・傍腫瘍性症候群	大久保 卓哉
33	11/16	09:00-10:50	医学科講義室２	神経内科 臨床講義2	横田 隆徳
34	11/16	12:50-14:40	医学科講義室２	神経内科 臨床講義１	横田 隆徳
35	11/16	14:50-15:40	医学科講義室２	神経内科 ALS	横田 隆徳
36	11/17	11:00-11:50	医学科講義室２	神経内科 脱髄性疾患	横田 隆徳
37	11/17	12:50-13:40	医学科講義室２	精神科 認知症（周辺症状）	
38	11/17	13:50-14:40	医学科講義室２	神経内科 感染症	石橋 哲
39	11/17	14:50-15:40	医学科講義室２	神経内科 認知症（AD以外）	市川　忠

40	11/18	09:00-09:50	医学科講義室2	精神科 神経症性障害	大島 一成	
41	11/18	10:00-10:50	医学科講義室2	精神科 ストレス関連障害		
42	11/18	11:00-11:50	医学科講義室2	心身医療科(1) 心身症と摂食障害	山岡 昌之	
43	11/18	12:50-13:40	医学科講義室2	脳外科 老年脳外科	成相 直	
44	11/19	09:00-09:50	医学科講義室2	検査(2)生理検査 (伝導検査、他)	叶内 匡	
45	11/19	13:50-15:40	医学科講義室2	CBL(精神科) 統合失調症 ストレス関連障害	治徳 大介	
46	11/20	10:00-10:50	医学科講義室2	神経内科 Guillain-Barre症候群	大久保 卓哉	
47	11/20	11:00-11:50	医学科講義室2	心身医療科(2) 精神腫瘍学	松島 英介,宮島 美穂	
48	11/20	12:50-15:40	4階学生実習室	病理実習 (感染症、脱髄性疾患、神経変性疾患)	小林 大輔	
49	11/24	09:00-09:50	医学科講義室2	神経内科		
50	11/24	10:00-10:50	医学科講義室2	神経内科:MG	鎌田 智幸	
51	11/24	12:50-14:40	医学科講義室2	神経内科 臨床講義3	石川 欽也	
52	11/24	14:50-15:40	医学科講義室2	脳外科 定位	稲次 基希	
53	11/25	09:00-10:50	医学科講義室2	神経内科 臨床講義4	三條 伸夫	
54	11/25	11:00-11:50	医学科講義室2	神経内科:筋疾患	石川 欽也	
55	11/25	12:50-15:40	医学科講義室2	TBL(神経内科)	石川 欽也	
56	11/26	11:00-11:50	医学科講義室2	神経内科 認知症(AD)	三條 伸夫	
57	11/26	12:50-13:40	医学科講義室2	神経内科		
58	11/26	13:50-15:40	医学科講義室2	神経内科 臨床講義5	織茂 智之	
59	11/27	09:00-09:50	医学科講義室2	精神科 薬物関連障害	山本 直樹	
60	11/27	10:00-11:50	医学科講義室2	気分障害	車地 暁生	
61	11/27	12:50-14:40	医学科講義室2	精神科 児童精神科	山田 佐登留	

授業方法

講義、実習

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

基礎復習テスト 10 点 X3 回、TBL 40 点 X3 回 試験 150 点 の計 300 点満点 60%以上の計 180 点を合格とする。 神経内科は、臨床講義 4 回で各 5 点の試験、総合試験 30 点で合計 50 点を各科配分の試験 50 点分とする。

成績評価の基準

試験、OSCE

準備学習などについての具体的な指示

受講前に各科のシラバスを熟読し、内容を理解しておくこと。ふめいな点があったら、オフィス時間内に各科の担当者に質問をして、確認しておくこと。

教科書

シラバス・テキストを配布します。

参考書

医学生・研修医のための神経内科学／神田隆 著,:中外医学社, 2008

ベッドサイドの神経の診かた／田崎義昭, 斎藤佳雄 著,:南山堂, 2010

脳神経外科学／太田富雄, 松谷雅生 編,:金芳堂, 2004

標準精神医学／野村総一郎, 樋口輝彦, 尾崎紀夫, 朝田隆 編,野村総一郎 [ほか] 執筆,:医学書院, 2012

カプラン臨床精神医学テキスト : DSM-4-TR 診断基準の臨床への展開／ベンジャミン・J.サドック, バージニア・A.サドック 編,井上令一, 四宮滋子 監訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004

DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル／American Psychiatric Association [編],日本精神神経学会 日本語版用語監修,高橋三郎, 大野裕監訳,染矢俊幸, 神庭重信, 尾崎紀夫, 三村將, 村井俊哉 訳:医学書院, 2014

Youmans Neurological Surgery, Vol.1-4 Winn H.R. 編 Saunders、2011

履修上の注意事項

授業を効率よく、効果的に受けるためには、基礎知識を復習し、予定の部分を予習したうえで授業に臨むことが必要である。また成績評価には TBL や CBL などの active learning の成績も重要視している。学生自ら積極的に授業に参加することが必要である。

参照ホームページ

神経内科:専用のシラバスを作成し、ホームページに随時アップデートする予定

脳神経外科疾患情報ページ http://square.umin.ac.jp/neuroinf/index.html

精神科情報ページ 日本うつ病学会 http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/

日本臨床精神神経薬理学会 http://pla

時間割番号	011068				
科目名	骨・関節・脊椎				
担当教員	大川 淳				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	2
Orthopaedics and Rehabilitation					

主な講義場所

講義室２

授業の目的、概要等

高齢社会を迎えて、健康寿命の重要性が知られるようになった。整形外科は身体の運動機能維持を目標とする診療科であり、高齢者の健康寿命延伸は総合診療的側面を持つことから、すべての医師が整形外科的素養を身に着ける必要性がある。同時に、外傷・スポーツ医学は加齢性疾患を扱う上での基礎である。整形外科の扱う範囲は広く、手術治療だけでなく保存治療も重要な手段であり、すべてを知るうえで積極的な講義への参加が望まれる。

また、整形外科領域では、すでに再生医療やバイオマテリアルの臨床応用が積極的に行われている。こうした最先端医療の紹介も講義に含む。

授業の到達目標(SBOs)

骨関節脊椎の機能と障害を理解し、外傷や加齢性疾患の病態と、それに対する整形外科的診断・治療法の概略を把握することを目的とする。嚥下を含めた運動機能維持を目的とするリハビリテーション医学の基本的考え方を学ぶ。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	11/30	09:00-10:20	医学科講義室２	整形外科 総論	大川 淳
2	11/30	10:30-11:50	医学科講義室２	脊椎Ⅰ（頚椎疾患・脊髄腫瘍）	川端 茂徳
3	11/30	12:50-14:10	医学科講義室２	脊椎外傷	加藤 剛
4	11/30	14:20-15:40	医学科講義室２	ﾐﾆｹｰｽ 脊椎Ⅰ	猪瀬 弘之
5	12/1	09:00-10:20	医学科講義室２	脊椎Ⅱ（腰椎疾患・脊柱変形）	吉井 俊貴
6	12/1	10:30-11:50	医学科講義室２	ﾐﾆｹｰｽ 脊椎Ⅱ	猪瀬 弘之
7	12/1	12:50-14:10	医学科講義室２	手外科・上肢外傷	宮本 崇
8	12/1	14:20-15:40	医学科講義室２	末梢神経障害	石井 宣一
9	12/2	09:00-10:20	医学科講義室２	骨軟部腫瘍Ⅰ	阿江 啓介
10	12/2	10:30-11:50	医学科講義室２	骨軟部腫瘍Ⅱ	佐藤 信吾
11	12/2	12:50-14:10	医学科講義室２	代謝性骨疾患	野田 政樹,竹田 秀
12	12/2	14:20-15:40	医学科講義室２	ライブ・サージェリー（関節鏡など）	二村 昭元,堀江 雅史,中村 智祐
13	12/3	12:50-14:10	医学科講義室２	TBL 脊椎脊髄・神経疾患	髙橋 誠,大川 淳
14	12/4	09:00-10:20	医学科講義室２	整形外科炎症性疾患	加藤 剛
15	12/4	10:30-11:50	医学科講	骨折治療の原則・下肢外傷	王 耀東

			義室２		
16	12/4	12:50-14:10	医学科講義室２	高気圧酸素医学	柳下 和慶
17	12/4	14:20-15:40	医学科講義室２	骨盤・股関節外傷	古賀 大介
18	12/7	09:00-10:20	医学科講義室２	軟骨代謝・再生医学	関矢 一郎
19	12/7	10:30-11:50	医学科講義室２	膝関節外傷性疾患	宗田 大
20	12/7	12:50-14:10	医学科講義室２	膝関節加齢性疾患	渡邊 敏文
21	12/7	14:20-15:40	医学科講義室２	ﾐﾆｹｰｽ 関節疾患Ⅰ	古賀 英之
22	12/8	09:00-10:20	医学科講義室２	小児整形	瀬川 裕子
23	12/8	10:30-11:50	医学科講義室２	股関節疾患	神野 哲也
24	12/8	12:50-14:10	医学科講義室２	肩・肘関節疾患とスポーツ整形	望月 智之
25	12/8	14:20-15:40	医学科講義室２	ﾐﾆｹｰｽ 関節疾患Ⅱ	望月 智之
26	12/9	09:00-10:20	医学科講義室２	リハビリテーションⅠ	森田 定雄
27	12/9	10:30-11:50	医学科講義室２	リハビリテーションⅡ	森田 定雄
28	12/9	12:50-14:10	医学科講義室２	ﾛｺﾓﾃｨﾌﾞｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	麻生 義則
29	12/9	14:20-15:40	医学科講義室２	人工骨と生体材料	早乙女 進一
30-31	12/10	12:50-15:40	医学科講義室２	PBL 関節疾患	宗田 大, 渡邊 敏文
32	12/11	09:00-10:20	医学科講義室２	トップアスリートのケア	柳下 和慶
33	12/11	10:30-11:50	医学科講義室２	評価	大川 淳, 王 耀東

授業方法

講義および大教室 PBL、ミニケースで行う。臨床解剖学分野と協力して、ライブ・サージェリーの供覧を行う。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

評価は独自の computer-based test で行う。出題は講義の範囲を超えることがあるので注意すること。出席率は成績に加味する。

成績評価の基準

60 点以上を合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

骨および筋骨格系と神経系の解剖の復習が必須である。

試験の受験資格

講義への 60%以上の出席

構成ユニット

第 1 週は、脊椎・手外科・骨軟部腫瘍、第 2 週は膝関節・股関節・リハビリテーションを中心にして構成されている。

モジュールの単位判定

なし

教科書

標準整形外科学／内田　淳正 監修,中村　利孝 [ほか]編集,中村　利孝 [ほか]執筆,:医学書院

参考書

越智隆弘総編集:最新整形外科学体系 1～25 巻　中山書店　2006～2008 （整形外科医局所蔵）

履修上の注意事項

講義のプリントは用意しないが、DreamCampus で、講義で使用する資料の閲覧が可能。

参照ホームページ

UpToDate　http://www.uptodate.com/contents/search

日本整形外科学会 HP　http://www.joa.or.jp/jp/index.html

連絡先

okawa.orth@tmd.ac.jp

オフィスアワー

アポイントは適宜とります。下記アドレスに遠慮なく連絡してください。

時間割番号	011069				
科目名	皮膚・アレルギー・膠原病				
担当教員	上阪　等, 横関　博雄, 髙村　聡人				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	2

授業の目的、概要等

第一週(皮膚・アレルギー)

解剖学、病理組織学、生理学、生化学、そして免疫・アレルギー学などの基礎医学の知識を応用し、皮膚疾患・アレルギー疾患の病態生理の理解を目指す。前半は、非免疫学的機序による皮膚疾患を扱う。後半は皮膚アレルギー疾患を中心に、呼吸器・鼻・眼など他臓器のアレルギー疾患を併せて扱い、アレルギー疾患を包括的に学習する。特に重要な疾患については、臨床例を通じて、学生主体の討論を行い、疾患についての基本的知識や、患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。

第二週(膠原病・リウマチ内科)

学生が膠原病・リウマチ性疾患の臨床を学ぶにおいて、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患または疾患群について、それらの病態生理／臨床免疫学的側面の理解、そしてプレクリニカルクラークシップにおける頻度の高い症候へのアプローチの学習の基盤となる考え方の習得を支援し、各膠原病・リウマチ性疾患または疾患群に関する概念・病因・症候・治療について概説し、学生が将来臨床に応用できる知識と考え方を自己主導的に習得するのを支援する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	12/14	09:00-09:50	医学科講義室2	皮膚の構造・機能・役割	皮膚の構造・機能・役割	横関　博雄
2	12/14	10:00-10:50	医学科講義室2	皮膚科診断学		横関　博雄
3	12/14	11:00-11:50	医学科講義室2	角化のメカニズムと角化異常症の理解	皮膚科診断学	井川　健
4	12/14	12:50-13:40	医学科講義室2	色素性疾患	角化のメカニズムと角化異常症の理解	上野　真紀子
5	12/14	13:50-14:40	医学科講義室2	皮膚血管障害	色素性疾患	野老　翔雲
6	12/14	14:50-15:40	医学科講義室2	物理化学的障害	皮膚血管障害	花房　薫
7	12/15	09:00-09:50	医学科講義室2	皮膚悪性腫瘍	皮膚悪性腫瘍	並木　剛
8	12/15	10:00-10:50	医学科講義室2	皮膚感染症Ⅰ	免疫学復習(講義・テスト)	加藤　卓朗
9	12/15	11:00-11:50	医学科講義室2	皮膚感染症Ⅱ	皮膚感染症Ⅰ	横関　博雄
10	12/15	12:50-13:40	医学科講義室2	母斑と母斑症		勝俣　道夫
11	12/15	13:50-14:40	医学科講義室2	皮膚良性腫瘍	皮膚感染症Ⅱ	勝俣　道夫
12	12/15	14:50-15:40	医学科講義室2	肉芽腫症・代謝性疾患	母斑と母斑症	野嶋　浩平
13-14	12/16	10:00-11:50	医学科講義室2	TBL(非免疫学的疾患)	物理化学的障害	横関　博雄
15	12/16	12:50-13:40	医学科講	免疫学復習(講義)	皮膚良性腫瘍	神奈木　真理

			義室２			
16	12/16	13:50-14:40	医学科講義室２	膠原病の皮疹	肉芽腫症・代謝性疾患	高河 慎介
17	12/16	14:50-15:40	医学科講義室２	薬疹・薬物障害	TBL(非免疫学的疾患)	横関 博雄,宇賀神 つかさ
18	12/17	12:50-13:40	医学科講義室２	皮膚アレルギー疾患Ⅰ	TBL(非免疫学的疾患)解説	横関 博雄,宇賀神 つかさ
19	12/17	13:50-14:40	医学科講義室２	皮膚アレルギー疾患Ⅱ	皮膚アレルギー疾患Ⅰ	井川 健
20	12/17	14:50-15:40	医学科講義室２	食物・薬物アレルギー（アナフィラキシー）case-based	薬疹・薬物障害	宇賀神 つかさ
21	12/18	09:00-09:50	医学科講義室２	鼻眼アレルギー	TBL（アレルギー疾患）	鈴木 康弘
22	12/18	10:00-10:50	医学科講義室２	気管支喘息	皮膚自己免疫疾患（乾癬）case-based	稲瀬 直彦
23	12/18	11:00-11:50	医学科講義室２	皮膚自己免疫疾患	皮膚アレルギー疾患Ⅱ	佐藤 貴浩
24-26	12/18	12:50-15:40	医学科講義室２	TBL（アレルギー疾患）	食物・薬物アレルギー（アナフィラキシー）case-based	横関 博雄
27	12/21	09:00-10:20	医学科講義室２	膠原病総論①	膠原病総論①	上阪 等
28	12/21	10:30-11:50	医学科講義室２	関節リウマチ①	関節リウマチ①	川畑 仁人
29	12/21	12:50-14:00	医学科講義室２	関節リウマチ②	関節リウマチ②演習	萩山 裕之
30	12/21	14:10-14:40	医学科講義室２	血清反応陰性脊椎関節症	血清反応陰性脊椎関節症	副島 誠
31	12/21	15:10-15:40	医学科講義室２	疾病対策課難病対策について		
32	12/22	09:00-09:50	医学科講義室２	全身性エリテマトーデス①	全身性エリテマトーデス①	髙村 聡人
33	12/22	10:00-10:50	医学科講義室２	全身性エリテマトーデス②演習	全身性エリテマトーデス②演習	窪田 哲朗
34	12/22	11:00-11:50	医学科講義室２	血管炎	多発性筋炎・皮膚筋炎	齋藤 鉄也
35	12/22	12:50-13:40	医学科講義室２	多発性筋炎・皮膚筋炎		木村 直樹
36	12/22	13:50-14:40	医学科講義室２	成人発症 Still 病・不明熱		渡部 香織
37	12/22	14:50-15:40	医学科講義室２	結晶性関節炎	血管炎	鈴木 文仁
38-40	12/24	12:50-15:40	4 階学生実習室	病理実習	Sjogren 症候群・Behcet 病	菅原 江美子
41	12/25	09:00-09:50	医学科講義室２	強皮症・混合性結合組織病	成人発症 Still 病・不明熱	杉原 毅彦
42	12/25	10:00-10:50	医学科講	Sjogren 症候群・Behcet	強皮症・混合性結合組織病	長坂 憲治

			義室2	病			
43	12/25	11:00-11:50	医学科講義室2	膠原病の治療薬	膠原病の皮疹	小池 竜司	
44-46	12/25	12:50-15:40	医学科講義室2	TBL	TBL	髙田 和生	

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

学習到達度評価は 3 回の TBL(非免疫学皮膚疾患、アレルギー疾患、膠原病・リウマチ内科疾患)を用いて行う。それぞれが合格基準を満たすことを要求する。

準備学習などについての具体的な指示

MIC 免疫学にて学習した内容を確認しておくこと。

教科書

第一週(皮膚・アレルギー)

上野賢一著「皮膚科学」金芳堂出版

池田重雄他監修「標準皮膚科学」医学書院

西山茂夫著「皮膚病アトラス」文光堂

清水宏著「あたらしい皮膚科学」中山書店

第二週(膠原病・リウマチ内科)

ハリソン内科学第4版(原著第 18 版);メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2013 年

参考書

第一週(皮膚・アレルギー)

「現代皮膚科学体系」中山書店

「皮膚科 Mook」(疾患毎に別冊になっている)金原書店

「Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology」 Blackwell Scientific Publication.

Fitzpatrick et al.: Dermatology in General Medicine」 McGraw-Hill Book Co.

「Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin」 JB Lippincott Co.

第二週(膠原病・リウマチ内科)

リウマチ病学テキスト、診断と治療社 発行年 2010 年

ワシントンマニュアル(WM)リウマチ科コンサルト;メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2006 年

時間割番号	011070				
科目名	感染・臨床				
担当教員	小池　竜司				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	1

主な講義場所

3 号館 3 階講義室 2

授業の目的、概要等

臨床感染症学として、臓器横断的に考えた感染症の特徴、診断、治療および予防の概要を学ぶ。

授業の到達目標(SBOs)

感染症の基本的考え方を身に付け、自ら考え、調べて対処するプロセスを経験する。医療従事者として必要な感染防御策の基本を習得する。あらゆる診療部門において感染対策が必要であることを認識し、実践できることを目標とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	1/4	09:00-10:20	医学科講義室 2	基礎医学復習	山岡　昇司
2	1/4	10:30-11:50	医学科講義室 2	感染症診断の臨床検査	齋藤　良一
3	1/4	12:50-13:40	医学科講義室 2	皮膚科における性感染症	吉田　正己
4	1/4	13:50-14:40	医学科講義室 2	女性診療科における性感染症	岩原　由樹
5	1/4	14:50-15:40	医学科講義室 2	泌尿器科における性感染症	伊藤　将也
6	1/5	09:00-09:50	医学科講義室 2	医療関連感染	小池　竜司
7	1/5	10:00-10:50	医学科講義室 2	日和見感染症	小池　竜司
8	1/5	11:00-11:50	医学科講義室 2	ミニケース	小池　竜司
9	1/5	12:50-13:40	医学科講義室 2	外科感染症	
10	1/5	13:50-14:40	医学科講義室 2	TBL: 病院感染・院内感染	小池　竜司
11	1/5	14:50-15:40	医学科講義室 2	TBL: 病院感染・院内感染	小池　竜司
12	1/6	09:00-09:50	医学科講義室 2	プライマリケアにおける耳鼻咽喉科感染症	角田　篤信
13	1/6	10:00-10:50	医学科講義室 2	プライマリケアにおけるウイルス感染症	小池　竜司
14	1/6	11:00-11:50	医学科講義室 2	海外の感染症と疫学	小池　竜司
15	1/6	12:50-13:40	医学科講義室 2	救急医療における感染症	牛澤　洋人
16	1/6	13:50-14:40	医学科講	臨床的に問題となる多剤耐性菌	小池　竜司

			義室2		
17	1/6	14:50-15:40	医学科講義室2	ミニケース	小池 竜司
18	1/7	12:50-13:40	医学科講義室2	小児の感染症(1)	長澤 正之
19	1/7	13:50-14:40	医学科講義室2	小児の感染症(2)	長澤 正之
20	1/7	14:50-15:40	医学科講義室2	予防接種とワクチン	長澤 正之
21	1/8	09:00-09:50	医学科講義室2	プライマリケアにおける肺感染症	藤江 俊秀
22	1/8	10:00-10:50	医学科講義室2	小テスト	小池 竜司
23	1/8	11:00-11:50	医学科講義室2	large class PBL	小池 竜司
24	1/8	12:50-14:10	医学科講義室2	large class PBL	小池 竜司

授業方法

講義・ミニケース・TBL・PBL・小テスト

ミニケースと一部の講義ではグループ学習を併用する。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

小テスト(40%)・TBL(30%)・PBL(60%) PBL では全員が自分の担当内容をレポート(A4 1 枚)として提出、グループ毎の発表会を行うが、その内容も採点に加味される(抽出した項目の妥当性、導出した結論の妥当性、発表が簡潔で過不足なく行えたか、全員参加の姿勢の有無)

成績評価の基準

上記評価で合計で 60%以上を目安とする。グループ学習の結果は採点対象としないが、取り組み姿勢やパフォーマンスが無気力と見なされる場合には、減点の対象とする。

準備学習などについての具体的な指示

シリーズの前半に行う TBL では、医療従事者としての感染予防策、感染制御についての理論や実技についてを特に対象とする。標準感染予防策、経路別予防策、疾患ごとの感染経路およびその対策について扱う。準備状況確認テストはこの範囲から出題するので、十分に予習すること。それまでに行われる講義内容にも含まれているので、講義もおろそかにしないこと。

教科書

ハリソン内科学／ダン L. ロンゴ ほか 編,福井次矢, 黒川清 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

内科学 = ASAKURA Internal Medicine／矢﨑義雄 総編集,伊藤貞嘉, 伊藤裕, 岩本愛吉, 岡芳知, 金倉譲, 工藤正俊, 島本和明, 菅野健太郎, 須永眞司, 永井良三, 長谷川好規, 水澤英洋, 山本一彦 編集,:朝倉書店, 2013

内科学書 = Standard Textbook of Internal Medicine／小川聡 総編集,:中山書店, 2013

感染症学を網羅した内科学教科書

ハリソン内科学、内科学(朝倉書店)

内科学書(中山書店)

内科学(文光堂)

新臨床内科学など

参考書

感染症専門医テキスト／日本感染症学会 編,:南江堂, 2011

感染症学／谷田憲俊 著,:診断と治療社, 2009

レジデントのための感染症診療マニュアル／青木眞 著,:医学書院, 2008

感染予防,そしてコントロールのマニュアル : すべての ICT のために／ニザーム ダマーニ 著,岩田健太郎 監修,岡秀昭 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

感染症まるごとこの一冊／矢野晴美 著,:南山堂, 2011

感染制御標準ガイド／小林寛伊 総監修,大久保憲, 林純, 松本哲哉 監修,尾家重治 編集,:じほう, 2014

Principles and practice of infectious diseases (by Mandell et al)

感染症専門医テキスト（日本感染症学会編）

感染症学（診断と治療社）

レジデントのための感染症診療マニュアル（医学書院）

他科目との関連

内科系外科系を問わず、すべての臨床系科目と関連がある。疾患について理解を深めるためには病原体の知識が必要であり、細菌学、ウイルス学、寄生虫学の知識は随時遡って復習や再学習する必要がある。

履修上の注意事項

TBL、PBL には特に主体的に参加することを求める。PBL レポートはそれぞれが自分で取り組み、自分なりの回答を記載したものを評価する。グループ単位での発表会も行い、その結果も PBL 評価に含める。各自が PC、書籍、資料を持参してよく、インターネットなどの様々な媒体を用いて情報収集をしながら参加する。グループ内では協力してよいが、レポートの内容がほぼ同一であるなど、主体的参加が評価できない場合には大きな減点の対象となる。

参照ホームページ

国立感染症研究所感染症情報センター http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html

厚生労働省検疫所 FORTH http://www.forth.go.jp/

日本感染症学会 http://www.kansensho.or.jp/

米国感染症学会 IDSA http://www.idsociety.org/Index.aspx

時間割番号	011086				
科目名	東洋医学				
担当教員	下門　顯太郎				
開講時期	通年(秋)	対象年次	2～3	単位数	1

英文名：Oriental Medicine

授業の到達目標(SBOs)

東洋医学の基礎的な概念（陰陽論、五行論、気血津液、八綱弁証、臓腑概念、病態観、証）を理解し、説明できる。

東洋医学の診断、治療の概念、薬学・方剤学の基礎について理解し、説明できる。

授業方法

講義

成績評価の方法

筆記試験

多肢選択問題（連問形式）

準備学習などについての具体的な指示

教科書

「標準東洋医学」 金原出版　仙頭正四郎

参考書

●基礎理論の理解に

「中医学入門」神戸中医学研究会編著　医歯薬出版

「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社

●一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する

「読体術:体質判別・養生論」仙頭正四郎　農文協

●臨床的な治療内容を含む

「入門漢方医学」 日本東洋医学会学術教育委員会　編集　南江堂

「症例から学ぶ和漢診療学 2 版」 寺澤 捷年著　医学書院

「改訂・中医学基礎」上海中医学院編　神戸中医学研究会訳　燎原

「簡明　漢方医学」三重大学　東洋医学研究会

参照ホームページ

http://www.jtcma.org/

http://www.jsom.or.jp/

連絡先

k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp

時間割番号	011086				
科目名	東洋医学				
担当教員	下門　顯太郎				
開講時期	通年(秋)	**対象年次**	2～3	**単位数**	1
準備学習などについての具体的な指示					
連絡先 k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp					

時間割番号	011071				
科目名	頭頸部・臨床				
担当教員	杉本 太郎, 原田 清				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	4

授業科目名英訳:Head and Neck Clinical Medicine

主な講義場所

3号館3階 医学科講義室2

授業の目的、概要等

頭頸部にはいわゆる五感と総称される視覚、嗅覚、聴平衡覚、味覚、触覚や、呼吸、構音、咀嚼、嚥下、発声などの重要な機能を持つ臓器が多数存在している。これらの機能は複雑に絡み合っており、ひとつが障害をきたすとその他の機能も影響を受け、日常生活の質に重大な影響を及ぼす。そういった複雑な頭頸部領域に生ずる疾患について理解するためには、ブロック形式で一括して当該領域について集中的に学ぶ事が非常に効率的で、かつその理解や習得の程度も深まると考えられる。3年次に行われる当ブロックにおいては、医歯学両学部を有する東京医科歯科大学の特徴を生かし、医学部と歯学部の学生が共に学習し、議論し、隣接領域の理解を深める事を目的とする。

授業の到達目標(SBOs)

①頭頸部領域の構造と機能の理解
②頭頸部領域の疾患の基本的な知識の理解
③頭頸部領域の疾患の診断と治療の理解
④これらを利用した臨床推論が可能となること

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-2	1/12	10:00-11:50	医学科講義室2	オリエンテーション・基礎医学復習テスト	杉本 太郎 山口 久美子
3	1/12	12:50-13:40	医学科講義室2	耳鼻咽喉科学総論	堤 剛
4	1/12	13:50-14:40	医学科講義室2	耳科学1(症候学)	野口 佳裕
5	1/12	14:50-15:40	医学科講義室2	耳科学2(外耳・中耳)	野口 佳裕
6	1/13	09:00-09:50	医学科講義室2	耳科学3(内耳)	髙橋 正時
7	1/13	10:00-10:50	医学科講義室2	耳科学4(めまい・平衡障害)	堤 剛
8	1/13	11:00-11:50	医学科講義室2	鼻科学1(解剖生理・検査)	野口 佳裕
9	1/13	12:50-13:40	医学科講義室2	鼻科学2(疾患1)	鈴木 康弘
10	1/13	13:50-14:40	医学科講義室2	鼻科学3(疾患2)	鈴木 康弘
11	1/13	14:50-15:40	医学科講義室2	咽頭・全身疾患	鈴木 康弘
12	1/14	12:50-14:10	医学科講義室2	耳鼻咽喉科ミニケース	川島 慶之
13	1/14	14:20-15:40	医学科講義室2	耳鼻咽喉科ミニケース	髙橋 正時
14	1/15	09:00-09:50	医学科講義室2	口腔・唾液腺疾患	角田 篤信
15	1/15	10:00-10:50	医学科講義室2	救急疾患	角田 篤信

16	1/15	11:00-11:50	医学科講義室2	喉頭1(総論)	川島 慶之
17	1/15	12:50-13:40	医学科講義室2	喉頭2(疾患)	川島 慶之
18	1/15	13:50-14:40	医学科講義室2		
19	1/15	14:50-15:40	医学科講義室2		
20	1/18	09:00-09:50	医学科講義室2	頭頸部外科学総論聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底の腫瘍	朝蔭 孝宏
21	1/18	10:00-10:50	医学科講義室2	頭頸部領域の臨床解剖1(頸部)	秋田 恵一
22	1/18	11:00-11:50	医学科講義室2	頭頸部癌の放射線治療	吉村 亮一
23	1/18	12:50-13:40	医学科講義室2	口腔・唾液腺の腫瘍	朝蔭 孝宏
24	1/18	13:50-14:40	医学科講義室2	咽頭・喉頭の腫瘍	杉本 太郎
25	1/18	14:50-15:40	医学科講義室2	甲状腺・気管食道・頸部の疾患	角 卓郎
26	1/19	09:00-09:50	医学科講義室2	頭頸部領域の臨床解剖2(頭蓋底)	秋田 恵一
27	1/19	10:00-10:50	医学科講義室2	鼻副鼻腔・頭蓋底の腫瘍	朝蔭 孝宏
28	1/19	11:00-11:50	医学科講義室2	頭蓋底腫瘍・脳神経	河野 能久
29	1/19	12:50-13:40	医学科講義室2	形成外科総論	森 弘樹
30	1/19	13:50-14:40	医学科講義室2	顔面領域の構造と外傷	岡崎 睦
31	1/19	14:50-15:40	医学科講義室2	組織再建の考え方と臨床例	岡崎 睦
32	1/20	09:00-09:50	医学科講義室2	頭頸部・頭蓋底再建の現状と課題	岡崎 睦
33	1/20	10:00-10:50	医学科講義室2	未定	
34	1/20	11:00-11:50	医学科講義室2	未定	
35	1/20	12:50-14:10	医学科講義室2	頭頸部外科患者参加型講義	杉本 太郎
36	1/20	14:20-15:40	医学科講義室2	頭頸部外科ミニケース	清川 佑介
37-39	1/21	12:50-17:10	医学科講義室2	頭頸部病理実習	伊藤 崇
40-41	1/22	09:00-11:50	医学科講義室2	耳鼻咽喉科TBL	堤 剛
42-43	1/22	12:50-15:40	医学科講義室2	頭頸部外科TBL	朝蔭 孝宏
44	1/25	09:00-09:50	医学科講	口腔外科総論	原田 清

			義室２		
45	1/25	10:00-10:50	医学科講義室２	顎口腔の悪性腫瘍	原田 浩之
46	1/25	11:00-11:50	医学科講義室２	顎口腔の外傷	樺沢 勇司
47	1/25	12:50-13:40	医学科講義室２	皮膚・軟部腫瘍の診断と治療	田中 顕太郎
48	1/25	13:50-14:40	医学科講義室２	難治性潰瘍	田中 顕太郎
49	1/25	14:50-15:40	医学科講義室２	手足・体幹の先天異常と外傷	宇佐美 聡
50	1/26	09:00-09:50	医学科講義室２	熱傷の局所治療と瘢痕ケロイド	植村 法子
51	1/26	10:00-10:50	医学科講義室２	顔面・頭部領域の先天異常	植村 法子
52	1/26	11:00-11:50	医学科講義室２	美容外科	森 弘樹
53	1/26	12:50-13:40	医学科講義室２	予備枠	
54	1/26	13:50-14:40	医学科講義室２	口腔顎顔面の先天性疾患と顎顔面変形症	原田 清
55	1/26	14:50-15:40	医学科講義室２	顎口腔の良性腫瘍および？胞	山口 聰
56	1/27	09:00-09:50	医学科講義室２	顎関節疾患	儀武 啓幸
57	1/27	10:00-10:50	医学科講義室２	歯・歯周疾患と炎症性疾患	荒木 孝二
58	1/27	11:00-11:50	医学科講義室２	口腔粘膜疾患	津島 文彦
59	1/27	12:50-14:10	医学科講義室２	口腔外科ミニケース	島本 裕彰
60	1/27	14:20-15:40	医学科講義室２	口腔外科患者参加型講義	島本 裕彰
61	1/28	12:50-14:10	医学科講義室２	形成外科ミニケース	森 弘樹
62	1/28	14:20-15:40	医学科講義室２	形成外科ミニケース	宇佐美 聡
63	1/29	09:00-11:50	医学科講義室２	形成外科TBL	岡崎 睦 森 弘樹
64	1/29	12:50-13:40	医学科講義室２	矯正（仮）	
65-66	1/29	13:50-15:40	医学科講義室２	予備枠	
67	2/1	09:00-09:50	医学科講義室２	眼科序論	大野 京子
68	2/1	10:00-10:50	医学科講義室２	眼症候学	島田 典明
69	2/1	11:00-11:50	医学科講義室２	予備枠	

70	2/1	12:50–13:40	医学科講義室2	屈折異常・調節障害	大野 京子
71	2/1	13:50–14:40	医学科講義室2	斜視・弱視	大野 京子
72	2/1	14:50–15:40	医学科講義室2	小児眼科・未熟児眼	東 範行
73	2/2	09:00–09:50	医学科講義室2	ぶどう膜炎	鴨居 功樹
74	2/2	10:00–10:50	医学科講義室2	眼科検査方法・色覚	堀江 真太郎
75	2/2	11:00–11:50	医学科講義室2	予備枠	
76	2/2	12:50–13:40	医学科講義室2	網膜血管疾患・色覚	吉田 武史
77	2/2	13:50–14:40	医学科講義室2	網膜剥離・糖尿病網膜症	村井 秀樹
78	2/2	14:50–15:40	医学科講義室2	救急疾患	吉田 武史
79	2/3	09:00–09:50	医学科講義室2	緑内障	相原 一
80	2/3	10:00–10:50	医学科講義室2	白内障	髙瀬 博
81	2/3	11:00–11:50	医学科講義室2	神経眼科	清澤 源弘
82	2/3	12:50–13:40	医学科講義室2	予備枠	
83	2/3	13:50–14:40	医学科講義室2	予備枠	
84	2/3	14:50–15:40	医学科講義室2	角膜	諸星 計
85	2/4	12:50–14:10	医学科講義室2	眼科ミニケース	鴨居 功樹
86	2/4	14:20–15:40	医学科講義室2	眼科ミニケース	大野 京子
87–88	2/5	09:00–11:50	医学科講義室2	眼科TBL	大野 京子
89–90	2/5	12:50–15:40	医学科講義室2	口腔外科・歯科 TBL	原田 清, 島本 裕彰

授業方法

講義 68 回（基礎医学復習テスト、ミニケース、患者参加型講義含む）

病理実習 1 回

試験 5 回（TBL）

授業内容

ブロック開始時に頭頸部領域全般についての基礎医学の復習テストを行い、これまで学んできた基礎的事項の理解度を再評価する。当ブロックの講義を行う主たる診療科は、耳鼻咽喉科（第 1 週）、頭頸部外科（第 2 週）、形成外科（第 2～3 週）、口腔外科・歯科（第 3 週）、眼科（第 4 週）であるが、適宜関連する他科、即ち、臨床解剖（第 1・2 週）、放射線科（第 2 週）、脳外科（第 2 週）といった他科の協力も得てこれらの領域の講義も複合的に取り入れ、理解を深める手助けとする。なお、形成外科については、その診療範囲は全身であるため、講義、試験とも、頭頸部領域のみでなく全身を対象としたものになる。また、第 2 週には医科歯科合同の病理実習を行い、各週の後半には主たる診療科のミニケースや患者参加型講義を行い、臨床推論の基礎と実際を学んで行く。第2～4週の最終日（金曜日）には医歯学融合

教育支援センターの協力を得て TBL を行って学習内容の理解の確認を行うと共に、知識の統合的な理解を深める。

成績評価の方法

講義や実習の出席状況及び態度、5 回の TBL による総合成績で評価する。講義と実習の出席は原則としてカードリーダーによるチェックによって個々に判定するが、その他に各教員の裁量で講義の際中に出席を取りその代わりとする場合もある。
なお、本人でない者によるカードリーダーのタッチ、講義開始と終了のみカードリーダーでタッチして講義そのものに出ないなどの不正行為があった場合はすべての科を不合格とする。

成績評価の基準

5 回の TBL の配点は均等とし、個々の TBL において合格基準を満たす事がブロック合格の条件となる。不合格の科に関して再試験を行う。不合格の場合の再試験は、当ブロック終了翌月の 3 月に行われる筆記テストによって行う。

準備学習などについての具体的な指示

・頭頸部基礎の知識がある前提で講義を行う。頭頸部臨床ブロックの開始前には必ず頭頸部基礎の復習をすること。
・直前に講義に関する情報を追加することがあるので、教務課からのメールおよび WebClass 上の連絡事項を確認すること。
・時間割表で授業内容を確認し、教科書の関連項目に目を通して授業に出席すること

試験の受験資格

講義と実習の合計3分の2以上の出席を要する。

教科書

NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学／喜多村健, 森山寛 編,:南江堂, 1999
標準形成外科学／平林慎一, 鈴木茂彦 編,:医学書院, 2011
標準口腔外科学／野間弘康, 瀬戸[カン]一 編,:医学書院, 2004
現代の眼科学／吉田晃敏, 谷原秀信 編,所敬 監修,:金原出版, 2012
TEXT 形成外科 第 3 版:南山堂 , 2015(近刊)

参考書

新耳鼻咽喉科学／切替一郎 原著,野村恭也 監修,加我君孝 編集,:南山堂, 2013
がんを見逃さない : 頭頸部癌診療の最前線／岸本誠司 専門編集,:中山書店, 2013
Grabb and Smith's Plastic Surgery／Charles H. Thorne MD (編集), Scott P. Bartlett MD (編集), Robert W. Beasley MD (編集), Sherrell J. Aston (編集), Geoffrey C. Gurtner MD (編集), Scott L. Spear MD FACS (編集):Lippincott Williams & Wilkins, 2007
Operative Oral and Maxillofacial Surgery／John D. Langdon, Peter A. Brennan:Hodder Education, 2011
動画でみるみるわかる眼科検査テクニック : 基本手順から疾患の捉え方まで、検査のすべてが、みえる、わかる、できる／松本長太 監修,前田裕子 編著,:メディカ出版, 2013
Clinical ophthalmology／Jack J. Kanski, Bradley Bowling:Elsevier Saunders, 2011

履修上の注意事項

講義、実習、試験の集合場所はすべて 3 号館 3 階の医学科講義室 2 とする。大人数での講義・実習となるので、これらを円滑に進めるため、時間厳守とし、カードリーダーによる出席チェックは迅速に行い、担当教員の業務遂行にも協力していただきたい。特に患者参加型講義においては遅刻、私語、写真撮影や音声の記録は厳禁とする。

備考

〇問い合わせ先(担当教員)を以下に記載します。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科:杉本太郎:sugimoto.oto@tmd.ac.jp
形成外科:森 弘樹:moriplas@tmd.ac.jp
口腔外科:島本裕彰:hiroaki.osur@tmd.ac.jp
眼科:高瀬 博:h.takase.oph@tmd.ac.jp
人体病理:伊藤 崇:t.ito.pth1@tmd.ac.jp
口腔病理:坂本 啓:s-kei.mpa@tmd.ac.jp
〇運営補助:医歯学融合教育支援センター教員

参照ホームページ

日本耳鼻咽喉科学会ホームページ http://www.jibika.or.jp/
日本頭頸部癌学会ホームページ http://www.jshnc.umin.ne.jp/
日本形成外科学会ホームページ http://www.jsprs.or.jp/
日本口腔外科学会ホームページ http://www.jsoms.or.jp/
日本眼科学会ホームページ http://www.nichigan.or.jp/index.jsp
http://lib.tmd.ac.jp/e-service/e-books.html

連絡先
杉本　太郎:sugimoto.oto@tmd.ac.jp

時間割番号	011072				
科目名	老年医学				
担当教員	下門 顯太郎, 水口 俊介				
開講時期	後期	対象年次	3	単位数	2

英文名：Geriatrics

授業の目的、概要等

高齢化社会にある日本の医療現場では、一部の科を除けば高齢患者を診察する機会が必ずあると言っても過言ではない。したがって、いずれの科を専攻するにも加齢に伴う身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。東京医科歯科大学の特徴として、医学部と歯学部の学生が、ともに老年医学ブロックで学習することで、今後必要性が増す高齢者への学際的な医療を意識した知識や技能を習得することが望まれる。

（ブロック概要）

高齢者の正常加齢的変化と疾病の特徴を学ぶ。また、実際の症例の分析を行いながら、高齢者の身体や精神の機能および生活環境の評価を行うことで、高齢者の診療上問題となる事項を学習する。なお、高齢医学ブロックでは、上記目標に向けて医学部学生と歯学部学生がすべて同じ講義を受け、実習を行う。

授業の到達目標(SBOs)

① 加齢のメカニズムを理解する
② 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する
③ 高齢者の疾病の特徴を理解する
④ 高齢者の口腔疾患が身体・精神に及ぼす影響を理解する
⑤ 高齢者の医療・歯科医療の留意点を理解する
⑥ 高齢者の医療および福祉の社会的システムを理解する
⑦ 高齢者医療の倫理を理解する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	2/8	09:00-09:50	医学科講義室2	基礎医学復習　ミニケース	下門 顯太郎
2	2/8	11:00-11:50	医学科講義室2	高齢者の医療と経済	川渕 孝一
3	2/8	12:50-13:40	医学科講義室2	ミニケース	下門 顯太郎
4-5	2/8	13:50-15:40	歯学科第2講義室	口腔ケア実習	品田 佳世子, 遠藤 圭子, 水口 俊介
6	2/9	09:00-09:50	医学科講義室2	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化	下門 顯太郎
7	2/9	11:00-11:50	医学科講義室2	高齢者の疾患の特徴	下門 顯太郎
8	2/9	12:50-13:40	医学科講義室2	褥瘡	田中 顕太郎
9	2/9	13:50-14:40	医学科講義室2	加齢のメカニズム①	丸山 直記
10	2/9	14:50-15:40	医学科講義室2	加齢のメカニズム②	丸山 直記
11	2/10	10:00-10:50	医学科講義室2	老年症候群と CGA	下門 顯太郎
12	2/10	11:00-11:50	医学科講義室2	高齢者歯科	水口 俊介
13	2/10	12:50-13:40	医学科講義室2	高齢者の精神	阿部 庸子

14	2/10	13:50-14:40	医学科講義室2	認知症・せん妄	阿部 庸子
15	2/10	15:50-17:10	医学科講義室2	ミニケース	金子 英司, 阿部 庸子
16	2/12	09:00-09:50	医学科講義室2	介護保険制度・チーム医療・地域医療	阿部 庸子
17	2/12	10:00-10:50	医学科講義室2	高齢者の栄養	豊島 堅志
18	2/12	11:00-11:50	医学科講義室2	骨折・骨粗鬆症・転倒・歩行機能障害	麻生 義則
19	2/12	12:50-13:40	医学科講義室2	高齢者の薬物療法	豊島 堅志
20	2/12	14:50-15:40	医学科講義室2	ケースカンファレンス	下門 顯太郎
21	2/15	09:00-14:40	医学科講義室2	学外実習	
22-24	2/15	10:00-13:40	医学科講義室1	高齢者体験実習	竹内 周平
25	2/15	14:50-15:40	医学科講義室2	学外実習報告会	
26	2/16	09:00-09:50	医学科講義室2	摂食嚥下機能① 歯科的内容 摂食嚥下機能② 医科的内容	中根 綾子, 角 卓郎
27-28	2/16	11:00-13:40	医学科講義室2	誤嚥性肺炎	豊島 堅志
29-30	2/16	14:20-17:10	医学科講義室2	病理実習	小林 大輔
31	2/17	10:00-10:50	医学科講義室2	パラメディカル講義	佐原 まち子
32	2/17	11:00-11:50	医学科講義室2	筆記試験	
33-35	2/17	12:50-15:40	医学科講義室2	TBL	
36	2/18	12:50-13:40			
37	2/18	13:50-14:40			
38	2/18	14:50-15:40			
39	2/19	10:00-10:50			
40	2/19	11:00-11:50			
41	2/19	12:50-13:40			
42	2/19	13:50-14:40			
43	2/19	14:50-15:40			

授業方法

重要な教科書および参考書を後述する。これらおよび文献をもとにした自主学習を前提とし、試験もその内容に準ずる。講義および症例を用いたグループ討論、高齢者体験実習、口腔ケア実習、学外実習に参加し、知識の整理と臨床的な応用能力を身につける。等に、老年医学ブロックは、異なる分野の学生が、知識を交換し、相互理解、協力姿勢を身につけることが求められる。

成績評価の方法

ブロック最終日の筆記試験、TBL での評価、実習レポート、日々の提出課題、出席を総合的に加算して行う。

準備学習などについての具体的な指示

教科書

老年医学系統講義テキスト：カラー版／日本老年医学会 編集,：西村書店, 2013
高齢者歯科診療ガイドブック／日本老年歯科医学会 監修,下山和弘, 櫻井薫, 深山治久, 米山武義 編,：口腔保健協会, 2010

参考書

老年医学テキスト／日本老年医学会 編,：メジカルビュー社, 2008
病棟レジデント,病棟医のための高齢患者診療マニュアル／下門顯太郎 編：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013
健康長寿診療ハンドブック：実地医家のための老年医学のエッセンス／日本老年医学会 編,：日本老年医学会, 2011
高齢者総合的機能評価ガイドライン／鳥羽研二 監修,長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班 著,：厚生科学研究所, 2003
認知症地域ケアガイドブック：早期発見から看取りまで／認知症介護研究・研修東京センター 監修,：ワールドプランニング, 2012
新老年学／大内尉義 編集代表,秋山弘子 編集代表,折茂肇 編集顧問,：東京大学出版会, 2010
The Washington Manual, Subspecialty Consult Series, Geriatrics Subspecialty Consult／Kyle Moylan：Lippincott Williams and Wilkins, 2003
Brocklehurst's Textbook of Geriatric Medicine and Gerontology (Seventh Edition)／Howard M. Fillit：Sunders, 2010
組織病理アトラス／小池盛雄, 恒吉正澄, 深山正久, 森永正二郎 編,：文光堂, 2005

履修上の注意事項

授業講義中および TBL 時間内のグループ学習では、あらかじめ教科書、参考図書や資料を使用して自己学習を行って下さい。　実習における注意事項　実習の振替はありませんので、必ず参加するようにお願いします。また、病理学の日程については、間違えないよう必ず確認して下さい。実習の詳細も該当頁をご覧ください。

備考

〇問合わせ先（担当教員）
下門顯太郎（医学部老年病内科） k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp
水口俊介（歯学部全部床義歯補綴学） s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
阿部庸子（医学部老年病内科） yk.abe.vasc@tmd.ac.jp

〇運営補助：医歯学融合教育支援センター教員

参照ホームページ

日本老年医学会 http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/
日本老年歯科医学会 http://www.gerodontology.jp/
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 http://www.jsdr.or.jp/
厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/

連絡先

下門　顯太郎:k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp
水口　俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

水口　俊介:随時

時間割番号	011009		
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅰ)		
担当教員			
開講時期	2年通年	対象年次	2～3

授業科目名英訳:Bioethics

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、コトをおこなってしまうのか、あるいは、するべきコトに気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標(SBOs)

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/16	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－3	医療事故と法的問題	高瀬 浩造
2	4/23	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－4	保険診療・診療報酬と倫理的問題	藍 真澄
3	4/30	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－5	疫学研究デザイン・実際	神田 英一郎
4	5/7	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－6	臨床治験と倫理的問題	石井 秀人
5	5/14	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－7	医療経済を考える	井伊 雅子
6	5/28	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－8	歯科診療に関わる倫理的問題	水口 俊介
7	6/4	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－9	医科診療に潜む倫理的問題	石井 秀人
8	6/11	09:00-09:50	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－10	到達度評価甲	吉田 雅幸
9	9/17	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－11	輸血に関連した倫理的問題	梶原 道子
10	9/17	11:10-12:00	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－12	生殖医療と倫理、遺伝子検査に関わる倫理的問題	小笹 由香
11	1/21	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－13	終末期医療と倫理(終末期医療の制度)	伊藤 亜希
12	1/28	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－14	終末期医療と倫理(亜急性型の終末期、がん等)	三宅 智
13	2/4	10:05-10:55	医学科講	生命倫理Ⅰ－15	終末期医療と倫理(慢性型の終末	阿部 庸子

			義室2		期)		
14	2/18	10:05-10:55	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－16	宗教と倫理	小川 有閑	
15	2/18	11:10-12:00	医学科講義室2	生命倫理Ⅰ－17	宗教と倫理	小川 有閑	

授業方法

講義・グループワーク

自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙(50～60%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(50～60%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60 点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の3分の2以上であること。(第3学年前期の到達度評価甲については、第2学年から第3学年前期の到達度評価甲前までの全 9 回の講義のうち、6 回以上の出席であること。第4学年前期の到達度評価乙については、第3学年前期の到達度評価甲後から第4学年前期の到達度評価乙までの全 12 回(予定)(同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす)のうち、8 回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の履修上の注意を参照のこと)

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

生命倫理と法／樋口, 範雄,土屋, 裕子,岩田, 太,:弘文堂, 2005

遺伝診療をとりまく社会 : その科学的・倫理的アプローチ／水谷修紀, 吉田雅幸 監修,吉田雅幸, 小笹由香 編,:ブレーン出版, 2007

医療の倫理ジレンマ : 解決への手引き : 患者の心を理解するために／バーナード・ロウ 著,北野喜良, 中澤英之, 小宮良輔 監訳,:西村書店, 2003

上記の文献については各自で読んでおくことが好ましい。

他の参考文献は講義のなかで随時紹介する。

② 吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会—その科学的・倫理的アプローチ』(ブレーン出版、2007 年)(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申請して下さい)

③ バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ—解決への手引き 患者の心を理解するために』(西村書店、2003 年)(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要。 医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫

理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (E メールアドレス@tmd.ac.jp の前)

桑名 仁 生命倫理研究センター hkuwcie(2015/3/27 まで)

2015/4/1 以降の問い合わせ先は後日追記いたします。

参照ホームページ

各講義時に適宜指示

時間割番号	011073		
科目名	医歯学基盤教育(臨床統計Ⅱ)		
担当教員	能登　洋, 水口　俊介, 木下　淳博		
開講時期	通年	対象年次	3

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/24	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－1	EBM/EBD 実践	能登　洋
2	9/24	11:10-12:00	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－2	EBM/EBD 実践	能登　洋
3	10/1	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－3	EBM/EBD 実践	能登　洋
4	10/8	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－4	EBM/EBD 実践	能登　洋
5	10/15	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－5	EBM/EBD 実践	能登　洋
6	10/15	11:10-12:00	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－6	EBM/EBD 実践	能登　洋
7	10/22	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－7	EBM/EBD 実践	能登　洋
8	10/29	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－8	EBM/EBD 実践	能登　洋
9	11/5	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－9	EBM/EBD 実践	能登　洋
10	11/26	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－10	EBM/EBD 実践	能登　洋
11	12/3	10:05-10:55	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－11	応用演習	能登　洋
12	1/7	11:10-12:00	医学科講義室2	臨床統計Ⅱ－12	EBM/EBD 実践　総括	能登　洋

準備学習などについての具体的な指示

連絡先

能登　洋:noto-tky@umin.net
水口　俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
木下　淳博:kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

オフィスアワー

水口　俊介:随時
木下　淳博:毎週金曜日　16:00－17:00　3号館5階　教育メディア開発部

時間割番号	011074		
科目名	医歯学基盤教育(グローバル・コミュニケーションⅡ)		
担当教員	髙田 和生, 森尾 郁子, Janelle Renee Moross		
開講時期	通年	対象年次	3

主な講義場所

Class A: 医学科講義室 2:3 号館 3 階
Class B: 共用セミナー室 5:M&D タワー15 階
Class C: 共用セミナー室 6:M&D タワー15 階
Class D: 共用セミナー室 1:M&D タワー24 階
Class E: 共用セミナー室 4:M&D タワー22 階
Class F: 共用セミナー室 2:M&D タワー23 階
Class G: 共用セミナー室 11:M&D タワー6 階
Class H: 共用セミナー室 12:M&D タワー6 階

授業の目的、概要等

本学は、基本理念の一つに「国際性と指導力を備えた人材の育成」を掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するための情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の基本理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、それ以上に、世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、論理的な思考のもとに意見を持ち、国際舞台で議論を行うのに必要な「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」、いわゆる「クリティカルシンキング」ができなくてはならない。そこで、本科目においては、到達目標を以下のように設定する。そして、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21 世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

授業の到達目標(SBOs)

1)英語により医学情報(論文やデータベース)を読む能力、口頭または文書で情報発信を行い、議論する能力を持つ
2) 適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考(クリティカルシンキング)ができる
3)世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/9	09:00-09:50		Critical Thinking Workshop	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
2	4/9	10:05-10:55		Critical Thinking Workshop	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
3	4/9	11:10-12:00		Critical Thinking Workshop	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
4	5/21	09:00-09:50		Debate Basics - ORE practice	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
5	6/18	09:00-09:50		Man Dies of Toothache	森尾 郁子, 髙田 和生, J

					anelle Renee Moross	
6	6/25	09:00-09:50		(Man Dies of Toothache) Discusstion/Debate - Pros & Cons Practice	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
7	7/2	09:00-09:50		Placebo Usage	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
8	7/9	09:00-09:50		(Placebo Usage) Discussion/Debate - Clearer Opinions with reasons	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
9	7/16	09:00-09:50		Electronic Cigarettes	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
10	7/23	09:00-09:50		(Electronic Cigarettes) Discussion/Debate - Evidence and Validity	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
11	9/17	09:00-09:50		Percutaneous Endogastric Tube (PEG)	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
12	9/24	09:00-09:50		(Percutaneous Endogastric Tube (PEG)) Discussion/Debate- Bias	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
13	10/1	09:00-09:50		IV Drips Quick Fix	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
14	10/8	09:00-09:50		(IV Drips Quick Fix) Discussion/Debate - Source Data	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
15	10/15	09:00-09:50		Blood Transfusions & Religion	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
16	10/22	09:00-09:50		(Blood Transfusions & Religion) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross	
17	10/29	09:00-09:50		Baby Farming	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Rene	

					e Moross
18	11/5	09:00-09:50		(Baby Farming) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
19	11/12	09:00-09:50		Euthanasia Presentation Group 5	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
20	11/12	10:05-10:55		(Euthanasia) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
21	11/19	09:00-09:50		Influenza Vaccinations Presentation Group 2	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
22	11/19	10:05-10:55		(Influenza Vaccinations) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
23	11/26	09:00-09:50		Gender Identity Disorder	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
24	12/3	09:00-09:50		(Gender Identity Disorder) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
25	12/10	09:00-09:50		Prenatal Testing Presentation Group 1	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
26	12/10	10:05-10:55		(Prenatal Testing) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
27	12/17	09:00-09:50		Cosmetic Surgery Presentation Group 6	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
28	12/17	10:05-10:55		(Cosmetic Surgery) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
29	1/7	09:00-09:50		Volunteering Overseas Presentation Group 3	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross

30	1/7	10:05-10:55		(Volunteering Overseas) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
31	1/14	09:00-09:50		Vaccinations Presentation Group 4	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
32	1/14	10:05-10:55		(Vaccinations) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
33	1/21	09:00-09:50		Fluoridation	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
34	1/28	09:00-09:50		(Fluoridation) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
35	2/4	09:00-09:50		Multitasking	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
36	2/18	09:00-09:50		(Multitasking) Discussion/Debate	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross

授業方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業において Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2 から 4 人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native level speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。議論のプロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。クリティカルシンキングのための導入および振返り機会を適宜用意する。

授業内容

詳細は別表のとおり

成績評価の方法

最終成績は以下にもとづき判定される。

- Vocabulary quiz performance
- Class participation (discussion/presentation/homework)
- Optional essays

成績評価の基準

最終成績は下記比重による。

- Vocabulary quiz performance（30%）
- Class participation (discussion/presentation/ homework) （70%）
- Optional essays（bonus 10%）

準備学習などについての具体的な指示

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示（文書・口頭）に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

試験の受験資格

本科目においては最終試験は行わないが、進級のためには「欠席」が全セッションの 3 分の 1 未満（2015 年度は 12 回以下）であることを必要条件とする（十分条件ではない）。なお、本科目における出欠確認方法および出欠ルールを以下の通りとする。病気等による欠席は、診断書が提出されたとしても欠席として扱われる。

【出欠確認方法】

本科目ではカードリーダーによる出欠管理は行わず、授業を通して担当講師が出欠を確認する。出欠状況は毎セッション終了後にデータ整理後 WebClass に掲示する。出欠状況について授業責任者側から個別に連絡・注意することはしないため、各自で確認し適切に行動すること。確固たる証拠にもとづく事実相違がある場合は、授業責任者に相談すること。

【出欠ルール】

・ 授業開始時より授業終了時まで在室した場合を「出席」とする

・ 授業開始時に在室していなかったが授業開始後 10 分以内に来室し、授業終了時まで在室した場合を「遅刻」とし、「遅刻」3 回を「欠席」1 回とカウントする

・授業開始後 10 分経過時以降の来室（または授業終了時まで来室なし）、または、来室時間に限らず授業終了の前に退室した場合は、「欠席」とする

教科書

最新医学用語演習 : 医学英語演習／岡田聚, 名木田恵理子 著,:南雲堂, 1993

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示（文書・口頭）に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

参考書

最強のクリティカルシンキング・マップ : あなたに合った考え方を見つけよう : critical thinking map／道田泰司 著,:日本経済新聞出版社, 2012

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする40の原則入門編／E. B. ゼックミスタ 著,宮元 博章 訳,:北大路書房

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする 40 の原則／Zechmeister, Eugene B.,Johnson, James E.,宮元, 博章,道田, 泰司,谷口, 高士,菊池, 聡,:北大路書房, 1996

履修上の注意事項

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

連絡先

髙田 和生:takada.rheu@tmd.ac.jp

森尾 郁子:imorio.edev@tmd.ac.jp

Janelle Renee Moross:Janelle Renee Moross jmoross.isc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

髙田 和生:オフィスアワーは特に定めないが, 事前連絡してから訪問すること。

森尾 郁子:毎週木曜日 PM 4:30- PM 7:00 M&D タワー7 階 教授室

Janelle Renee Moross:Janelle Renee Moross: 毎週水曜日 PM 4:30-6:00 M&D タワー8 階 教授室

時間割番号	011087		
科目名	皮膚・アレルギー・膠原病(皮膚科)		
担当教員	上阪　等, 横関　博雄, 髙村　聡人		
開講時期	後期	**対象年次**	3

授業の目的、概要等

第一週(皮膚・アレルギー)

解剖学、病理組織学、生理学、生化学、そして免疫・アレルギー学などの基礎医学の知識を応用し、皮膚疾患・アレルギー疾患の病態生理の理解を目指す。前半は、非免疫学的機序による皮膚疾患を扱う。後半は皮膚アレルギー疾患を中心に、呼吸器・鼻・眼など他臓器のアレルギー疾患を併せて扱い、アレルギー疾患を包括的に学習する。特に重要な疾患については、臨床例を通じて、学生主体の討論を行い、疾患についての基本的知識や、患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。

第二週(膠原病・リウマチ内科)

学生が膠原病・リウマチ性疾患の臨床を学ぶにおいて、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患または疾患群について、それらの病態生理／臨床免疫学的側面の理解、そしてプレクリニカルクラークシップにおける頻度の高い症候へのアプローチの学習の基盤となる考え方の習得を支援し、各膠原病・リウマチ性疾患または疾患群に関する概念・病因・症候・治療について概説し、学生が将来臨床に応用できる知識と考え方を自己主導的に習得するのを支援する。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

学習到達度評価は 3 回の TBL(非免疫学皮膚疾患、アレルギー疾患、膠原病・リウマチ内科疾患)を用いて行う。それぞれが合格基準を満たすことを要求する。

準備学習などについての具体的な指示

MIC 免疫学にて学習した内容を確認しておくこと。

教科書

第一週(皮膚・アレルギー)

上野賢一著「皮膚科学」金芳堂出版

池田重雄他監修「標準皮膚科学」医学書院

西山茂夫著「皮膚病アトラス」文光堂

清水宏著「あたらしい皮膚科学」中山書店

第二週(膠原病・リウマチ内科)

ハリソン内科学第4版(原著第 18 版);メディカル・サイエンス・インターナショナル　発行年 2013 年

参考書

第一週(皮膚・アレルギー)

「現代皮膚科学体系」中山書店

「皮膚科 Mook」(疾患毎に別冊になっている)金原書店

「Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology」 Blackwell　Scientific Publication.

Fitzpatrick et al.: Dermatology in General Medicine」 McGraw-Hill Book Co.

「Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin」 JB Lippincott Co.

第二週(膠原病・リウマチ内科)

リウマチ病学テキスト、診断と治療社　発行年 2010 年

ワシントンマニュアル(WM)リウマチ科コンサルト;メディカル・サイエンス・インターナショナル　発行年 2006 年

時間割番号	011095				
科目名	研究実践プログラム				
担当教員	淺原 弘				
開講時期	通年	対象年次	2～6	単位数	10

英文名：Research Training Program

授業の目的、概要等

第３学年開始時に、講義形式の教室（研究室）紹介を行い、その後配属先を登録する。
配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。
定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

授業の到達目標(SBOs)

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会は多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1	4/7	14:20-15:40	医学科講義室１	中田 隆夫
2	4/8	14:20-15:40	医学科講義室１	
3	4/9	14:20-15:40	症例検討室	
4	4/10	14:20-15:40	症例検討室	
5	4/13	14:20-15:40	医学科講義室１	
6	4/14	14:20-15:40	医学科講義室１	
7	4/15	14:20-15:40	医学科講義室１	
8	4/16	14:20-15:40	症例検討室	
9	4/17	15:50-17:10	医学科講義室１	

成績評価の方法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は，５月上旬（５日間程度）
に設定された履修登録期間内に，教務課にて履修登録を行ってください。
「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが，履修
登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ
辞退したものとみなします。
「研究実践プログラム」は毎年履修しても，一旦中断し，翌年度以降再度履修しても構
いません。但し，最終的な単位認定は第6学年終了後，履修した期間・これまでの評価を
基に「秀 優 良 可 （不可）」の評価及び単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

準備学習などについての具体的な指示

それぞれの指導教員の指示に従う。

教科書

受け入れ分野に相談のこと。

参考書

受け入れ分野に相談のこと。

連絡先
nakata.cbio@tmd.ac.jp

時間割番号	011096				
科目名	地域医療学習プログラム				
担当教員	久保田　俊郎				
開講時期	通年	対象年次	1～6	単位数	1

授業の目的、概要等

地域特別枠にて入学した学生は，年数回（自治体により異なる）実施される研修に参加することを義務づける他，各県を担当する教員（長野県：太田伸生教授，茨城県：宮坂尚幸寄附講座教授）と密に連絡をとり，各県の地域医療に関する現状を常に把握すること。

成績評価の方法

地域特別枠学生：各自治体が主催する研修（夏季地域医療プログラム等）への参加

上記以外：レポートなど。

自治体が設けたプログラムに参加し，出席が確認された場合は単位を付加する。選択科目とし，卒業要件単位数に含めない。4時間×年2回×6年（モデルケース）で 1.0 単位

単位認定は最終学年終了時に行い，それまでの実績を踏まえ総合的に判断する。

準備学習などについての具体的な指示

教科書

特になし

参考書

特になし

参照ホームページ

特になし

第4学年

時間割番号	011077				
科目名	救急・麻酔				
担当教員	大友 康裕, 槇田 浩史, 中澤 弘一, 石川 晴士, 白石 淳				
開講時期	前期	対象年次	4	単位数	2

主な講義場所

医科B棟 症例検討室

授業の目的、概要等

救急医学の講義と実習を通じて、全ての臨床医に必要な緊急対応、総合診療、災害医療の基礎を習得する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	備考
1	4/6	09:00-10:20	症例検討室	導入と救急初期診療1	救急医学を概説する。 救急初期診療における、研修目標(Core competencies)安全管理とスタンダードプリコーションなど基本的な手順を学習する。	大友 康裕, 白石 淳	TBL で評価する。
2	4/6	10:30-11:50	症例検討室	救急初期診療2	救急初期診療における、バイタルサインの把握、初期介入(ABCDEアプローチ)と臨床推論について学習する。	白石 淳	TBL で評価する。
3-4	4/6	12:50-14:40	症例検討室	ショックと輸液療法	生理学的な緊急事態であるショックの原因と分類と、輸液療法を含む初期対応を学習する。	相星 淳一	TBL で評価する。
5	4/6	14:50-15:40	症例検討室	感染症と体温異常	緊急を要する感染症と体温異常を学習する。	加地 正人	TBL で評価する
6-7	4/7	09:00-11:50	医学科講義室2	TBL(初期診療・内因性)		白石 淳, 世良 俊樹	
8	4/7	12:50-14:10	症例検討室	敗血症・多臓器不全		増田 孝広	TBL で評価する
9	4/7	14:20-15:40	症例検討室	心肺蘇生	心肺蘇生の解剖生理学的な理論的背景と、実践について学習する。	大友 康裕	TBL で評価する
10	4/8	09:00-10:20	症例検討室	外傷初療	外傷初期診療について、特にprimary surveyである生理学的外傷重症度の把握と初期介入について学習する。	大友 康裕	TBL で評価する。
11	4/8	10:30-11:50	症例検討室	外傷各論	外傷初期診療について、特にsecondary surveyである解剖学的外傷重症度の把握と治療について学習する。	大友 康裕, 加地 正人	TBL で評価する。
12	4/8	12:50-14:10	症例検討室	中毒と血液浄化	中毒について、安全に配慮した初期対応と、トキシドロームから特異的治療に至るまでの診療の流れを学習する。	世良 俊樹	TBL で評価する
13	4/8	14:20-15:40	症例検討室	災害医療	全ての医療者に必要な災害医療の基本的知識を学ぶ。	大友 康裕	TBL で評価する
14	4/9	12:50-14:10	医学科講義室1	TBL (ショックと輸液療法)		村田 希吉, 岡 智	
15	4/9	14:20-15:40	医学科講義室1	TBL (敗血症・多臓器不全)		増田 孝広	

16	4/10	09:00-10:20	医学科講義室2	TBL(中毒)		世良 俊樹	
17	4/10	10:30-11:50	医学科講義室2	TBL(外傷)		大友 康裕, 加地 正人	
18-19	4/10	12:50-15:40	医学科講義室1	TBL (災害医療・感染症・心肺蘇生)		大友 康裕, 加地 正人, 森下 幸治	
20	4/13	09:00-09:50	症例検討室	ガイダンスと小テスト	呼吸と循環に関する生理学、薬理学の簡単なテストを行う。	槇田 浩史	
21	4/13	10:00-10:50	症例検討室	麻酔総論	麻酔の分類、流れ、歴史について解説し、手術室の様子や生体モニターなどについても紹介する。	槇田 浩史	
22	4/13	11:00-11:50	症例検討室	静脈麻酔薬	臨床薬理学的な考え方を解説するとともに、よく用いられる鎮痛薬や鎮静薬について紹介する。	内田 篤治郎	
23	4/13	12:50-13:40	症例検討室	循環生理	循環を構成する心臓・血液・血管などの周術期における生理学的特徴や、周術期の循環動態を把握するための各種モニタリングを説明する。	遠山 悟史	
24	4/13	13:50-14:40	症例検討室	人工呼吸	1. 人工呼吸の適応　2. 陽圧呼吸の分類　3. PEEP の効能　4. 人工呼吸の合併症	若林 健二	
25	4/13	14:50-15:40	症例検討室	ARDS	1. 血管透過性亢進型肺水腫と静水圧性肺水腫の違い　2. ARDS の原因と発症機序　3. ARDS 診断基準　4. 人工呼吸治療　5. 全身管理	若林 健二	
26	4/14	09:00-10:20	症例検討室	局所麻酔と局所麻酔法	1. 局所麻酔薬の化学構造　2. 局所麻酔薬の作用機序とその作用に影響を与える因子　3. 局所麻酔薬中毒の予防と中毒発生時の対応　4. 代表的な局所麻酔薬　5. 局所麻酔薬を使用する神経ブロックの種類	舛田 昭夫	
27	4/14	10:30-11:50	症例検討室	吸入麻酔薬	1. 吸入麻酔の進化　2. 理想の吸入麻酔の条件　3. どのような物理的特性を持つ吸入麻酔薬が導入及び覚醒が早いのか　4. 吸入麻酔薬の力価を高めたり弱めたりする因子　5. 吸入麻酔の導入速度を高める因子　6. 吸入麻酔薬の副作用	里元 麻衣子	
28	4/14	12:50-14:10	症例検討室	筋弛緩薬と拮抗薬	脱分極性および非脱分極性筋弛緩薬や拮抗薬の作用メカニズムを解説し、臨床でこれらの薬物を扱う上で重要な関連項目について説明する。	倉田 二郎	
29	4/14	14:20-15:40	症例検討	脊髄くも膜下麻酔と工硬	脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔の	伊藤 裕之	

			室	膜下麻酔	原理や適応、禁忌、臨床での実際の方法などについて解説する。		
30	4/15	09:00-10:20	医学科講義室2	TBL（手術麻酔1）		深川 亜梨紗	
31	4/15	10:30-11:50	医学科講義室2	小児麻酔・産科麻酔	小児および妊婦を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	石川 晴士	
32	4/15	12:50-14:10	症例検討室	肺外科の麻酔・脳外科の麻酔	肺および脳の手術における麻酔管理で考慮すべき重要なポイントについて解説する。	石川 晴士	
33	4/15	14:20-15:40	症例検討室	内科合併症のある患者の麻酔	高血圧、ぜんそく、腎疾患、冠動脈疾患などを有する患者における麻酔管理で重要なポイントを解説する。	原茂 明弘	
34	4/16	12:50-14:10	医学科講義室1	疼痛麻酔とペインクリニック	1. 感覚を伝える神経線維の種類とその機能　2. 感覚神経の中枢への伝達経路　3. 侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛の概念　4. ペインクリニックにおける神経ブロックをはじめとする鎮痛方法　5. 癌性疼痛に対するペインクリニックの役割	舛田 昭夫	
35	4/16	14:20-15:40	医学科講義室1	TBL（ペインクリニック）		舛田 昭夫	
36	4/17	09:00-10:20	症例検討室	呼吸生理とモニター	1. 呼吸のメカニズム　2. 肺胞でのガス交換のメカニズム　3. 換気血流比と換気の異常　4. 低酸素血症をきたす要因とその治療　5. 換気のメカニクス　6. 呼吸のモニター	中澤 弘一	
37	4/17	10:30-11:50	症例検討室	気道確保	1. 気道確保のリスク評価　2. 用手的気道確保とマスク換気　3. 気管挿管　4. 気道確保困難とその対応　5. 気道確保の合併症、	足立 裕史	
38	4/17	12:50-14:10	医学科講義室1	TBL（手術麻酔2）		石川 晴士	
39	4/17	14:20-15:40	医学科講義室1	試験（麻酔、集中治療）			

授業方法

講義と TBL

授業内容

授業明細を参照

成績評価の方法

筆記試験と TBL の成績で評価する。

準備学習などについての具体的な指示

呈示する教科書の救急初期診療の章を理解することが望ましい。

教科書

標準救急医学／日本救急医学会 監修,有賀徹, 坂本哲也, 嶋津岳士, 山口芳裕, 横田裕行 編集,：医学書院, 2014

参考書

外傷初期診療ガイドライン JATEC／日本外傷学会，日本救急医学会 監修,日本外傷学会外傷初期診療ガイドライン改訂第 4 版編集委員会 編集,：へるす出版，2012
救急診療指針／日本救急医学会専門医認定委員会 編,日本救急医学会 監修,：へるす出版，2011
BLS ヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル／[American Heart Association] [著] ;境田康二 [ほか] 監修,Audra A. Benson-Rogers 日本語版編集主幹,：シナジー，2011
Evidence-Based Physical Diagnosis 3Ed／Steven McGee：Saunders，2012

時間割番号	011092		
科目名	救急・麻酔(麻酔、集中治療)		
担当教員	大友 康裕, 槇田 浩史, 中澤 弘一		
開講時期	前期	対象年次	4

Anesthesiology / Intensive Care Medicine

授業の目的、概要等

医学生が習得すべき麻酔科学および集中治療医学の基本的な事項について、講義と TBL を通して教授する。麻酔科学領域では気管挿管や神経ブロックなどの手技や周術期に用いられる薬物の薬理学的作用、さらに呼吸循環生理などの学習を通して、学生が麻酔および周術期管理の基本的な事項を説明できるようになることを、集中治療医学領域では敗血症やショックをきっかけに発症する様々な全身疾患の病態生理を理解し、診断でき、臓器機能や障害の評価を行え、対応する全身管理(呼吸循環、血液浄化)を説明できるようになることを目標とする。

成績評価の方法

筆記試験と TBL の成績で評価する。

準備学習などについての具体的な指示

下記の教科書や参考書を利用して、十分に予習してから講義や実習に臨むこと。不明な点は、担当教員にメールで問い合わせて下さい。

参考書

ICU ブック／ポール・Lマリノ 著,稲田英一 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2008

標準麻酔科学／古家仁, 稲田英一, 後藤隆久 編,弓削孟文 監修,:医学書院, 2011

ミラー麻酔科学／ロナルド・D.ミラー 編,武田純三 監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007

Clinical Anesthesia 6th Edition (図書館のウェブサイトからアクセス可能)

Miller's Anesthesia 8th Edition

履修上の注意事項

参考書を用いて十分に予習してから授業や実習に臨むこと。欠席や遅刻することがないように注意されたい。

参照ホームページ

図書館電子資料 http://www.tmd.ac.jp/lib/e-service/index.html

時間割番号	011076				
科目名	生殖・発達				
担当教員	久保田 俊郎, 森尾 友宏, 若林 晶				
開講時期	前期	対象年次	4	単位数	4

Obstetrics

Pediatrics and Developmental Biology

授業の目的、概要等

第 1 週では性周期から妊娠・出産および正常な小児発達過程を講義形式で学ぶとともに、分娩・新生児ハイブリッド授業の枠で分娩から出生過程における生理的変化・病的変化の問題を産科・小児科共同の複合授業の中で学ぶ。第 2 週は産婦人科領域の疾患を講義形式、ミニケース形式および TBL で学ぶとともに、婦人科腫瘍について病理実習を組み込む。第 3・4 週は「小児疾患」を講義形式、ミニケース形式で学ぶとともに、TBL にて小児の縦断・横断的疾患について総合討議をしながら学んでゆく。またコアカリから離れて「トピック」として最新の小児科関連の医学的知識・問題についていくつか講義を組み込む。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1	4/20	09:00–10:20	症例検討室	性周期	久保田 俊郎
2	4/20	10:30–11:50	症例検討室	排卵と黄体機能	久保田 俊郎
3	4/20	12:50–14:10	症例検討室	受精と着床	原田 竜也, 岩原 由樹, 石川 智則
4	4/20	14:20–15:40	症例検討室	胎児・新生児の生理	宮坂 尚幸, 江川 真希子
5	4/21	09:00–09:50	症例検討室	妊娠の生理と検査 1	宮坂 尚幸, 江川 真希子
6	4/21	10:00–10:50	症例検討室	妊娠の生理と検査 2	宮坂 尚幸, 江川 真希子
7	4/21	11:00–11:50	症例検討室	正常妊娠と分娩	宮坂 尚幸, 江川 真希子
8	4/21	12:50–14:10	症例検討室	小児疾患総論	森尾 友宏
9	4/21	14:20–15:40	症例検討室	アレルギー	大柴 晃洋
10	4/22	09:00–10:20	症例検討室	妊娠の異常 1	宮坂 尚幸, 江川 真希子
11	4/22	10:30–11:50	症例検討室	妊娠の異常 2	宮坂 尚幸, 江川 真希子
12	4/22	12:50–14:10	症例検討室	婦人科の診断 （症候・診察・検査）	若林 晶
13	4/22	14:20–15:40	症例検討室	婦人科の治療 （薬物・手術）	大島 乃里子, 岩原 由樹, 尾林 聡
14	4/23	12:50–14:10	症例検討室	分娩の異常 1	宮坂 尚幸, 江川 真希子
15	4/23	14:20–15:40	症例検討	分娩の異常 2	宮坂 尚幸,

			室		江川 真希子
16-17	4/24	09:00-11:50	医学科講義室2	産科 TBL	宮坂 尚幸, 江川 真希子
18	4/24	12:50-14:10	症例検討室	総括・評価	宮坂 尚幸, 江川 真希子
19	4/27	09:00-09:50	症例検討室	小テスト(1週目の確認)	若林 晶
20-21	4/27	10:00-11:50	症例検討室	婦人科良性腫瘍	吉木 尚之
22	4/27	12:50-14:10	症例検討室	婦人科感染症	寺内 公一, 大島 乃里子
23	4/27	14:20-15:40	症例検討室	ケーススタディ 婦人科良性腫瘍	吉木 尚之, 岩原 由樹
24	4/28	09:00-10:20	症例検討室	婦人科悪性腫瘍 1	若菜 公雄
25	4/28	10:30-11:50	症例検討室	婦人科悪性腫瘍 2	若林 晶
26	4/28	12:50-14:10	症例検討室	ケーススタディ 婦人科悪性腫瘍	大島 乃里子
27	4/28	14:20-15:40	症例検討室	女性医学	尾林 聡
28-29	4/30	12:50-15:40	症例検討室	婦人科病理	小林 大輔
30	5/1	09:00-09:50	症例検討室	月経異常	久保田 俊郎
31	5/1	10:00-10:50	症例検討室	不妊 1	原田 竜也, 石川 智則, 平光 史朗
32	5/1	11:00-11:50	症例検討室	不妊 2	原田 竜也, 石川 智則, 平光 史朗
33	5/1	12:50-14:10	特別講堂	試験準備	
34	5/1	14:20-15:40	特別講堂	試験	
35	5/11	09:00-10:20	症例検討室	トピック1 DOHaD	鹿島田 健一
36	5/11	10:30-11:50	症例検討室	小児の検査	森尾 友宏
37	5/11	12:50-14:10	症例検討室	代謝	鹿島田 健一
38	5/11	14:20-15:40	症例検討室	小児救急	土井 庄三郎
39	5/12	09:00-10:20	症例検討室	小児の栄養	清水 俊明
40	5/12	10:30-11:50	症例検討室	小児消化器	清水 俊明
41	5/12	12:50-14:10	症例検討室	小児内分泌1	鹿島田 健一
42	5/12	14:20-15:40	症例検討室	小児内分泌2	鹿島田 健一

43	5/13	09:00-10:20	症例検討室	ミニ・ケース1 循環器	土井 庄三郎	
44	5/13	10:30-11:50	症例検討室	成長と発達	菅原 祐之	
45	5/13	12:50-14:10	症例検討室	遺伝性疾患	森尾 友宏	
46	5/13	14:20-15:40	症例検討室	新生児	滝 敦子	
47	5/14	12:50-14:10	症例検討室	神経1	菅原 祐之	
48	5/14	14:20-15:40	症例検討室	神経2	菅原 祐之	
49-50	5/15	09:00-11:50	医学科講義室2	TBL(基礎編) 総括・評価	菅原 祐之	
51	5/15	12:50-14:10	症例検討室	小児歯科疾患	宮新 美智世	
52	5/15	14:20-15:40	症例検討室	トピック2 移行期医療	丸 光恵	
53	5/18	09:00-10:20	症例検討室	出生前診断	滝 敦子	
54	5/18	10:30-11:50	症例検討室	トピック4 先端医療	森尾 友宏	
55	5/18	12:50-14:10	症例検討室	免疫・膠原病	森尾 友宏	
56	5/18	14:20-15:40	症例検討室	トピック5 児童精神	関口 進一郎	
57	5/19	09:00-10:20	症例検討室	小児保健	髙木 正稔	
58	5/19	10:30-11:50	症例検討室	遺伝カウンセリング	吉田 雅幸	
59-60	5/19	12:50-15:40	症例検討室	分娩・新生児ハイブリッド	宮坂 尚幸, 滝 敦子	
61	5/20	09:00-10:20	症例検討室	小児悪性腫瘍	髙木 正稔	
62	5/20	10:30-11:50	症例検討室	ミニ・ケース2 血液・免疫	今井 耕輔	
63	5/20	12:50-14:10	症例検討室	腎臓	田中 絵里子	
64	5/20	14:20-15:40	症例検討室	トピック6 感染症検査	今井 耕輔	
65	5/21	12:50-14:10	症例検討室	小児在宅医療	前田 浩利	
66	5/21	14:20-15:40	症例検討室	虐待	渡部 誠一	
67-68	5/22	09:00-11:50	医学科講義室2	TBL(応用編) 総括・評価	髙木 正稔	
69-70	5/22	12:50-15:40	医学科講義室2	12:50~13:50 試験準備時間 13:50~15:40 試験	髙木 正稔	

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

講義受講態度、ミニケース・TBL 授業における積極性を加味して、小テスト・筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習などについての具体的な指示

講義開始前に、これまで学習した基礎医学の分野で「生殖・発達」と特に関連の深い「生命と遺伝」について復習をしておくこと。また、「解剖学」「生理学」等の各分野についても、「生殖・発達」と関連する部分の復習をしておくことが望ましい。

小児は「小さい大人」ではない。講義を受けるにあたり、教科書に出てくる疾患名だけでも目を通し、内科学では学習しない小児特有の疾患があることを理解してきてほしい。また、小児の解剖学的特長についても復習してから講義に望むことが望ましい。

教科書

「標準産科婦人科学」 丸尾猛・岡井崇 編 医学書院 2007 年

「プリンシパル産科婦人科学」 メジカルビュー社 2008 年

「小児科学」 編集:五十嵐隆 第 10 版 文光堂 2011 年

「標準小児科学」 編集:内山 聖 第 7 版 医学書院 2009 年

参考書

「産婦人科研修の必修知識 2011」 日本産科婦人科学会 編 2011 年

「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011 年

「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店

「婦人科疾患の MRI 診断」 富樫かおり 著 医学書院

「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版 2008 年

「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2011」 日本産科婦人科学会 編

「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2011」 日本産科婦人科学会 編

「新生児蘇生法テキスト 改訂第 2 版」 田村正徳 著 メジカルビュー社

「MFICU マニュアル」 メディカ出版

「生殖医療ガイドブック 2010 (第 1 版)」 金原出版

「子宮頸癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「子宮体癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「卵巣癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「婦人科がん標準化学療法の実際」 金原出版

"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee

"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia

"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

「ネルソン小児科学」 監修:後藤善勝 原著第 17 版 エルセビア・ジャパン 2005 年「小児疾患のとらえかた−眼でみるベットサイドの病態生理−」 編集:水谷修紀他 文光堂 2003 年

「小児科学・新生児学テキスト」 診断と治療社 2007 年

「講義録 小児科学」 メジカルビュー社 2008 年

「小児救急医療の理論と実践」 監修:公益社団法人日本小児科学会・日本小児救急学会 編集室なるにあ 2013 年

履修上の注意事項

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って当ブロックでは誕生(出生)からの発達過程の生理的病的過程を成長という視点で捉え、性的成熟過程および妊娠出産という生命の一連の流れのダイナミズムを理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対して問題意識をもって学習に当たってほしい。

参照ホームページ

http://www.jsog.or.jp/activity/guideline.html

http://www.jsgo.gr.jp/

http://www.cancer.gov/

http://www.nccn.org/index.asp

http://www.uptodate.com/home/clinicians/specialties/pediatrics.html

時間割番号	011089		
科目名	生殖・発達(産婦人科)		
担当教員	久保田 俊郎, 森尾 友宏, 元吉 八重子, 若林 晶		
開講時期	前期	対象年次	4

Obstetrics

Pediatrics and Developmental Biology

授業の目的、概要等

第 1 週では性周期から妊娠・出産および正常な小児発達過程を講義形式で学ぶとともに、分娩・新生児ハイブリッド授業の枠で分娩から出生過程における生理的変化・病的変化の問題を産科・小児科共同の複合授業の中で学ぶ。第 2 週は産婦人科領域の疾患を講義形式、ミニケース形式および TBL で学ぶとともに、婦人科腫瘍について病理実習を組み込む。第 3・4 週は「小児疾患」を講義形式、ミニケース形式で学ぶとともに、TBL にて小児の縦断・横断的疾患について総合討議をしながら学んでゆく。またコアカリから離れて「トピック」として最新の小児科関連の医学的知識・問題についていくつか講義を組み込む。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

講義受講態度、ミニケース・TBL 授業における積極性を加味して、小テスト・筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習などについての具体的な指示

講義開始前に、これまで学習した基礎医学の分野で「生殖・発達」と特に関連の深い「生命と遺伝」について復習をしておくこと。また、「解剖学」「生理学」等の各分野についても、「生殖・発達」と関連する部分の復習をしておくことが望ましい。

小児は「小さい大人」ではない。講義を受けるにあたり、教科書に出てくる疾患名だけでも目を通し、内科学では学習しない小児特有の疾患があることを理解してきてほしい。また、小児の解剖学的特長についても復習してから講義に望むことが望ましい。

教科書

「標準産科婦人科学」 丸尾猛・岡井崇 編 医学書院 2007 年

「プリンシパル産科婦人科学」 メジカルビュー社 2008 年

「小児科学」 編集:五十嵐隆 第 10 版 文光堂 2011 年

「標準小児科学」 編集:内山 聖 第 7 版 医学書院 2009 年

参考書

「産婦人科研修の必修知識 2011」 日本産科婦人科学会 編 2011 年

「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011 年

「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店

「婦人科疾患の MRI 診断」 富樫かおり 著 医学書院

「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版 2008 年

「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2011」 日本産科婦人科学会 編

「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2011」 日本産科婦人科学会 編

「新生児蘇生法テキスト 改訂第 2 版」 田村正徳 著 メジカルビュー社

「MFICU マニュアル」 メディカ出版

「生殖医療ガイドブック 2010(第 1 版)」 金原出版

「子宮頸癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「子宮体癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「卵巣癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版

「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版

「婦人科がん標準化学療法の実際」 金原出版

"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee

"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia

"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

「ネルソン小児科学」 監修:後藤善勝 原著第 17 版 エルセビア・ジャパン 2005 年「小児疾患のとらえかた−眼でみるベットサイドの病態生理−」 編集:水谷修紀他 文光堂 2003 年

「小児科学・新生児学テキスト」 診断と治療社 2007 年

「講義録 小児科学」 メジカルビュー社 2008 年

「小児救急医療の理論と実践」 監修:公益社団法人日本小児科学会・日本小児救急学会 編集室なるにあ 2013 年

履修上の注意事項

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って当ブロックでは誕生(出生)からの発達過程の生理的病的過程を成長という視点で捉え、性的成熟過程および妊娠出産という生命の一連の流れのダイナミズムを理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対して問題意識をもって学習に当たってほしい。

参照ホームページ

http://www.jsog.or.jp/activity/guideline.html

http://www.jsgo.gr.jp/

http://www.cancer.gov/

http://www.nccn.org/index.asp

http://www.uptodate.com/home/clinicians/specialties/pediatrics.html

時間割番号	011090		
科目名	生殖・発達(小児科)		
担当教員	久保田 俊郎, 森尾 友宏		
開講時期	前期	対象年次	4

Pediatrics and Developmental Biology

授業の目的、概要等

第 1 週では性周期から妊娠・出産および正常な小児発達過程を講義形式で学ぶとともに、分娩・新生児ハイブリッド授業の枠で分娩から出生過程における生理的変化・病的変化の問題を産科・小児科共同の複合授業の中で学ぶ。第 2 週は産婦人科領域の疾患を講義形式、ミニケース形式および TBL で学ぶとともに、婦人科腫瘍について病理実習を組み込む。第 3・4 週は「小児疾患」を講義形式、ミニケース形式で学ぶとともに、TBL にて小児の縦断・横断的疾患について総合討議をしながら学んでゆく。またコアカリから離れて「トピックス」として最新の小児科関連の医学的知識・問題についていくつか講義を組み込む。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

講義受講態度、ミニケース・TBL 授業における積極性を加味して、筆記試験の成績を総合して評価する。

準備学習などについての具体的な指示

講義開始前に、これまで学習した基礎医学の分野で「生殖・発達」と特に関連の深い「生命と遺伝」について復習をしておくこと。また、「解剖学」「生理学」等の各分野についても、「生殖・発達」と関連する部分の復習をしておくことが望ましい。
小児は「小さい大人」ではない。講義を受けるにあたり、教科書に出てくる疾患名だけでも目を通し、内科学では学習しない小児特有の疾患があることを理解してきてほしい。また、小児の解剖学的特長についても復習してから講義に望むことが望ましい。

教科書

「標準産科婦人科学」 丸尾猛・岡井崇 編 医学書院 2007 年
「プリンシパル産科婦人科学」 メジカルビュー社 2008 年

「小児科学」 編集:五十嵐隆 第 10 版 文光堂 2011 年
「標準小児科学」 編集:内山 聖 第 7 版 医学書院 2009 年

参考書

「産婦人科研修の必修知識 2011」 日本産科婦人科学会 編 2011 年
「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011 年
「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店
「婦人科疾患の MRI 診断」 富樫かおり 著 医学書院
「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版 2008 年
「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2011」 日本産科婦人科学会 編
「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2011」 日本産科婦人科学会 編
「新生児蘇生法テキスト 改訂第 2 版」 田村正徳 著 メジカルビュー社
「MFICU マニュアル」 メディカ出版
「生殖医療ガイドブック 2010(第 1 版)」 金原出版
「子宮頸癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「子宮体癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「卵巣癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「婦人科がん標準化学療法の実際」 金原出版
"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee

"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia

"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

「ネルソン小児科学」 監修:後藤善勝 原著第 17 版 エルセビア・ジャパン 2005 年「小児疾患のとらえかた−眼でみるベットサイドの病態生理−」 編集:水谷修紀他 文光堂 2003 年
「小児科学・新生児学テキスト」 診断と治療社 2007 年
「講義録 小児科学」 メジカルビュー社 2008 年
「小児救急医療の理論と実践」 監修:公益社団法人日本小児科学会・日本小児救急学会 編集室なるにあ 2013 年

履修上の注意事項

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って当ブロックでは誕生(出生)からの発達過程の生理的病的過程を成長という視点で捉え、性的成熟過程および妊娠出産という生命の一連の流れのダイナミズムを理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対して問題意識をもって学習に当たってほしい。

参照ホームページ

http://www.jsog.or.jp/activity/guideline.html
http://www.jsgo.gr.jp/
http://www.cancer.gov/
http://www.nccn.org/index.asp

http://www.uptodate.com/home/clinicians/specialties/pediatrics.html

時間割番号	011083		
科目名	公衆衛生学(M4)		
担当教員	中村 桂子		
開講時期	前期	対象年次	4

英文名:Public Health

授業の目的、概要等

公衆衛生学的問題の具体例を深く知ることにより、公衆衛生学の視点を学び、Public Health Mind を習得する。すべての学生がコアカリキュラムに準じた基本的事項を学び、かつ、それぞれの学生が自ら選択したテーマについてはさらに踏み込んだ発展的内容を学習することを目的としている。

授業の到達目標(SBOs)

「自ら学びとる」能動的学習態度、幅広い視野から、一つの問題を捉え、既存の資料を整理し、多角的に考察する能力、一つの事象に含まれる多様な社会的諸要素の有機的なかかわり合いを総合的に認識できる能力、そして確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、情報を伝達し共有する能力を養うことが主な目標である。さらに、学外において現場をつぶさに経験することにより書物や講義からは得がたい「共感していく態度」を体験することも大きな目標である。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1-5	5/25	09:00-17:10	6 階学生実習室 共用講義室 1	公衆衛生学実習(健康増進と予防医学)	中村 桂子
6-10	5/26	09:00-17:10	6 階学生実習室 共用講義室 1	公衆衛生学実習(社会保障制度と医療経済)	中村 桂子
11-15	5/27	09:00-17:10	6 階学生実習室 共用講義室 1	公衆衛生学実習(人口統計・保健統計・疫学)	中村 桂子
16-20	5/28	09:00-17:10	6 階学生実習室 共用講義室 1	公衆衛生学実習(地域保健・地域医療)	中村 桂子
21-25	5/29	09:00-17:10	6 階学生実習室 共用講義室 1	公衆衛生学実習(国際保健・環境保健)	中村 桂子

授業方法

学外において学習する。また、個別の学習項目について、グループワーク、特別セミナー、特別講義、文献・資料検索、データ解析、レポート作成等を通じて学習を行う。

授業内容

学外において、地域保健、地域医療、健康増進、予防医学などの現場を体験する。

(実習受入施設の例)

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部、厚生労働省健康局、厚生労働省社会・援護局、厚生労働省保健局、厚生労働省労働基準局、厚生労働省老健局、農林水産省消費安全局、内閣府食品安全委員会、成田空港検疫所、東京検疫所、FAO 日本事務所、ILO 駐日事務所、国際協力銀行、地球環境パートナーシッププラザ、国立感染症研究所感染症情報センター、国立国際医療センター国際医療協力局、独立行政法人国際協力機構(JICA)、独立行政法人国立健康・栄養研究所、独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、独立行政法人労働者健康福祉機構東京産業保健推進センター、東京都環境局、東京都健康安全研究センター、東京都環境科学研究所、東京都下水道局有明水再生センター、東京都南新宿検査・相談室、東京都環境パートナーシップコーナー、東京都北区立王子第5小学校、八王子市保健所、千代田区保健所、千葉市保健所、川崎市中原区

保健福祉センター、東京都立精神保健福祉センター、東京都立中部総合精神保健福祉センター、東京都立多摩総合精神保健福祉センター、東京都立北療育医療センター、東京都市場衛生検査所、財団法人結核予防会結核研究所、財団法人城北労働・福祉センター、財団法人高齢・障害者雇用支援機構、財団法人東京都結核予防会、財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター、財団法人救急振興財団救命救急東京研修所、財団法人日本医療機能評価機構、国民健康保険中央会、健康保険組合連合会、医療法人社団誠和会白鬚橋病院、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、旭神経内科リハビリテーション病院、青梅市立総合病院、千葉県がんセンター、東京医療生活協同組合中野総合病院、三島社会保険病院、日本赤十字社武蔵野赤十字病院、茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院土浦協同病院、茨城県厚生連JAとりで総合医療センター、神奈川県勤労者医療生活協同組合港町診療所、社会福祉法人天童会秋津養育園、社会福祉法人子どもの虐待防止センター、特定非営利活動法人東京ダルク、特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会、特定非営利活動法人みのわマック、特定非営利活動法人災害人道医療支援会（HuMA）、特定非営利活動法人HIVと人権・情報センター、株式会社森永乳業、株式会社ソニー、株式会社新日本製鐵、株式会社保健同人社、株式会社こころとからだの元氣プラザ、東京ウィメンズプラザ

特別セミナーおよび特別講義は、主に学外の非常勤講師により行う。

成績評価の方法

基礎的な知識の獲得の評価と技能の獲得の評価は、発表ならびにレポートにより行う。態度の評価は、参加態度ならびに取り組みの姿勢をもって行う。

成績評価の基準

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度（attitude）、自ら積極的に public health mind をもって取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。

準備学習などについての具体的な指示

日時を決定し、事前に説明会を開催するので出席すること。その際、実習施設および日程、学習テーマについて連絡をする。実習施設については、各施設のホームページ等をもとに情報を収集し、特に学ぶべき事項、質問する事項等をリストアップしておく。学習テーマについては、各自、充分に深めて学習しておく。

他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

履修上の注意事項

自主性と新鮮な問題意識を持って参加すること。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につける。

参照ホームページ

政府統計の総合窓口（e-Stat） http://www.e-stat.go.jp/

厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/

東京都福祉保健局 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/

世界保健機関（WHO） http://www.who.int/

連絡先

nakamura.ith@tmd.ac.jp

時間割番号	011078				
科目名	自由選択学習				
担当教員	淺原　弘嗣				
開講時期	通年	対象年次	4	単位数	12

英文名：Project Semester

授業の目的、概要等

受け入れ分野・施設での基礎研究。但し、患者と接する研究・研修は含まない。

授業の到達目標(SBOs)

主な講義・試験及び基礎実習を終えた4年次に設定されている約5ヶ月の研究コース。興味を持った分野で指導教員とともに研究テーマを定め、自ら研究を行う。それを通じて、医学の理解に必要な科学的視点、問題点の抽出・解決能力、各種研究技術、研究チームの一員としての協調性、プレゼンテーション・レポート作成技法などを習得する。受け入れ教室は医学科に限らず、本学の諸講座（附属研究所を含む）の他、学外研究機関（要了承）、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（ロンドン・英国）、クリニカ・ラスコンデス（チリ）、ガーナ大学野口記念医学研究所（ガーナ）、チュラロンコン大学（タイ）、ソウル大学（韓国）、およびオーストラリア大学（オーストラリア）などがある。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目
1-5	11/20	09:00-17:10	共用講義室1	成果発表会

成績評価の方法

実験への取り組み、ポスター発表会への取り組み、レポートを総合的に評価する。

準備学習などについての具体的な指示

それぞれの指導教員の指示に従う。

教科書

受け入れ分野に相談のこと。

参考書

受け入れ分野に相談のこと。

連絡先

asahara.syst@tmd.ac.jp

オフィスアワー

基本的には月曜日から金曜日　PM17時以降ですが、事前に下記アドレスまでご連絡をお願いいたします。

時間割番号	011080		
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅱ)		
担当教員	吉田　雅幸, 水口　俊介		
開講時期	前期	対象年次	4

授業科目名英訳:Bioethics

授業の目的、概要等

なぜ人は目につくことを過大評価してしまうのか、あるいは、先々のことを考えるのが難しく、現状維持をしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第4学年においては、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、プロジェクトセメスターやクリニカルクラークシップなどの際に医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標(SBOs)

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。プロジェクトセメスターやクリニカルクラークシップなどの際に医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/23	10:05-10:55	医学科講義室1	生命倫理Ⅱ－1	カウンセリングロールプレイ(遺伝カウンセリングを例として)①	甲畑　宏子
2	4/23	11:10-12:00	医学科講義室1	生命倫理Ⅱ－2	カウンセリングロールプレイ(遺伝カウンセリングを例として)②	甲畑　宏子
3	5/7	11:10-12:00	特別講堂	生命倫理Ⅱ－3	研究倫理・研究者倫理(倫理違反の具体例もあげて)	桑名　仁
4	5/14	10:05-10:55	特別講堂	生命倫理Ⅱ－4	脳死判定と臓器移植	坂下　千瑞子
5	5/14	11:10-12:00	特別講堂	生命倫理Ⅱ－5	救命救急トリアージと倫理的問題	大友　康裕
6	5/21	09:00-09:50	特別講堂	生命倫理Ⅱ－6	到達度評価乙	江花　有亮
7	5/21	10:05-10:55	特別講堂	生命倫理Ⅱ－7	研究倫理ワークショップ①	吉田　雅幸
8	5/21	11:10-12:00	特別講堂	生命倫理Ⅱ－8	研究倫理ワークショップ②	吉田　雅幸

授業方法

講義・グループワーク

自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年の成績も含めて考慮し、第3学年前期の応用演習および第4学年前期の到達度評価乙(50～60%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(50～60%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する応用演習・到達度評価乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60 点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習などについての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。また、「臨床倫理と基礎研究倫理」の前には自分の配属されるプロジェクトセメスターでの研究の概略を把握してくること。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。(第4学年前期の到達度評価乙については、第3学年前期の応用演習後から第4学年前期の到達度評価乙までの全 12 回(昨年度予定していたよりも 1 回減りましたのでご注意ください)(同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす)のうち、8 回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の履修上の注意を参照のこと)

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

生命倫理と法／樋口, 範雄,土屋, 裕子,岩田, 太,:弘文堂, 2005

遺伝診療をとりまく社会 : その科学的・倫理的アプローチ／水谷修紀, 吉田雅幸 監修,吉田雅幸, 小笹由香 編,:ブレーン出版, 2007

医療の倫理ジレンマ : 解決への手引き : 患者の心を理解するために／バーナード・ロウ 著,北野喜良, 中澤英之, 小宮良輔 監訳,:西村書店, 2003

上記に挙げる文献については各自で読んでおくことが好ましい。

他の参考文献は講義のなかで随時紹介する。

②吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会—その科学的・倫理的アプローチ』(ブレーン出版、2007 年)(絶版ですので必要な時は生命倫理研究センターで貸し出しますので申請して下さい)

③バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ—解決への手引き 患者の心を理解するために』(西村書店、2003 年)(絶版ですが中古はわりと入手しやすいです)

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「応用演習」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要。 医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (E メールアドレス@tmd.ac.jp の前)

桑名 仁 生命倫理研究センター hkuwcie(2015/3/27 まで)

2015/4/1 以降の問い合わせ先は後日追記いたします。

参照ホームページ

各講義時に適宜指示

連絡先

吉田 雅幸: masa.vasc@tmd.ac.jp

水口 俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

吉田 雅幸: オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

水口 俊介:随時

時間割番号	011081		
科目名	医歯学基盤教育(臨床統計 Ⅲ)		
担当教員	能登 洋, 水口 俊介		
開講時期	前期	対象年次	4

主な講義場所

歯科棟南4階 歯学部特別講堂

授業の目的、概要等

臨床統計 Ⅰ･Ⅱ で学習した統計学の臨床的意義と応用法をもとに実臨床につながる発展学習を行う.診療ガイドラインや臨床研究の創り方にも触れる. 問題解決において必須となる情報収集を適切に効果的に行う能力を習得するほか,著作権や情報の扱いにも触れる.

授業の到達目標(SBOs)

エビデンスを正しく読解し, 実臨床に活用できる能力を習得する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	4/9	10:05-10:55	特別講堂	臨床統計Ⅲ－1	EBM/EBD発展	能登 洋
2	4/9	11:10-12:00	特別講堂	臨床統計Ⅲ－2	EBM/EBD発展	能登 洋
3	4/16	10:05-10:55	特別講堂	臨床統計Ⅲ－3	EBM/EBD発展	能登 洋
4	4/16	11:10-12:00	特別講堂	臨床統計Ⅲ－4	EBM/EBD発展	能登 洋
5	4/30	10:05-10:55	特別講堂	臨床統計Ⅲ－5	EBM/EBD発展	能登 洋
6	4/30	11:10-12:00	特別講堂	臨床統計Ⅲ－6	応用演習	能登 洋

授業方法

講義・演習による

授業内容

・検診

・診療ガイドライン

・人口統計

・臨床研究の創り方

・EBM/EBD の実践

成績評価の方法

科目責任者が,応用演習を主として判定する.

成績評価の基準

科目責任者が,応用演習中に行う試験を主として判定する. 追試・再試については原則として東京医科歯科大学試験規則に従う.

準備学習などについての具体的な指示

教科書を活用して予習・復習に役立てること. また, e ラーニングシステムに事前掲載された資料に目を通し,指示がある場合は事前準備(WebClass へのログイン,資料のダウンロード,リンクサイトからの情報収集等)を行うこと.

試験の受験資格

臨床統計Ⅰ･Ⅱ単位取得済みであること. (履修上の注意事項参照)

教科書

臨床統計はじめの一歩 Q&A : 統計のイロハから論文の読み方、研究のつくり方まで／能登洋 著,:羊土社, 2008

参考書

EBM の正しい理解と実践 Q&A : 一問一答で疑問解消,ケーススタディで即実践!／能登洋 著,:羊土社, 2003

日常診療にすぐに使える臨床統計学 : ベストな診断と治療ができる!／能登洋 著,:羊土社, 2011

2 週間でマスターするエビデンスの読み方使い方のキホン = 2 WEEKS TO MASTER THE BASICS OF EVIDENCE APPRAISAL AND APPLICATION : すぐにできる EBM 実践法／能登洋 著,:南江堂, 2013

他科目との関連

グローバルコミュニケーション・生命倫理と相互関連した講義内容である.

履修上の注意事項

・予習課題や試験について事前連絡することがあるため, WebClass を受講前に確認すること ・「応用演習」の回では,到達度を測る目的で試験を実施する. ・進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要 ・各講義の遅刻・早退は原則的に認めない. また, 出席手続きなどの不正に対しては厳正に対処する.

備考
担当教員：能登　洋
連絡先
能登　洋:noto-tky@umin.net
水口　俊介:s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
オフィスアワー
水口　俊介:随時

時間割番号	011082		
科目名	医歯学基盤教育(グローバル・コミュニケーションⅢ)		
担当教員	髙田 和生, 森尾 郁子, Janelle Renee Moross		
開講時期	前期	対象年次	4

主な講義場所

Class A:演習室 5:1 号館西 6 階

Class B:演習室 6:1 号館西 6 階

Class C:演習室 7:1 号館西 6 階

Class D:演習室 8:1 号館西 6 階

Class E:演習室 9:1 号館西 6 階

Class F:演習室 10:1 号館西 6 階

Class G:演習室 11:1 号館西 6 階

Class H:演習室 1-2:1 号館西 6 階

Class I:演習室 3-4:1 号館西 6 階

Class J:第 1 ゼミナール室:1 号館東 7 階

Class K:第 4 ゼミナール室:7 号館 6 階、 注目:(5 月 7 日は第 3 ゼミナール室:1 号館東 6 階になります。)

Class L:第 2 ゼミナール室:1 号館東 7 階、 注目:(4 月 9 日と 16 日は病院演習室、歯学部附属病院 4 階になります。)

授業の目的、概要等

本学は、基本理念の一つに「国際性と指導力を備えた人材の育成」を掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するための情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の基本理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、それ以上に、世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、論理的な思考のもとに意見を持ち、国際舞台で議論を行うのに必要な「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」、いわゆる「クリティカルシンキング」ができなくてはならない。そこで、本科目においては、到達目標を以下のように設定する。そして、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21 世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

授業の到達目標(SBOs)

1)英語により医学情報(論文やデータベース)を読む能力、口頭または文書で情報発信を行い、議論する能力を持つ

2) 適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考(クリティカルシンキング)ができる

3)世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員
1	4/9	09:00-09:50		Telomeres	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
2	4/16	09:00-09:50		(Telomeres) Present information you found and discuss in your group	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
3	4/23	09:00-09:50		Stem Cells and Teeth	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
4	4/30	09:00-09:50		(Stem Cells and Teeth) Present information you found and discuss	森尾 郁子, 髙田 和生, J

				in your group	anelle Renee Moross
5	5/7	09:00-09:50		Vinegar Test for Cervical Cancer	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
6	5/7	10:05-10:55		(Vinegar Test for Cervical Caner) Present information you found and discuss in your group	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross
7	5/14	09:00-09:50		TED Talks Doctors Make Mistakes	森尾 郁子, 髙田 和生, Janelle Renee Moross

授業方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業において Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2 から 4 人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native level speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。議論のプロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。クリティカルシンキングのための導入および振返り機会を適宜用意する。

授業内容

詳細は別表のとおり

成績評価の方法

最終成績は以下にもとづき判定される。

・ Class participation (discussion/presentation/homework)

・ Optional essays

成績評価の基準

最終成績は下記比重による。

・ Class participation (discussion/presentation/ homework) (100%)

・ Optional essays(bonus 10%)

準備学習などについての具体的な指示

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示(文書・口頭)に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

試験の受験資格

本科目においては最終試験は行わないが、進級のためには「欠席」が全セッションの 3 分の 1 未満(2015 年度は 2 回以下)であることを必要条件とする(十分条件ではない)。なお、本科目における出欠確認方法および出欠ルールを以下の通りとする。病気等による欠席は、診断書が提出されたとしても欠席として扱われる。

【出欠確認方法】

本科目ではカードリーダーによる出欠管理は行わず、授業を通して担当講師が出欠を確認する。出欠状況は毎セッション終了後にデータ整理後 WebClass に掲示する。出欠状況について授業責任者側から個別に連絡・注意することはしないため、各自で確認し適切に行動すること。確固たる証拠にもとづく事実相違がある場合は、授業責任者に相談すること。

【出欠ルール】

・ 授業開始時より授業終了時まで在室した場合を「出席」とする

・ 授業開始時に在室していなかったが授業開始後 10 分以内に来室し、授業終了時まで在室した場合を「遅刻」とし、「遅刻」3 回を「欠席」1 回とカウントする

・授業開始後 10 分経過時以降の来室（または授業終了時まで来室なし）、または、来室時間に限らず授業終了の前に退室した場合は、「欠席」とする

教科書

最新医学用語演習 : 医学英語演習／岡田聚, 名木田恵理子 著,:南雲堂, 1993

指示に従い Vocabulary quiz のための学習およびグループ議論、ディベート、口頭プレゼンテーションの準備をしてくること。その際、科目担当者からの指示（文書・口頭）に従うと共に、指定される資料だけでなく、インターネットなどを用いて議論を深めるために役立つ他資料や情報を主体的に収集し、準備に努めること。

参考書

最強のクリティカルシンキング・マップ : あなたに合った考え方を見つけよう : critical thinking map／道田泰司 著,:日本経済新聞出版社, 2012

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする40の原則入門編／E. B. ゼックミスタ 著,宮元 博章 訳:北大路書房

クリティカルシンキング : あなたの思考をガイドする 40 の原則／Zechmeister, Eugene B.,Johnson, James E.,宮元, 博章,道田, 泰司,谷口, 高士,菊池, 聡,:北大路書房, 1996

履修上の注意事項

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

連絡先

高田 和生:takada.rheu@tmd.ac.jp

森尾 郁子:imorio.edev@tmd.ac.jp

Janelle Renee Moross:Janelle Renee Moross jmoross.isc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

高田 和生:オフィスアワーは特に定めないが, 事前連絡してから訪問すること。

森尾 郁子:毎週木曜日 PM 4:30- PM 7:00 M&D タワー7 階 教授室

Janelle Renee Moross:Janelle Renee Moross: 毎週水曜日 PM 4:30-6:00 M&D タワー8 階 教授室

時間割番号	011095				
科目名	研究実践プログラム				
担当教員	淺原　弘嗣				
開講時期	通年	対象年次	2～6	単位数	10

英文名：Research Training Program

授業の目的、概要等

第３学年開始時に、講義形式の教室（研究室）紹介を行い、その後配属先を登録する。
配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。
定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

授業の到達目標(SBOs)

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会は多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

成績評価の方法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は，５月上旬（５日間程度）
に設定された履修登録期間内に，教務課にて履修登録を行ってください。
「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが，履修
登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ
辞退したものとみなします。
「研究実践プログラム」は毎年履修しても，一旦中断し，翌年度以降再度履修しても構
いません。但し，最終的な単位認定は第6学年終了後，履修した期間・これまでの評価を
基に「秀　優　良　可　（不可）」の評価及び単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

準備学習などについての具体的な指示

それぞれの指導教員の指示に従う。

教科書

受け入れ分野に相談のこと。

参考書

受け入れ分野に相談のこと。

連絡先

nakata.cbio@tmd.ac.jp

時間割番号	011096				
科目名	地域医療学習プログラム				
担当教員	久保田　俊郎				
開講時期	通年	対象年次	1～6	単位数	1

授業の目的、概要等

地域特別枠にて入学した学生は，年数回（自治体により異なる）実施される研修に参加することを義務づける他，各県を担当する教員（長野県：太田伸生教授，茨城県：宮坂尚幸寄附講座教授）と密に連絡をとり，各県の地域医療に関する現状を常に把握すること。

成績評価の方法

地域特別枠学生：各自治体が主催する研修（夏季地域医療プログラム等）への参加

上記以外：レポートなど。

自治体が設けたプログラムに参加し，出席が確認された場合は単位を付加する。選択科目とし，卒業要件単位数に含めない。4時間×年2回×6年（モデルケース）で 1.0 単位

単位認定は最終学年終了時に行い，それまでの実績を踏まえ総合的に判断する。

準備学習などについての具体的な指示

教科書

特になし

参考書

特になし

参照ホームページ

特になし

第5学年

時間割番号	011103				
科目名	包括医療統合教育				
担当教員	髙田 和生, 中川 美奈, 鶴田 潤, 山口 久美子, 瀬川 裕子, 川上 千春, 藤田 めぐみ				
開講時期	通年	対象年次	6	単位数	2

Multidisciplinary and integrated learning

主な講義場所

3号館3階医学科講義室2など。最新の時間割表を確認すること。

授業の目的、概要等

口腔医療、全身医療それぞれの進歩・複雑化により、高齢者や合併症や複雑な背景を抱える患者の医療には医、歯をはじめとした多職種間で連携性・協調性のとれた包括的医療が必要とされる。そのような観点から、本学では医療系総合大学の特性を生かし、学科横断、講座横断、および学年縦断的な医歯学融合教育の礎をつくる以下の 6 つの目的をかかげる。

授業の到達目標(SBOs)

①診療において、他の専門職、患者および患者家族に配慮し良好な関係を築くとともに、専門職種にふさわしい振る舞いができる。
②基礎医学の知識をもとに疾患の病因・病態・臨床徴候などを十分理解し、頻度の高い疾患や重篤な病態に関しては、適切な評価法を算定し所見を解釈すると同時に、診断および治療法に関する知識を診療に応用できる。
③全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる。　④高齢者包括的評価をおこなうことができる。
⑤医療機関内の制度、資源や社会における医療福祉制度を理解する。
⑥医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う　⑦メンタルストレスに直面した際の適切な自己管理、通常時の自己研鑽、自己学習ができる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容
1	12/21	09:00-10:20		臨床推論	
2	12/21	10:30-11:50		キャリア形成	
3	12/21	12:50-14:10		臨床講義	抗菌薬
4	12/21	14:20-15:40		イノベーター	regulatory science1
5	12/21	15:50-17:10			
6	12/22	09:00-10:20		臨床推論	
7	12/22	10:30-11:50		キャリア形成	
8	12/22	12:50-14:10		臨床講義	全身医療と歯科疾患
9	12/22	14:20-15:40		イノベーター	regulatory science2
10	12/22	15:50-17:10			
11	12/24	09:00-10:20		臨床推論	
12	12/24	10:30-11:50		キャリア形成	
13	12/24	12:50-14:10		臨床講義	
14	12/24	14:20-15:40		国家試験対策	
15	12/24	15:50-17:10			
16	12/25	09:00-10:20		臨床推論	
17	12/25	10:30-11:50		キャリア形成	
18	12/25	12:50-14:10		臨床講義	
19	12/25	14:20-15:40		TBL	
20	12/25	15:50-17:10			

授業方法

講義・グループ討論・自己学習とプレゼンテーションほか

成績評価の方法

参加態度、個人およびグループ課題、筆記試験で評価を行う。

準備学習などについての具体的な指示

・講義の前には授業内容を確認し、予習してくること。
・実習の前には要項に目を通し、予習してくること。また、実習に臨むにあたり、必要に応じて参考資料、補助教材を用い予習をおこなうこと。

試験の受験資格

講義：2／3以上の出席、実習：3／4以上の出席

履修上の注意事項

出席は講義：実習開始時の学生証による確認とする。出席に関する不正行為が発覚した場合は、試験の受験資格を失う事もある。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱われ、正当な理由のない遅刻は欠席とみなす。実習に際しては、あらかじめ配布された手順を十分に予習して臨むこと。

備考

オフィスアワー：中川美奈、鶴田潤；随時（必ず事前に連絡すること）

連絡先（メールアドレス）：

中川美奈: mnakagawa.gast@tmd.ac.jp

鶴田 潤: turucie@tmd.ac.jp

連絡先

髙田 和生:takada.rheu@tmd.ac.jp

鶴田 潤:能登 洋： noto-tky@umin.net 水口俊介： s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp

山口 久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp

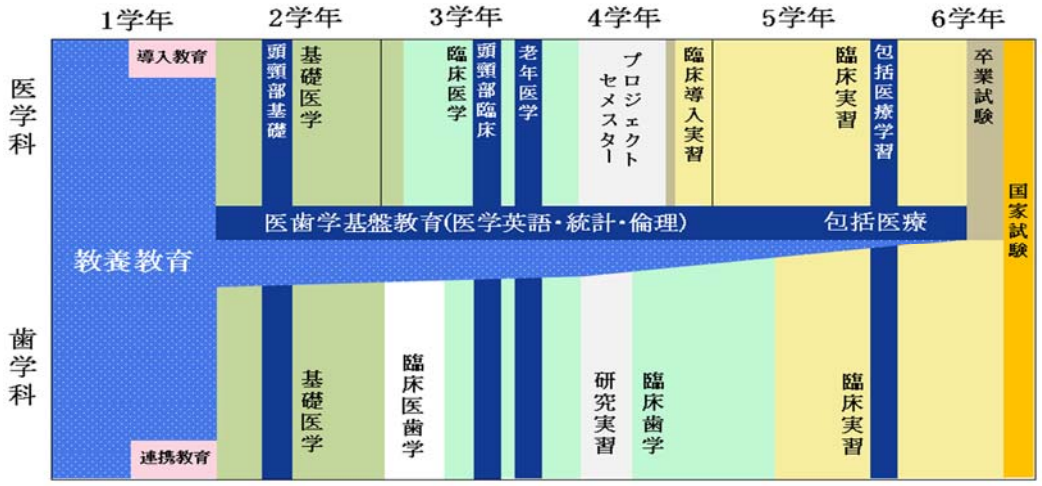
オフィスアワー

髙田 和生:オフィスアワーは特に定めないが，事前連絡してから訪問すること。

鶴田 潤:水口俊介：随時

● 医歯学融合教育

ますます進む高齢化や医療の進歩および複雑化により、これからの医療には多職種間で連携・協調のとれた包括的医療が必要とされます。そこで本学では、医学部と歯学部を併せ持つ医療系総合大学としての特色を活かし、複数学科の学生がともに共通目標に向かって学ぶ融合教育カリキュラムを開発しました。具体的には、複数学科、特に医学科と歯学科の学生が卒業時に獲得しておくべき知識・技能・態度のうち、共通するものであり共同で学ぶことにより学習効果が高まるもの、そして将来の連携・協調のもとの包括的医療提供のための基盤となるものを教育対象とし、以下のように 6 年間を通して様々な学習段階でともに教え合いながら学ぶ機会を創出しました。



● 医歯学基盤教育(2 年次～4 年次まで)

医学歯学を学ぶ上で基盤となる「英語」「臨床統計」「生命倫理」に関し、2 年次から 4 年次にわたってともに学びます。従来「統計」「倫理」は医歯学専門教育の始まる前に行われていましたが、今回それらを関連する内容の専門教育と並行して配置し、そして内容をリンクさせることにより、学習効果を高める工夫を行いました。

● 頭頸部ブロック(2 年次:頭頸部基礎(7 月) 3 年次：頭頸部臨床(1 月))

頭頸部領域は、医師・歯科医師ともに診療にかかわる領域であり、医歯学生の両者にとっても非常に重要な領域です。医科および歯科の教員がそれぞれの得意分野を生かし、両学科の学生に同一の教育を行い、両学科の学生のより充実した学習につなげます。

2 年次に行われる頭頸部基礎ブロックでは、頭頸部(頚から上の脳を除いた領域)に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学・生理学の教員が講義を行います。並行して 2 学科合同の実習を行い、知識の定着につなげます。

3 年次に行われる頭頸部臨床ブロックでは、主として眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科・口腔外科の臨床 5 科の教員が臨床講義を行います。講義の形態として、患者参加型講義や症例基盤型学習機会なども用意される予定です。頭頸部領域の疾患を理解するうえで必要となる歯科・脳神経外科の講義の一部や頭頸部領域の病理実習もこの期間に含まれます。

● 老年医学ブロック(3 年次(2 月))

高齢化が進む我が国の未来社会において、「高齢者」とその生理的変化、および、高齢者によくみられる病態を知ることは、医学科・歯学科両学生共に必須のこととなります。3 年次に 2 週間で行われる老年医学ブロックでは、医学科・歯学科合同の講義・実習を通じて高齢者について学びます。

● 包括医療学習(6 年次)

6 年次の最初に行わる包括医療学習では、専門知識・技能習得が進んだ医学部・歯学部の各学科最終学年の学生が一同に会し、各学科学生の混在する少人数グループ教育を行います。ここでは、症例シナリオをもとに、各学生がそれまでに学んだ知識・技能を振り返りながら統合・応用してグループとして共通の目標にむけて問題解決に取り組み、多職種間で連携・協調のとれた包括的医療を提供できる医療人となるための資質を養います。

科目を履修して得られる能力
医学系コンピテンシーより

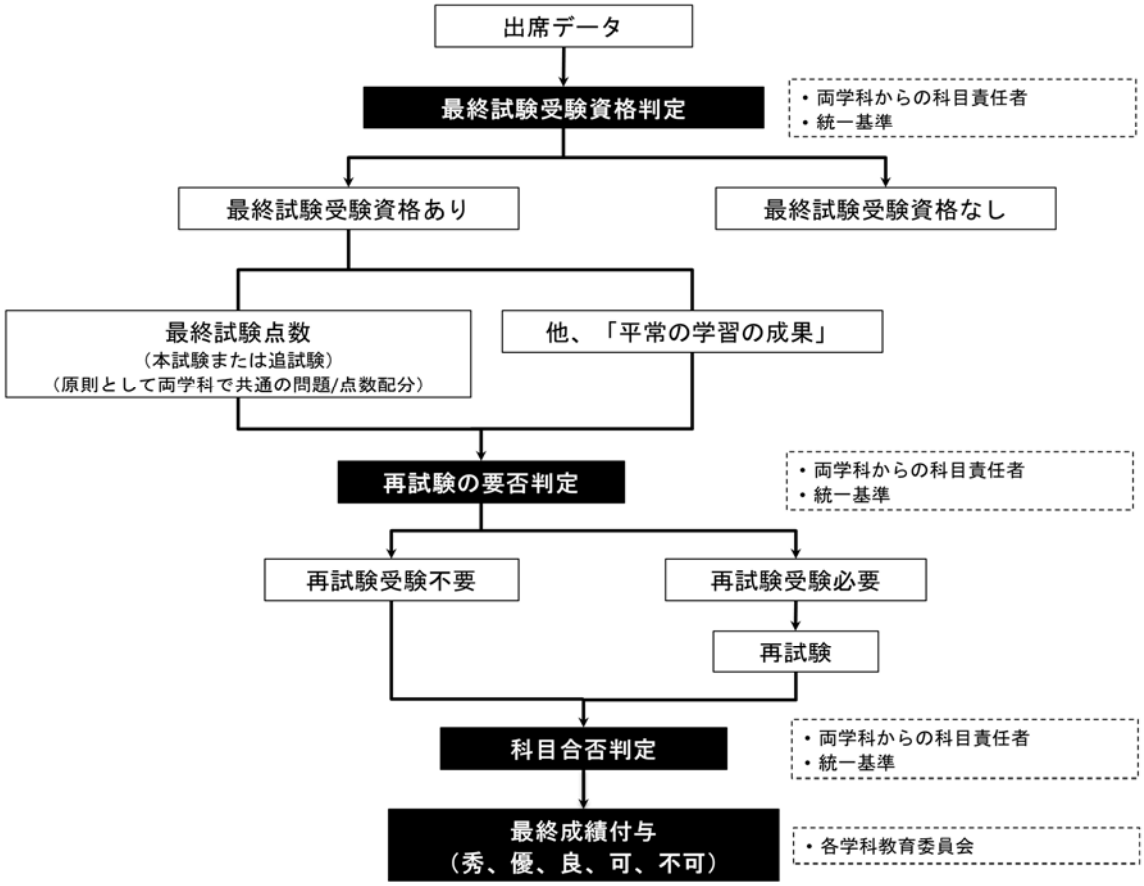
大領域	小領域	レベル	細目	レベル	細目	医歯学基盤教育			頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	老年医学
						生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション			
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	B	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる			B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	B	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる			B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	A	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる						A	A	A
		C	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる			C					
		B	臨床的あるいは科学的問題提起ができる			B	B	B	B	B	B
		B	実習実験を実施して結果を得ることができる						B		
		B	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる						B		
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	A	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる			A	A	A	A	A	A
		C	専門職にある者としての立場を理解している								C
	自己管理	A	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消を処置をとれる			A	A	A	A	A	A
	患者との関係、職務上の優先性	C	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる					C			C
		A	個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			A	A	A	A	A	A
		A	自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる						A		
	勤労習慣	A	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる			A	A	A	A	A	A
		A	文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる			A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	A	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる			A	A	A	A	A	A
	倫理	A	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	B	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	B			A		A
		A	他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる			A	A	A	A	A	A
		A	患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	B	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	B		B			A
		C	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる			C					
		A	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	B	著作権侵害にあたる行動を列挙できる	BA	A	A	A	A	A
		B	利益相反および回避するための行動を説明できる			B		B			
		B	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる			B		B			
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	A	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる			A	A	A	A	A	A
		A	自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる			A	A	A	A	A	A
		A	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる			A	A	A	A	A	A
		A	ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる			A	A	A	A	A	A

科目を履修して得られる能力
医学系コンピテンシーより

大領域	小領域	レベル	細目	レベル	細目	医歯学基盤教育 生命倫理	医歯学基盤教育 臨床統計	医歯学基盤教育 グローバル・コミュニケーション	頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	老年医学
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる							B	B
		B	多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	C	多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	C	C	C	C	B	B
	患者および家族とのコミュニケーション	B	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる			B		B			B
		B	重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる			B		B			
		C	患者中心の医療について説明できる			C		C			
知識とその応用	医学知識（基礎）	A	基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	B	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる				B	A	A
	医学知識（臨床）	B	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる							B	B
		C	症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる							C	C
		B	頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる							B	B
	医療と社会	B	世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する					B			
	予防と健康管理・増進	B	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる							B	B
	歯科医学関連知識	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	C	歯科医学的側面を考慮した診療ができる				C	B	
		B	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる							B	B
診療の実践	EBM/臨床推論	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる				B				
		A	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	B	臨床上の問題を明確化できる		BA				
		A	臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	B	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	B	BA				
		A	適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	B	医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる		BA				
		B	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	C	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる		CB				
		B	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる				B				
		A	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	B	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる		BA				
		C	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる							C	C
	身体診察	A	高齢者の機能的評価を行える								A
		C	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる							C	C
	医療・福祉制度の理解と応用	B	多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。								B
		B	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる								B
		B	医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる								B
		A	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	B	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる			B			A
		S	費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる				(S)				

医歯学融合教育科目における成績評価判定について

- 医歯学融合教育科目の受験資格判定、採点および合否判定は科目責任者が行う。
- 原則として、試験問題、採点および合否判定は両学科共通とする。
- 医学科・歯学科の各教育委員会で成績の判定をする。



コンピテンシー

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
国際人としての基盤	一般教養		健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ			
	国際感覚/国際的視点	国際的視野を持った上で、実際に海外での活動（留学を含む）に参加する	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、説明できる。	
	国際言語（英語）の運用力	海外での研究・臨床実習に参加することができる英語力を有する	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	非専門的（一般的）英語表現・英単語の表記・発音等ができる	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求		医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる			
			基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	
			未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる	臨床的あるいは科学的問題提起ができる		
			臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	実習実験を実施して結果を得ることができる		
			自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる		
プロフェッショナリズム	品位、礼儀		他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる			
			専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる	専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる	専門職にある者としての立場を理解している	
			専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる		
	専門職としての対人関係		患者側要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師・患者関係を築くことができる	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる	
					文化的信条や慣習が専門職としての対人関係に与えうる影響を説明できる	
			患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる			
			医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる			
			診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、同僚らに提示できる	ラポールについて説明できる	
	患者との関係、職務上の優先性		患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持することができる	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	
			個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
プロフェッショナリズム	患者との関係、職務上の優先性		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる			
			臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる			
	自己管理		メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	メンタルストレスやその対処法を説明できる		
			医療従事者の健康管理（予防接種を含む）を実践できる	医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる		
	勤労習慣		時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる			
			文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる			
	法規、機関内規、専門職社会内規範		本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる			
	倫理		常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している		
			他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる			
			医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる	情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる		
			他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる			
			患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる		
			臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる	模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる	
			記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	著作権侵害にあたる行動を列挙できる		
			利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	利益相反および回避するための行動を説明できる		
			企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる		
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習		自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる			
			自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	フィードバックの意義を説明でき、受容できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる			
			ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる			
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション		口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる		
			様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント・プランを考察し提示できる	様々な状況（回診か、症例検討会か）（網羅的なプレゼンテーションが求められているのか、的を絞ったプレゼンテーションか）に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	
			診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	診療録、指示書、処方箋の意義、記載内容、記載方法を説明できる		
			多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	
			診療の引き継ぎ（ローテイション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる	外来/病棟勤務終了時に、完了したもの、中途のものを含めたすべての臨床情報と業務について、診療チームに効果的に報告することができる		
	患者および家族とのコミュニケーション		患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる		
			重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する	重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる		
			監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる			
			患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる	患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる	患者中心の医療について説明できる	
知識とその応用	医学知識（基礎）		基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる		
	医学知識（臨床）		頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる		
			様々な症候／問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる	頻度の高い症候／問題の原因評価において、評価法についての知識（適応／合併症／限界）を応用できる	症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	
			様々な疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を診療に応用できる	頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる		
	医療と社会		社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる	社会医学の知識を提示できる		
		世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する	世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
知識とその応用	予防と健康管理・増進		頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる		
		地域および行政機関等において、人々の健康の向上および増進のための活動に参加する	住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる	様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる		
	歯科医学関連知識		歯科医学的側面を考慮した診療ができる	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	顎・口腔領域の構造と機能を説明できる	
			全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる		
診療の実践	EBM/臨床推論		臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	
			臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	臨床上の問題を明確化できる		
			臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる		
			適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる		
			監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる	情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ
			診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる		
			適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語（感度、特異度、尤度比など）を説明できる		
			実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	臨床推論にもとづく診断過程を説明できる
	病歴聴取		臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる	病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源（プライマリケア提供医や、患者の診療に携わる他の医師・ケア提供者）も利用できる	病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる
			救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる			
	身体診察		身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える	身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で行える	成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	
			高齢者の機能的評価を行える			
			小児の成長／発達の評価を行える			

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
診療の実践	身体診察		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える		
			診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見を認識し、口頭で説明し、記録できる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	正常所見を説明できる
	臨床手技		コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる（シミュレータ/模擬患者などで）	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/合併症を説明できる	
	診療録記載		初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で、記載できる		
			日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、SOAP形式で記載できる		
			再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる	再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる		
	患者管理		監督・指導のもとで、急性・慢性疾患を患う患者の、外来・病棟診療での管理ができる			
			安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督・指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる			
			監督・指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる			
			診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる		
	医療安全		感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	感染に対する標準予防策（Standard precaution）を説明できる		
			感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる	
			針刺し事故、針刺切創等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	
			医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる		
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用		医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を活用できる	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用		多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	診療チームを構成するメンバーを同定し、彼らの役割を説明できる
			臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	
			様々な情報源（かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など）から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる			
			医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる		
			医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる		
		費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる	医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響（特に異なる背景の患者間の格差、例：地域、年齢、医師の配置）を、説明できる	医療政策形成過程を説明できる	

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第1学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	医学導入
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	B
	国際言語（英語）の運用力	非専門的（一般的）英語表現・英単語の表記・発音等ができる	C
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A
		専門職にある者としての立場を理解している	C
	専門職としての対人関係	医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A
		ラポールについて説明できる	C
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	C
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A
	自己管理	メンタルストレスやその対処法を説明できる	B
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	B
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A
		患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A
		フィードバックの意義を説明でき、受容できる	B
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A
コミュニケーション	患者および家族とのコミュニケーション	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	B
		重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B
		患者中心の医療について説明できる	C
知識とその応用	医療と社会	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる	B
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	C
		情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ	D
		臨床推論にもとづく診断過程を説明できる	D
	病歴聴取	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる	D
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる	B
	医療・福祉制度の理解と応用	診療チームを構成するメンバーを同定し、彼らの役割を説明できる	D
		病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	C
		医療政策形成過程を説明できる	C

医学科第2学年　科目を履修して得られる能力

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第2学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細　目	学習方法	レベル	人体構造総論	細胞生物学	神経生理導入	生理学	組織学	人体解剖学	薬理学	生化学	分子遺伝学	神経解剖学	免疫学	神経科学・基礎	感染・基礎	東洋医学	病理学	医動物学
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	実習	B				B	B	B	B			B	B	B	B		B	
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		実習実験を実施して結果を得ることができる	実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	実習	C						C										
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	実習	A				A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	講義	B											B		B			
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	講義・実習	A				A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	講義・実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
知識とその応用	医学知識（基礎）	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	講義・実習	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	医療安全	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	講義	B													B			
		針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	講義	C													C			

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	社会医学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	B	B																
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		実習実験を実施して結果を得ることができる	B	B	B		B	B												
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	B	B	B		B	B												
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	専門職としての対人関係	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる	C			C														
		文化的信条や慣習が専門職としての対人関係に与えうる影響を説明できる	C			C														
		ラポールについて説明できる	C														C			
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	C		C	C	C	C												
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A	A	A		A	A												
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B					B												
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A	A	A		A	A												
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	B	B	B		B	B												
		B :守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる A:: 患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	BA			B		A												
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	社会医学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	B							B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	患者および家族とのコミュニケーション	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	B			B														
		重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B			B														
		患者中心の医療について説明できる	C			C		C												
知識とその応用	医学知識（基礎）	B: 疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる A: 基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	BA	B					A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	B						B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	C						C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
		頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる	B						B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	医療と社会	社会医学の知識を提示できる	B		B	B	B	B												
		B: 世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる A: 世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	BA			BA		BA												
	予防と健康管理・増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	B					B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる	B					B												
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
		研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	B					B												
		D: 臨床推論にもとづく診断過程を説明できる C: 主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	DC						D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	病歴聴取	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる	D						D											
	身体診察	成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	C						C											
		D: 正常所見を説明できる C: 臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	DC						D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）を説明できる	B																	B
		C: 感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる B: 患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	CB					C			B	B								B
		C: 針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる B: 針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	CB									C								CB
診療の実践	医療安全	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	B			B														
		急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	C			C											C	C		

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	社会医学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	C			C														
		医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる	B			B		B												
		医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる	B			B		B												
		医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響（特に異なる背景の患者間の格差、例：地域、年齢、医師の配置）を、説明できる	B			B		B												

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	A:世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる B:世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	BA	B	B	A	
	国際言語（英語）の運用力	A:医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する B:科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	BA	B	B	A	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A	A	A	A	
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	A			A	
		A:未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる B:臨床的あるいは科学的問題提起ができる	BA	B	B	A	
		臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	A			A	
		自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	A			A	
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A	A	A
		専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる	B				B
		専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる	B				B
	専門職としての対人関係	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	B				B
		患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる	A				A
		医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A				A
		患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、同僚らに提示できる	B				B
プロフェッショナリズム	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持することができる	B				B
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A			A	A
		臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる	A				A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B				B
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A	A	A
プロフェッショナリズム	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A			A	A
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A	A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	B			B	
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる	A			A	
		守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	B				
		模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	B				B
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A	A	A
		企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	A			A	
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A	A	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	B	B	B		B
		患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	C				C

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	B				B
	患者および家族とのコミュニケーション	患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	A				A
		重大で繊細な難しい下ピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B				B
		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる	B				B
知識とその応用	医学知識（基礎）	基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	A	A	A	(A)	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	B	B	B		B
		B:頻度の高い症候／問題の原因評価において、評価法についての知識（適応／合併症／限界）を応用できる C:症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	CB	C	C		B
		頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる	B	B	B		B
	医療と社会	社会医学の知識を提示できる	B				B
	予防と健康管理・増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	B	B	B		B
		様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる	B				B
	歯科医学関連知識	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	B				B
		全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる	B				B
診療の実践	EBM/臨床推論	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	B				B
		臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	A				A
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	A				A
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	A				A
		仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	B				B
		診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる	B				B
		適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	A				A
		B:仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる C:主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	CB	C	C		CB
	病歴聴取	A:臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる B:病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源（プライマリケア提供医や、患者の診療に携わる他の医師・ケア提供者）も利用できる C:病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	CBA				CBA
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる	A				A
診療の実践	身体診察	B:身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で行える C:成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	CB				CB
		高齢者の機能的評価を行える	A				A
		小児の成長／発達の評価を行える	A	A			A
		臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える	B				B
		B:臨床実習の学習項目に含まれる異常所見を認識し、口頭で説明し、記録できる C:臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	CB	C	C		B
	臨床手技	B:コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる（シミュレータ/模擬患者などで） C:コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/合併症を説明できる	CB				CB
	診療録記載	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で、記載できる	B				B
		日々の診療録を、SOAP形式で記載できる	B				B
		再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる	B				B
	患者管理	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる	B				B
診療の実践	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	A				A
		患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	B	B	B		B

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
診療の実践	医療安全	B:針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる C:針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	CB		C		B
		A:医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる B:医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	BA				BA
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる	B				B
	医療・福祉制度の理解と応用	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	C	C	C		
		仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	B				B
		医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A			（A）	
		医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A			（A）	
		費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	S			（S）	

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	A		A
	国際言語（英語）の運用力	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	A		A
医学/科学の発展への貢献		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	B		B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A
		B:専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる A:専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる	BA	B	A
		B:専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる A:専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	BA	B	A
	専門職としての対人関係	B:患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える A:患者側要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師･患者関係を築くことができる	BA	B	A
			BA	B	A
		患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる	A	A	A
		医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A	A	A
		診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	A		A
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	A		A
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A
		自立と監督･指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A	A	A
		臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる	A		A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A
		医療従事者の健康管理（予防接種を含む）を実践できる	A		A
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A		A
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A
		医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導･監督者に報告できる	A	A	A
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導･監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明･遂行できる	A	A	A
		B:守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる A:患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	BA	B	A
		C:インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる A:臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる	CA	C	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A
		B:利益相反および回避するための行動を説明できる A:利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	BA	B	A
		B:企業との関係における倫理的な側面につき説明できる A:企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	BA	B	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識･能力･振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習･自己研鑽できる	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B:書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる A:口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる	BA	B	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B:様々な状況（回診か、症例検討会か）（網羅的なプレゼンテーションが求められているのか、的を絞ったプレゼンテーションか）に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる A:様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント･プランを考察し提示できる	BA		BA
		診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	A		A
		B:多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる A:多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	BA	B	A
		B:外来/病棟勤務終了時に、完了したもの、中途のものを含めたすべての臨床情報と業務について、診療チームに効果的に報告することができる A:診療の引き継ぎ（ローテイション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム･診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる	BA		BA
	患者および家族とのコミュニケーション	患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	A		A
		B:重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる A:重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する	BA		BA
		監督･指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙･整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる	A		A
		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる	A		A
知識とその応用	医学知識（基礎）	基礎医学の知識を疾患の病因･病態･臨床徴候などの理解に応用できる	A	A	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる	A	A	A
		様々な症候／問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる	A	A	A
		様々な疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を診療に応用できる	A	A	A
	医療と社会	社会医学の知識を、医療･保健活動に応用できる	A	A	A
		世界の保健･医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	A		A
	予防と健康管理･増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる	A	A	A
		住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる	A	A	A
	歯科医学関連知識	歯科医学的側面を考慮した診療ができる	A	A	A
		全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	A	A	A
診療の実践	EBM/臨床推論	臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	A		A
		臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	A		A
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	A		A
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	A	A	A
		監督･指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる	A	A	A
		診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	A	A	A
		適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	A	A	A
		B:仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる A:実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	BA	B	A
	病歴聴取	臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる	A		A
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる	A		A
	身体診察	身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える	A		A
		高齢者の機能的評価を行える	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
診療の実践	身体診察	小児の成長／発達の評価を行える	A		A
		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える	A		A
		診察において異常所見を認識･説明･記録でき、必要な病歴･診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	A	A	A
	臨床手技	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	A		A
	診療録記載	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	A	A	A
		日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	A	A	A
		再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる	A	A	A
	患者管理	監督･指導のもとで、急性･慢性疾患を患う患者の、外来･病棟診療での管理ができる	A		A
		安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督･指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる	A		A
		監督･指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理･予防計画の策定ができる	A		A
		診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	A	A	A
	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	A		A
		感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	A		A
		針刺し事故、針刺切創等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	A		A
		医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	A	A	A
様々な制度･資源を考慮した診療	医療機関内の制度･資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を活用できる	A		A
	医療･福祉制度の理解と応用	B:多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療･福祉システムを活用できる。 A:多職種よりなるチーム医療を成立させる医療･福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	BA	B	A
		B:臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム･機関を活用できる A:仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム･機関を活用できる	BA	B	A
		様々な情報源（かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など）から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる	A	A	A
		医療体制の主な構成要素の役割･意義を理解･考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A	A	A
		医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A	A	A
		A:医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる S:費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	(S)A	(S)	A

平成 27 年度

医学部医学科

学生周知事項

学 生 周 知 事 項

１．連絡・通知

すべての告示、通知、連絡（試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、Webclass（電子掲示板）により行います。

新たに掲示があった場合はメーリングリストで周知するので、１日に１回はメールを確認するよう心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。

２．電話等による学生の呼び出し

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合以外は行わないので、各関係者に説明しておいてください。

３．学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。

入学時に交付したものを６年間使用しますので、紛失や破損等しないよう大切に取り扱ってください。

なお、学生証は、定期試験受験時や通学定期券の購入時に提示を求められたら速やかに提示できるよう、常に携帯してください。

（１）再交付手続

学生証を紛失または破損した場合は、学務企画課（1 号館西 1 階）に申し出て、再交付の手続きをとってください。再交付には費用を徴収し、再発行までに約 １ ヶ月近くかかりますので注意してください。

（２）返却

卒業、退学または除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課へ返却してください。なお、返却できない場合は、再交付時と同様に実費を徴収します。

４．証明書等

証明書等は、医学部医学教務掛にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

（１）医学教務掛（受付時間　８：３０～１７：１５）

次に掲げるものは、医学教務掛で発行しますので証明書交付願を提出してください。（交付は④を除き原則として交付願を受理した日の明後日となります。）

①成績証明書

②卒業見込証明書（第６学年在籍者のみ。）

③調査書

④英文の在学証明書（交付に１週間程度要します。）

⑤通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

（２）自動発行機（利用時間　８：３０～２１：００）

在学証明書は、学生談話室（５号館４階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（問い合わせ先）学務企画課企画調査掛（０３－５８０３－５０７４）

５．学生旅客運賃割引証（学割証）

（１）学生が課外活動や帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道１００ｋｍを超えるときに旅客運賃の割引（２割）受けることができるものです。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。（年間使用限度は１人１０枚、１回につき２枚までです。）

（２）次に掲げる行為があったときは、普通運賃の２倍の追徴金を徴収されるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用または不正使用のないよう注意してください。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき。

②名義人が乗車券を購入し、それを他人に使用させたとき。

③使用有効期間を経過したものを使用したとき。

（３）学割証は、学生談話室（５号館４階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間　８：３０～２１：００）

（問い合わせ先）学生支援課学生支援総括掛（０３－５８０３－５０７７）

６．氏名・住所等の変更

本人または正副保証人の氏名または住所等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに医学教務掛へ申し出て所定の手続きをとってください。

この手続きを怠った場合、大学から本人または保証人へ緊急に連絡する必要が生じても、連絡が取れなくなる恐れがあるので注意してください。

７．欠席、休学、復学、退学

（１）授業の欠席

病気または家庭の事情等で授業を欠席する（した）場合は、欠席届を医学教務掛へ提出してください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

（２）休学

病気その他の事由により、引き続き３ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を医学教務掛へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

なお、休学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、休学事由および休学によって生じる修学上の諸問題について十分相談してください。

また、休学を許可される期間は、通算して２年以内です。

（特別の事情があるときは、更に１年以内の休学が許可されることがあります。）

（３）復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を医学教務掛へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付してください。）

疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、保健管理センターを受診しなければなりません。

（４）退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を医学教務掛へ提出し、学長の許可を受けてください。なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談してください。

８．ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。（1 年生は湯島キャンパスでの貸与はありません）

ロッカーでの盗難が多発していますので、貴重品等の管理は厳重にしてください。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状に復してください。

９．授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「学生賠償責任保険」の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

なお、針刺し事故（Ｂ型・Ｃ型肝炎）が起こった場合は、医学教務掛（０３－５８０３－５１２０）へ連絡のうえ指示を受けた後、事故報告書を提出してください。

他人に対する針刺し事故については、上記の「学生賠償責任保険」保険の対象となります。

１０．遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（１）講義室、実習室、ロッカー室・・・・・医学部医学教務掛

（０３－５８０３－５１２０）

（２）上記（１）以外・・・・・・・・・・・・医学部総務課

（０３－５８０３－５０９６）

１１．その他

（１）クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようお願いします。

（２）事務の窓口

教務事務・・・・・・・医学部医学教務掛

（３号館６階・０３－５８０３－５１２０）

授業料の納入・・・・・財務部資金課収入管理掛

（１号館西３階・０３－５８０３－５０４８）

奨学金・授業料免除・・学生支援課学生支援総括掛

（1 号館西１階・０３－５８０３－５０７７）

台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区）

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う湯島地区で行う授業、試験の休講措置等について

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講、試験の延長を決定した場合は、下記により本学のホームページ「学部・大学院」ニュース欄に掲載します。

〇台風などで首都圏に直接災害が予想される場合

・午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前６時３０分までに公示する。
・午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前１０時までに公示する。
・夜間（午後６時以降）の授業を休講、夜間（午後６時以降）の試験を延期とする場合は、午後４時までに公示する。

〇首都圏における交通機関(JR 及び大手私鉄・地下鉄など）が全面的に運転を休止している場合

・午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前６時３０分までに公示する。
・午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前１０時までに公示する。
・夜間（午後６時以降）の授業を休講、夜間（午後６時以降）の試験を延期とする場合は、午後４時までに公示する。

URL
http://www.tmd.ac.jp/faculties/index.html

諸 様 式

１ 証明書交付願（自動発行機にて発行しているものを除く。）
証明書は，原則として請求日の翌日の午後以降発行する。（英文によるものを除く。）

２ 住所・本籍地変更届
変更したことを証明する書類が必要です。（運転免許証、戸籍抄本）

３ 改姓届（戸籍抄本添付）

４ 保証人変更届

５ 学生証紛失届・再交付願

６ 紛失届
講義室，実習室，ロッカー室内での紛失物に関する届出

７ 授業欠席届（病気の場合は「診断書」，忌引きの場合は「会葬状」添付）
病気その他特別な事情により授業を欠席する場合に提出。

８ 追試験申請書（未提出者は，権利を喪失するので必ず提出すること。）
病気，他やむを得ない理由により定期試験を欠席した者は，原則当該定期試験終了後５日以内に医学教務掛に提出

９ 休学願
縦断チュートリアル担当教員又は教育委員の面談後，所定の欄に押印を受けてから提出

１０ 休学期間延長願
縦断チュートリアル担当教員又は教育委員の面談後，所定の欄に押印を受けてから提出

１１ 復学願
縦断チュートリアル担当教員又は教育委員の面談後，所定の欄に押印を受けてから提出

１２ 退学願
教育委員の面談後，所定の欄に押印を受けてから提出

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

証　明　書　交　付　願

平成　　年　　月　　日

医　学　部　長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年
□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）
□　医学部医学科専攻生（　　講座）
□　医学部保健衛生学科専攻生
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（Name）

生年月日　昭和・平成　　年　　月　　日生
（Date of Birth）

下記により証明書（和文・英文）の交付をお願いいたします。
（If you need English writing certificate, please feel free to ask the Educational Affairs Section.）

記

証明書の種類	枚　数	※証明書番号	請求理由及び提出先
1．**成績証明書**			（請求理由）
2．**卒業見込証明書** （M6・N4・MT4のみ発行）			
3．**在学証明書** （英文及び専攻生のみ）			（提出先）
4．**在学期間証明** （専攻生のみ）			
5．**終了証明書** （専攻生のみ）			
6．			
7．			（備考）

注）1．「※証明書番号」欄は記入しないこと。
2．**英文証明書を依頼する場合は，氏名欄にローマ字表記を合わせて記入すること。**

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

住 所 ・ 本 籍 地 変 更 届

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学医学部長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年
□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）
□　医学部医学科専攻生（　　講座）
□　医学部保健衛生学科専攻生
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

このたび，下記のとおり変更しましたのでお届けいたします。

記

変　更　者	□本　人　　□保　証　人
□ 住　　所	〒 □□□－□□□□　　TEL. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
□ 本 籍 地	

注）変更該当個所の□をチェックしてください。

教務ｼｽﾃﾑ	債権変更	学 籍 簿	台　　帳	名　　簿

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

改　　姓　　届

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学医学部長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年

□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）

□　医学部医学科専攻生（　　講座）

□　医学部保健衛生学科専攻生
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

このたび，下記のとおり改姓しましたのでお届けいたします。

記

(ﾌﾘｶﾞﾅ) 旧　　姓		(ﾌﾘｶﾞﾅ) 新　　姓	
（改姓理由）			

注）戸籍抄本又は謄本を添付すること。

教務ｼｽﾃﾑ	債権変更	学 籍 簿	台　　帳	名　　簿

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

保　証　人　変　更　届

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学医学部長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年

□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）

□　医学部医学科専攻生（　　講座）

□　医学部保健衛生学科専攻生
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名　　印

このたび，下記のとおり保証人（正・副）を変更しましたのでお届けいたします。

記

(ﾌﾘｶﾞﾅ) 氏　　名	印 年　　月　　日生	学生との関係 職　　業 本　籍　地	
住　　所	〒 □□□－□□□□　　TEL.		

注）氏名欄に押印してください。

債権変更	学　籍　簿

平成　　年　　月　　日

保証人（住所）変更届出

経理責任者
国立大学法人　東京医科歯科大学財務施設部長　殿

平成＿＿＿年度入学　第＿＿＿学年

学　　部　　学　科
研　究　科
附属学校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　専攻名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号　第＿＿＿＿＿＿＿＿号

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

□連帯保証人（父母等）住所に変更がありましたのでお届けします。

変更前	

変更後	〒　　－ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ TEL ＿＿＿＿（　　）＿＿＿＿

□連帯保証人を変更しましたのでお届けします。

変更前	

変更後	上記の者の授業料債務について本人と連帯して、履行の責を負うことを保証します。 連帯保証人 フリガナ 氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印 （学生との関係：　　） 住　所　〒　　－ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ TEL ＿＿＿＿（　　）＿＿＿＿

（該当する項目の□に、∨してください。）

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

学 生 証 紛 失 届 ・ 再 交 付 願

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学　長

□　医学部医学科　第　　学年
□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）
□　医学部医学科専攻生（　　講座）
□　医学部保健衛生学科専攻生
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日　昭和・平成　　年　　月　　日生

下記のとおり，学生証を紛失いたしましたので再交付方よろしくお願いいたします。
今後は，取り扱いに十分注意いたします。
なお，紛失した学生証を発見したときは，直ちに返納いたします。

記

１．日　　時　：　平成　　年　　月　　日　　時　　分頃

２．場　　所　：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３．紛失したときの状況（具体的に記入すること。）

※　過去の学生証発行状況（事務記入欄）
再交付１回目　：　平成　　年　　月　　日
再交付２回目　：　平成　　年　　月　　日
再交付３回目　：　平成　　年　　月　　日

注）専攻生は，写真（３×４cm）１枚を添付すること。

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

紛　　失　　届

平成　　年　　月　　日

医 学 部 長　 殿

□　医学部医学科　第　　学年

□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のとおり，紛失しましたのでお届けいたします。

記

1．紛 失 日 時　：　平成　　年　　月　　日　　時　　分頃

2．紛 失 場 所　：

3．紛　失　物　：

4．連　絡　先

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

授　業　欠　席　届

平成　　年　　月　　日

医　学　部　長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年

□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のとおり，授業を　欠席します／欠席しました　のでお届けいたします。

記

1．欠席期間　　自　平成　　年　　月　　日

至　平成　　年　　月　　日

2．欠席理由（病気による場合は，医師の診断書を添付すること。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

医学部長	事務部長	次　　長	課　　長	課長補佐	掛　　長	掛　　員
専	専	専				

追　試　験　申　請　書

平成　　年　　月　　日

医　学　部　長　　殿

□　医学部医学科　第　　学年

□　医学部保健衛生学科　第　　学年
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記のとおり定期試験を欠席しましたので，追試験を施行してくださいますようお願いいたします。

記

1．試験科目名　：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（教官名：　　）

平成　　年　　月　　日施行

2．欠 席 理 由（病気による場合は，医師の診断書を添付すること。）

休　　学　　願

平成　　年　　月　　日

教授認印

東京医科歯科大学長　　殿

医学部　　科　第　　学年
（　　学専攻）

学籍番号 □□□□□□□□

(ﾌﾘｶﾞﾅ)
本 人 氏 名　　印

保証人氏 名　　印

下記のとおり休学したいので，ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1．休学理由　□病気・怪我　□経済的理由　□出産・育児・介護　□その他（　　）

2．休学期間　　自　平成　　年　　月　　日
　　至　平成　　年　　月　　日　　（　　ヶ月）

3．休学中の連絡先

本　　人	〒 □□□－□□□□　　TEL.
保 証 人	〒 □□□－□□□□　　TEL.

注）1．休学理由は，できるだけ具体的に記入してください。
　　2．休学理由が，病気を理由とする場合は，医師の診断書を添付してください。

財務管理課収入管理掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

休 学 期 間 延 長 願

平成　　年　　月　　日

教授認印

東京医科歯科大学長　　殿

医学部　　科　第　　学年
(　　学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

(ﾌﾘｶﾞﾅ)
本 人 氏 名　　印

保証人氏 名　　印

下記のとおり休学期間を延長したいので，ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1．休学期間延長理由

2．休学延長期間

平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日までのところ
平成　　年　　月　　日 ～ 平成　　年　　月　　日まで延長（　　ヶ月）

3．休学中の連絡先

本　　人	〒 □□□－□□□□　TEL. ＿＿＿＿＿＿＿＿
保 証 人	〒 □□□－□□□□　TEL. ＿＿＿＿＿＿＿＿

注) 1．休学理由は，できるだけ具体的に記入してください。
2．休学理由が，病気を理由とする場合は，医師の診断書を添付してください。

財務管理課収入管理掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

復　　学　　願

平成　　年　　月　　日

教授認印

東京医科歯科大学長　　殿

医学部　　科　第　　学年
(　　学専攻)

学籍番号 | | | | | | | | |

(ﾌﾘｶﾞﾅ)
本 人 氏 名　　印

保証人氏 名　　印

下記のとおり休学しておりましたが，平成　　年　　月　　日付けで復学したいので，
ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1．休学理由

2．休学許可期間　　自　平成　　年　　月　　日
　　至　平成　　年　　月　　日

注）病気を理由として休学した場合は，医師の診断書を添付してください。

退　　学　　願

平成　　年　　月　　日

教授認印

東京医科歯科大学長　　殿

医学部　　科　第　　学年
(　　学専攻)

医学部　　科　専攻生
(昭和・平成)　　年　　月入学
(　　学専攻)

学籍番号 □□□□□□□□

(ﾌﾘｶﾞﾅ)
本 人 氏 名　　印

保証人氏 名　　印

下記のとおり退学したいので，ご許可くださいますようお願いいたします。

記

1．退学理由

2．退 学 日　　平成　　年　　月　　日付け

注）退学理由は，できるだけ具体的に記入してください。

財務管理課収入管理掛照合欄	
前期授業料	後期授業料

諸規則

東京医科歯科大学学則

（平成１６年４月１日
規　程　第　４　号）

第１章　総則

第１条　本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。

２　各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該学科において別に定める。

第２条　本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成１６年規程第１号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医　学　部　　医学科
　　保健衛生学科

歯　学　部　　歯学科
　　口腔保健学科

２　医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。

３　歯学部口腔保健学科に、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻を置く。

４　本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第３条　医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は６年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は４年とする。

第４条　学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学　部	学科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
医 学 部		人	人	人
	医　学　科	１０１	５（２年次編入）	６３１
	保健衛生学科			
	看護学専攻	５５		２２０
	検査技術学専攻	３５		１４０
歯 学 部				
	歯　学　科	５３		３１８
	口腔保健学科			
	口腔保健衛生学専攻	２２	６（３年次編入）	１００
	口腔保健工学専攻	１０	５（２年次編入）	５５

第２章　授業科目

第５条　削除

第６条　本学の授業科目は、全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

２　全学共通科目は教養部において、専門科目は各学部において行う。
３　全学共通科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。
４　専門科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。

第３章　学年、学期及び休業日

第７条　学年は、４月１日に始り、翌年３月３１日に終る。

第８条　学年を分けて、次の学期とする。
前期　４月１日から９月３０日まで
後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

第９条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。
⑴ 日曜日及び土曜日
⑵ 国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
⑶ 本学創立記念日　　１０月１２日
⑷ 春季休業　　４月１日から４月７日まで
⑸ 夏季休業　　７月１１日から９月１０日まで
⑹ 冬季休業　　１２月２５日から翌年１月７日まで
２　前項の規定にかかわらず学長が必要と認めたときは、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第４章　入学、休学、転学及び退学

第１０条　入学は、学年の始めにおいてする。

第１１条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
⑴ 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
⑶ 外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑷ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸ 文部科学大臣の指定した者
⑹ 大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
⑺ 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると、本学で認めた者

第１２条　大学医学部医学科の卒業者で歯学部歯学科に、大学歯学部歯学科の卒業者で医学部医学科に編入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学の許可をすることがある。

第１３条　大学医学部医学科の学生で医学部医学科に､大学歯学部歯学科の学生で歯学部歯学科に、大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）の学生で医学部保健衛生学科又は歯学部口腔保健学科に転入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学を許可することがある。

第１４条　医学部医学科の２年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
⑵ 学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１０４条第４項の規定により学士の学位を授与された者
⑶ 外国において、学校教育における１６年の課程を修了した者（学校教育における１５年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと大学において認めた者を含む。）

第１５条　削除

第１６条　医学部保健衛生学科の２年次に編入学することができる者は、四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修しており、かつ、協定大学の学部に２年次以上在学した者で、選考の上、入学を許可する。

第１７条　削除

第１８条　歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の３年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 歯科衛生士を養成する短期大学を卒業した者
⑵ 歯科衛生士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第１８条の２　歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の２年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。
⑴ 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
⑵ 大学を卒業した者
⑶ 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第１９条　本学学生で退学した者が再び入学を請うときは、欠員がある場合に限り、選考の上、原学年以下に入学を許可することがある。
２　前項に規定するもののほか、第２５条の規定による休学者が退学（休学期間満了のため学部を退学した者をいう。）し、本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、原学科の原学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。
３　前２項に規定するもののほか、第３１条の２の規定による退学者が本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、退学時の在籍学科の在籍学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

第２０条　編入学、転入学及び再入学により入学し、その後所定の年限在学した者は、第３条に規定する年限を在学したものとみなす。

第２１条　本学に入学を志願する者は、所定の手続により、学長に願い出なければならない。

第２２条　入学志願者については、学長が当該学部教授会及び教養部教授会の意見を聴いて選考を

行う。
２　前項に規定するもののほか、入学者の選考に関し必要な事項は別に定める。

第２３条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに宣誓簿に署名し、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第４５条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあっては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。
２　学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第２４条　学生は、病気その他の事由により引き続き３月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、その可否を決定するものとする。

第２５条　本学医学部医学科又は歯学部歯学科に４年以上在学した者が引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に在学するために休学しようとするときは、所定の手続により、学長に願い出て許可を受けなければならない。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第２６条　前２条の規定による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、その可否を決定するものとする。

第２７条　休学期間は、通算して２年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、学長は当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、さらに１年以内の休学を許可することがある。
２　大学院医歯学総合研究科博士課程に在学する者の第２４条の規定による休学期間及び第２５条の規定による休学期間は、第１項の規定にかかわらず、通算して３年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、学長は当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、さらに１年以内の休学を許可することができる。
３　休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第２８条　学長は、学生が病気その他の事由により修学が不適当と認められるときは、当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、休学を命ずることがある。

第２９条　学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第３０条　学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、その可否を決定するものとする。
２　前項の許可を与えたときは、退学とする。

第３１条　学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い

出てその許可を受けるものとする。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、その可否を決定するものとする。

第３１条の２　四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。この場合、学長は当該学部教授会に意見を聴いて、その可否を決定するものとする。

第３２条　医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は１０年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は８年を超えて在学することができない。
２　編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第３３条　学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、退学を命ずることがある。
⑴ 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑵ その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

第５章　履修方法及び単位等

第３４条　学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。
２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第３５条　前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第３６条　１単位の授業科目を、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、１単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。
⑴ 講義及び演習については、１５時間から３０時間の範囲
⑵ 実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間の範囲

第３７条　本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学（編入学、転入学等を除く。）する前の大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）において修得した単位を合計３０単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、第３条に定める修業年限を短縮することはできない。
２　前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第３８条　本学の教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第６章　卒業及び学位

第３９条　卒業の認定は、第３条に定める年限を在学し、かつ、第６条第３項に定める授業科目を、医学部医学科においては２０９単位以上、歯学部歯学科においては２２０単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては１２４単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては１３５単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においては１２８単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻においては１２６単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の意見を聴いて学長が行う。

第４０条　前条による卒業者には、次の区分により学士の学位を授与する。

学　部	学科・専攻	学　　位
医　学　部	医学科	学士（医　　学）
	保健衛生学科	
	看護学専攻	学士（看　護　学）
	検査技術学専攻	学士（保　健　学）
歯　学　部	歯学科	学士（歯　　学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）

第７章　検定料、入学料及び授業料

第４１条　授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第４２条　入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第４３条　授業料は、次の２期に分けて納付しなければならない。

前期　　４月中

後期　　１０月中

２　前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

３　入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第１項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

４　第１項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板）に掲示するものとする。

第４４条　既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

２　第４２条の規定に基づき徴収した検定料について、第１段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第２段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。

３　前条第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の３月３１日までに入学を辞退した場合には、第１項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。

４　前条第２項及び第３項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第１項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還す

る。

第４５条　本学に入学前１年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することがある。

２　本学に入学する者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が　困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前１年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。

３　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のうち、前項該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

４　前３項の取扱いについては、別に定める。

第４６条　停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第４７条　行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することがある。

第４８条　死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することがある。

第４９条　毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の中途で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。

２　各学期の中途で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第５０条　経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することがある。

２　前項の取扱いについては別に定める。

第５１条　入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第４５条第３項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

２　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかつた者が、納付すべき入学料を徴収猶予不許可を告知した日から起算して１４日以内に納付しない場合は、除籍する。

３　入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第５２条　授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は学長が当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部

長への通知による。）退学を命ずる。
２　前項の督促は文書をもってするものとする。

第８章　大学院

第５３条　本学に、組織運営規程の定めるところにより、大学院を置く。
２　大学院の学則は、別に定める。

第９章　外国人留学生

第５４条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
２　外国人留学生については、別に定める。

第１０章　科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第５５条　本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
２　前項により入学した者には、第３４条の規定を準用し、単位を与える。
３　その他科目等履修生については、別に定める。

第５６条　特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
２　聴講生については、別に定める。

第５７条　他の大学の学部学生で、当該大学との協定に基づき、本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。
２　特別聴講学生については、別に定める。

第１１章　懲　戒

第５８条　学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の意見を聴いて（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）、これを懲戒する。
２　懲戒は、退学、停学、訓告とする。
３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学業を怠り成業の見込みがないと認められる者
⑶　学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第１２章　寄　　宿　　舎

第５９条　本学に寄宿舎を置く。
２　寄宿舎に関する規定は、別に定める。

附　則

１　この学則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　第４条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成１６年度から平成１８年度までの３年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度 区 分	平　成 16年度	平　成 17年度	平　成 18年度
３年次編入学定員	―	―	１０
収容定員	２５	５０	８５

３　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
４　この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学則（昭和２７年学規第１号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附　則（平成１７年３月２３日規程第２号）

１　この学則は、平成１７年４月１日から施行する。
２　平成１７年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成１７年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月２８日規程第１号）

１　この学則は平成１８年４月１日から施行する。
２　平成１８年３月３１日において現に本学に在学する者（以下在学者という。）及び平成１８年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の第３９条、別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による

附　則（平成１９年３月２９日規程第３号）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　平成１９年３月３１日において現に本学に在学する者（平成１８年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成１９年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２０年１月１６日規程第１号）

１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の平成２０年度から平成２２年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科・専攻	収　容　定　員		
	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度
医学部保健衛生学科			
看護学専攻	２１５	２１０	２１５
検査技術学専攻	１３５	１３０	１３５
歯学部口腔保健学科	１１８	１１６	１１８

附　則（平成２０年３月２６日規程第５号）

１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　平成２０年４月１日において現に本学に在学する者（平成１８年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び２０年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年１月８日規程第１号）

１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。
２　この学則改正前に、本学に４年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、平成２１年４月１日より休学を願い出ている者については、改正後の東京医科歯科大学学則第２５条の２の規程を適用する
３　この学則の施行の際限に本学に４年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、退学した者が再び入学を志願する場合の取扱いは、なお従前の例による。
４　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下"在学者"という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年３月１９日規程第３号）

１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。
２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２１年度から平成２５年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収　容　定　員				
	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度
医学部医学科	４８０	４９０	５００	５１０	５２０

３　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）及び別表（２）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、平成２１年４月１日以降に歯学部口腔保健学科に３年次編入学する者については、改正後の別表（２）の規定を適用する。

附　則（平成２１年１２月１８日規程第９号）

この規程は、平成２２年１月１日から施行する。

附　則（平成２２年３月３０日規程第３号）

１　この学則は，平成２２年４月１日から施行する。
２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２２年度から平成２６年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収　容　定　員				
	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度
医学部医学科	５００	５２０	５４０	５６０	５８０

３　平成２２年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２３年３月４日規程第１号）

１　この学則は、平成２３年４月１日から施行する。
２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２３年度から平成２７年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度／区分	収　容　定　員				
	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
収容定員	５２５	５５０	５７５	６００	６１５

３　改正後の第４条の規定にかかわらず、歯学部歯学科の平成２３年度から平成２７年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度／区分	収　容　定　員				
	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度

収容定員	３５８	３４６	３３４	３２２	３２０

４ 改正後の第４条の規定にかかわらず､歯学部口腔保健学科の平成２３年度から平成２５年度までの収容定員は、次のとおりとする。

	年度 区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
口腔保健衛生学専攻	収容定員	１１５	１１０	１０５
口腔保健工学専攻	２年次編入定員		５	５
	収容定員	１０	２５	４０

附　則（平成２３年６月３０日規程第６号）

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則（平成２４年３月３０日規程第３号）

１　この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２４年度から平成２７年度までの編入学定員等は、次のとおりとする。

年度 区分	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
編入学定員	５（２年次編入） ５（３年次編入）	５（２年次編入）	５（２年次編入）	５（２年次編入）
収容定員	５５５	５８０	６０５	６２０

３　平成２４年度においては、改正後の第１４条の「２年次」は「３年次及び２年次」と読み替えるものとする。

附　則（平成２４年９月２８日規程第８号）

この学則は、平成２４年１０月１日から施行する。

附　則（平成２５年３月１２日規程第２号）

１　この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成２５年度から平成２９年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度 区分	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度
収容定員	５８１	６０７	６２３	６２９	６３０

附　則（平成２７年３月３０日規則第５１号）

この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

東京医科歯科大学医学部履修規則 平成21年度以前入学者

（平成16年 4月 1日
規 則 第 ２０１号）

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学医学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年規則第217号）の定めるところによるものとする。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目の履修については、別表1に定める教育課程によるものとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学科を除く。

（授業の方法）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第34条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

（1）医学科

ア 講義及び演習 22時間

イ 実習 45時間

（2）保健衛生学科

ア 講義 15時間

イ 演習 30時間

ウ 実習 45時間

エ 臨地実習

看護学専攻　　45時間

検査技術学専攻　30時間

（編入学者、転入学者の単位認定）

第8条　学則第12条から第16条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2　前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。

3　入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

（再入学）

第9条　学則第19条第1項に規定する再入学は、本学部を退学した者が再度、原学科の原学年以下に入学することとする。

（編入学者、転入学者、再入学者の在学年限）

第10条　学則第12条から第16条まで及び第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

（試験）

第11条　履修した授業科目については、試験を行う。ただし、実験・実習を伴う授業科目及び試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2　前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3　試験方法及び学習の評価等については、教授会の議を経て別に定める。

（進級等要件）

第12条　学生は、別表2に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2　医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

（卒業単位認定）

第13条　卒業に要する単位の認定については、教授会の議を経て、医学部長がこれを行う。

（補則）

第14条　この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

附　則

１　この規則は、平成16年4月1日から施行する。

２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成18年3月31日規則第9号）

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附　則（平成19年3月31日規則第 16 号）

１　この規則は、平成19年4月1日から施行する。

２　平成19年3月31日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1（2）及び（3）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成20年3月31日規則第7号）

１　この規則は、平成20年4月1日から施行する。

２　平成20年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学，転入学又は編入学する者については，改正後の別表1・別表2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

別表１

（1）医学科教育課程

授業科目	単位数	履修学年					
		1年	2年	3 年	4 年	5 年	6 年
多様な医師像	1.0	○	○				
医学の展望		○	○				
国際医療	1.0	○					
医の原則	2.0	○					
腫瘍学（基礎）	1.0			○			
神経科学	7.5			○	○		
神経科学実習	0.5			○			
免疫Ⅰ	1.0		○				
免疫Ⅱ	1.0		○				
感染	3.0			○			
感染系実習	1.0			○			
循環器学	2.5			○			
消化器	2.5				○		
呼吸器	1.5			○			
腎・体液制御	1.5			○			
生殖・発達・加齢	1.5			○			
代謝内分泌	1.0			○			
血液	1.0				○		
社会医学	1.5			○			
人体構造総論	1.0	○					
細胞の構造Ⅰ	1.0	○					
細胞の構造Ⅱ	1.0		○				
細胞の機能	1.0		○				
人体発生学	0.5		○				
人体解剖学	1.5			○			
人体解剖学実習	3.0			○			
臨床解剖学	1.0					○	
組織学	1.0			○			
組織学実習	1.0			○			
生理学	1.5			○			
生理学実習	1.0			○			

生化学	1.0			○			
生化学実習	1.0			○			
薬理学	1.0			○			
薬理学実習	1.0			○			
病理学総論	1.0			○			
病理学実習	2.0				○		
CPE	1.0					○	
衛生学	1.0			○			
衛生学実習	0.5			○			
公衆衛生学	0.5				○		
公衆衛生学実習	1.0				○		
医動物学	1.0			○			
医動物学実習	0.5			○			
法医学	1.0			○			
法医学実習	0.5			○			
医事法学	0.5			○			
老年病学	0.5				○		
膠原病・リウマチ学	0.5			○			
小児科学	1.0			○			
神経精神医学	1.0				○		
外科学	1.0				○		
整形外科学	1.5				○		
皮膚科学	1.5				○		
泌尿器科学	1.0				○		
眼科学	1.0				○		
耳鼻咽喉科学	1.0				○		
放射線医学	1.0				○		
産科・婦人科学	1.0				○		
麻酔・蘇生学	1.0				○		
臨床実習Ⅰ	13.0					○	
臨床実習Ⅱ	16.0					○	
臨床実習Ⅲ	15.5					○	○
口腔外科学	0.5				○		
先端医学	1.0					○	
遺伝子と生命	1.0	○					
メディカルインフォマティックス(MI)	2.0		○				

統計		○					
医学英語Ⅰ	1.0	○	○				
医学英語Ⅱ	2.0			○	○		
救命救急医学	1.0				○		
形成外科学	0.5				○		
頭頸部外科学	0.5				○		
心療・ターミナル医学	0.5				○		
基礎臨床総合講義	0.5					○	
臨床関連講義	1.0			○	○	○	
臨床検査医学	0.5				○		
自由選択学習	8.5				○		
計	139.0						

注）すべて必修科目とする。

別表２　　医学部進級等要件

１ 医学科

（１） 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学（基礎）、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティックス（MI）、統計、医学英語Ⅰ

（２） 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第５学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

（３） 共用試験（コンピュータ活用試験（CBT）、客観的臨床能力試験（OSCE））に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

２ 保健衛生学科（看護学専攻及び検査技術学専攻）

（１） 第２学年の必修科目（実習科目を除く。）のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第３学年に進級することができない。

（２） 第２学年及び第３学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第４学年に進級することはできない

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

（平成２２年３月３０日
規 則 第 ４ １ 号）

（趣旨）

第１条　東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（専門科目の履修）

第２条　専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表１に定めるとおりとする。

（授業）

第３条　専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　学則第３６条に定める１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

⑴　講義　　１５時間
⑵　演習　　３０時間
⑶　実習　　４５時間

２　前項第３号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

⑴　看護学専攻　　４５時間
⑵　検査技術学専攻　３０時間

（編入学者、転入学者の単位認定）

第５条　学則第１２条から第１８条の２までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

２　前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。
３　在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

（再入学の単位認定）
第６条　学則第１９条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

（編入学者、転入学者、再入学者の在学年限）
第７条　学則第１２条から第１９条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第３２条第１項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

（試験及び単位）
第８条　履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。
２　前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。
３　実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。
４　実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。
５　学習の評価は、別表２のとおりとする。
６　単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。
７　試験の方法に関しては別に定める。

（進級要件）
第９条　学生は、別表３に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。
２　医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は２年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第３３条第１号の規定により退学を命ずる。

（卒業認定）
第１０条　学生の卒業認定は、学則第３９条により行うものとする。

（補足）

第１１条　この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附　則

１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

２　東京医科歯科大学医学部履修規則（平成１６年規則第２０１号）は、廃止する。

３　東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成１６年規則第２１３号）は、廃止する。

４　平成２２年３月３１日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降在学者の属する学年に再入学，転入学するものについては，改正後の別表の規程にかかわらず，なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。

５　平成２２年３月３１日において現に歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降在学者の属する学年に再入学，転入学する者については，改正後の別表の規程にかかわらず，なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附　則（平成２３年３月４日規則第１５号）

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　平成２３年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２４年２月３日規則第１９号）

１　この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

２　平成２４年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２４年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２４年３月３０日規則第６０号）

１　この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

２　平成２４年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２４年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２５年３月２９日規則第５６号）

１　この規則は、平成２５年４月１日から施行する。

２　平成２５年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２５年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１（３）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２５年５月３０日規則第７３号）

この規則は、平成２５年５月３０日から施行し、平成２５年４月１７日から適用する。

附　則（平成２６年３月２５日規則第８号）

（施行期日等）

１　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。

（在学する者等に関する経過措置）

２　平成２５年１０月１日の在学者については、平成２５年度に医学部又は歯学部１年次に入学した者にのみ改正後の別表１（７）を適用する。

（平成２５年度に全学科共通選択科目を履修する者に関する経過措置）

３　前項の規定にかかわらず、平成２５年度に全学科共通選択科目を履修する者の改正後の別表１（７）は、次のとおりとし、平成２５年１０月１日から適用する。

全学科共通選択科目

授業科目		単位数	履修対象学年					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
選択科目	医療リーダーシップ特論１	1	○	○				
	医療リーダーシップ特論２	1		○				
	医療リーダーシップ特論３	1		○				
	医療リーダーシップ特論４	1			○	○（※２）		
	医療リーダーシップ特論５	1			○（※１）			
	国際教養特論１	1	○	○				
	国際教養特論２	1		○	○	○（※２）		
	国際教養特論３	1		○	○	○（※２）		
	計	8						

※１　医学部医学科及び歯学部歯学科に在籍する学生に限り履修することができる。

※２　医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科に在籍する学生に限り履修することができる。

※３　医療リーダーシップ特論は、原則として、１を履修しなければ２を、２を履修しなければ３を、３を履修しなければ４を、４を履修しなければ５を履修することができ

ない。

※４　国際教養特論は、原則として、１を履修しなければ２を、２を履修しなければ３を履修することができない。

附　則（平成２７年３月１０日規則第１６号）

１　この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

２　平成２７年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２７年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２７年３月１０日規則第１７号）

１　この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

２　平成２７年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２７年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

平成22年度入学者

別表１

（1）医学科教育課程

授業科目	単位数	履修学年					
		1年	2年	3 年	4 年	5 年	6 年
多様な医師像	1.0	○	○				
医学の展望		○	○				
国際医療	1.0	○					
医の原則	2.0	○					
腫瘍学（基礎）	1.0			○			
神経科学	7.5			○	○		
神経科学実習	0.5			○			
免疫Ⅰ	1.0		○				
免疫Ⅱ	1.0		○				
感染	3.0			○			
感染系実習	1.0			○			
循環器学	2.5			○			
消化器	2.5				○		
呼吸器	1.5			○			
腎・体液制御	1.5			○			
生殖・発達・加齢	1.5			○			
代謝内分泌	1.0			○			
血液	1.0				○		
社会医学	1.5			○			
人体構造総論	1.0	○					
細胞の構造Ⅰ	1.0	○					
細胞の構造Ⅱ	1.0		○				
細胞の機能	1.0		○				
人体発生学	0.5		○				
人体解剖学	1.5			○			
人体解剖学実習	3.0			○			
臨床解剖学	1.0					○	
組織学	1.0			○			
組織学実習	1.0			○			
生理学	1.5			○			
生理学実習	1.0			○			

生化学	1.0			○			
生化学実習	1.0			○			
薬理学	1.0			○			
薬理学実習	1.0			○			
病理学総論	1.0			○			
病理学実習	2.0				○		
CPE	1.0					○	
衛生学	1.0			○			
衛生学実習	0.5			○			
公衆衛生学	0.5				○		
公衆衛生学実習	1.0				○		
医動物学	1.0			○			
医動物学実習	0.5			○			
法医学	1.0			○			
法医学実習	0.5			○			
医事法学	0.5			○			
老年病学	0.5				○		
膠原病・リウマチ学	0.5			○			
小児科学	1.0			○			
神経精神医学	1.0				○		
外科学	1.0				○		
整形外科学	1.5				○		
皮膚科学	1.5				○		
泌尿器科学	1.0				○		
眼科学	1.0				○		
耳鼻咽喉科学	1.0				○		
放射線医学	1.0				○		
産科・婦人科学	1.0				○		
麻酔・蘇生学	1.0				○		
臨床実習Ⅰ	13.0					○	
臨床実習Ⅱ	16.0					○	
臨床実習Ⅲ	15.5					○	○
口腔外科学	0.5				○		
先端医学	1.0					○	
遺伝子と生命	1.0	○					
メディカルインフォマティックス(MI)	2.0		○				

統計		○					
医学英語Ⅰ	1.0	○	○				
医学英語Ⅱ	2.0			○	○		
救命救急医学	1.0				○		
形成外科学	0.5				○		
頭頸部外科学	0.5				○		
心療・ターミナル医学	0.5				○		
基礎臨床総合講義	0.5					○	
臨床関連講義	1.0			○	○	○	
臨床検査医学	0.5				○		
自由選択学習	8.5				○		
計	139.0						

注）すべて必修科目とする。

別表２　　医学部進級等要件

１ 医学科

（１） 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学（基礎）、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティックス（MI）、統計、医学英語Ⅰ

（２） 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第５学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

（３） 共用試験（コンピュータ活用試験（CBT）、客観的臨床能力試験（OSCE））に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

２ 保健衛生学科（看護学専攻及び検査技術学専攻）

（１） 第２学年の必修科目（実習科目を除く。）のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第２学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第３学年に進級することができない。

（２） 第２学年及び第３学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第４学年に進級することはできない

平成23年度以降入学者

別表１

（１）医学科教育課程

授業科目	単位数		履修学年					
	必修	選択	１年	２年	３年	４年	５年	６年
医学導入	6.5		○					
人体構造総論	1.5			○				
細胞生物学	1.0			○				
神経生理導入	1.0			○				
生理学	3.0			○				
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）	7.0			○	○			
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）				○				
医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）				○				
医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）						○		
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）					○			
医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ）					○			
医歯学基盤教育（臨床統計Ⅲ）						○		
医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ）						○		
組織学	2.5			○				
人体解剖学	4.5			○				
頭頸部・基礎	4.0			○				
薬理学	2.5			○				
生化学	2.5			○				
分子遺伝学	1.0			○				
神経解剖学	3.0			○				
免疫学	2.0			○				
神経科学・基礎	3.5			○				
感染・基礎	2.5			○				
東洋医学	1.0			○	○			
病理学	1.0			○				
医動物学	2.0			○				
腫瘍学	1.0				○			
法医学	1.5				○			
社会医学	1.5				○			
衛生学	1.5				○			
公衆衛生学	2.0				○	○		
臨床医学導入	1.0				○			
循環器	3.0				○			
呼吸器	2.0				○			
消化器	3.0				○			
体液制御・泌尿器	3.0				○			
内分泌・代謝	2.0				○			
血液・腫瘍	2.0				○			
一般外科	1.0				○			
神経科学・臨床	4.0				○			
骨・関節・脊椎	2.0				○			

皮膚・アレルギー・膠原病	2.0				○			
感染・臨床	1.0				○			
頭頸部・臨床	4.0				○			
老年医学	2.0				○			
生殖・発達	4.0					○		
救急・麻酔	2.0					○		
自由選択学習	12.0					○		
臨床導入実習	8.0					○		
臨床実習	49.5						○	○
包括医療統合教育	2.0							○
研究実践プログラム		10.0		○	○	○	○	○
地域医療学習プログラム		1.0	○	○	○	○	○	○
計	169	11						

別表２

成績区分	評価区分	単位認定
１００～９０点	秀	合　格
８９～８０点	優	
７９～７０点	良	
６９～６０点	可	
５９～０点	不可	不合格

別表３

（１）医学科

（１）第１学年の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、第２学年に進級することができない。 医学導入
（２）第２学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第３学年に進級することができない。 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）
（３）第２学年の末までに次の授業科目の単位を全て修得しなければ、第３学年に進級することができない。 神経科学・基礎、神経解剖学、免疫学、感染・基礎、細胞生物学、人体構造総論、人体解剖学、組織学、頭頸部・基礎、神経生理導入、生理学、生化学、薬理学、病理学、医動物学、分子遺伝学
（４）第３学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第４学年に進級することができない。 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）、公衆衛生学（講義）
（５）第３学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。 腫瘍学、神経科学・臨床、感染・臨床、循環器、消化器，呼吸器、体液制御・泌尿器、内分泌・代謝、血液・腫瘍、社会医学、頭頸部・臨床、衛生学、法医学、老年医学、皮膚・アレルギー・膠原病、一般外科、骨・関節・脊椎、東洋医学、臨床医学導入
（６）第４学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第５学年に進級することができない。 医歯学基盤教育、生殖・発達，公衆衛生学、救急・麻酔、臨床導入実習、自由選択学習

（７）共用試験〔コンピュータ活用試験（ＣＢＴ）、客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）〕に合格しなければ、臨床実習を履修することができない。

注１：医歯学基盤教育はｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、II、III、臨床統計Ⅰ、II、III、生命倫理Ⅰ、II から成り立っており、全ての授業科目に合格しなければ、単位を修得することができない。

注２：公衆衛生学は講義（第３学年）と実習（第４学年）に合格しなければ、単位を修得することができない。

東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規

（平成２３年２月２日
医 学 部 長 制 定）

（趣旨）

第１条　この内規は，東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成２２年規則第４１号。以下「履修規則」という。）第１４条に基づき，医学部医学科における専門に関する教育科目の履修に関し，必要な事項を定めるものとする。

（学習の評価）

第２条　卒業試験，科目試験及び追試験の成績については，授業科目ごとに担当教員が 100 点満点で採点し，履修規則別表２のとおり学習の評価を行う。

２　正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は，０点とする。

３　第１項及び前項の学習の評価に，平常の学修の成果を加味することができる。

４　共用試験の評価については，医学科教育委員会が別に定める。

（仮進級）

第３条　科目試験の不合格者については，特別な事情がある場合に限り，医学科教育委員会において協議し，仮進級を認めることができる。

２　仮進級者は，翌年度，速やかに同科目の単位認定を受けなければならない。

（ＧＰ）

第４条　ＧＰで成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0
100 点方式との対応	90 以上	89～80	79～70	69～60	59 以下

２　選択科目は，ＧＰＡ（Grade Point Average）の計算式には算入しない。

附　則

１　この内規は，平成２３年４月１日から施行する。

２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成２３年３月３１日に在学し，引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以後在学者の属する学年に再入学，転入学及び編入学する者については，この内規の規定にかかわらず，なお従前の例による。

東京医科歯科大学医学部試験規則 **平成21年度以前入学者用**

平成１６年４月１日制定

（趣旨）
第１条　この規則は，東京医科歯科大学医学部履修規則（平成１６年制定。以下「履修規則」という。）第１１条第３項に基づき，医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し，必要な事項を定める。

（試験の種類）
第２条　試験は，定期試験，科目試験，共用試験，追試験及び再試験とする。

（試験の方法）
第３条　試験は，筆答試験，コンピュータ活用試験，口頭試験，実地試験のいずれかによって行う。

（定期試験）
第４条　定期試験とは，履修した授業科目について，定期に行う試験をいう。
２　定期試験は，当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。
３　定期試験の実施日時は，試験実施日の２週間前までに公示する。
４　定期試験を受験することのできる者は，次のとおりとする。
(1)　講義及び演習　当該授業科目の授業時間数の３分の２以上履修した者
(2)　実　　習　当該授業科目の授業時間数の４分の３以上履修した者
(3)　医学科第６学年の定期試験は，次の授業科目の単位をすべて取得し，かつ，臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が６０点以上の者
臨床解剖学，臨床実習関連講義，ＣＰＥ，先端医学，基礎臨床総合講義
５　試験の結果は，合否をもって公示する。

（科目試験）
第５条　科目試験とは，原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい，試験の実施日時は，当該年度の授業時間割に明記し，受験資格並びに試験の結果は，前条第４項第１号，第２号及び第５項のとおりとする。

（共用試験）
第６条　共用試験とは，知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「ＣＢＴ」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「ＯＳＣＥ」という。）をいい，当分の間医学科において行う。
２　ＣＢＴは第４学年の前期末，ＯＳＣＥは第５学年の臨床実習Ｉ終了後に行う。
３　共用試験の実施日時は，試験実施日の２週間前までに公示する。
４　共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。
(1)　ＣＢＴ　　第４学年に在学する者
(2)　ＯＳＣＥ　臨床実習Ｉを終了した者
５　試験の結果は，合否をもって公示する。

（追試験）
第７条　追試験とは，病気，その他止むを得ない理由により定期試験，科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して，受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。
２　追試験を受験しようとする者は，所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて，当該定期試験等終了後５日以内に医学部長に願い出て，許可を受けなければならない。
３　医学部長は，前項の申請について担当教員と協議のうえ，その可否を決定し，申請者に通知するものとする。
４　試験の結果は，合否をもって公示する。

（再試験）
第８条　再試験とは，定期試験等を受験し，不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し，当該授業科目又は共用試験について，改めて行う試験をいう。
２　再試験の時期は，次のとおりとする。
(1) 医　学　科　定期試験　第６学年の学年末
科目試験　原則として第３学年は学年末，第４学年は１２月
共用試験　ＣＢＴは第４学年の１２月，ＯＳＣＥは第５学年の夏季休業中
(2) 保健衛生学科　原則として，次回の定期試験期間及び第４学年の学年末
３　再試験の実施日時は，試験実施日の２週間前までに公示する。
４　再試験を受験しようとする者は，所定の受験申請書により試験期日の７日前までに医学部長に願い出なければならない。
５　試験の結果は，合否をもって公示する。

（学習の評価）
第９条　定期試験，科目試験及び追試験並びに履修規則第１１条第１項ただし書きによる成績については，授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し，次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100 ～ 80 点	優	合格
79 ～ 70 点	良	
69 ～ 60 点	可	
59 ～ 0 点	不可	不合格

２　再試験の成績については，授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし，成績は，60点を上限とする。
３　正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は，０点とする。
４　第１項及び第２項の学習の評価に，平常の学修の成果を加味することができる。
５　共用試験の評価については，医学科教育委員会が別に定める。

（成績の報告）
第１０条　担当教員は，定期試験，科目試験，追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し，指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。
２　医学科教育委員会委員長は，共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し，指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

（罰則）
第１１条　試験において，不正行為があったときは，東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号）第５８条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

（補則）
第１２条　この規則に定めるもののほか，試験等に関し必要な事項は別に定める。

附　則
１　この規則は平成１６年４月１日から施行する。
２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成１６年３月３１日に在学し，引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学，転入学及び編入学する者に係る試験については，この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

東京医科歯科大学医学部試験規則 平成22年度入学者用

（平成１６年４月１日
規則第２０２号）

（趣旨）

第１条　この規則は､東京医科歯科大学学部専門科目履修規則(平成２２年規則第４１号。以下「履修規則」という。）第１１条第８項の規定に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

（試験の種類）

第２条　試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第３条　試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験、実地試験のいずれかによって行う。

（定期試験）

第４条　定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

２　定期試験は当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

３　定期試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

４　定期試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) 講義及び演習　　当該授業科目の授業時間数の３分の２以上履修した者

(2) 実　習　　当該授業科目の授業時間数の４分の３以上履修した者

(3) 医学科第６学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が６０点以上の者

臨床解剖学、臨床関連講義、ＣＰＥ、先端医学、基礎臨床総合講義

５　試験の結果は、合否をもって公示する。

（科目試験）

第５条　科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第４項第１号及び第２号並びに第５項のとおりとする。

（共用試験）

第６条　共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下｢ＣＢＴ｣という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下｢ＯＳＣＥ｣という。）をいい、当分の間、医学科において行う。

２　共用試験は第５学年の臨床実習Ｉ終了後に行う。

３　共用試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

４　共用試験を受験することのできる者は臨床実習Ｉを終了した者とする。

５　試験の結果は、合否をもって公示する。

（追試験）

第７条　追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

２　追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後５日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。

３　医学部長は前項の申請について、担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。

４　試験の結果は、合否をもって公示する。

（再試験）

第８条　再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

２　再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医学科　定期試験　第６学年の学年末
　　科目試験　原則として第３学年は学年末，第４学年は１２月
　　共用試験　第５学年の９月末日まで

(2) 保健衛生学科　原則として次回の定期試験期間及び第４学年の年度末

３　再試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

４　再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の７日前までに医学部長に願い出なければならない。

５　試験の結果は、合否をもって公示する。

（学習の評価）

第９条　定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第１１条第１項ただし書の規定による成績については、授業科目ごとに担当教員が１００点満点で採点し、履修規則第１１条第６項別表２により学習の評価を行う。

２　再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし成績は、６０点を上限とする。

３　正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、０点とする。

４　第１項及び第２項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

５　共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

（成績の報告）

第１０条　担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

２　医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

（罰則）

第１１条　試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号）第５８条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

（補則）

第１２条　この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月３１日規則第９号）

この規則は、平成１８年４月１日から施行し、平成１７年４月１日から適用する。

附　則（平成２２年８月２５日規則第６１号）

１　この規則は、平成２２年８月２５日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

２　平成２２年３月３１日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学試験規則

（平成２３年４月１日
規　則　第　１　号）

（趣旨）

第１条　この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成１６年規則第２１７号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成２２年規則第４１号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第２条　試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第３条　試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第４条　本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

２　共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第５条　定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

２　定期試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

３　定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習　　当該授業科目の授業時間数の３分の２以上履修した者

(2) 実習　　当該授業科目の授業時間数の４分の３以上履修した者

４　定期試験の結果は、公示する。

５　第３項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第６条　共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（ＣＢＴ）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）をいう。

２　共用試験の実施日時は、試験実施日の２週間前までに公示する。

３　共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。
４　共用試験の結果は、公示する。

（追試験）
第７条　追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として１回限りとする。
２　追試験を受験しようとする者（以下「追試験申請者」という。）は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として５日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長（以下「学部長等」という。）に願い出て、許可を受けなければならない。
３　学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。
４　追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。
５　試験の結果は、公示する。
６　第２項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（再試験）
第８条　再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として１回限りとする。
２　再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。
３　再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。
４　再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。
５　試験の結果は、公示する。
６　第３項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（試験の成績）
第９条　本試験及び追試験による成績については、科目責任者が１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。
２　再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、６０点を上限とする。
３　共用試験の成績については、前２項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

（成績の報告）
第１０条　科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。
２　医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

（罰則）

第１１条　試験において不正行為があったときは、学則第５８条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

（補則）

第１２条　この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附　則

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　東京医科歯科大学医学部試験規則（平成１６年規則２０２号）は廃止する。

３　東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成１６年規則２１４号）は廃止する。

４　この規則は、平成23年3月31日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学医学部医学科試験内規

（平成 22 年 1 月 19 日
医 学 部 長 制 定）

（趣　旨）

第１条　この内規は，東京医科歯科大学試験規則（平成２３年規則第１号。以下「試験規則」という。）第５条第５項，第６条第３項，第８条第６項及び第１２条に基づき，医学部医学科における専門に関する教育科目の履修及び試験に関し，必要な事項を定めるものとする。

（試験の種類）

第２条　試験規則第５条に規定する定期試験は，卒業試験及び科目試験の２種類とする。

（卒業試験）

第３条　前条に規定する卒業試験とは，履修した授業科目について，卒業前に行う試験をいう。

２　卒業試験は第６学年の学年末までに行う。

３　試験規則第５条第３項の規定にかかわらず，卒業試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

臨床実習の実習評価が６０点以上の者

４　卒業試験による成績については，全科目６０点以上であることを卒業の要件とする。

５　試験の結果は，合否をもって公示する。

（科目試験）

第４条　第２条に規定する科目試験とは，履修した授業科目について行う試験をいう。

２　試験の結果は，合否をもって公示する。

（共用試験）

第５条　試験規則第６条第１項に規定する共用試験は，第４学年の臨床導入実習終了後に行う。

２　共用試験を受験することのできる者は，臨床導入実習を終了した者とする。

３　試験の結果は，合否をもって公示する。

（再試験）

第６条　卒業試験又は各学年において実施される科目試験（これらの追試験を含む。）の５割以上が不合格であった者は，原則として再試験の受験を許可しないものとする。

２　再試験は，次に掲げる時期までに行うものとする。

⑴ 卒業試験　第６学年の学年末まで

⑵ 科目試験　第２，第３，第４学年の各学年末まで

⑶ 共用試験　第４学年の３月末日まで

３　試験の結果は，合否をもって公示する。

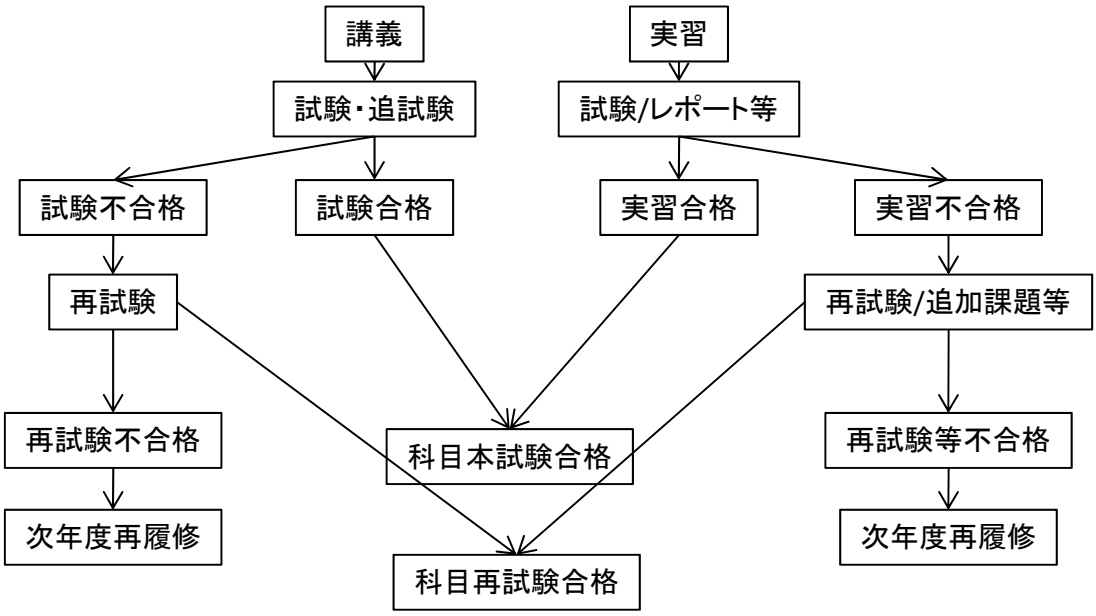
附　則

１　この内規は，平成２３年４月１日から施行する。

２　東京医科歯科大学医学部に平成２３年３月３１日に在学し，引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以後在学者の属する学年に再入学，転入学及び編入学する者に係る試験については，この内規の規定にかかわらず，なお従前の例による。

第２学年進級判定

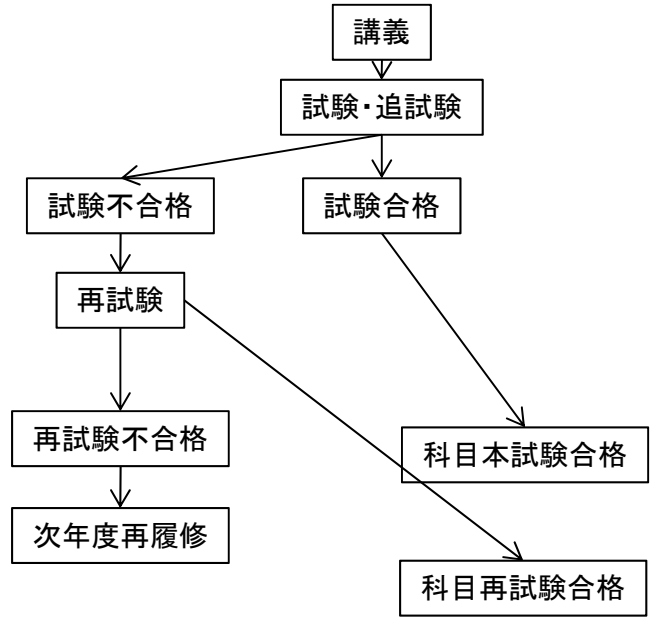
実習がある科目



実習あり(9):
- 神経解剖学
- 感染・基礎
- 人体解剖学
- 組織学
- 頭頸部・基礎
- 生理学
- 生化学
- 薬理学
- 医動物学

実習なし(9):
- 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）
- 医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）
- 神経科学・基礎
- 免疫学
- 細胞生物学
- 人体構造総論
- 神経生理導入
- 病理学
- 分子遺伝学

実習がない科目

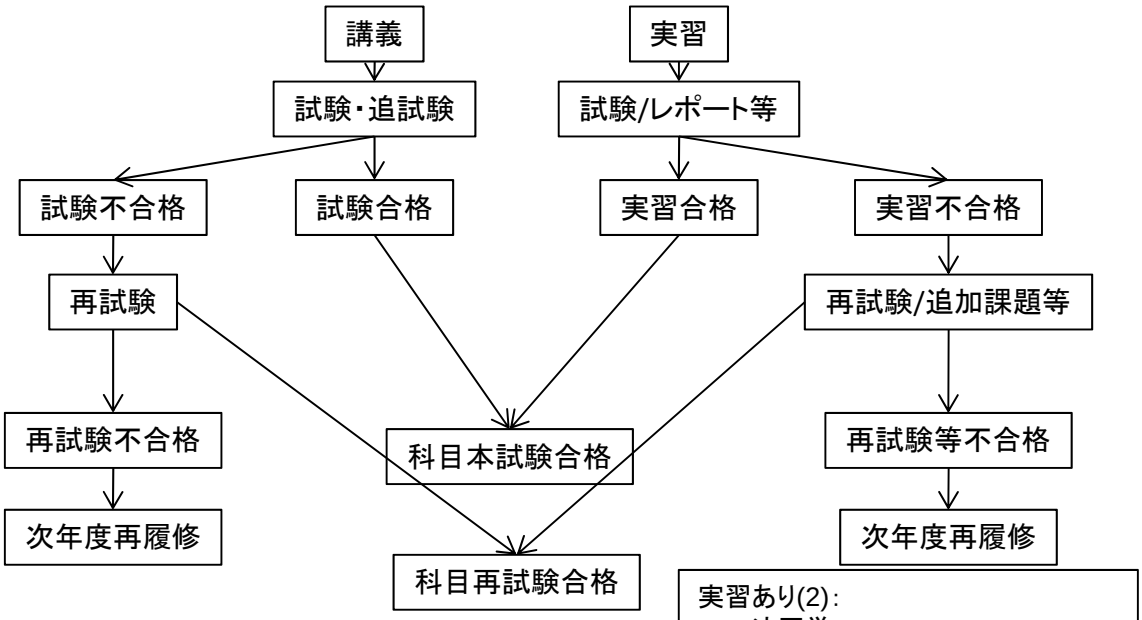


科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記18科目のうち10科目以上合格していることが必要になる。
（第2学年では東洋医学は進級要件ではないため、科目数としない。）
＊科目本試験の不合格科目数が9科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には18科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第３学年進級判定

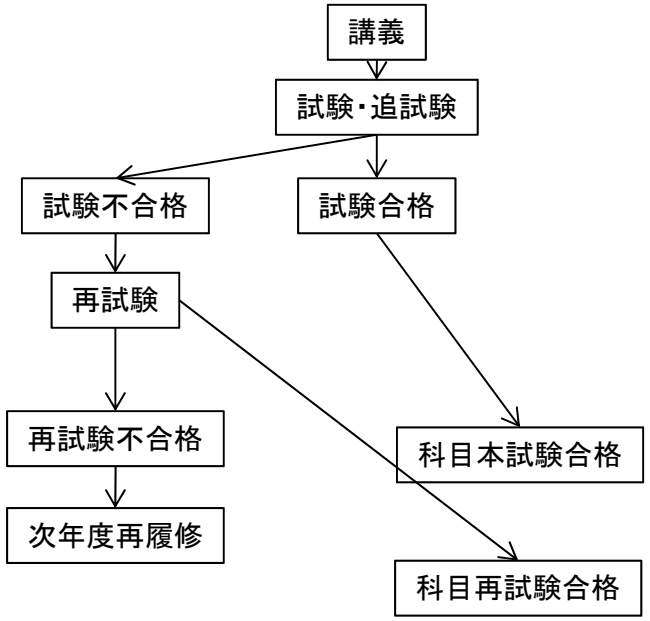
実習がある科目



実習あり(2):
- 法医学
- 衛生学

実習なし(21):
- 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ）
- 医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）
- 医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）
- 公衆衛生学（講義）
- 腫瘍学
- 神経科学・臨床
- 感染・臨床
- 循環器
- 消化器
- 呼吸器
- 体液制御・泌尿器
- 内分泌・代謝
- 血液・腫瘍
- 社会医学
- 頭頸部・臨床
- 老年医学
- 皮膚・アレルギー・膠原病
- 一般外科
- 骨・関節・脊椎
- 東洋医学
- 臨床医学導入

実習がない科目

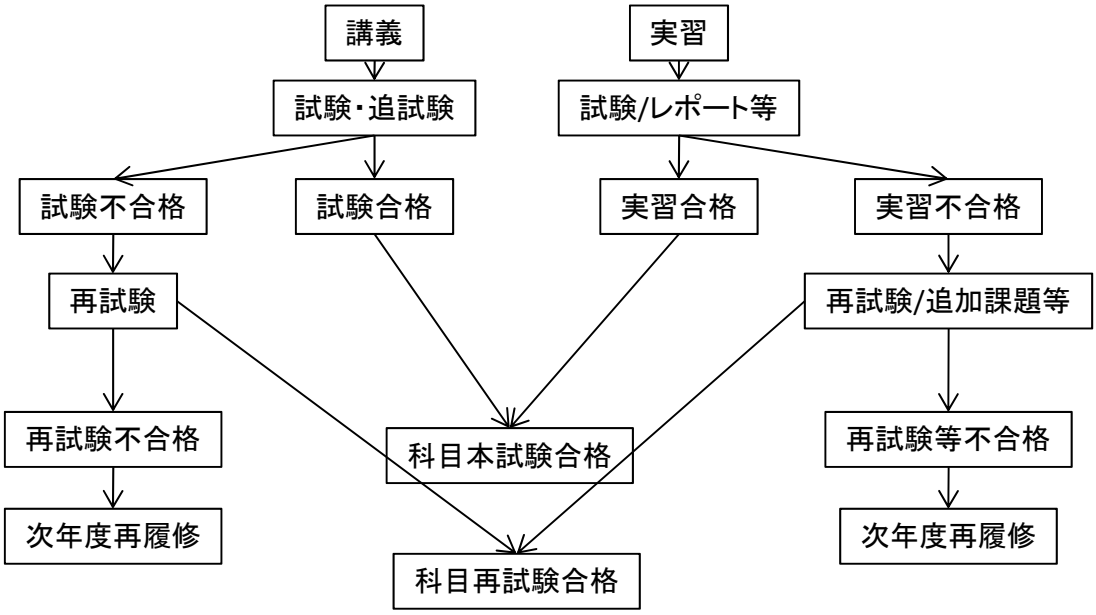


科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記23科目のうち12科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が13科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

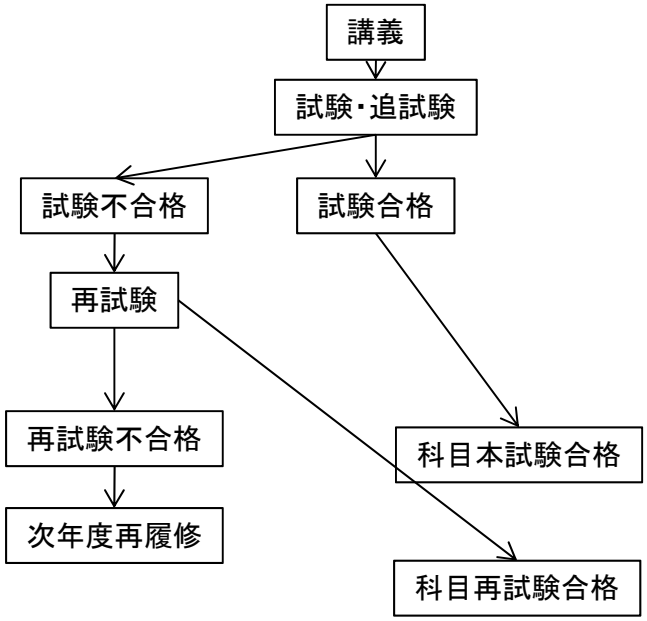
進級には23科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第４学年進級判定

実習がある科目



実習がない科目



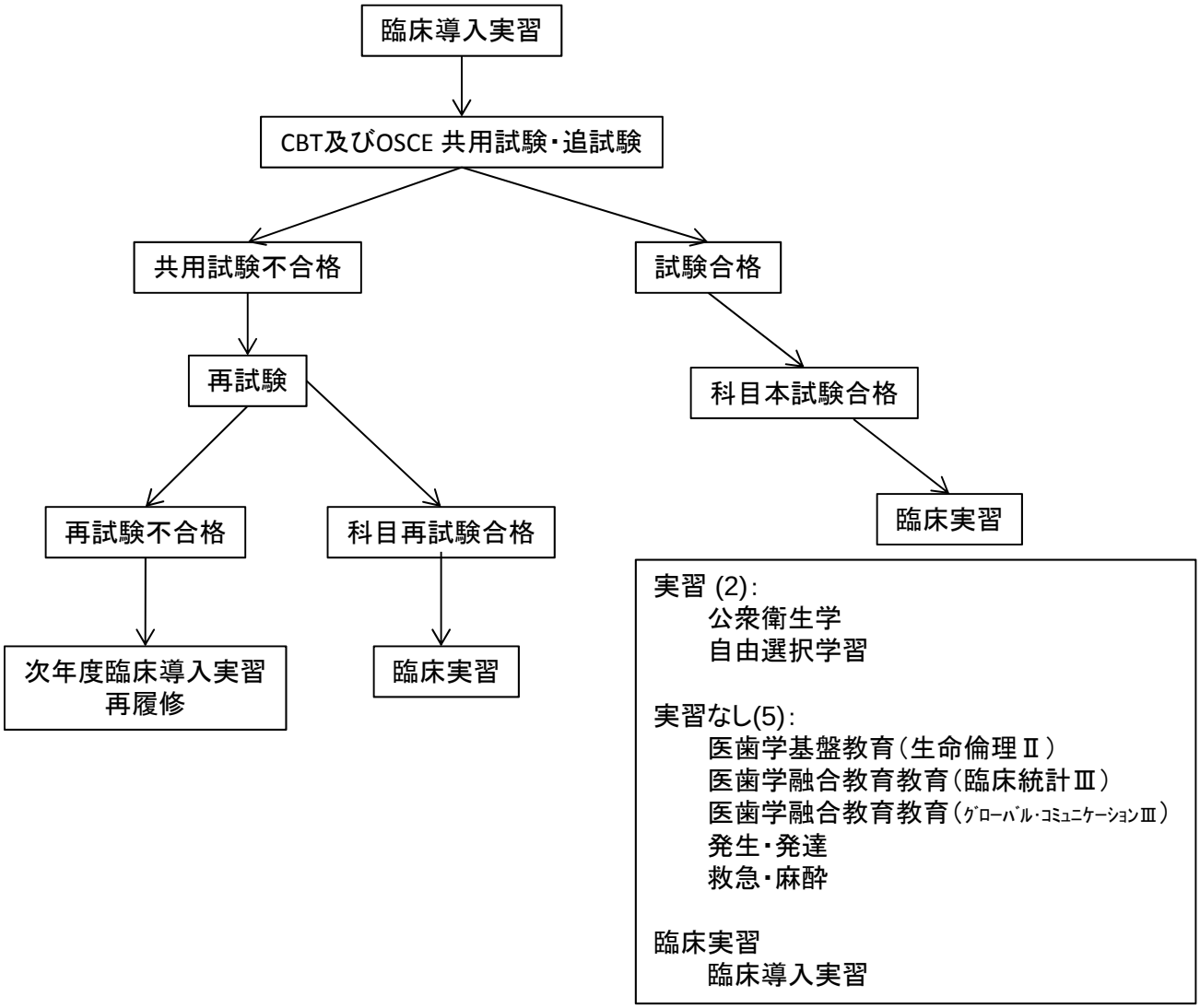
実習（2）:
　公衆衛生学
　自由選択学習

実習なし(5):
　医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）
　医歯学融合教育教育（臨床統計Ⅲ）
　医歯学融合教育教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ）
　発生・発達
　救急・麻酔

臨床実習
　臨床導入実習

第４学年進級判定

臨床導入実習



科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記7科目のうち4科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が4科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

臨床導入実習に進むためには 7科目すべての合格が必要になり、進級には7科目すべての合格と
臨床導入実習及び共用試験（CBT・OSCE）の合格が必要になる。
臨床導入実習が不合格になった場合には、翌年、臨床導入実習のみを再履修し、共用試験を受験する
必要がある。
臨床導入実習は合格したが共用試験（CBT・OSCE）のみ不合格となった場合も、臨床導入実習を
再履修し共用試験を受験する必要がある。
逆に、共用試験（CBT・OSCE）は合格したが、臨床導入実習は不合格となった場合も、臨床導入実習を
再履修し共用試験を受験する必要がある。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると
教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ

（平成２０年２月８日
申　　合　　せ）

１．目的

この申合せは、東京医科歯科大学学則（以下「学則」という。）第５８条の規定に基づく学生の懲戒に関し、基本的な考え方、手続、標準その他の必要な事項を定めることにより、その適正及び公正を図ることを目的とする。

２．基本的な考え方

(1) 学生に対する懲戒は、大学の規律、秩序を維持し、教育目的を達成するため、一定の事由の発生を要件として、学生に対して制裁を課すものである。

(2) 懲戒は、懲戒対象行為の態様、結果、影響等を総合的に検討し、教育的配慮を加えたうえで行うものとする。

(3) 懲戒の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

３．懲戒の種類

懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

(1) 退学

退学は、学生の身分を失わせることである。

(2) 停学

①　停学は、一定の期間登校を禁止することである。

②　停学は、無期停学及び有期停学とする。

③　有期停学の期間は６か月未満とする。

④　停学期間は、在学年限及び修業年限に含まないものとする。ただし、短期間（１か月以内）の場合には、在学年限及び修業年限に含めることができる。

⑤　無期停学は､原則として６か月を経過した後でなければ解除することができない。

⑥　停学期間には、学則第９条の「休業日」を含むものとする。

(3) 訓告

訓告は、懲戒対象行為について、注意を与え、将来にわたってそのようなことがないように戒めることである。

４．謹慎

学生の当該行為が懲戒に該当することが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、部局長（医学部長、歯学部長又は教養部長をいう。以下同じ。）は、当該学生に懲戒決定前に謹慎を命ずることができる。この場合、謹慎の期間は特に定めないが、この間は当該学生の登校を禁止する。

なお、謹慎の期間はその全部又は一部を停学期間に通算することができる。

５．懲戒の手続

(1) 調査委員会の設置

①　学部長は、懲戒に相当すると思われる学生の行為（以下「事案」という。）を知っ

たときは、直ちに学長に報告するとともに、当該学生が所属する学部教授会の議を経て、当該学部教授会の構成員で組織する調査委員会を設置するものとする。

なお、調査委員会には、事案により当該学部教授会の構成員以外の者を加えることができる。

② 調査委員会は、当該事案について、調査及び事実の確認を行い、懲戒に関する事実認定の報告書（様式１）を作成するものとする。

(2) 事情聴取等

① 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束、その他の事由により直接事情聴取を受けることができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。

② 調査委員会は、事情聴取に際し、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。

(3) 調査等の結果の報告

調査委員会は、懲戒に関する事実認定の報告書を学部長に提出するものとする。

(4) 教授会審議

学部長は、調査委員会の報告に基づき、当該学部教授会において、懲戒の要否及び種類・程度を審議し、その結果を学長に報告するものとする。

(5) 懲戒の決定

学長は、学部長の報告に基づき、懲戒の要否及び種類・程度を決定するものとする。

(6) 懲戒通知書の交付等

学部長は、学長の命により当該学生に対し懲戒通知書（様式２）を交付するものとする。

(7) 退学願いの不受理

学部長は、懲戒の手続中の学生から自主退学の願い出があった場合は、これを受理しないものとする。

(8) その他

二つ以上の部局に関わる事案があるときは、当該部局長は相互に連絡協議するものとする。

６．不服が申立てられた場合の手続

(1) 当該学生から事実誤認、新事実の発見等の理由により不服が申立てられた場合で、学長が再審議の必要性があると判断したときは、学長は学部長に再審議を行わせるものとする。

(2) 学部長は、当該学部教授会に再審議をする旨を報告の上、新たな構成員で組織される調査委員会に再調査等を行わせるものとする。

７．無期停学の解除

(1) 学部長は、無期停学処分を受けた学生について、指導教員等と協議し、その反省の程度及び学習意欲等を総合的に判断して、その処分を解除することが適当であると思われるときは、当該学部教授会の議を経て、学長に申出るものとする。

(2) 学長は、学部長の申出に基づき、無期停学の解除を決定するものとする。

(3) 学部長は、学長の命により当該学生に対し停学解除通知書（様式３）を交付するものとする。

８．試験の無効等

(1) 試験の無効

試験における不正行為を行った学生が受験した当該科目の試験は無効とする。

(2) 停学期間中の受験及び履修手続

停学期間中の受験は認めない。ただし、履修手続きは可能とする。

９．懲戒の標準は、別表のとおりとする。

10．科目等履修生等の懲戒

この申合せの規定は、学則第１０章及び第１２章に規定する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生並びに大学院研究生の懲戒について準用する。

11．大学院学生の懲戒

大学院学生の懲戒については、この申合せの規定を準用する。この場合において、以下のように字句を読み替えるものとする。

(1) 「学部教授会」を「研究科運営委員会等」

(2) 「学部長」、「部局長（医学部長、歯学部長、教養部長をいう。以下同じ。）」及び部局長を「研究科長等」

(3) 「試験」を「試験（単位認定を目的とした定期試験をいう。）」

(4) 様式２中、「東京医科歯科大学学則第５８条」を「東京医科歯科大学大学院学則第６０条の規定により準用する東京医科歯科大学学則５８条」

なお、この申合せにおける「大学院学生」には、大学院学則（平成１６年４月１日規程第５号）第１２章から第１４章までに規定する聴講生、特別聴講学生及び特別研究学生、科目等履修生を含むものとする。

附　則

この申合せは、平成２０年２月８日から施行する。

附　則（平成２４年２月２４日制定）

１　この申合せは、平成２４年４月１日から施行する。

２　この申合せの施行日において本学に専攻生として在籍する者の取扱いについては、平成２４年９月３０日まで、なお従前の例による。

別表

懲戒の標準

・懲戒対象行為の標準的な例及び懲戒の種類は次の表のとおりとする。

懲戒対象行為の標準的な例	懲戒の種類
１．試験における不正行為	
⑴ 代理（替玉）受験を行った場合又は行わせた場合	退学
⑵ 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合	停学
⑶ 答案を交換した場合	停学
⑷ その他、試験において不正行為を行った場合	停学又は訓告
２．その他の懲戒対象行為	
⑴ 殺人、傷害、強盗、放火、誘拐、窃盗、痴漢等の犯罪	
① 殺人、傷害、強盗、強姦、放火、誘拐等の犯罪を行った場合	退学
② 窃盗、詐欺、恐喝等の犯罪を行った場合	退学又は停学
③ 痴漢（のぞき見、盗撮等を含む）を行った場合	停学又は訓告
⑵ 交通事故・交通法規違反	
① 人身事故を伴う交通事故を起こした場合であって、ひき逃げ行為であるとき、又はその原因行為が飲酒運転、無免許運転、暴走運転等悪質なとき	退学又は停学
② 飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の重大な交通法規違反を犯した場合	停学又は訓告
⑶ ハラスメント等行為	
性的関係の強要、飲酒の強要、いじめや嫌がらせ、ストーカー行為を行った場合	退学、停学又は訓告
⑷ 薬物犯罪	
違法薬物の売買又はその仲介、違法薬物の自己使用等を行った場合	退学又は停学
⑸ 個人情報の漏えい	
授業又は実習・研修等で知り得た、教職員、学生及び患者の個人情報を漏らした場合	
① 情報の漏えいが故意の場合	退学又は停学
② 情報の漏えいが過失の場合	停学又は訓告
⑹ コンピュータ等の不正行為	
コンピュータ及びコンピュータネットワークの不正使用等並びにこれらを利用した不正行為等	退学、停学又は訓告
⑺ 本学の教育・研究活動を妨げる不正行為	
① 研究成果作成の際に論文やデータの捏造を行った場合	退学又は停学
② 知的財産を喪失させる行為又は妨げる行為を行った場合	退学又は停学
③ 学生の学修、研究及び正当な活動並びに教職員の業務を暴力、威力等の不当な手段によって妨害した場合	退学、停学又は訓告
３．再犯学生の懲戒 過去に懲戒を受けた学生が、再び懲戒対象行為を行った場合は、より「悪質性」が高いものとみなし、各標準を超える重い懲戒を行うことがある。	

備考

・「標準的な例」に掲げられていない行為についても、懲戒の対象となる場合がある。

・「懲戒の種類」に掲げられていない種類の懲戒が課せられる場合もある。

様式１

平成　　年　　月　　日

懲戒に関する事実認定の報告書

１．対象学生

・　　学部（研究科）　　学科（専攻）　　課程・コース

・学籍番号

・氏　名　　年　　月　　日生

・入学年月日　　年　　月

・現住所　　電話番号

２．事件の経緯・概要

３．学生の弁明

４．審議経緯

５．その他参考資料等

記載要領

○　２は、事件の経緯、概要、大学側の対応、事実の確認等について年月日順に記載する。

○　３は、当該学生が行った弁明について、日時、場所、証拠、証人、補佐人の有無、内容等を記載する。

○　５は、その他の必要事項又は参考資料があれば記載又は添付する。

様式２

懲戒通知書

学　部　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
学 籍 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

東京医科歯科大学学則第５８条の規定により、下記のとおり懲戒する。

記

１．懲戒の種類

２．停学の期間（停学の場合）

３．処分理由

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学長

印

様式３

停学解除通知書

学　部　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
学 籍 番 号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ７の規定により、

平成　　年　　月　　日付けで停学を解除する。

平成　　年　　月　　日

東京医科歯科大学長

印

湯島キャンパス・駿河台キャンパス

1	1 号館西 【1 号館・管理棟】	8	旧 3 号館	15	8 号館南 【共同研究棟】
2	2 号館 【2 号館・附属教育施設等】	9	医科 A 棟 【医科新棟】	16	8 号館北 【RI 実験施設棟】
3	1 号館東 【歯科研究棟】	10	医科 B 棟 【医科新棟】	17	生体材料工学研究所
4	7 号館 【歯学部校舎棟】	11	3 号館 【医歯学総合研究棟（I 期棟)】	18	難治疾患研究所駿河台棟
5	歯科棟北 【歯科棟】	12	M&D タワー 【医歯学総合研究棟（II 期棟)】	19	12 号館 【駿河台臨床研究棟】
6	歯科棟南 【歯科外来事務棟】	13	5 号館	20	看護師宿舎 （レジデンス茗芳）
7	10 号館 【総合教育研究棟】	14	6 号館		